

中
西
原
遺
跡

中 西 原 遺 跡

農業技術センター施設整備事業に伴う
埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

— 縄文時代集落遺跡の調査 —



農業技術センター施設整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇一二

群馬県農業技術センター
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

2012

群馬県農業技術センター
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

中 西 原 遺 跡

農業技術センター施設整備事業に伴う
埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

－ 縄文時代集落遺跡の調査－

2012

群 馬 県 農 技 術 セ ン タ ー
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



1 北に赤城山を臨む 中西原遺跡



2 1区3号住居 遺物出土状態全景（北から）



3 1区3号住居 深鉢出土状態（東から）

1区3号住居は焼失住居で床面近くから炭化材や焼土が出土しました。また、住居南東隅から小型の石皿と、諸磯c式の深鉢が完形で出土しました。



4 1区3号住居出土 諸磯c式深鉢

序

群馬県の中央部、北に大きく赤城山を望む穀倉地帯に県農業技術センターはあります。このたび、その施設整備工事がおこなわれることになりました。

農業技術センター周辺は、縄文時代の遺跡が広がるところで、昭和45年の創設の頃にも遺跡の発掘調査が行われています。周辺の圃場整備事業や北関東自動車道建設の際にも大きな遺跡が発掘調査されています。そこで、このたびも関係部局と慎重な調整を行った結果、建物が建てられる部分の発掘調査を行って埋蔵文化財の記録を保存することになりました。

平成22・23年度におこなわれた発掘調査では、大間々扇状地末端の台地上にあった縄文時代前期と中期の竪穴住居の跡や、平安時代の竪穴住居跡等がみつかりました。また、旧石器も出土しました。調査面積はわずかでしたが、周辺への遺跡の広がりを考える上で重要な調査を行うことができました。

本報告書が、地域の歴史解明のため多くの人々によって有効に活用されることを願うとともに、発掘調査を実施するにあたり多大なご理解とご協力をいただいた群馬県農政部、伊勢崎市教育委員会、地元の方々に心より感謝の意を表し、序といたします。

平成24年3月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 須 田 栄 一

例 言

1. 本書は平成22・23年度に農業技術センター施設整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査委託で実施された発掘調査の成果を、平成23年度農業技術センター施設整備事業に伴う埋蔵文化財の整理委託で整理した中西原遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 遺跡の所在地は、群馬県伊勢崎市西小保方町493-1、494-1、565-1である。
3. 事業主体は群馬県農業技術センターである。
4. 調査主体は財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。
5. 発掘調査の期間と体制は次の通りである。

平成22年度 調査履行期間 平成22年12月27日～平成23年3月31日

発掘調査担当者 石守 晃(上席専門員) 宮下 寛(主任調査研究員)

委託 遺跡掘削請負工事 株式会社毛野考古学研究所

地上測量 株式会社シン技術コンサル

航空測量・空中写真撮影 株式会社シン技術コンサル

平成23年度 調査履行期間 平成23年4月1日～平成23年6月30日

発掘調査担当者 石守 晃(上席専門員) 笹澤泰史(主任調査研究員)

委託 遺跡掘削請負工事 株式会社毛野考古学研究所

地上測量・デジタルトレース業務 アコン測量設計株式会社

空中写真撮影 技研測量設計株式会社

6. 整理事業の期間と体制は次の通りである。

平成23年度 整理履行期間 平成23年8月1日～平成24年3月31日

整理担当者 大西雅広(上席専門員)

委託 出土炭化材等自然科学分析 株式会社パレオ・ラボ

7. 本書作成の担当者は次の通りである。

編集 大西雅広・小島敦子(上席専門員) デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員)

遺物写真撮影 佐藤元彦(補佐(総括)) 保存処理 関 邦一(補佐)

執筆 本文：小島敦子 (その他) 岩崎泰一(第5章2・4) 橋本 淳(第5章3)

遺物観察 石器・石製品：岩崎泰一(上席専門員) 縄文土器：橋本 淳(主任調査研究員)

土師器・須恵器：神谷佳明(上席専門員) 陶磁器：大西雅広(上席専門員)

8. 石材同定は飯島静男氏(群馬県地質研究会会員)に依頼した。
9. 発掘調査および本書の作成にあたり、下記の機関および諸氏よりご助言を得た。記して感謝の意を表します。
(敬称略)

群馬県教育委員会、伊勢崎市教育委員会、横山 巧(伊勢崎市赤堀支所長)

10. 記録資料・出土遺物は一括して群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

凡 例

1. 中西原遺跡のグリッドの座標値は世界測地系国家座標(座標第IX系)を用いて測量した。グリッドA-1の座標は、 $X=38.500\text{km}$ 、 $Y=-54.030\text{km}$ である。

遺構図の中で使用した北方位はすべて座標北で、真北方向角は $0^{\circ} 00' 01.27''$ (東偏)である。

2. 本書における遺構番号は、調査時に付されたものをそのまま使用した。
3. 遺構図・遺物図の縮尺は、原則として以下の通りである。縮尺の異なるものが併載される場合は、それぞれにスケールで明示した。

遺構図 住居 1:50 住居跡 1:25 土坑 1:60 溝平面図 1:80 同断面図 1:60

遺物図 土師器・須恵器 1:3 縄文土器 1:3 または 1:4 土器拓影 1:3

旧石器 4:5 小型石器 1:1 または 1:2 石器 1:3 大型石器・石製品 1:6

4. 遺物番号は出土遺構ごとの連番で、番号は本文・挿図・表・写真図版ともに一致する。

5. 図中で使用したマークは以下のことを表す。

遺構図 灰・炭  焼土  硬化面  擾乱 

土器出土地点 ● 石器出土地点 ■ 炭化物サンプル出土地点 ▲

遺物図 繊維含有縄文土器 /●/

6. 石斧刃部側の摩耗痕については縦位定規線で、着柄部と想定される部分の摩耗痕については横位定規線で図示した。磨石等礫石器類に用いた縦位・横位定規線は摩耗範囲を示す。その他の斜位定規線は線条痕の走行を示す。石皿については、使用部の摩耗および再生状態(再敲打)を表現するため、必要に応じて拓本を使用した。台石については、打痕・摩耗痕を含む礫面の状態を表現するため、必要に応じて拓本を使用した。
7. 遺物写真図版の倍率は、土器は原則として1/3、石器のうち礫・剥片石器は大きさに応じて1/3あるいは1/2、石鏃等の小型のものは1/1に近づけるようにした。

8. 遺物の重量の計測にあたっては6000gまでは1g単位、20kgまでは50g単位、20kg以上は100g単位の秤を使用して計測した。

9. 各地図の使用は以下のとおりである。

第1図 国土地理院発行、20万分の1地勢図「長野」平成10年2月1日発行

「大胡」平成18年4月1日発行

第2図 国土地理院発行、2万5千分の1地形図「大胡」平成22年12月1日発行

「伊勢崎」平成15年2月1日発行

「上野境」平成14年12月1日発行

第3図 伊勢崎市発行、2千5百分の1現況図⑧昭和55年5月修正発行

⑨昭和55年5月修正発行

第6図 『群馬県史通史編』1990付図を簡略化して掲載

第7図 『大上遺跡1旧石器時代編』2008 第8図を加筆修正して掲載

第8図 国土地理院発行、2万5千分の1地形図「大胡」平成8年11月1日発行

「伊勢崎」平成15年2月1日発行

第57図 『東村誌』1979 P.113の図を転載

第58図 伊勢崎市発行、2千5百分の1現況図⑧昭和55年5月修正発行

⑨昭和55年5月修正発行

10. 参考文献は、第5章末に一括して掲載した。周辺遺跡一覧表(第1表)の文献№もこれに一致する。

目 次

口絵
序
例言
凡例

第1章 調査の経過		
1. 発掘調査に至る経緯	1	
2. 発掘調査の方法	4	
(1)遺跡・調査区・グリッドの設定	4	
(2)基本土層と遺構確認面	5	
(3)遺構確認と遺構調査	5	
(4)発掘調査の記録	6	
3. 発掘調査の経過	6	
4. 整理作業の方法と経過	6	
(1)整理作業の経過	6	
(2)遺物の整理	7	
(3)報告書の編集	7	
第2章 遺跡の立地と歴史環境	8	
1. 中西原遺跡周辺の地形と立地	8	
(1)大間々扇状地と遺跡分布	8	
(2)中西原遺跡の立地	8	
2. 周辺の遺跡分布	9	
第3章 検出された遺構と遺物	13	
1. 概要	13	
2. 旧石器時代の遺物	14	
(1)概要	14	
(2)礫群	14	
(3)出土石器	14	
3. 縄文時代の遺構と遺物	17	
(1)概要	17	
(2)竪穴住居	17	
(3)土坑	40	
(4)遺構外の出土遺物	44	
4. 平安時代の遺構と遺物	48	
(1)概要	48	
(2)竪穴住居	48	
5. 中世以降の遺構と遺物	48	
(1)概要	48	
(2)井戸	51	
(3)溝	51	
(4)土坑	55	
(5)ピット	65	
(6)倒木痕	65	
(7)遺構外の出土遺物	65	
第4章 自然科学的分析報告	66	
1. 分析の目的と成果	66	
2. 中西原遺跡1区3号住居から 出土した炭化種実	66	
3. 中西原遺跡1区3号住居出土 炭化材の樹種同定	68	
4. 中西原遺跡1区3号住居出土 炭化材の放射性炭素年代測定	71	
第5章 中西原遺跡発掘調査の総括	73	
1. 中西原遺跡発掘調査の成果	73	
(1)中西原遺跡のこれまでの発掘調査	73	
(2)今回の発掘調査の成果	74	
2. 中西原遺跡の旧石器時代石器群について	76	
3. 中西原遺跡の縄文土器について	77	
4. 中西原遺跡の縄文時代の石器について	78	
参考文献	79	
全体図	81	
遺構一覧・遺物観察表	83	
報告書抄録	96	
写真図版		

挿図目次

第1図	中西原道跡と群馬県の地勢	1
第2図	中西原道跡の位置	2
第3図	中西原道跡周辺の地形と発掘区的位置	3
第4図	中西原道跡の発掘区	4
第5図	中西原道跡の標準地形	5
第6図	群馬県中央部の地層と中西原道跡	8
第7図	中西原道跡周辺の地形と道跡分布	9
第8図	中西原道跡周辺の道跡	10
第9図	中西原道跡遺構全体図	13
第10図	中西原道跡出土の旧石器(1)	14
第11図	中西原道跡の旧石器調査区と土層断面	15
第12図	1区群葬と出土旧石器(2)	17
第13図	1区1号住居上層・中層遺物出土状況	18
第14図	1区1号住居	19
第15図	1区1号住居ピットと土層断面	20
第16図	1区1号住居出土遺物(1)	21
第17図	1区1号住居出土遺物(2)	22
第18図	1区1号住居出土遺物(3)	23
第19図	1区1号住居出土遺物(4)	24
第20図	1区3号住居	26
第21図	1区3号住居出土遺物(1)	27
第22図	1区3号住居出土遺物(2)	28
第23図	1区4号住居土層断面	29
第24図	1区4号住居	30
第25図	1区4号住居ピット・土層断面	31
第26図	1区4号住居出土遺物(1)	32
第27図	1区4号住居出土遺物(2)	33
第28図	1区5号住居と出土遺物	34
第29図	2区6号住居と埋設土器	35
第30図	2区6号住居	36
第31図	2区6号住居周辺の遺物分布	37
第32図	2区6号住居出土遺物	38
第33図	2区6号住居検出の土坑と出土遺物	39
第34図	2区縄文時代の土坑と出土遺物(1)	41
第35図	2区縄文時代の土坑と出土遺物(2)	43
第36図	道構外の上出遺物 縄文時代(1)	45
第37図	道構外の上出遺物 縄文時代(2)	46
第38図	道構外の上出遺物 縄文時代(3)	47
第39図	1区2号住居	49
第40図	1区2号住居遺構・柱穴土層断面と出土遺物	50
第41図	1区1号井戸と出土遺物	51
第42図	1区4号溝・5号溝	52
第43図	1区1号・2号溝	53
第44図	1区3号溝	54
第45図	1区6号溝	54
第46図	1区中近世の土坑(1)	56
第47図	1区中近世の土坑(2)	57
第48図	1区中近世の土坑(3)	58
第49図	1区中近世の土坑(4)	59
第50図	1区中近世の土坑(5)	60
第51図	1区時期不明の土坑(1)	61
第52図	1区時期不明の土坑(2)	62
第53図	1区時期不明の土坑(3)	63
第54図	1区時期不明の土坑(4)	64
第55図	1区倒木遺構と出土遺物	65
第56図	暦年較正結果	72
第57図	中西原道跡の昭和44年度調査区(東村誌より)	74
第58図	中西原道跡周辺で調査された縄文時代遺構	75
第59図	中西原道跡縄文時代全体図	81
第60図	中西原道跡平安時代以降全体図	82

表目次

第1表	中西原道跡周辺の道跡一覧表	11
第2表	中西原道跡から出土した炭化榿実	66
第3表	中西原道跡出土炭化材の榿屑同定結果一覧	68
第4表	測定試料および追得	71
第5表	放射性炭素年代測定および暦年較正の結果	72

写真図版目次

口絵 1	北に赤城山を望む中西原道跡	
2	1区3号住居遺物出土状態全景(北から)	
3	1区3号住居深鉢出土状態(東から)	
4	1区3号住居出土諸鏡c式深鉢(第21図1)	
写真1	中西原道跡から出土した炭化榿実	67
写真2	中西原道跡1区3号住居炭化材の走査型電子顕微鏡写真・年代測定試料の実体顕微鏡写真	70
Pl. 1	1. 中西原道跡1区空中写真(南東から) 2. 中西原道跡1区全景(南西から)	
Pl. 2	1. 中西原道跡2・3区空中写真(南東から) 2. 中西原道跡2区全景(南東から)	
Pl. 3	1. 1区旧石器TP1 完掘状態(南西から) 2. 1区旧石器TP1 土層断面(南西から) 3. 1区旧石器TP2 完掘状態(南西から) 4. 1区旧石器TP2 土層断面(南西から) 5. 1区旧石器TP2 暗色帯礫出土状態(南から) 6. 1区旧石器TP3 完掘状態(南西から) 7. 1区旧石器TP4 完掘状態(南西から) 8. 1区旧石器TP4 土層断面(南西から)	
Pl. 4	1. 2区旧石器調査区全景(東から) 2. 2区旧石器TP1 完掘状態(南東から) 3. 2区旧石器TP1 土層断面(東から) 4. 2区旧石器TP1 剥片出土状態(南東から) 5. 2区旧石器TP2 完掘状態(南東から) 6. 2区旧石器TP3 完掘状態(南東から) 7. 2区旧石器TP4 完掘状態(南東から) 8. 2区旧石器TP5 完掘状態(南東から) 9. 2区旧石器TP6 完掘状態(南東から) 10. 2区旧石器TP7 完掘状態(南東から) 11. 2区旧石器TP8 完掘状態(南東から) 12. 2区旧石器TP9 完掘状態(南東から) 13. 2区旧石器TP10 完掘状態(南東から)	
Pl. 5	1. 1区旧石器TP3 土層断面(南西から) 2. 1区旧石器TP3 3つ折り石器出土状態(南西から) 3. 1区旧石器TP3 最右出土状態(南西から) 4. 1区旧石器TP3 群葬出土状態(南西から) 5. 1区旧石器TP3 群葬全景(南西から) 6. 1区旧石器TP3 群葬全景(南東から) 7. 1区旧石器TP3 群葬調査風景(北から)	
Pl. 7	1. 1区1号住居土層断面a-A' (南東から) 2. 1区1号住居土層断面b-B' (南西から) 3. 1区1号住居土層断面南半(南東から) 4. 1区1号住居土層断面北半(南東から) 5. 1区1号住居土層断面西半(南西から) 6. 1区1号住居土層断面東半(南西から) 7. 1区1号住居土層断面出土状態全景(南東から) 8. 1区1号住居土層断面出土状態全景(南西から)	
Pl. 8	1. 1区1号住居土層南東隅遺物出土状態(南東から) 2. 1区1号住居土層南東隅遺物出土状態(南西から) 3. 1区1号住居土層中層遺物出土状態全景(南東から) 4. 1区1号住居土層中層遺物出土状態全景(南西から) 5. 1区1号住居土層中層遺物出土状態北西部(南西から) 6. 1区1号住居土層中層遺物出土状態北東部(南西から) 7. 1区1号住居深鉢(第18図45)出土状態(東から)	

PL. 9	8. 1区1号住居深鉢(第16図3)出土状態(北から)	3. 1区3号住居P2土層断面(東から)
	1. 1区1号住居床面遺物出土状態全景(南東から)	4. 1区3号住居P2土層断面(東から)
	2. 1区1号住居床面遺物出土状態南西部(南東から)	5. 1区3号住居P3土層断面(南東から)
	3. 1区1号住居床面遺物出土状態北西部(南東から)	6. 1区3号住居P3土層断面(南東から)
PL. 10	4. 1区1号住居床面遺物出土状態(南東から)	7. 1区3号住居P4土層断面(東から)
	5. 1区1号住居床面遺物出土状態(南西から)	8. 1区3号住居P4土層断面(東から)
	1. 1区1号住居土層断面(南東から)	1. 1区3号住居P5土層断面(東から)
	2. 1区1号住居土層断面(北西から)	2. 1区3号住居P6土層断面(東から)
PL. 11	3. 1区1号住居土層断面(北東から)	3. 1区3号住居P7土層断面(東から)
	4. 1区1号住居土層断面(南東から)	4. 1区3号住居土層断面(第228図19)出土状態(西から)
	5. 1区1号住居土層断面(南東から)	5. 1区3号住居P8土層断面(北から)
	6. 1区1号住居土層断面(第16図2)近景(南東から)	6. 1区3号住居P8土層断面(南から)
PL. 12	7. 1区1号住居土層断面(南東から)	7. 1区3号住居土層断面(南東から)
	8. 1区1号住居土層断面(南東から)	8. 1区3号住居土層断面(南東から)
	1. 1区1号住居P1土層断面(南東から)	1. 1区4号住居土層断面-B' (南東から)
	2. 1区1号住居P1土層断面(南東から)	2. 1区4号住居土層断面-A' (北東から)
PL. 13	3. 1区1号住居P2土層断面(南東から)	3. 1区4号住居土層断面出土状態全景(南西から)
	4. 1区1号住居P2土層断面(南東から)	4. 1区4号住居土層断面出土状態全景(北東から)
	5. 1区1号住居P3土層断面(南東から)	5. 1区4号住居土層断面出土状態(南東から)
	6. 1区1号住居P3土層断面(南東から)	6. 1区4号住居土層断面出土状態(北西から)
PL. 14	7. 1区1号住居P4土層断面(南東から)	7. 1区4号住居土層断面出土状態(南東から)
	8. 1区1号住居P4土層断面(南東から)	8. 1区4号住居土層断面出土状態(南東から)
	1. 1区1号住居P5土層断面(南東から)	1. 1区4号住居土層断面出土状態(北西から)
	2. 1区1号住居P5土層断面(南東から)	2. 1区4号住居土層断面出土状態全景(南から)
PL. 15	3. 1区1号住居P6土層断面(南東から)	4. 1区4号住居土層断面出土状態(北西から)
	4. 1区1号住居P6土層断面(南東から)	5. 1区4号住居土層断面出土状態(北西から)
	5. 1区1号住居P7土層断面(南東から)	6. 1区4号住居土層断面出土状態(北西から)
	6. 1区1号住居P7土層断面(南東から)	7. 1区4号住居土層断面出土状態(北西から)
PL. 16	7. 1区1号住居P8土層断面(南東から)	8. 1区4号住居土層断面出土状態(北西から)
	8. 1区1号住居P8土層断面(南東から)	1. 1区4号住居土層断面(南東から)
	1. 1区1号住居P9土層断面(南東から)	2. 1区4号住居土層断面(北東から)
	2. 1区1号住居P9土層断面(南東から)	3. 1区4号住居土層断面(北東から)
PL. 17	3. 1区1号住居P10土層断面(南東から)	4. 1区4号住居土層断面(北東から)
	4. 1区1号住居P10土層断面(南東から)	5. 1区4号住居土層断面(北東から)
	5. 1区1号住居土層断面(南東から)	6. 1区4号住居土層断面(北東から)
	6. 1区1号住居土層断面(南東から)	7. 1区4号住居土層断面(北東から)
PL. 18	7. 1区1号住居土層断面(南東から)	8. 1区4号住居土層断面(北東から)
	8. 1区1号住居土層断面(南東から)	1. 1区4号住居土層断面(北東から)
	1. 1区1号住居土層断面(南東から)	2. 1区4号住居土層断面(北東から)
	2. 1区1号住居土層断面(南東から)	3. 1区4号住居土層断面(北東から)

3. 2区6号住居遺物出土状態(南東から)
 4. 2区6号住居遺物出土状態全景(南東から)
 5. 2区6号住居周辺土層断面(南東から)
 6. 2区6号住居周辺土層断面(東から)
 7. 2区6号住居遺物出土状態(南から)
 8. 2区6号住居跡周辺遺物出土状態(南東から)
- PL. 28 1. 2区6号住居全景(北西から)
 2. 2区6号住居埋設土器土層断面(南から)
 3. 2区6号住居埋設土器出土状態(東から)
 4. 2区6号住居土器埋設土坑全景(北から)
 5. 2区6号住居土器埋設土坑掘り方全景(北西から)
- PL. 29 1. 2区6号住居跡周辺土層断面(西から)
 2. 2区6号住居跡土層断面(南西から)
 3. 2区6号住居跡土層断面(北西から)
 4. 2区6号住居跡遺物出土状態全景(北西から)
 5. 2区6号住居跡遺物出土状態全景(南西から)
 6. 2区6号住居跡土坑全景(北西から)
 7. 2区6号住居跡掘り方全景(北西から)
 8. 2区6号住居跡土層断面(南西から)
- PL. 30 1. 2区6号住居P1土層断面(南東から)
 2. 2区6号住居P1全景(北西から)
 3. 2区6号住居P2土層断面(南東から)
 4. 2区6号住居P2全景(西から)
 5. 2区6号住居P3土層断面(東から)
 6. 2区6号住居P3全景(北西から)
 7. 2区6号住居P4土層断面(北東から)
 8. 2区6号住居P4全景(南から)
- PL. 31 1. 2区6号住居P5土層断面(南から)
 2. 2区6号住居P5全景(南から)
 3. 2区6号住居P6土層断面(南東から)
 4. 2区6号住居P6全景(南東から)
 5. 2区6号住居P7土層断面(南から)
 6. 2区6号住居P7全景(南から)
 7. 2区6号住居P8土層断面(北西から)
 8. 2区6号住居跡南の土坑全景(北東から)
- PL. 32 1. 2区6号住居P9土層断面(南東から)
 2. 2区6号住居P9全景(南東から)
 3. 2区6号住居104号土坑全景(南から)
 4. 2区6号住居113号土坑土層断面(南東から)
 5. 1区28号土坑土層断面(南東から)
 6. 1区28号土坑全景(東から)
 7. 1区29号土坑土層断面(南東から)
 8. 1区90号・29号土坑全景(東から)
- PL. 33 1. 1区37号土坑土層断面(南東から)
 2. 1区37号土坑全景(東から)
 3. 1区64号土坑土層断面(南東から)
 4. 1区64号土坑全景(南から)
 5. 1区70号土坑土層断面(南西から)
 6. 1区70号土坑焼土確認面(南から)
 7. 2区103号土坑土層断面(南東から)
 8. 2区103号土坑全景(南東から)
- PL. 34 1. 2区116号土坑土層断面(南東から)
 2. 2区116号土坑全景(北から)
 3. 2区102号土坑土層断面(南東から)
 4. 2区102号土坑全景(北から)
 5. 2区105号土坑土層断面(南西から)
 6. 2区105号土坑全景(南西から)
 7. 2区107号土坑土層断面(南西から)
 8. 2区107号土坑全景(南から)
- PL. 35 1. 2区109号土坑土層断面(南西から)
 2. 2区109号土坑全景(南西から)
 3. 1区2号住居土層断面A-A' (北東から)
 4. 1区2号住居土層断面B-B' (南東から)
 5. 1区2号住居全景(北から)
- PL. 36 1. 1区2号住居北東隅遺物出土状態(西から)
 2. 1区2号住居南東隅遺物出土状態(南から)

3. 1区2号住居土層断面C-C' (南から)
 4. 1区2号住居土層断面D-D' (西から)
 5. 1区2号住居遺物全景(西から)
 6. 1区2号住居遺物出土状態(北東から)
 7. 1区2号住居遺物遺物出土状態(西から)
 8. 1区2号住居遺物出土状態(西から)
- PL. 37 1. 1区2号住居貯蔵穴土層断面(南から)
 2. 1区2号住居貯蔵穴全景(北から)
 3. 1区2号住居居住内土坑土層断面(北から)
 4. 1区2号住居居住内土坑全景(北から)
 5. 1区2号住居貯蔵穴と居住内土坑全景(北から)
 6. 1区2号住居調査風景(南東から)
 7. 1区2号住居P1土層断面(西から)
 8. 1区2号住居P1全景(西から)
- PL. 38 1. 1区1号・2号溝全景(南東から)
 2. 1区1号・2号溝全景(北西から)
 3. 1区1号・2号溝土層断面A-A' (南東から)
 4. 1区1号・2号溝土層断面C-C' (南東から)
 5. 1区2号溝・5号土坑土層断面B-B' (南東から)
 6. 1区3号溝全景(南東から)
 7. 1区3号溝全景(北西から)
 8. 1区3号溝土層断面(南東から)
- PL. 39 1. 1区4号溝全景(南東から)
 2. 1区4号溝全景(北西から)
 3. 1区4号溝土層断面A-A' (南東から)
 4. 1区4号溝土層断面B-B' (南東から)
 5. 1区4号溝土層断面C-C' (南東から)
 6. 1区5号溝全景(北から)
 7. 1区5号溝全景(南から)
 8. 1区5号溝土層断面A-A' (南西から)
- PL. 40 1. 1区5号溝土層断面B-B' (北東から)
 2. 1区6号溝全景(南東から)
 3. 1区6号溝全景(北西から)
 4. 1区6号溝土層断面A-A' (南から)
 5. 1区7号溝土層断面B-B' (南から)
 6. 1区8号溝土層断面C-C' (南から)
 7. 1区1号井戸土層断面(東から)
 8. 1区1号井戸全景(南西から)
- PL. 41 1. 1区土坑掘り下げ調査風景(南から)
 2. 1区土坑測量調査風景(南から)
 3. 1区34号土坑土層断面(南から)
 4. 1区34号土坑全景(南から)
 5. 1区42号土坑土層断面(南西から)
 6. 1区42号土坑全景(南西から)
 7. 1区54号土坑土層断面(南西から)
 8. 1区54号土坑全景(南西から)
 9. 1区55号土坑土層断面(南西から)
 10. 1区55号土坑全景(南西から)
 11. 1区56号土坑土層断面(南西から)
 12. 1区56号土坑全景(南から)
 13. 1区59号土坑土層断面(南西から)
 14. 1区59号土坑全景(南から)
 15. 1区60号土坑土層断面(南西から)
- PL. 42 1. 1区60号土坑全景(南西から)
 2. 1区61号土坑土層断面(南西から)
 3. 1区61号土坑・2号井戸全景(南西から)
 4. 1区79号土坑土層断面(南から)
 5. 1区79号土坑全景(南から)
 6. 1区80号土坑土層断面(南から)
 7. 1区80号土坑全景(南から)
 8. 1区81号・82号土坑土層断面(南西から)
 9. 1区81号・82号土坑全景(南西から)
 10. 1区2号・3号土坑土層断面(北西から)
 11. 1区2号・3号土坑全景(北西から)
 12. 1区4号土坑土層断面(北西から)
 13. 1区4号土坑全景(北西から)

PL. 43	14. 1区13号・14号土坑上層断面(南西から)	3. 1区33号土坑全量(南西から)
	15. 1区13号・14号土坑全量(南西から)	4. 1区38号土坑上層断面(南東から)
	1. 1区15号・16号土坑上層断面(南西から)	5. 1区38号土坑全量(南東から)
	2. 1区15号・16号土坑全量(南西から)	6. 1区39号・40号土坑上層断面(南西から)
	3. 1区20号・21号土坑上層断面(東から)	7. 1区39号・40号土坑全量(南西から)
	4. 1区20号・21号土坑全量(東から)	8. 1区43号土坑上層断面(南東から)
	5. 1区22号土坑上層断面(東から)	9. 1区43号土坑全量(東から)
	6. 1区47号土坑上層断面(東から)	10. 1区44号土坑上層断面(南から)
	7. 1区22号・47号土坑全量(東から)	11. 1区44号土坑全量(南から)
	8. 1区41号土坑上層断面(南から)	12. 1区51号土坑上層断面(北から)
	9. 1区41号土坑全量(南から)	13. 1区51号土坑全量(南から)
	10. 1区49号土坑上層断面(東から)	14. 1区57号土坑上層断面(南から)
	11. 1区49号土坑全量(東から)	15. 1区57号土坑全量(南から)
	12. 1区53号土坑上層断面(南から)	PL. 49
PL. 44	13. 1区53号土坑全量(南から)	1. 1区58号土坑上層断面(東から)
	14. 1区83号～85号土坑上層断面(南西から)	2. 1区58号土坑全量(南東から)
	15. 1区84号・85号土坑全量(南西から)	3. 1区66号土坑上層断面(南西から)
	1. 1区63号土坑上層断面(南から)	4. 1区66号土坑全量(南西から)
	2. 1区63号・85号土坑上層断面(南西から)	5. 1区67号土坑上層断面(南から)
	3. 1区84号・85号土坑上層断面(南西から)	6. 1区67号土坑全量(南西から)
	4. 1区63号・83号～85号・94号土坑・3号外全量(南西から)	7. 1区68号土坑上層断面(東から)
	5. 1区94号土坑上層断面(南西から)	8. 1区68号土坑全量(東から)
	6. 1区94号土坑全量(南西から)	9. 1区71号土坑上層断面(南西から)
	7. 1区30号土坑上層断面(南から)	10. 1区71号土坑全量(南西から)
	8. 1区30号土坑全量(南から)	11. 1区73号土坑上層断面(東から)
	9. 1区25号・30号・31号土坑上層断面(南から)	12. 1区73号土坑全量(東から)
	10. 1区25号・31号土坑全量(南から)	13. 1区74号土坑上層断面(東から)
	11. 1区86号・87号土坑上層断面(南西から)	14. 1区74号土坑全量(南から)
	12. 1区86号土坑全量(南西から)	15. 1区75号土坑上層断面(南東から)
PL. 45	13. 1区86号～89号土坑上層断面(南西から)	PL. 50
	14. 1区86号～89号土坑全量(南西から)	1. 1区75号土坑全量(南から)
	15. 1区54号土坑掘り下げ調査風景(南西から)	2. 1区76号・77号土坑上層断面(南東から)
	1. 1区溝・土坑群調査風景(北西から)	3. 1区76号・77号土坑全量(南東から)
	2. 1区北西部全量(北から)	4. 1区78号土坑上層断面(南西から)
PL. 46	1. 1区5号土坑上層断面(南東から)	5. 1区78号土坑全量(南西から)
	2. 1区5号土坑全量(南東から)	6. 1区92号・93号土坑上層断面(南西から)
	3. 1区6号土坑上層断面(南西から)	7. 1区92号・93号土坑全量(南から)
	4. 1区6号土坑全量(南西から)	8. 1区96号土坑全量(北から)
	5. 1区7号土坑上層断面(南から)	9. 1区98号土坑上層断面(北西から)
	6. 1区7号土坑全量(南から)	10. 1区98号土坑全量(北西から)
	7. 1区8号土坑上層断面(東から)	11. 1区99号・100号土坑上層断面(南東から)
	8. 1区8号土坑全量(東から)	12. 1区99号・100号土坑全量(南東から)
	9. 1区9号土坑上層断面全量(西から)	13. 1区101号土坑・5号外上層断面(南から)
	10. 1区9号土坑全量(西から)	14. 1区101号土坑・5号外全量(南から)
	11. 1区10号土坑上層断面(東から)	15. 1区土坑検出作業風景(南から)
	12. 1区10号土坑全量(東から)	PL. 51
	13. 1区11号土坑上層断面(東から)	1. 1区南東部6号溝全量(北西から)
	14. 1区11号土坑全量(東から)	2. 1区南東部南側全量(北西から)
PL. 47	15. 1区12号土坑上層断面(南東から)	3. 3区全量(南から)
	1. 1区12号土坑全量(南東から)	4. 3区遺物出土状態(南西から)
	2. 1区17号土坑上層断面(南東から)	5. 3区東壁土層断面(南西から)
	3. 1区17号土坑全量(南東から)	PL. 52
	4. 1区18号土坑上層断面(南から)	旧石器・1区1号住居出土遺物(1)
	5. 1区18号土坑全量(南から)	PL. 53
	6. 1区19号土坑上層断面(南から)	1区1号住居出土遺物(2)
	7. 1区19号土坑全量(南東から)	PL. 54
	8. 1区23号・95号土坑上層断面(南西から)	1区1号住居出土遺物(3)
	9. 1区24号土坑上層断面(南西から)	PL. 55
	10. 1区24号土坑全量(南西から)	1区3号住居出土遺物
	11. 1区26号土坑上層断面(東から)	PL. 56
	12. 1区26号土坑全量(東から)	1区4号住居出土遺物
	13. 1区27号土坑上層断面(南から)	PL. 57
	14. 1区27号土坑全量(南から)	1区4号・5号住居出土遺物・2区6号住居出土遺物(1)
PL. 48	15. 1区32号土坑上層断面(東から)	PL. 58
	1. 1区32号土坑全量(東から)	2区6号住居出土遺物(2)・土坑出土遺物・遺構外出土縄文土器
	2. 1区33号土坑上層断面(南西から)	PL. 59
		遺構外出土縄文土器
		PL. 60
		遺構外出土縄文土器・石器・1区2号住居・遺構外出土遺物

第1章 調査の経過

1. 発掘調査に至る経緯

中西原遺跡は、伊勢崎市の西北部、西小保方町に所在する。遺跡周辺には上武道路(一般国道17号バイパス)や北関東自動車道、J R 両毛線などの交通網が隣接し、伊勢崎工業団地や大型ショッピングセンターなどが建設され近年開発が進む地域である。遺跡周辺は帯状の沖積地が入り込み、穏やかな起伏がある大間々扇状地1面の標高84mほどのところにあたる。

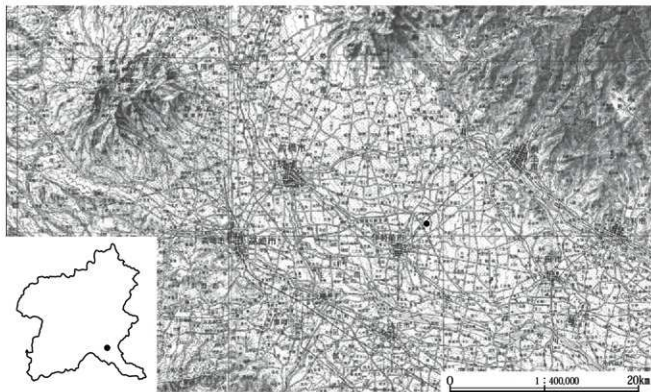
遺跡周辺は古くから縄文時代の遺跡として周知されていたが、農業技術センターの前身である群馬県立園芸試験場の建設整備に伴って昭和44・45年に、高度バイオテクノロジー研究棟建設に伴って平成7・8年に、群馬県花の総合センター移転整備に伴って平成9年度に発掘調査が実施されて、遺跡地周辺は縄文時代および古墳時代の遺構が存在することが周知・報告されていた。

農業技術センターの施設整備事業が実施されることとなり、平成21年11月6日に群馬県教育委員会文化財保護

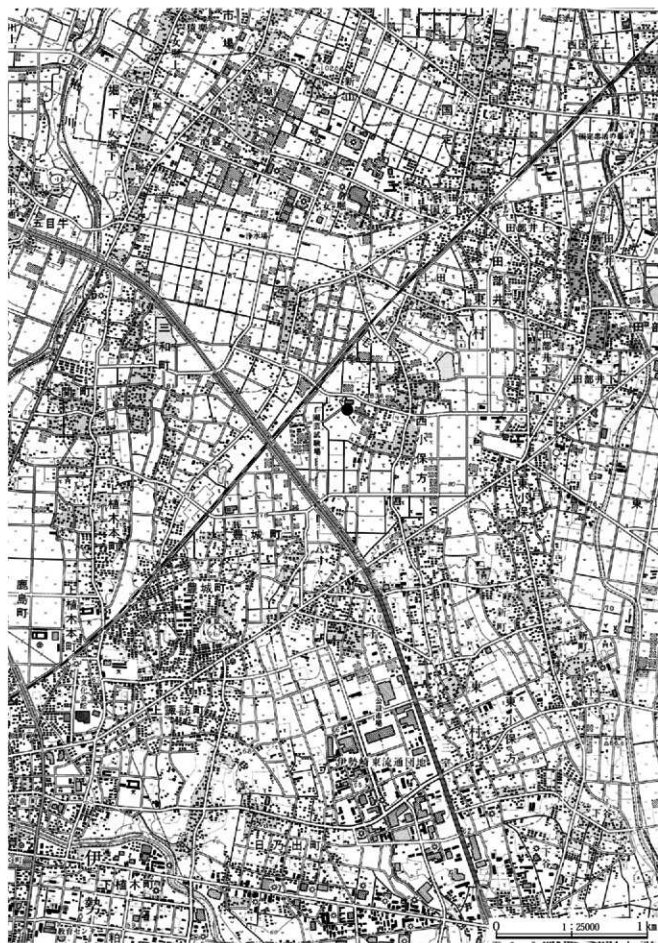
課によって試掘調査が実施された。7か所設置されたトレンチのうち2か所で遺構が検出されたことから、発掘調査が必要との判断が農業技術センターと伊勢崎市教育委員会に通知され、平成22年度に農業技術センター施設整備事業に伴う発掘調査が実施されることになった。

平成22年度の調査は、平成22年12月16日付けで群馬県教育委員会文化財保護課から、平成22年12月21日付けで農業技術センター所長から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長あてに発掘調査の依頼があった。平成22年12月27日に、農業技術センター所長と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長の間に発掘調査の委託契約が締結された。調査対象面積1819m²、調査履行期間平成22年12月27日～平成23年3月31日、調査期間平成23年2月1日～平成23年3月31日の契約で、1区の発掘調査が実施された。調査が完了し、3月28日付けで業務完了報告書及び実績報告書を提出し、平成22年度の業務を完了した。

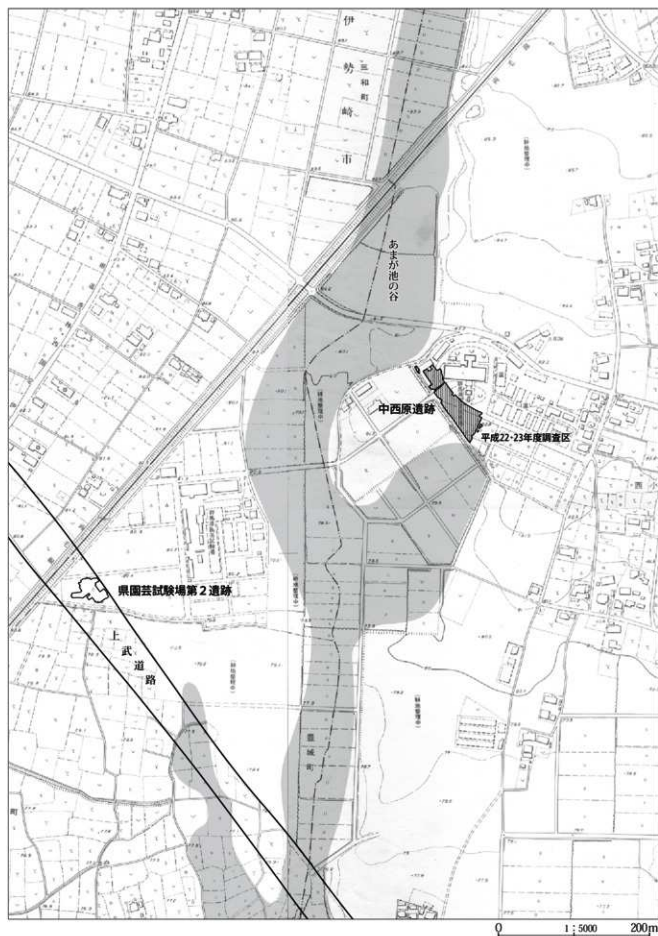
平成23年度の調査は、平成23年4月1日付けで農業技



第1図 中西原遺跡と群馬県の地勢 国土地理院発行、20万分の1地勢図「長野」平成10年2月1日発行 「大町」平成18年4月1日発行



第2図 中西原遺跡の位置 2万5千分の1地形図「大田」平成22年12月1日発行「伊勢崎」平成15年2月1日発行



第3図 中西原道跡周辺の地形と発掘区的位置 伊勢崎市発行、2千5百分の1現況図※昭和55年5月修正発行

術センター所長から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長に発掘調査契約の協議があり、平成23年4月1日には、農業技術センター所長と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の間に発掘調査の委託契約が締結されて、調査が開始された。

発掘調査は調査対象面積521㎡、履行期間平成23年4月1日～平成23年6月30日、調査期間平成23年4月1日～平成23年4月30日の契約で、2区と3区で実施された。調査完了日の4月30日付けで契約の一部変更の協議がなされ、4月30日には調査が完了し、撤収作業、調査区の原状復帰等を行って、引き渡しを完了した。

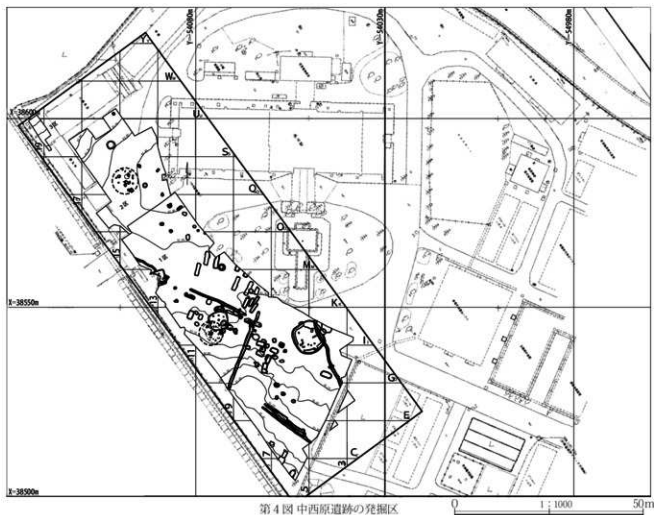
2. 発掘調査の方法

(1) 遺跡・調査区・グリッドの設定

遺跡名は周知の名称である「中西原遺跡」を踏襲した。発掘調査は2か年にわたって行われたが、平成22年度調査区を1区、23年度調査区を2区・3区とした。中西原遺跡はこれまで複数の発掘調査が実施されているが、それぞれの発掘区の位置関係は第5章で後述する。

今回の発掘対象地は、既存建物前の前庭部にあたり1区西端は通路となっていたが、通路を付け替えて調査を実施した。また、周囲には使用中の照明灯などがあり、調査できなかった部分も一部にあった。

遺構番号は全区の通し番号とした。両発掘区ともほぼ平坦な台地面であるが、1区と2区の境界部分が最も高くなっており、南西部の小支谷に向かって1区南部は傾斜していた。3区北端部は北西側の谷部への傾斜面となっていた。したがって各地点で土層の残存状況が異



なっていたことから、標準的な土層を示す基本土層は1区中央北壁の56号土坑土層断面と旧石器TP3の土層を模式的に合成して示した。(第5図)

平面図を記録する測量用のグリッドは5m四方のグリッド網を設定した。グリッド名称は南東隅の交点をあて、東から西へAからO、南から北へi~20とした。グリッドの座標値は、世界測地系国家座標IX系を用いて測量し、A-iがX=38.500km、Y=-54.030kmである。(第4図)

(2) 基本土層

中西原遺跡の基本土層は、1区中央北壁の56号土坑土層断面と旧石器TP3の土層を模式的に合成したものを第5図に示す。

I層は厚さ20~30cmほどの表土であるが、周辺施設の建設の際に移動された土砂がほとんどである。II層は黒褐色土で浅間A軽石(As-A)を含む砂質の土壌で粘性も弱い。III層は浅間Bテフラ(As-B)の軽石を含む灰褐色砂質土で粘性は弱い。IV層は浅間C軽石(As-C)を含む黒褐色土で粘性はやや弱い。V層は黒褐色土でやや砂質で粘性は弱い。VI層はやや粘性のある褐色土である。VII層は明黄褐色土でいわゆるソフトローム層である。粘性は弱い。VIII層は黄褐色土でいわゆるハードローム層である。粘性は弱く浅間大窪沢軽石(As-Okp)を混入する。IX層はにぶい黄褐色ローム層で、細砂を若干含む。粘性はややある。X層はにぶい黄褐色ローム層で、粘性はややある。XI層は浅間黄色板鼻軽石層(As-BP)で塊状にX層中に散在している。2区ではX層下位で礫群と旧石器を出土した。XII層はにぶい黄褐色土ローム層で粘性を欠きよく締まる。XIII層はXII層より色調の暗いにぶい黄褐色ローム層でよく締まっていた。XIV層は黄褐色ロームでやや色調の明るい暗色帯上半部である。始良丹沢バミス(AT)を含む層である。XV層は黒褐色ロームで暗色帯である。若干の小礫を含み、粘性は強い。XVI層はにぶい黄褐色ロームで粘性は強い。XVII層はにぶい黄褐色ロームで、小礫を含む。層位的にはこの下位には八崎軽石層(Ak-HP)が堆積するが、今回の調査区では1区1号井戸の底部付近で確認されている。(第41図)

	I	客土 アスファルト・バラスト盛土
	II	黒褐色土(10YR3/2) As-A・砂含む。粘性やや弱い
	III	灰褐色砂質土(7.5YR4/2) As-B・砂含む。粘性弱い
	IV	黒褐色土(7.5YR2/2) As-C混入。粘性やや弱い
	V	暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱い
	VI	褐色土(10YR4/4) 粘性やや弱い
	VII	明黄褐色土(10YR6/6) いわゆるソフトローム。粘性弱い
	VIII	黄褐色土(10YR5/6) いわゆるハードローム。粘性弱い。As-Okp混入。
	IX	にぶい黄褐色ローム(10YR6/4) 細砂を若干含む。粘性ややあり
	X	にぶい黄褐色ローム(10YR5/4) 粘性ややあり
	XI	As-BP 塊状
	XII	にぶい黄褐色ローム(10YR7/4) よく締まる。粘性やや強く
	XIII	にぶい黄褐色ローム(10YR5/4) よく締まる
	XIV	黄褐色ローム(10YR7/6) 粘性強い。締まりやや欠ける
	XV	黒褐色ローム(10YR3/2) 暗色帯。上位にAT混入。少量の小礫含む。粘性強い
	XVI	にぶい黄褐色ローム(10YR6/3) 粘性強い
	XVII	にぶい黄褐色ローム(10YR6/4) 小礫含む

第5図 中西原遺跡の標準土層

(3) 遺構確認と遺構調査

中西原遺跡では、基本土層のVI層上面を遺構検出面として調査を開始した。大型掘削機を用いて、1区の南端から北へ向かって、基本土層I~V層を50~80cmの厚さで除去した。表土掘削作業と併行しながらジョレンを用いて人力による遺構確認作業を行った。この作業も遺構確認作業と同様に、A区の南端から北へ向かって行った。この間に出土した遺物は縄文時代の遺構が予想されたことから、分布状況を記録しながら、ナンバーを1区一括で取り上げ、「表土」と記載した遺物もある。

その後、遺構確認作業と併行しながら、移植ゴテを用いた遺構掘り下げ調査を開始した。遺構調査にあたっては、中世以降の土坑や溝と平安時代の堅穴住居を先に調査し、縄文時代の住居や土坑の検出をおこなった。縄文時代の遺構はVI層上面では確認が困難な地点もあった。2年次の2区・3区も同様な手順で調査を行ったが、2区の東部は遺構確認面まで削平によって浅くなっており、遺構の輪郭をとらえることが困難であった。土層観察用のトレンチを多用して遺構確認に努めたが、縄文時

代の遺構を明確につかむことはできなかった。

これらの遺構の調査が終了した後、1区・2区ともに旧石器調査トレンチを設定し、必要などころは拡張しながら旧石器調査を実施し、浅間板鼻褐色軽石(As-BP)の下位や暗色帯中に旧石器時代の遺物を検出することができた。

(4) 発掘調査の記録

発掘調査にあたっては、図面・写真および調査所見メモを記録した。

図面は各遺構の断面図と平面図を作成した。平面図は必要に応じた縮尺で遺構平面図のデジタル測量を委託し作成した。また、断面図は遺構図に対応する縮尺で発掘作業員が手実測したが、最終的には編集作業に備えてデジタルトレースを委託した。

各遺構の埋没状況については、土層観察用の土手を十字に設定し、すべての遺構で土層断面図を作成した。断面図の土層の注記は、全体の土層の色調や硬度を記載し、特徴的な夾雑物とその相対的な量を記載した。

遺構写真は、35mmデジタルカメラを主として使用し、ブローニーモノクロフィルムを用いた6×7カメラで、撮影対象・撮影日・撮影方向を添付し、地上撮影した。発掘区的全景写真は空中および高所作業車上から撮影した。撮影した銀塩写真はベタ焼きを遺構ごとに整理し、撮影対象・撮影日・撮影方向を記入したネガ検索台紙を作成した。デジタル写真は保存用のRAW形式と、遺構名でリネームしたRAW形式で保存した。

3. 発掘調査の経過

中中原遺跡の発掘調査は平成23年2月1日から4月30日まで実施した。調査経過の概略は次の通りである。

平成22年度

- 2月1日 物品搬入。調査準備
- 2月2日 表土掘削開始。環境整備。
- 2月3日 1区遺構確認作業開始。
- 2月4日 1区土坑・溝調査開始。
- 2月15日 1区1号住居調査開始。
- 2月17日 1区西部全景写真撮影。
- 2月22日 1区2号住居調査開始。

- 2月24日 1区1号住居全景写真撮影。
- 2月25日 1区3号住居調査開始。
- 3月4日 1区4号・5号住居調査開始。
- 3月8日 1区1号住居全景写真撮影。
- 3月10日 1区全景写真撮影。空中写真撮影。
- 3月11日 1区2号・5号住居全景写真撮影。
- 3月14日 1区旧石器調査開始。
- 3月15日 1区3号住居炭化材写真撮影・測量・取り上げ開始。
- 3月18日 1区4号住居全景写真撮影。
- 3月23日 1区3号住居全景写真撮影。
- 3月25日 1区旧石器礫群調査開始。
- 3月28日 1区埋戻し作業開始。
- 3月31日 1区調査終了。

平成23年度

- 4月1日 2区・3区調査区確認。
- 4月4日 2区表土掘削開始。
- 4月5日 3区表土掘削開始。
- 4月6日 2区遺構確認作業。遺構のないところに旧石器調査区設定。3区表土掘削終了。遺物のみ散布。遺構がないことを確認。
- 4月7日 2区縄文時代土坑調査開始。
- 4月8日 2区縄文時代土坑調査終了。3区遺物取り上げ作業。
- 4月11日 2区6号住居調査開始。縄文土器包含層調査。
- 4月14日 2区空中写真撮影。6号住居遺物出土状態全景・縄文土器包含層全景写真撮影。
- 4月18日 2区6号住居全景写真撮影。
- 4月22日 3区埋戻し作業。
- 4月25日 2区基本土層図面測量。
- 4月26日 2区・3区埋戻し作業。
- 4月27日 撤収準備。
- 4月28日 調査終了。調査事務所撤収。
- 4月30日 調査完了。

4. 整理作業の方法と経過

(1) 整理作業の経過

中中原遺跡の発掘調査成果・出土資料の整理作業およ

び報告書編集作業は、平成23年8月1日～平成24年3月31日に実施し、報告書を刊行した。

整理作業は、①遺物の分類・掲載遺物の選択・実測図作成・遺物観察・トレース、②遺物写真撮影、③遺構図面の修正編集トレース作業、④遺構・遺物写真の補正および写真図版のデジタル編集作業、⑤観察記録や所見等の本文原稿執筆、⑥全体のデジタル組版をおこなった。

遺物整理は、主として縄文時代の遺構から出土した土器や石器の遺物類収納箱23箱分を対象とした。概ね8月上旬に、土器・石器の分類・接合・復元作業をおこない、報告書掲載遺物を選択して写真撮影をおこなった。遺物写真は、写真室でデジタル写真撮影を行い、デジタルデータ処理のためのファイル名の整理、サイズ調整をおこない、画質調整作業および組版作業に着手した。10月中旬以降は三次元計測器や長焦点の実測用写真撮影を併用しながら、実測作業をおこなった。12月には遺物図のトレース作業をおこなった。

遺構図面については、8月から11月に、現場で地上測量したデジタルデータの修正編集作業をおこなった。整理の過程で遺構の名称変更はなかった。

遺構写真については、発掘調査で撮影したデジタル写真から掲載写真を選択し、インデザインで写真図版の原稿データを編集した。

12月下旬には、デジタルデータで報告書の組版作業を開始した。本文・遺物観察表等の原稿は上記作業と平行して執筆した。1月には作成した印刷原稿データの推敲・校正・編集修正を実施した。

また遺物管理台帳を作成し、活用し備えて遺物や資料類の収納作業をおこなった。

1区3号住居埋没土14層出土の炭化材については放射性炭素年代測定および樹種同定を委託して実施した。

(2) 遺物の整理

遺物整理の対象としたのは、土器・石器あわせて遺物収納箱23箱分である。

土器は遺構ごとに接合を行った。接合作業は接合状況および遺構内の遺物出土状況を平面図および写真と確認しながら実施した。遺構内から出土した遺物は遺構外で出土した同時期同型式の遺物とも接合を試みた。次に遺物出土状態や個体数・形態差・構成比等を勘案し、報告

書に掲載する遺物を選択した。今回選択した土器は縄文土器190点、土師器8点である。選択できなかった土器は遺構ごとに型式を分類し、計数して収納した。報告書掲載土器は復元し、写真撮影をおこなった。遺物写真は当事業団写真室でデジタルカメラを用いて撮影した。土器実測図は等倍で作成した。完形に近い土器は三次元計測器で測点し、その印刷出力図を補測・製図した。破片の土器は断面実測をおこない、縄文原体や文様が読み取れるように留意して採拓した。土器のトレースはペンによる墨入れでおこなった。拓本とトレースは台紙に貼付し、スキャニングし縮小してデジタルデータとした。土器の観察は表形式にまとめた。色調は『標準土色帖』の色名を用いて記載し、器形実測できた土器の口径・底径・高さは実測図から計測した。胎土は特徴的な夾雑物を中心に記載した。土器の特徴は文様および整形技法を観察表に記載した。遺跡全体の土器様相についてはまとめて第5章に記載した。

石器類は遺構の内外から出土したが、出土位置を確認しながら、全点を石器、剥片、礫・礫片に形態分類した。石器は87点が分類されたが、器種を網羅するように選択し、56点を報告書掲載対象として抽出した。剥片、礫・礫片は出土位置ごとに計数し収納した。石器の実測図は大型品1/2、その他は等倍あるいは2倍で作成した。石器を長焦点カメラで撮影し、その印刷出力図を補測・製図した。トレースは墨入れをおこない、一部の拓本とともにスキャニングして縮小しデジタルデータ化した。石器の属性に長さ・幅・厚さ・重さ・石材等は表形式にまとめた。石材の同定は群馬県地質研究会の飯島静男氏に依頼した。形状・調整加工の特徴については、遺跡全体でまとめて第4章で述べた。

以上のような作業を通して資料化し、何らかの形で本書中に掲載した資料は、土器198点、石器62点である。

(3) 報告書の編集

全体図や遺跡位置図・遺跡分布図等はアドビ社のイラストレーターで作成しEPSデータとした。デジタルデータ化した地図類・遺構図・遺物図および写真はアドビ社のインデザインにより組版した。本文原稿・表原稿も同様に組版し、報告書全体のフルデジタル印刷原稿を作成した。

第2章 遺跡の立地と歴史環境

1. 中西原遺跡周辺の地形と立地

(1) 大間々扇状地と遺跡分布

中西原遺跡は、群馬県東部にある大間々扇状地Ⅰ面の中央部にある。大間々扇状地は、現在八王子丘陵の東側を流れる渡良瀬川が、丘陵の西側を流れていた約5万年前ころに形成した扇状地である。扇状地全体は、伊勢崎市と太田市を結ぶ線を扇端部、みどり市(旧大間々町)を扇頂とする大規模な地形面で、日本で第3位の規模をもつ。

扇状地の基盤は厚い砂礫層からなり、その上に中部ローム層が堆積した古期扇状地面(Ⅰ面)と、上部ローム層が堆積した新期扇状地面(Ⅱ面)とに地形面が区分される。赤城山麓との境界には粕川が、扇状地Ⅰ面とⅡ面の境界には早川が流れている。中西原遺跡はこの大間々扇状地Ⅰ面のほぼ中央部に位置している。

扇状地Ⅱ面は開析谷の発達が扇端部に限られ、乏水地域である。遺跡は扇側・扇端部以外にはほとんど分布しない。一方、中西原遺跡のあるⅠ面は、開析谷が発達し

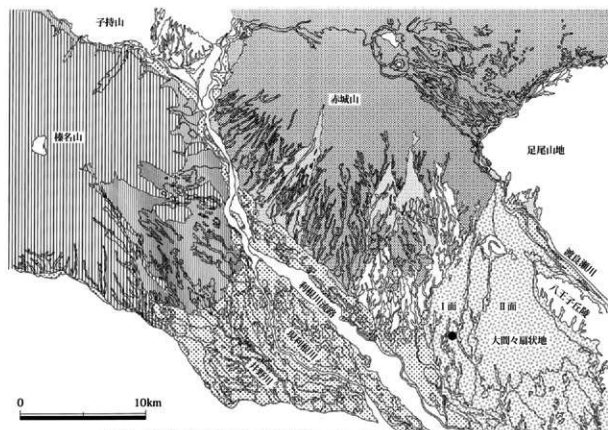
て中央部まで入り込み、谷頭湧水池から小河川が流下して、帯状の沖積地が形成されている。遺跡はその谷頭湧水の周囲および帯状沖積地に臨む台地縁辺に点在する。

大間々扇状地Ⅰ面では、中西原遺跡と同じ旧石器時代や縄文時代の遺跡は、樹枝状に分かれた谷頭それぞれの周囲に立地することが多く、水場を求めた集落形成が行われていたと推定される。古墳時代前期の遺跡は、帯状沖積地の縁辺に1～数kmおきに点在しており、農耕社会の遺跡が効率的な用水利用を目指した立地を示すことがわかっている。古墳時代後期から古代の遺跡は、台地縁辺からの上流下流に拡大するだけでなく、台地内部にも集落範囲を広げる傾向があり、帯状沖積地における水田拡大が進行していることがうかがえる。

(2) 中西原遺跡の立地

中西原遺跡があるのは、「あまが池」という谷頭湧水池を水源とする帯状沖積地東側台地の縁辺に立地する。

第3図で示したように、中西原遺跡のある地点は、や



第6図 群馬県中央部の地形と中西原遺跡 『群馬県史通史編』1990付図を簡略化して掲載

や西側に沖積地が蛇行したところにあたり、さらに等高線からは台地南側に小規模な支谷が北東方向に入り込んでいる様相が復元できる。したがって中西原遺跡は沖積地に突出した半島状の台地一帯に立地することがわかる。現状では小規模な支谷は地表面では視認が困難な状態である。

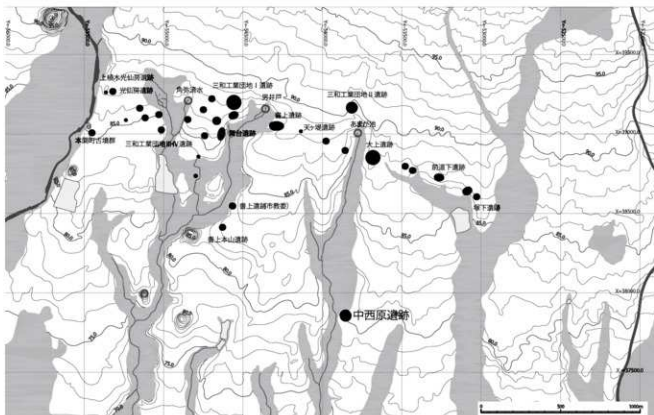
西側の帯状低地は、北方約900mのところにある「あまが池」を水源とする(第7図)。谷頭付近には三和工業団地遺跡や大上遺跡をはじめとする旧石器時代・縄文時代の大型の遺跡がある。大間々扇状地1面にはこのような帯状沖積地の谷頭が標高90m前後の地点に並び、水場や森林に囲まれた当該期の遺跡の立地に適した地点であったと推測される。

2. 周辺の遺跡分布

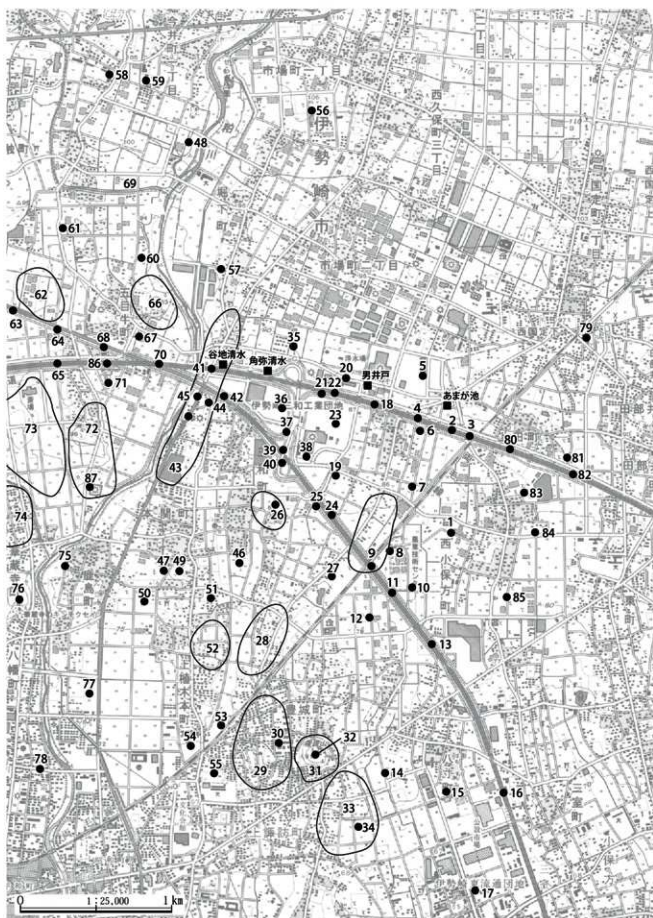
中西原遺跡周辺には旧石器時代から古代・中近世にいたる多くの遺跡が分布している。ここでは旧石器時代から古代までの主な遺跡の位置を第8図に、その遺跡の内容を第1表に示した。

旧石器時代の遺跡は、近年の上武道路建設や三和工業団地造成、北関東自動車道建設に先立つ発掘調査で多くの遺跡が調査され、資料の蓄積がなされてきている。ここでは17遺跡の位置を掲げたが、暗色帯・As-BP・As-0kp・As-YP等の指標テフラ層との関連を記録しながら、複数の旧石器文化層が調査されている遺跡が多く分布する。中西原遺跡の西側帯状沖積地の上流900mの谷頭にある大上遺跡(3)は約4500点の旧石器や剥片・礫が出土した大遺跡である。中西原遺跡の沖積地を隔てた西側の台地でも天ヶ堤遺跡(4)や書上本山遺跡(24)・書上遺跡(18)で旧石器が調査されている。

縄文時代の遺跡は、旧石器時代の遺跡と同様に、帯状沖積地の谷頭部や縁辺を中心に、多数分布している。草創期の遺跡は、遺物が散布するのみの遺跡が多いが、伊勢崎市の五目牛新田遺跡(65)で草創期多縄文系土器期の竅穴3棟が確認されている。早期の遺跡も遺物が散布するのみの遺跡が多いが、伊勢崎市北通遺跡(60)で条痕文期の竅穴住居1棟が検出されている。これらの草創期・早期の竅穴住居が検出された遺跡は、今のところ粕川右岸の赤城山南麓地域に偏るが、旧石器時代の遺物分布か



第7図 中西原遺跡周辺の地形と遺跡分布『大上遺跡1旧石器時代編』2008第8図を加筆修正して掲載



第8図 中西原遺跡周辺の遺跡 国土地理院発行、2万5千分の1地形図「大胡」平成22年12月1日発行 「伊勢崎」平成15年2月1日発行

第1表 中西原道跡類遺跡の一覧表 凡例●住居 ○道跡 ●古墳群 ○その他

番号	遺跡名	彩色帯	A 丁	B 丁	C 丁	As-Bp	As-1P	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	縄文時代			古墳時代			奈良時代	平安時代	中世	文獻番号
														前期	中期	後期	前期	中期	後期				
1	中西原道跡	○	○	○							●								●				本誌・4・8・9
2	大原道跡									●													45
3	大上道跡	○	○	○				○	○	●	○	●											65・66
4	天ヶ原道跡	○								●				●	●	●							63
5	二和工業団地Ⅱ道跡									○	●	●	●										15
6	天ヶ原道跡									○													23
7	下郷ノ道跡																		●				45
8	相模川沿道跡Ⅱ道跡																		●	●	●		1
9	書上上原之城道跡																		●	●	●		45
10	古寺岡道跡										●								●	●	●		25
11	書上下古井寺道跡							○			○								●	●	●		45
12	原之城道跡																		●				36・37
13	八寸大上道跡							○	○	○	○								●				46
14	西ノ原道跡													●					●				45
15	獅子手道跡													●					●				45
16	三笠峠上林道跡							○	○														47
17	伊勢崎・東武池袋線道跡													○					●	●			2
18	書上道跡	○																		●			65
19	書上道跡	○																					65
20	二和工業団地Ⅰ道跡	○							○	●				●					●	●	●		36
21	舞台道跡										○	○							●	●	●		61
22	人作ノ道跡																						60
23	二和工業団地Ⅱ道跡				○			○			●	●	○	●					●	●	●		33
24	書上本山道跡	○							○	○	○								●	●	●		90
25	高山道跡																		○	○			23
26	高山古墳群																		●				23
27	天野河道跡																		●				23
28	人造西古墳群																		●				26
29	舞台北古墳群																		●				26
30	長崎山古墳																		●				29
31	舞台北古墳群																		●				3
32	舞台北古墳群																		●				3
33	舞台北古墳群																		●				3
34	寺町山道跡																			●	●		30
35	あすま道																					○	28
36	二和工業団地Ⅳ道跡	○						○			●	○		●					●	●	●		34
37	下郷木也町山道跡				○?									●					●	●	●		56
38	舞台東道跡・舞台道跡										●			●					●	●	●		22
39	下郷木也町山道跡													●					●	●	●		45
40	舞台東道跡													●					●	●	●		22
41	光仙所道跡						○							●					●	●	●		50
42	上郷木光仙所道跡						○							●					●	●	●		44
43	本郷町古墳群		○	○															●				68
44	上原古墳																		●				26
45	光仙所道跡													●						●			59
46	丸崎山古墳																						26
47	上郷木也寺瓦窯																		●				31
48	今井京道跡										●									○			15
49	上郷木也寺																			○			26
50	新井道跡													●					●	●	●		42
51	書上道跡													●					●	●	●		24
52	書上道跡													●					●				24
53	人造西道跡							○	○	○	○			●	○	○	○	○	○	○	○		73
54	三軒屋道跡																						37・38
55	上原上道跡																		●	●			58
56	寺町道跡										●												36
57	釜ノ口道跡								●														30
58	下郷河井道跡							○	○	○													17
59	今井京道跡								●	●	●												21
60	北道跡								●	●	●												19
61	舞台東道跡									●	●												20
62	八幡山古墳群																		●				13
63	渡辺江中町道跡																						55
64	堀下ノ道跡																				○		46
65	五日寺新山道跡							●															36
66	舞台北古墳群									●									●				14
67	五日寺新山道跡											●											15
68	五日寺南道跡									●	○	○											49
69	女塚																					○	43
70	五日寺清水山道跡							○	○	○	○			●					●				51
71	五日寺東道跡								●	●													16
72	舞台北古墳群																		●				28
73	舞台東古墳群																		●				28
74	舞台北古墳群																		●				28
75	上西道跡													●	●				●				40・41
76	舞台東山古墳													●									26
77	南久保道跡																		●				70
78	六公道跡																		●				53
79	山田井大船所ノ道跡																		●	●	●		57
80	新道下道跡	○		○					○	○	○	○							●	●	●		64
81	堀下（1）道跡	○							○	○	●			●					●	●	●		62
82	古き堀下道跡									○	○	○											5
83	堀下上道跡								●														7
84	上郷本道跡													●					●				6
85	八幡付道跡										●												7
86	五日寺南道跡							○	○	●													35
87	五日寺二子山古墳																		●				80

ら考えると、大間々扇状地Ⅰ面での遺構検出も想定されるであろう。

縄文時代前期の遺跡は急増し、竪穴住居が検出された集落の遺跡の数も多くなる。中西原遺跡があるあまが池の沖積地周辺でも、大上遺跡(3)、三和工業団地Ⅳ遺跡(36)、書上下吉祥寺遺跡(11)などで縄文時代前期の集落が検出されている。大上遺跡で検出された前期の遺構は前期後半諸磯c式期の竪穴住居14棟、十三菩提式期の竪穴住居1棟であるが、諸磯c式期の住居は馬蹄形に低地を囲むように集落を形成し、建て替え・拡張を繰り返す住居や、直径が10mにも及ぶような大型住居が検出されている。諸磯c式の土器編年研究に貴重な資料となっている。西側の男井戸と呼ばれる谷頭湧水池から伸びる帯状沖積地沿いでも、舞台遺跡(21)、三和工業団地Ⅰ遺跡(20)、三和工業団地Ⅲ遺跡(23)で縄文時代前期の集落が検出されている。

縄文時代中期の遺跡も数多く分布しており、大規模な環状集落も形成されている。中西原遺跡のあるあまが池の沖積地周辺では、天ヶ堤遺跡(4)、三和工業団地Ⅱ遺跡(5)、三和工業団地Ⅲ遺跡(23)などで縄文時代中期の大集落が検出されている。天ヶ堤遺跡では前期諸磯c式期には土坑が掘られるのみで、竪穴住居は未検出であったが、阿玉台式期の終わりころから集落が造られるようになり、加曾利E3式段階で最大規模になり、加曾利E4式期から住居の減少が始まり、後期堀之内式期に住居が造られなくなることが調査で判明している。

縄文時代後期の集落は、中期の集落に継続して検出されることが多く、本地域でも同様な傾向がみられる。縄文時代晩期の遺構は、本地域内ではまだ確認されていない。また、弥生時代の遺跡も顕著な報告例はない。後述するような古墳時代の歴史的環境を考慮すれば、本地域でも十分弥生時代の遺跡の存在を想定することができる。今後の意識的な調査に期待したい。

古墳時代前期の遺跡は、本地域の地形的特徴である帯状低地に沿って小規模な集落が点在したものと推定される。竪穴住居が検出された天ヶ堤遺跡(4)では10棟ほどのまとまりと12棟ほどのまとまりの2か所が検出されている。帯状沖積地を水田耕作した農耕集落が形成されていたものと推定される。舞台遺跡(21)では、古墳時代前期の竪穴住居149棟と前方後方形周溝墓2基を含む10基

の周溝墓群を検出している。舞台遺跡は男井戸と角湧清水という二つの谷頭湧水池が合流する落合地点にあり、発展性のある農耕適地をまじかにもっていることから、拠点的な集落であったのであろう。大規模な墓域をもつ集落が展開していたものと推定される。このような集落のある帯状低地を集めた下流にある伊勢崎市の流通団地遺跡(17)には全長25mの前方後方形周溝墓も検出されており、いくつかの集落を束ねた有力者の存在が遺跡の分布から古墳時代前期には想定される。

古墳時代中期の遺跡は調査例が少ないが確実に分布している。男井戸の帯状沖積地の下流には全長81m、5世紀後半築造の丸塚山古墳(46)があり、これも落合地形を望む台地上にあって、地域開発の長が葬られた古墳として注目される。

古墳時代後期の遺跡は前期より数多く、近年の発掘調査を実施した地点ではほとんどの遺跡で竪穴住居を検出している。南東部の粕川沿いの台地上には、本関町古墳群(43)、地蔵山古墳群(72)、蟹沼東古墳群(73)などが形成されており、五目牛清水田遺跡(70)では全長41mの前方後円墳が現水田下に埋没していた。このような古墳のあり方からすれば古墳時代後期の集落も農耕地の拡大を背景に展開していたと推定される。また本関町古墳群では7世紀の古墳が調査され、赤色球状未焼成土製品が出土している。

奈良時代・平安時代の竪穴住居は多くの遺跡で検出されており、農耕集落は継続・拡大していると推定される。本地域で重要な奈良時代の遺跡は上植木廃寺(49)、三棟屋遺跡(54)、大道西遺跡(53)であろう。上植木廃寺は7世紀第4四半期に創建された初期寺院で、他に類例のない建物配置が調査されている。三棟屋遺跡は佐位郡衙の正倉と考えられる掘立柱建物群が検出された。また大道西遺跡では奈良時代以前に造られた三棟屋遺跡に向かう古代直線道路跡が検出された。これらの遺跡は上植木本町に集中しており、周辺が古代佐位郡の中心地であったことがわかる。

中世には律令制の崩壊とともに、各地で荘園が開発されるが、佐位郡域は河名氏による河名荘として開発がおこなわれた。荒地地の再開発を目的として赤城山麓の水を引くための大規模な用水路である女堀が計画・施工されたが、失敗に終わったことが発掘調査でわかっている。

第3章 検出された遺構と遺物

1. 概要

中西原遺跡は隣接する発掘区を2か年に亘って調査した。初年度に調査した南東部を1区、次年度に調査した北西部を2区、やや北西に離れるところを3区とした。1区はほぼ平坦な台地で南端部は南西側の小支谷に向かって傾斜している。2区は南東部がやや高まり、北側は開析谷へと傾斜する地形となっていた。3区は台地の北西縁辺部にあたる。1区・2区には全体に遺構が分布していたが、1区南部や2区北端部は少なくなる傾向があった。3区では縄文土器が少量出土したが、遺構は検出されなかった。

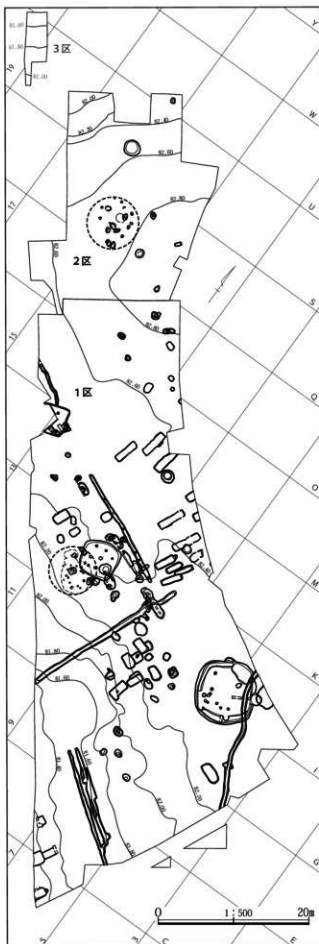
中西原遺跡で検出された遺構・遺物は、旧石器時代・縄文時代・平安時代・中世以降の各時期にわたっていた。

旧石器時代の遺物は1区南半部で暗色帯中から礫が、北半はほぼ中央ではAs-BPが塊状に堆積する層位で礫群やナイフ形石器・剥片が出土した。2区でも少量の旧石器が出土した。

縄文時代の遺構は、1・2区に前期諸磯c式期の竪穴住居2棟、中期加曽利E式期の竪穴住居3棟が散在していた。周辺には同時期の土坑も分布していたが、明確に時期を確定できた土坑は少なかった。これらの遺構は、第5章で後述するように、これまで調査されてきた中西原遺跡の縄文時代の遺構分布に連続するものである。西側の沖積低地および南西側の小支谷を望むように台地縁辺に集落が立地することがわかる。

平安時代の遺構は1区北西部で竪穴住居1棟を検出したのみである。中西原遺跡では昭和54年度の東村教育委員会の発掘調査で平安時代の住居が調査されている(文献7)ので、周辺には平安時代の遺構も散在しているものと推定される。

中世以降の遺構は、1区で溝・土坑・井戸・ピットが検出された。土坑のうち長方形の土坑と一部の溝は一定の方向を意識して掘られており、関連した遺構群と推定される。しかし出土遺物が少なく、時期を推定できない遺構が多かった。これらについては時期不明の遺構として報告した。



第9図 中西原遺跡遺構全体図

2. 旧石器時代の調査

(1) 概要

本遺跡が立地する大間々扇状地1面の標高90m付近には湧水群があり、旧石器遺跡が密に分布することが知られている。本遺跡は扇状地湧水群のひとつである湧水「あまが池」から延びる開析谷を臨む台地上にあり、三和工業団地II遺跡や天ヶ堤遺跡、大上遺跡等の旧石器遺跡が散在、小河川毎の旧石器遺跡の様相を探る上で、貴重なデータとなるだろうことが期待された。現在、開析谷は圃場整備されその微地形を欠いているが、台地の側方侵食の影響で浅い谷が台地内部に入り込み、これと石器分布が連動することが近接する伊勢崎市前道下遺跡の発掘で明らかにされている。本遺跡では調査区南西の等高線が入り込んだ地点(第11図)が、これに該当する。

試掘調査は従来のグリッド法に代え、上層遺構の進捗状況・遺構分布を踏まえ、調査区に任意の軸を設定、1区(平成22年度調査分)においては20mピッチで4×4mの試掘坑を、2区(平成23年度調査分)については5mピッチで2×2mの試掘坑を設定、石器類が出土した時点で拡張、その全貌を捉えることとした。年度毎に試掘坑の設定法が異なるのは、1区の試掘密度が低く出土した石器群の分布域が2区まで及んでいるかを確認するためであり、また、できるだけ早く旧石器の有無を確認することを優先したためである。

試掘調査の結果、1区TP3においてAs-BP直下のローム層(XII層)からナイフ形石器1・鉞石1が、2区TP1において軟質ローム層(VII層)と硬質ローム層(VIII層、As-

0kP、I攪拌層)の境界付近から剥片類が出土、周辺域を拡張した。最終的には礫群1か所と、これに伴う少量の石器分布が明らかにされた。

(2) 礫群(第12図 PL.6)

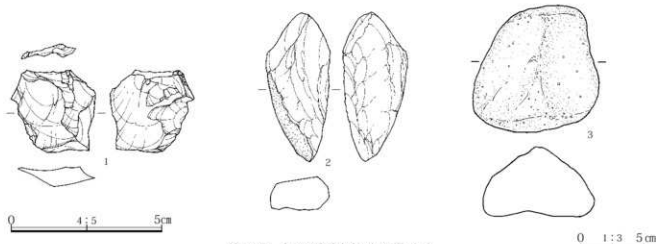
礫群が分布した地点(TP3)は、1区中央付近にある。調査地南東側に低地部が入り込んでいることは上述したとおりであるが、同様な低地部が北西側にも入り込んでいること、1・2区の境界付近が微高地状に高まること(第11図)から分かる。礫群の出土地点は、西側に台地が張り出した南東斜面に分布したことになる。

礫群は小規模礫群の典型で、長軸0.86m・短軸0.2mに分布した。構成礫は総計13点(粗粒輝石安山岩5点・ホルンフェルス2点・溶結凝灰岩6点)で、完形礫11点・礫片2点からなる。礫重量は500g前後の礫が優勢で8点を占め、これに800g前後の礫(3点)が続く。火バネした礫片2点と礫群からやや離れて出土した粗粒輝石安山岩製の鉞石を除いて、スス付着や赤化など被熱痕跡はなく、その利用が短期的であったことが分かる。

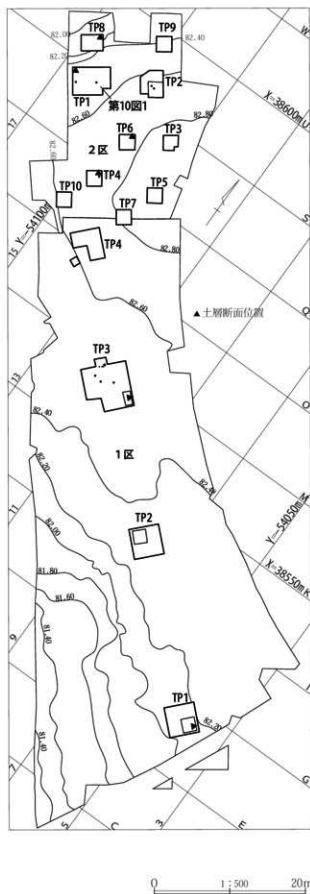
(3) 出土石器(第10・12図 PL.52 遺物観察表P.88)

石器類は1区TP3から3点(第12図1～3)が、2区TP1から2点(第10図1)。残る1点は黒色頁岩製の碎片で未掲載)が出土した。このほか、1区TP4ではホルンフェルス製の礫片1(第10図2)がAs-BP攪拌層(X層)から、同じく1区TP2で暗色帯(XV層)から大型礫(第10図3)が出土した。

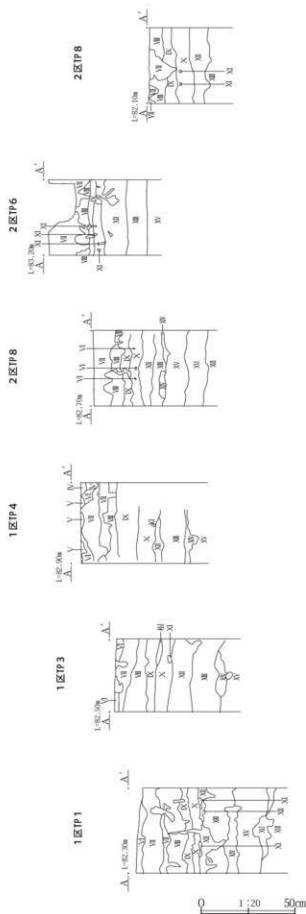
第10図1は、チャート製の小型剥片。2区TP1に出



第10図 中西原遺跡出土の旧石器(1)



第11図 中西原遺跡の旧石器調査区と土層断面

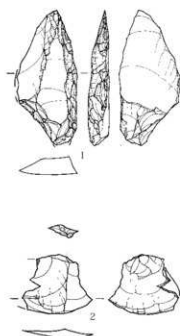
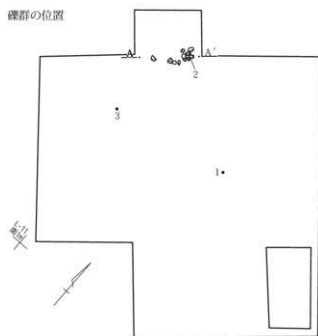


土。出土層位は軟質ローム層(VII層)に近いVIII層の上部であり、上層の剥片が混入した可能性も否定できない。これに近接して黒色頁岩製の碎片(未掲載)が出土したことから、試掘坑を西側に広げ掘り下げてみたが、これ以上分布域は広がらなかったようである。第10図2は、ホルンフェルス製の礫片。1区TP4(X層)に単独で出土しており、敲石破片としての可能性がある。第10図3は、粗粒輝石安山岩製の河床礫。角礫の稜が取れ円礫化している。打痕等は確認できていないが、暗色帯出土石器群に良く伴う礫であり、周辺域に石器ブロックの存在を予感

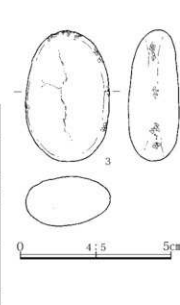
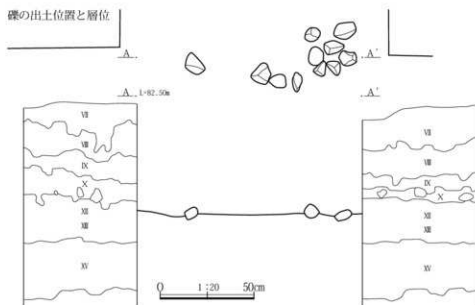
させるものである。

第12図1は、二側縁加工したナイフ形石器。左側縁が弱く括れ、形態的には大上遺跡で有肩形とされたものに近い。第12図2は、剥片端部がヒンジ状を呈する碎片で、礫群に近接して単独出土した。形態的には不要剥片類の部類に属し、周辺域に石器ブロックが存在する可能性を示唆している。第12図3は、先端部・側縁に敲打痕を有する敲石。エッジの敲打痕は微妙であり、被熱してひび割れており、礫群構成礫としてとらえるべきかもしれない。

礫群の位置



礫の出土位置と層位



第12図 1区礫群と出土旧石器(2)

3. 縄文時代の遺構と遺物

(1) 概要

中西原遺跡の今回の調査で検出した縄文時代の遺構は、1区で竪穴住居4棟、土坑7基、2区で竪穴住居1棟、土坑6基であった。このうち土坑は出土遺物が少なく、時期の特定が困難なものもあったが、形状と埋没土の特徴などから縄文時代の遺構と判断した。

竪穴住居は、縄文時代前期と中期後半のものである。その形状や出土遺物から、1号住居は加曽利E2式期、3号住居・4号住居は諸磯c式期、5号住居は加曽利E2式期、6号住居は加曽利E4式期と判断した。なお、1号住居と6号住居については、遺構確認面が明確でなく住居の輪郭を把握することが困難であったため、住居の壁を確認できない部分があった。やむを得ず、遺物の分布や柱穴と推定されるピットや土坑の配置等で輪郭の推定線を図化提示することとなった。

本遺跡の西隣接地において、平成7・8年に佐波郡東村教育委員会が行った発掘調査では、縄文時代中期加曽利E2式の竪穴住居跡21棟が検出されている。特に中期の集落は西側に突出した台地の全体に広がっていることが推定される。特に平成7年度の調査区では著しく重複しており、継続して環状に営まれた中期集落を想定することも可能であろう。前期諸磯式期の集落は比較的小規模であることが推測される。

縄文時代の土坑は7基検出された。いずれも竪穴住居の周辺に分布していた。いずれも円形および不整形円で、深い掘り込みを確認できたのは2基にとどまった。

出土した土器・石器で特筆すべきは1区3号住居出土の諸磯c式の完形の深鉢である。諸磯c式のなかではやや古い様相を示し、良好な編年資料が加わったといえよう。なお、3号住居は焼失住居とみられ、比較的多くの炭化物が出土したことから、炭化種子・炭化材の自然科学的分析を実施した。炭化種子の出土は微少で新しい所見は得られなかったが、炭化材はクリと同定された。その炭化材の放射性炭素年代を測定したところ、暦年代範囲は3714-3644calBC (93.4%)で、諸磯c式期の範囲に含まれていることが判明した。これまで群馬県内では少なかった縄文時代前期の年代資料にデータを追加することができた。

(2) 竪穴住居

1号住居

(第13～19図 PL. 7～13・52～54 遺物観察表P.88～90)

位置 1区1-9・10G

形状・規模 円形と推定される。推定直径5.70m

残存壁高0.26m

方位 炉長軸方位 N-52°-E

重複 3号住居、76号・77号土坑と重複しているが、3号住居より新しく、76号・77号土坑より古い。

埋没土 地山の土に酷似したローム層起源の土が堆積していた。いずれも自然埋没土と考えられる。上層には攪乱土が多く、遺構形状の確認を困難にしていた。

柱穴 床面で柱穴と推定されるピットは10本が検出されたが、規模や位置からして主柱穴と考えられるのはP3とP9で、他は主たる柱穴とは考えられない小規模なピットであった。検出されたピットの規模(長軸×短軸×深さ)は、P1(0.16×0.16×0.09m)、P2(0.16×0.13×0.18m)、P3(0.3×0.26×0.41m)、P4(0.19×0.18×0.22m)、P5(0.19×0.18×0.07m)、P6(0.22×0.22×0.36m)、P7(0.18×0.13×0.09m)、P8(0.19×0.16×0.13m)、P9(0.78×0.33×0.36m)、P10(0.22×0.19×0.15m)である。

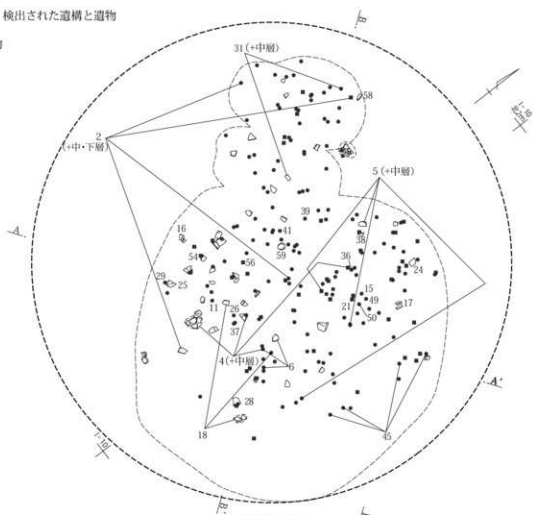
炉 P9の北側1.5mほどのところに土器埋設炉を検出した。炉体土器は下半を欠いた加曽利E2式の深鉢(第16図1)で、正位で炉穴の中央に埋設されていた。炉穴は長軸1.80m、短軸0.90m、深さ0.09mの隅丸方形で、中央に長径0.45m、短径0.36m、深さ0.13mの不整楕円形の掘り込みがあり、上記の深鉢が埋設されていた。炉の南東縁には焼土が形成され、炉穴内の埋没土中にも焼土が混じっていた。炉周囲からは土器破片や石器が出土した。

周溝 検出されなかった。

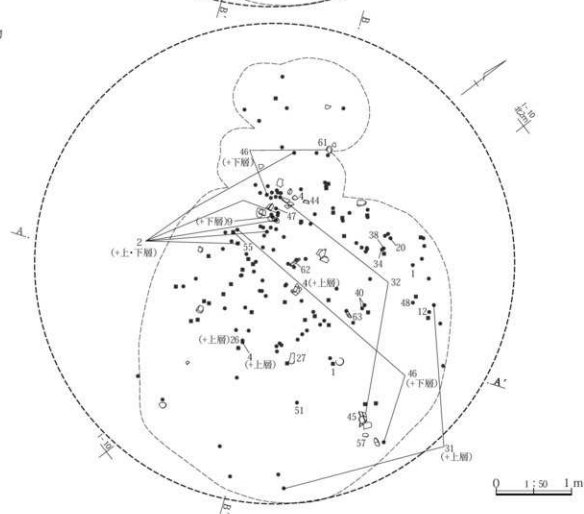
床面 中央部を中心に硬化面が認められた。

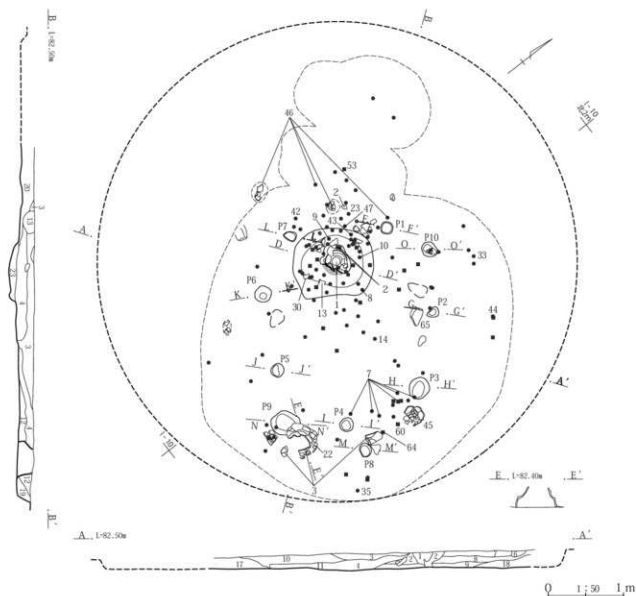
遺物出土状態 土器は全体で639点が出土した。内訳は撫糸文土器2点、田戸下層式1点、諸磯c式1点、興津式1点、前期後葉1点、前期末葉1点、加曽利E2式・連弧文土器373点、加曽利E式だが細分困難なもの206点、浅鉢破片50点、土製円盤1点である。このうち51点を図化・掲載した。石器類は石器15点、剥片68点が出土した。このうち、14点の石器を図化・掲載した。これらの遺物は遺構確認面から出土し始め(PL. 7)、埋没土層から

上層出土遺物



中層出土遺物





1号住居SPA-A'・B-B'

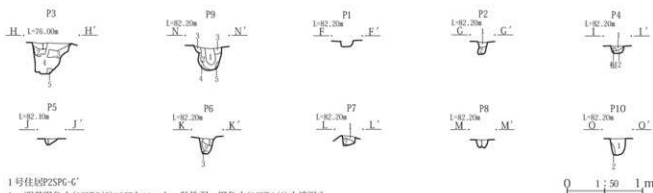
1. 黒色土(10YR1.7/1) やや砂質で粘性弱。
2. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土混入。
3. 暗褐色土・褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土小塊混入。
4. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。
5. 暗褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土若干混入。
6. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。若干の明黄褐色土混入。
7. 暗褐色土～明黄褐色土(10YR6/6)境の混土。粘性弱。
8. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土と若干の暗褐色土混入。
9. 褐色土・明黄褐色土(10YR6/6)小塊混土 粘性弱。
10. 褐色土・明黄褐色土(10YR6/6)境混土 粘性弱。
11. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。黒色土小塊混入。
12. 暗褐色土・褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土混入。
13. 暗褐色土・褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。黒色土・明黄褐色土若干混入。
14. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土・明黄褐色土混入。
15. 明黄褐色土(10YR6/6)ソフトローム。粘性弱。暗褐色土混入。
16. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土・明黄褐色土小塊若干混入。
17. 暗褐色土・褐色土(10YR4/4)境混土 粘性ややあり。
18. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。黒色土・褐色土混入。
19. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土混入。
20. 暗褐色土～明黄褐色土(10YR6/6)境の混土。粘性弱。(掘り方)
21. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土小塊混入。
22. 暗褐色土・褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土境と黒色土混入。
23. 褐色土・明黄褐色土(10YR6/6)境混土 粘性弱。(根により暗褐色土・黒色土混入。)

第14図 1区1号住居

中層にかけて多量に出土した(第13図)。これらの遺物は住居廃絶後に投棄されたか、埋没過程で混入したものと推定される。床面近くの遺物は大型の破片が多く、炉の周囲に偏在していた。また、住居東部の床面直上には、主柱穴P3の脇で深鉢(第18図45)や、P9の脇で深鉢(第16図3)が伏せられた状態で出土した。

所見 灰体土器から加曾利E2式期の住居と考えられる。本住居は当初、もう少し小型の遺構と判断し、土層断面A-A'とB-B'を記録し、全体の図と写真も記録した。北側には土器が集中的に出土した(Pl. 7)が、こ

れについては別の土坑(35号・36号土坑として記録)が重複しているものと考えた。しかし、①整理作業時に本住居出土遺物と35号土坑出土遺物の接合例が7点あり、床面出土遺物と中層出土遺物の接合例も2例含まれていたこと、②住居床面と北側の土坑底面が連続し、高さもほぼ一致すること、③縄文時代中期の住居は概ねがを中心とする円形であることが多いことから、一体の遺構であると修正したい。最終的にはが穴中央を中心とし、主柱穴P3・P9がある東壁を外形とする円形の形状に推定復元した。



1号住居P2SPG-G'

1. 明黄褐色土(10YR6/6)ソフトローム。粘性弱。褐色土(10YR4/4)小塊混入。
2. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。僅かに明黄褐色土小塊混入。

1号住居P3SPH-H'

1. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土と若干の黒色土小塊混入。
2. 暗褐色土・褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。小塊。
3. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。
4. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土・明黄褐色土塊やや多く混入。
5. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。若干の明黄褐色土塊混入。

1号住居P4SPI-I'

1. 褐色土・暗褐色土(10YR3/3) 小塊混入。やや砂質で粘性弱。As-0kp混入の黄褐色土若干混入。

2. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土小塊若干混入。

1号住居P5SPJ-J'

1. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土小塊混入。

1号住居P6SPK-K'

1. 暗褐色土・明黄褐色土(10YR6/6)小塊の混入。粘性弱。
2. 暗褐色土・褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土小塊混入。
3. 黒褐色土・褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。

1号住居P7SPL-L'

1. 褐色土(10YR4/4) 明黄褐色土塊混入。
2. 暗褐色土・褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土粒混入。

1号住居P8SPM-M'

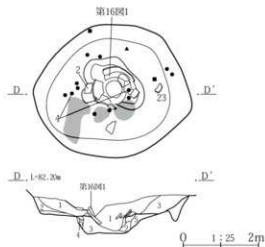
1. 暗褐色土・明黄褐色土(10YR6/6)塊混入 粘性弱。

1号住居P9SPN-N'

1. 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒を中央に含む。根痕が。しまり粘質あり。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒多量。しまりやや弱い。粘質あり。
3. 褐色土(10YR4/4) 左側は根痕乱か。しまりややあり。粘質あり。
4. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒を含む。しまりややあり。粘質強い。
5. にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまり・粘質強い。黄褐色土ローム4層より多い。

1号住居P10SPO-O'

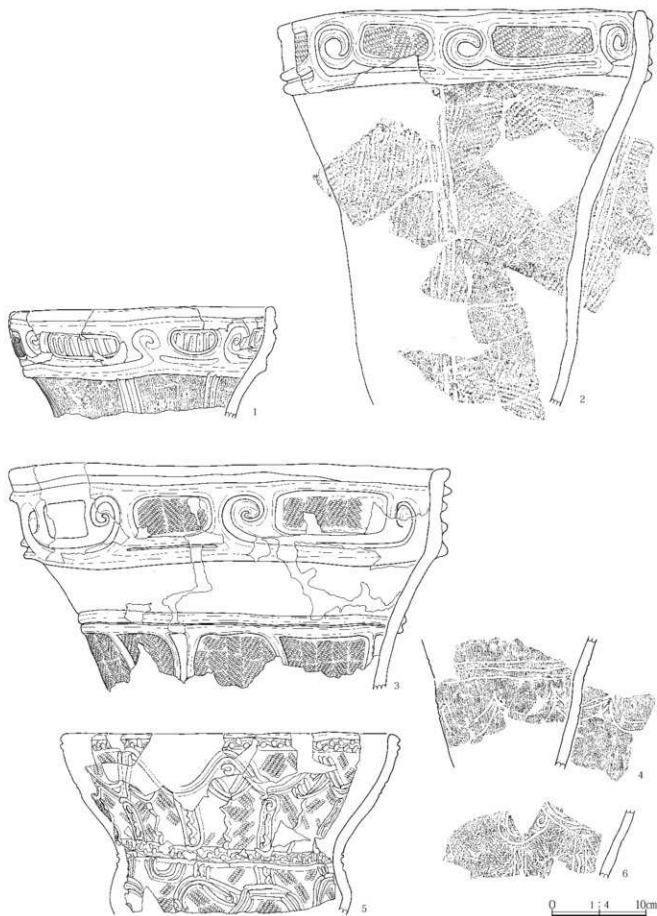
1. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物を含む。ローム粒多い。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒を含む。3号住居との切り合いのため底面は分かりにくい。1・2ともにしまりややあり。粘質あり。



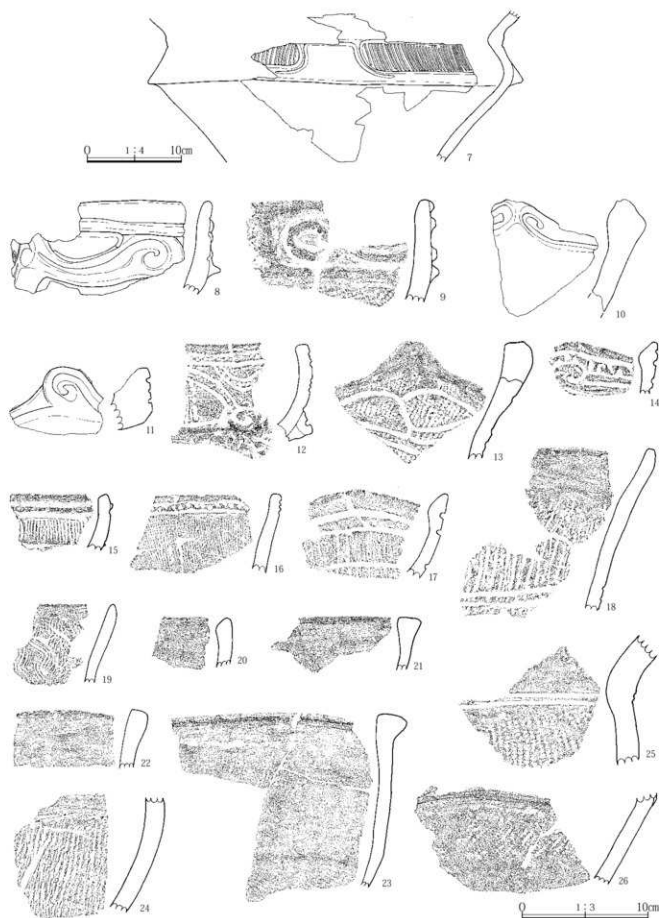
1号住居P10SPO-O'

1. 黒色土・暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。焼土粒・明黄褐色土混入。
2. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。強い焼土化。明黄褐色土混入。
3. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。やや焼土化。焼土粒混入。
4. 明黄褐色土(10YR6/6)ソフトローム。粘性弱。強い焼土化。
5. 暗褐色土・褐色土(10YR4/4)塊混入 粘性ややあり。
6. 褐色土・明黄褐色土(10YR6/6)塊混入 粘性弱。強い焼土化。
7. 明黄褐色土(10YR6/6)ソフトローム。粘性弱。褐色土と焼土混入。

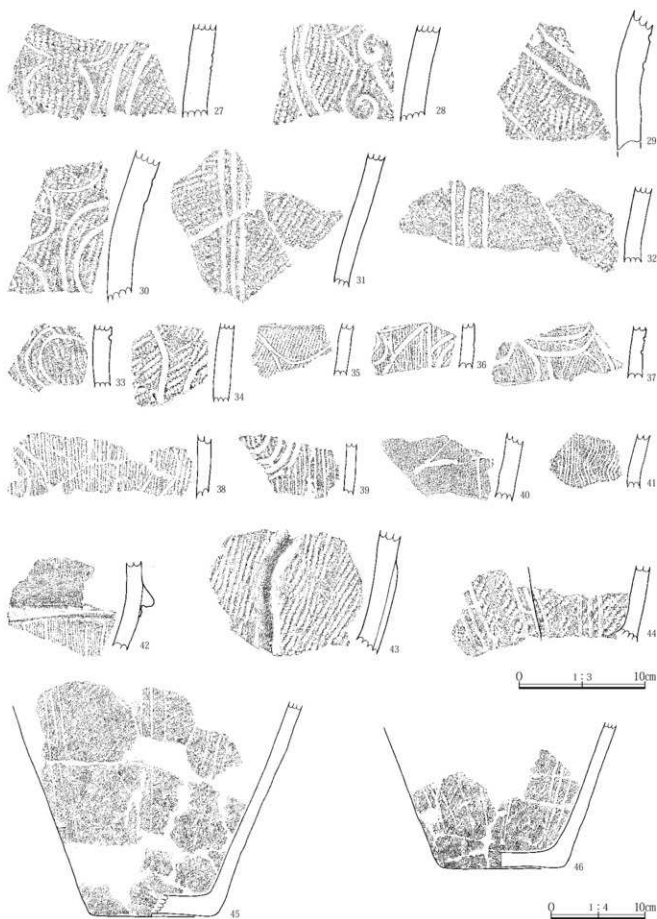
第15図 1区1号住居ピットと土層断面



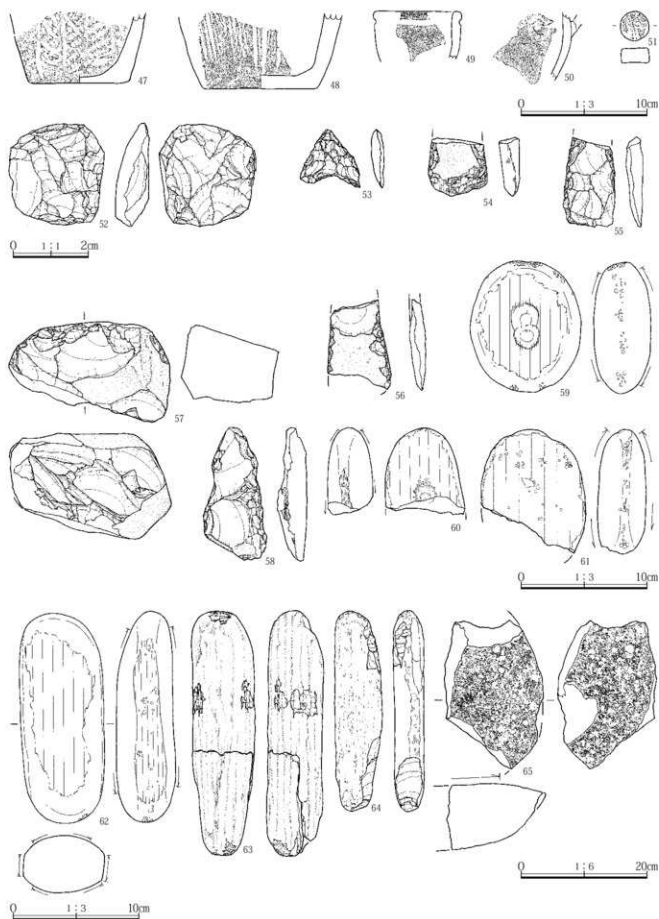
第16図 1区1号住居出土遺物(1)



第17図 1区1号住居出土遺物(2)



第18図 1区1号住居出土遺物(3)



第19図 1区1号住居出土遺物(4)

3号住居

(第20～22図 PL.13～19・55 遺物観察表P.90)

位置 1区1・J-9・10G

形状 不整圓丸方形。やや北壁が長い。

規模 長軸5.10m 短軸4.88m 残存壁高0.71m

長軸方位 N-78°-E

重複 1号住居・64号・65号・92号・93号土坑と重複しているが、いずれの遺構よりも3号住居が古い。

埋没土 上層では硬く締まったぶい黄褐色土、下層では硬く締まった褐色土を主体とする。床面直上には炭化物を多量に含む黒褐色土が全体に堆積していた。特に南壁・東壁際の埋没土も含め、炭化物粒・炭化材破片が多量に含まれており、17か所の炭化材について周囲の土砂も含めサンプル採集した。炭化材は細分された塊状で、構造材と考えられるような出土状況ではなかった。

柱穴 床面で7本、床下面で1本のビットが検出されたが、その規模から主柱穴(長軸×短軸×深さ)と考えられるのは、P1(0.64×0.44×0.54m)、P2(0.64×0.44×0.54m)、P3(0.59×0.42×0.3m)、P4(0.59×0.42×0.3m)、P8(0.59×0.42×0.3m)である。本住居はP1～P7(P8)の7本主柱であるが、本来8本主柱となるべきところ、住居形状のゆがみもあって東側が1本欠落した2本主柱になっていると考えられる。その他のビットの規模は、P5(0.40m以上×0.45m×0.19m)、P6(0.59×0.42×0.3m)、P7(0.59×0.42×0.3m)である。P7の上部には粗粒輝石安山岩製の台石(第22図20)が穴を塞ぐような位置で出土した。

炉 住居中央部わずかに北側で、長径0.50m、短径0.42m、深さ0.06mの楕円形に床面を浅く掘り窪めた地床炉1基を検出した。南東縁には焼土が形成されていた。炉内北西部には黒色頁岩製の打製石斧(第22図15)が、西脇床面直上には礫が出土した。

周溝 北壁の一部と北西隅を除き、全体に検出された。概ね幅0.20～0.25m、深さ0.05～0.09mである。

床面 地山ローム土が広い範囲で硬化しており、この硬化面を床面とした。

遺物出土状態 土器は全体で107点が出土した。内訳は燃系土器1点、諸磯c式6点、前期後葉2点、加曽利E2式47点、加曽利E式40点、浅鉢破片10点で、このうち8点を図化・掲載した。石器類は石器16点、剥片121

点が出土した。このうち、12点の石器を図化・掲載した。

遺物は南壁沿いに集中して出土した。南東隅壁際には精緻な文様を描いた諸磯c式の深鉢(第21図1)が完形で出土した。また、炉の東側には1と同じ文様構成の土器の上半部が床面直上で出土した。南東隅の1の下位からは石皿(第22図19)が完形で出土した。住居北東隅の周溝上層床面3cmでは砥石(18)、敲石(17)が、北壁際床面直上・P5南縁床面下1cm・西壁際床面上3cmでは石鏃(9～11)が出土し、石器が散在する様相が見られた。このうち、北壁付近で出土した石鏃や砥石、南東隅で出土した石皿は被熱あるいは黒色に変色していた。

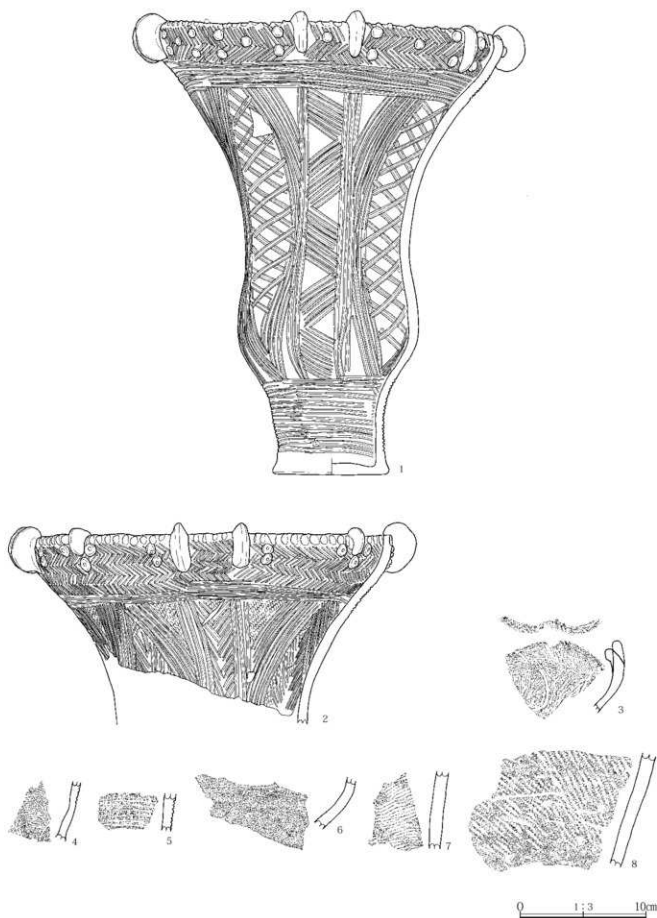
所見 完形に近い土器の型式から、諸磯c式期の住居であると考えられる。埋没土の床面直上層には多くの炭化物・材が含まれ、焼失住居であると推定される。炭化材は住居部材としての位置を保っている出土状況ではなかったが、土砂のなかにつぶれ、破砕したような形状で混在していた。本住居出土の石器の観察からは被熱痕跡が見つかっており、散在していた石器類がそのまま火中となった可能性もあるが、出火の背景および焼失過程と出土遺物との関連を明確にとらえることはできなかった。

床面直上の炭化材および周囲の土砂については、土砂の水洗と炭化種実の抽出・同定、炭化材の樹種同定および放射性炭素年代の測定を委託して実施した。詳細は第4章の分析報告に掲載した。炭化種実は残念ながら検出された点数は稀少で、1点の種類はクリと判明したが新しい所見を得ることはできなかった。

炭化材は17点の土砂資料から確認できた試料のすべてがクリと同定された。クリと同定できた資料No.15の炭化材について、放射性炭素年代を測定したところ、暦年代範囲は3714～3644calBC(93.4%)で、諸磯c式期の範疇に含まれていることが判明した。本住居の出土した土器の時期とも整合する分析結果となった。

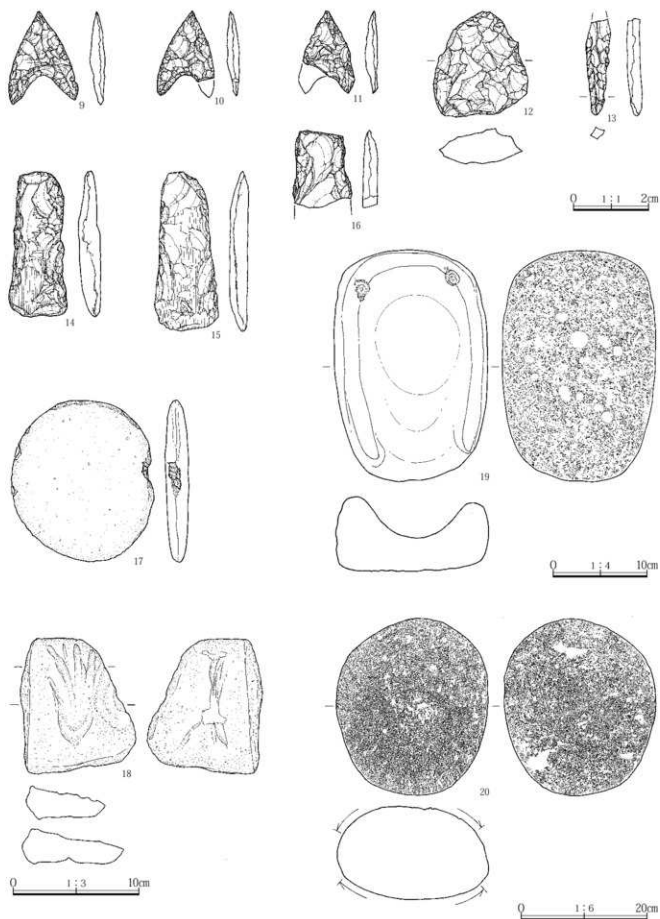


第20図 1区3号住居



第21図 1区3号住居出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第22図 1区3号住居出土遺物(2)

4号住居

(第24～27図 PL. 20～25・56・57 遺物観察表P.91・92)

位置 1区H-J-4・5G

形状 隅丸方形

規模 長軸8.32m 短軸7.94m 残存壁高0.75m

長軸方位 N-32°-W

重複 24号・28号土坑、6号溝と重複する。6号溝より古く、28号土坑より新しい。24号土坑との新旧関係は不明である。

埋没土 上層は硬く締まった黒褐色土、下層は黄褐色土を主体とする。自然埋没土と考えられる。

柱穴 床面で13本のピットを検出したが、P3～P6と、P10が深い柱穴状を呈する。配列から見て未検出の柱穴がある可能性は高いが、P1やP9および直径30～40cmのピットも柱穴である可能性はある。基本的に本住居も3号住居と同様の8本主柱構造であり、多くの小規模なピットは建て替えによる柱穴変更も考慮される。

P1 (0.52×0.52×0.27m)、P2 (0.38×0.33×0.10m)、P3 (0.28×0.27×0.43m)、P4 (0.37×0.33×0.28m)、P5 (0.33×0.30×0.30m)、P6 (0.33×0.31×0.33m)、P7 (0.40×0.58×0.24m)、P8 (0.27×0.24×0.13m)、P9 (0.42×0.33×0.30m)、P10 (0.40×0.38×0.31m)、P11 (0.43×0.36×0.08m)、P12 (0.40×0.35×0.15m)、P13 (0.47×0.34×0.52m)

炉 P1の南東脇床面に長径2.5m、短径2.0mの楕円形に灰が薄く散布する部分があり、その南部に土器埋設が検出された。顕著な焼土は見られなかったが、土器に面した部分が焼土化していた。埋設された炉体土器は口縁部と胴部下半を欠いた諸磯c式の深鉢(第26図1)で、脇には口端部が内彎し円孔をめぐる浅鉢破片(第26図2)を沿わせていた。

周溝 検出されなかった。

床面 地山・ローム土上面を床面とし、硬化している。特に図示した炉の周辺は硬化が著しかった。

北東隅および南壁沿いに幅0.25～0.50m、高さ0.05～0.15mの段が検出された。主柱穴が充分確認できなかったため断定はできないが、住居の拡張があった可能性がある。南壁沿いはほぼ中央には幅0.7mほど段が無い部分があり、何らかの住居内施設があった可能性があり、住居内土坑2として記録した。

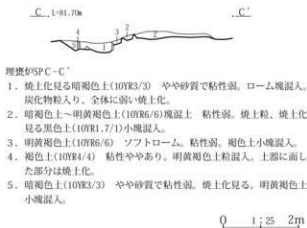
また、北隅の床面で長軸3.05m、短軸2.20m、深さ0.15～0.30mの不整隅丸長方形の住居内土坑1が検出された。この土坑は床面精査時に検出された。住居に伴うと考えられる。埋没土には中位に黒色灰と焼土粒が堆積していた。本土坑南東隅底面直上で諸磯c式土器(第26図5)や粗粒輝石・安山岩の台石(第27図37)が出土している。

遺物出土状態 土器は全体で75点が出土した。内訳は燃系文土器1点、諸磯b式沈線文土器1点、諸磯c式37点、興津式3点、前期後葉22点、阿玉台式2点、加曽利E2式7点、浅鉢破片2点で、このうち23点を図化・掲載した。石器類は石器27点、剥片265点が出土した。このうち、17点の石器を図化・掲載した。

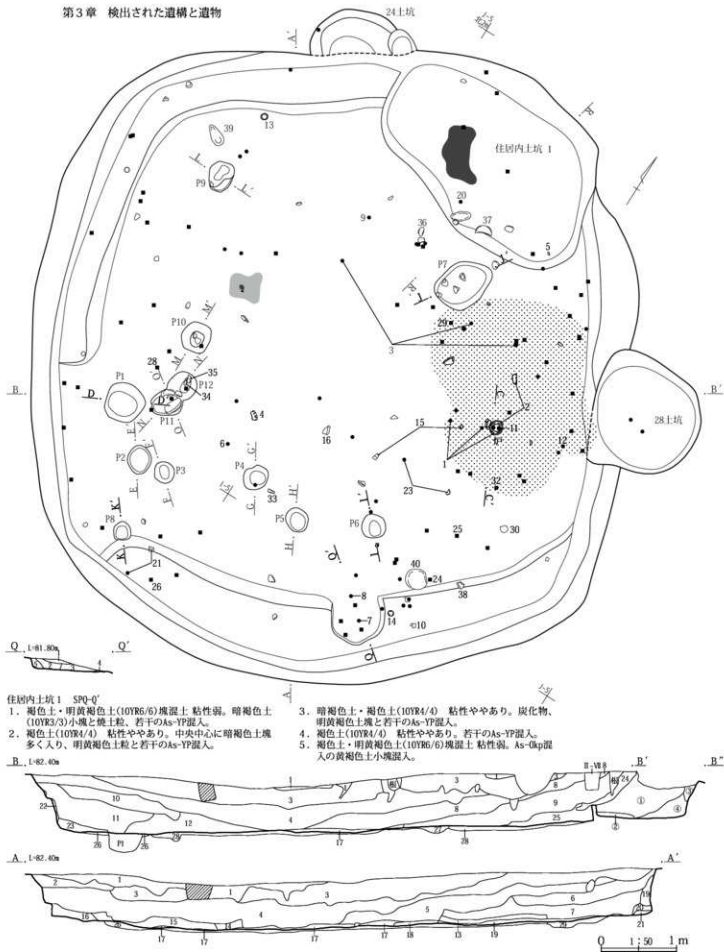
遺物は住居中央から北部にかけてのエリアを除く3方に散在していた。床面より上位の埋没土中から出土した土器が多かったが、炉体土器(第26図1)は諸磯c式で、床面近くで出土した土器破片(12・13)も同型式のものであった。石器は削器(第27図30)や多孔石(40)が床面直上で出土した。また、大型の礫(図化なし)、蔽石(35)はそれぞれP11、P12の底面直上で出土した。

所見 方形の形状や炉体土器の時期から、諸磯c式期の住居と考えられる。床面で検出された住居内土坑1・2についてはその性格を明らかにすることはできなかった。住居内土坑1・2の出土遺物も諸磯c式であることから、住居にともなう施設の可能性もある。

また、住居床面の壁沿いに段が検出された。これは建て替えや拡張に関わるものと考えられるが、明確な痕跡を記録することはできなかった。



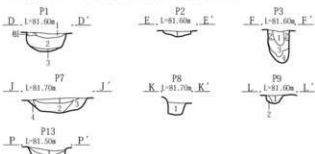
第23図 1区4号住居炉土層断面



4号住居SPA-A'・B-B'

0. 掘削

- 黒色土(10YR1.7/1) やや砂質で粘性弱。暗褐色土混入。
- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土・明黄褐色土多く混入。
- 黒色土・暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土と若干の明黄褐色土混入。
- 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土多く入り、若干の明黄褐色土混入。
- 明黄褐色土へにぶい黄褐色ローム 暗褐色土混入。
- 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土と若干の明黄褐色土混入。
- 暗褐色土・褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。若干の明黄褐色土・As-0k混入の黄褐色土小塊混入。
- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土・明黄褐色土混入。
- 暗褐色土・褐色土(10YR4/4) 塊混入 粘性ややあり。明黄褐色土・As-0k混入の黄褐色土塊と若干のIX層土混入。
- 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。若干の褐色土塊・明黄褐色土小塊・As-YF混入。
- 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土混入。
- 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土・明黄褐色土混入。
- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。黒色土・暗褐色土混入。
- 褐色土(10YR4/4)暗褐色土塊混入 粘性ややあり。
- 暗褐色土(10YR3/3)褐色土塊混入 やや砂質で粘性弱。
- 褐色土(10YR4/4)明黄褐色土塊混入 粘性ややあり。



4号住居P1SPD-B'

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。若干の明黄褐色土混入。
- 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土・明黄褐色土塊混入。
- 灰褐色粘質土(7.5YR5/2) ローム、標準X層に相当。

4号住居P2SPD-E'

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。若干の明黄褐色土混入。

4号住居P3SPD-F'

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土小塊やや多く混入。
- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土小塊若干混入。
- 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土小塊やや多く混入。
- 灰褐色粘質土(7.5YR5/2) ローム、標準X層に相当。

4号住居P4SPD-G'

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土小塊混入。
- 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。若干の褐色土小塊混入。

4号住居P5SPH-H'

- 暗褐色土へ明黄褐色土(10YR6/6)塊混入 粘性弱。
- 褐色土・明黄褐色土(10YR6/6)塊混入 粘性弱。
- 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土・明黄褐色土小塊混入。

4号住居P6SPH-I'

- 暗褐色土層に褐色土層入る塊混入
- 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。若干の褐色土小塊混入。
#ローム(P1-3)

4号住居P7SPH-J'

- 暗褐色土へ明黄褐色土(10YR6/6)塊混入 粘性弱。炭灰若干混入。
- 明黄褐色土(10YR6/6)ソフトローム。粘性弱。褐色土塊混入。
(住居層方掘り過ぎ)
- 褐色土・明黄褐色土(10YR6/6)塊混入 粘性弱。左寄りへ径大。
- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。

4号住居P8SPK-K'

- 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土塊混入。

4号住居P9SPL-L'

- 暗褐色土(10YR3/3)褐色土・明黄褐色土塊混入 やや砂質で粘性弱。
- 明黄褐色土(10YR6/6)褐色土塊混入 ソフトローム。粘性弱。

- As-0k混入の黄褐色土 若干の褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。小塊混入。しる。

- 黒色土(10YR1.7/1) やや砂質で粘性弱。明黄褐色土若干混入。

- 褐色土(10YR4/4)暗褐色土・明黄褐色土塊混入 粘性ややあり。

- 褐色土(10YR4/4)暗褐色土塊混入 粘性ややあり。

- 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。若干の褐色土小塊混入。

- 暗褐色土・明黄褐色土(10YR6/6)塊混入 As-0k混入。粘性弱。

- 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土小塊混入。

- 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土塊と若干の明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土・明黄褐色土塊混入。

- 褐色土・明黄褐色土(10YR6/6)塊混入。粘性弱。

- 暗褐色土・褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 暗褐色土へ明黄褐色土(10YR6/6)塊混入 粘性弱。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土小塊混入。

- 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土小塊混入。

- この位置では褐色土(10YR4/1)呈す。(28土坑)

- 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。黒色土に近いものも、褐色土と若干の明黄褐色土混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土・明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土入る小塊の混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

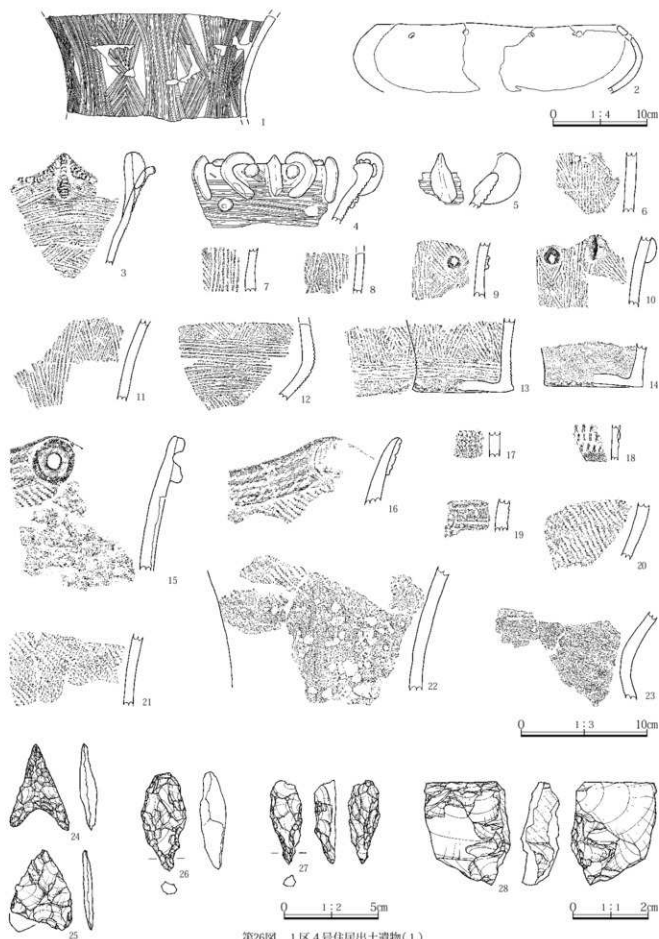
- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

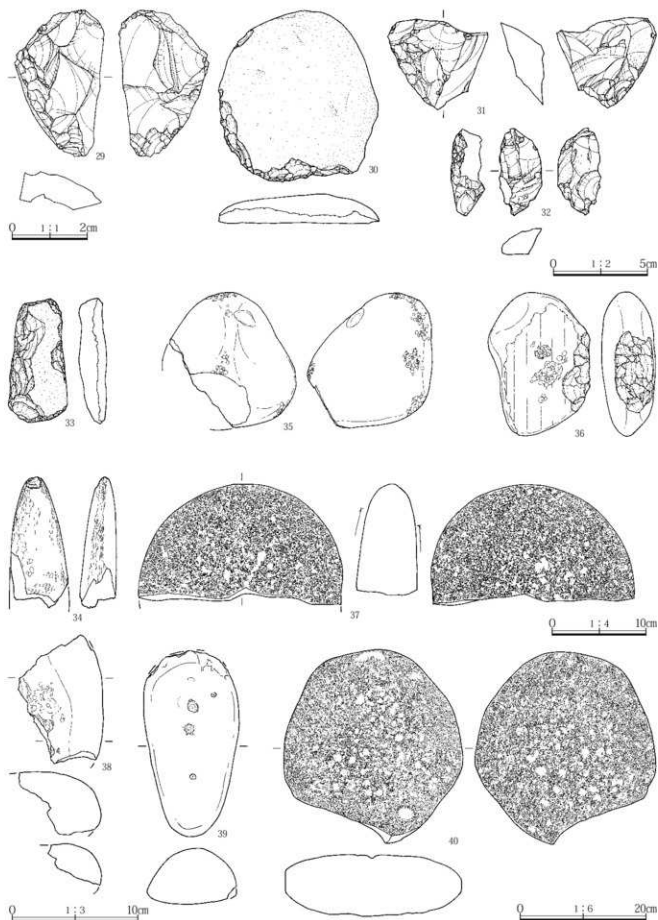
- 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊混入。

第25図 1区4号住居ピット・土坑土層断面

0 1:50 1m



第26図 1区4号住居出土遺物(1)



第27図 1区4号住居出土遺物(2)

5号住居(第28図 PL.26・57 遺物観察表P.92)

位置 1区I・J-3・4G

形状 北半部は調査区域外となったが、隅丸長方形と推定される。

規模 長軸2.45m以上 短軸2.54m 残存壁高0.10m

長軸方位 N-0°-E

重複 28号土坑と重複しているが、本住居が新しい。

埋没土 褐色土塊を含む暗褐色土を主体とする。自然埋没土と考えられる。

柱穴 柱穴と考えられるピットを2本検出したが、一般

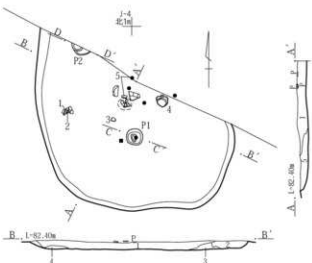
的な4本柱穴の位置ではないことから、未検出の柱穴も想定される。これらのピットの規模(長軸×短軸×深さ)は、P1(0.2以上×0.23以上×0.21m)、P2(0.23×0.22×0.15m)である。P1は長軸線上にあると見られる。

炉 調査できた範囲を床面下の調査も実施したが、炉は検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

床面 地山ローム土上面を床面と認定した。中央部が硬化していた。

遺物出土状態 土器は全体で9点が出土した。内訳は前



5号住居SPA-A'・B-B'

1. 暗褐色土(10YR3/3)褐色土塊混入 やや砂質で粘性弱。明黄褐色土塊若干混入。
2. 褐色土・明黄褐色土(10YR6/6)塊混入 粘性弱。暗褐色土と根に伴う黒色土混入。
3. 明黄褐色土(10YR6/6) ソフトローム。粘性弱。褐色土塊混入。
4. 褐色土(10YR4/4)暗褐色土塊混入 粘性ややあり。
5. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土塊と若干の明黄褐色土塊混入。



5号住居P1SPC-C'

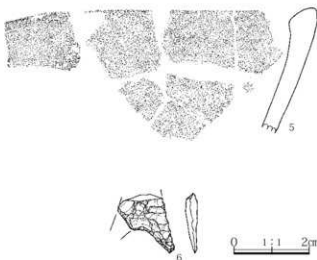
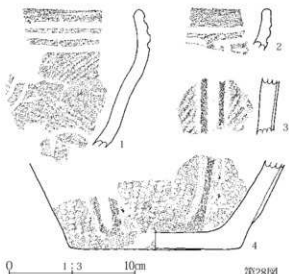
1. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土・明黄褐色土小塊混入。
2. 暗褐色土(10YR3/3)褐色土塊混入 やや砂質で粘性弱。



5号住居P2SPD-B'

1. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土・明黄褐色土小塊混入。
2. 暗褐色土(10YR3/3)褐色土塊混入 やや砂質で粘性弱。
3. 明黄褐色土(10YR6/6) ソフトローム。粘性弱。褐色土小塊混入。しまり強。粘床。
4. 褐色土(10YR4/4)暗褐色土塊混入 粘性ややあり。明黄褐色土・黒色土小塊若干混入。

0 1:50 1m



第28図 1区5号住居と出土遺物

期後葉1点、加曽利E2式・連弧文土器7点、曽利系土器1点で、このうち、5点を図化・掲載した。石器類は石器1点、剥片3点が出土した。このうち、1点の石器を図化・掲載した。中央部には床面に近い遺物が集中して出土した。加曽利E2式の深鉢(第28図3・4)は中央部床面直上で出土した。またやや床面からは浮いた位置であるが、曽利系(5)、連弧文系(1)の土器の破片が出土している。石器の出土量はきわめて少なかったが、南東部床面下からチャート製の石簾(第28図6)が出土した。

所見 床面近くに出土した土器の時期から加曽利E2式期の遺構と考えられる。他の竪穴住居に比べて小型の遺構であることや、南半部では竈が検出されていないことから、一般的な住居ではない可能性もある。

6号住居

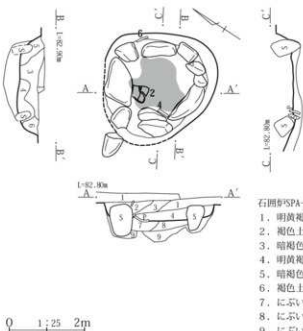
(第29～33図 PL.27～32・57・58 遺物観察表P.92・93)

位置 2区Q・R-14・15G

形状 遺構確認が困難で全体形状をとらえることはできなかった。

規模 柱穴の可能性のある土坑やピットを包括し、竈がほぼ中央に位置するような半径3.45mの円を描き、復元した。壁高は確認できなかった。

方位 竈長軸方位 N-33°-W



石間95PA-A'・B-B'

1. 明黄褐色土(10YR6/6) 粘性弱。暗褐色土・褐色土塊混入。
2. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土・明黄褐色土塊混入。
3. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土塊混入。明黄褐色土塊入。
4. 明黄褐色土(10YR6/6) 粘性弱。褐色土混入。
5. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。明黄褐色土塊混入。
6. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。黄褐色土の塊混入。
7. にぶい赤褐色土(5YR5/3) 褐灰色土(5YR4/1)・褐色土(5YR7/6)塊混入。焼土化見られる。
8. にぶい赤褐色土(5YR5/3) 褐色土(5YR7/6)塊混入。全体に焼土化。
9. にぶい赤褐色土(5YR5/3)と褐色土(5YR7/6)の混入 褐灰色土塊と褐色土の焼土塊混入。

第29図 2区6号住居竈と埋設土器

重複 109号・114号・116号土坑と重複する。いずれも住居床面を壊して掘り込まれていたことから、本住居より新しいと推定される。また、104号土坑と113号土坑はその位置からすると住居主柱穴の可能性もある。

埋設土 住居内の埋設土を明確にとらえることはできなかった。竈が検出されたレベルの土層は基本土層のV層(暗褐色土)やVI層(褐色土)の土塊を含むVII層(明黄褐色土)や、V層(暗褐色土)土塊を含むVI層(褐色土)であった。竈上位にあったと推定される縄文時代遺構埋設土は消失しているものと推定される。

柱穴 床面で13本のピットを検出したが、P3～P6と、P10が柱穴状を呈する。しかし、その位置や規模はこの大型住居を支えるには小さすぎると思われる。104号土坑、111号土坑、113号土坑が本住居の主柱穴である可能性もある。112号土坑は加曽利E2式土器が比較的多く出土しており、本住居より古い可能性もある。

検出した13本のピットおよび3基の土坑の規模(長軸×短軸×深さ)は下記の通りである。

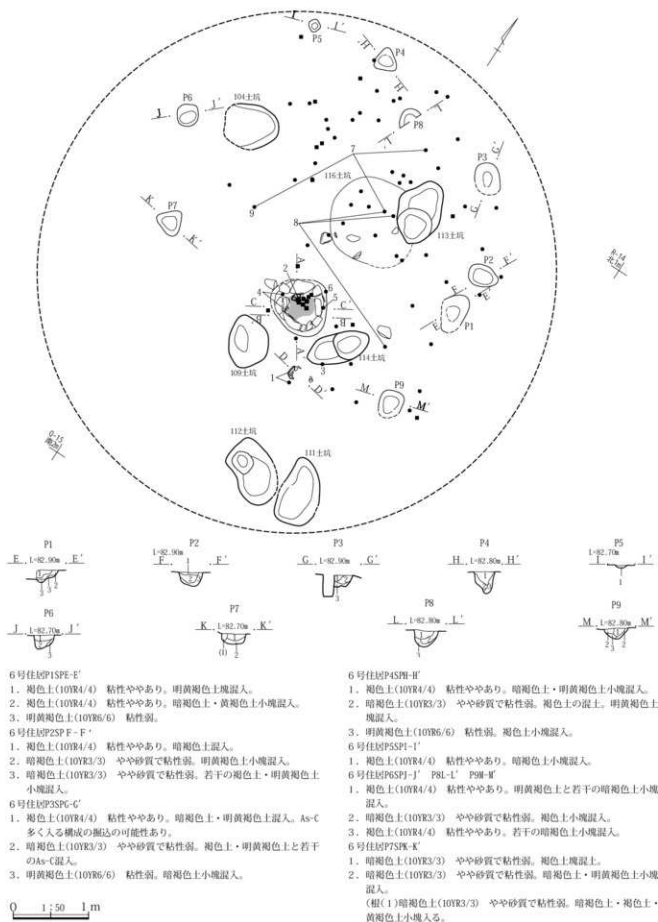
- P1(0.52×0.52×0.27m)、P2(0.38×0.33×0.10m)、
P3(0.28×0.27×0.43m)、P4(0.37×0.33×0.28m)、
P5(0.33×0.30×0.30m)、P6(0.33×0.31×0.33m)、
P7(0.40×0.58×0.24m)、P8(0.27×0.24×0.13m)、
P9(0.42×0.33×0.30m)、P10(0.40×0.38×0.31m)、
P11(0.43×0.36×0.08m)、P12(0.40×0.35×0.15m)、

埋設土器

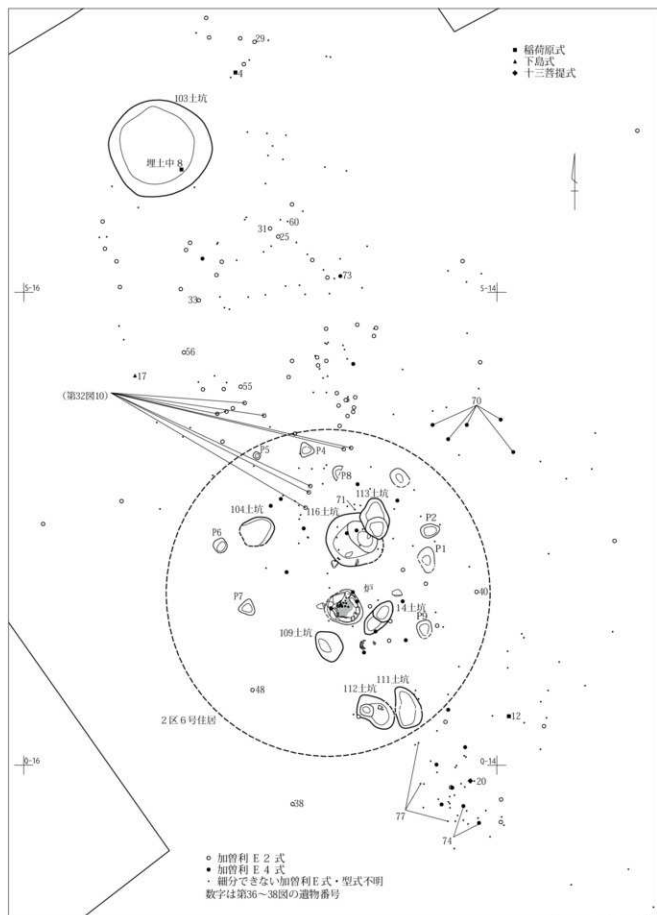


6号住居埋設土器SPD-B'

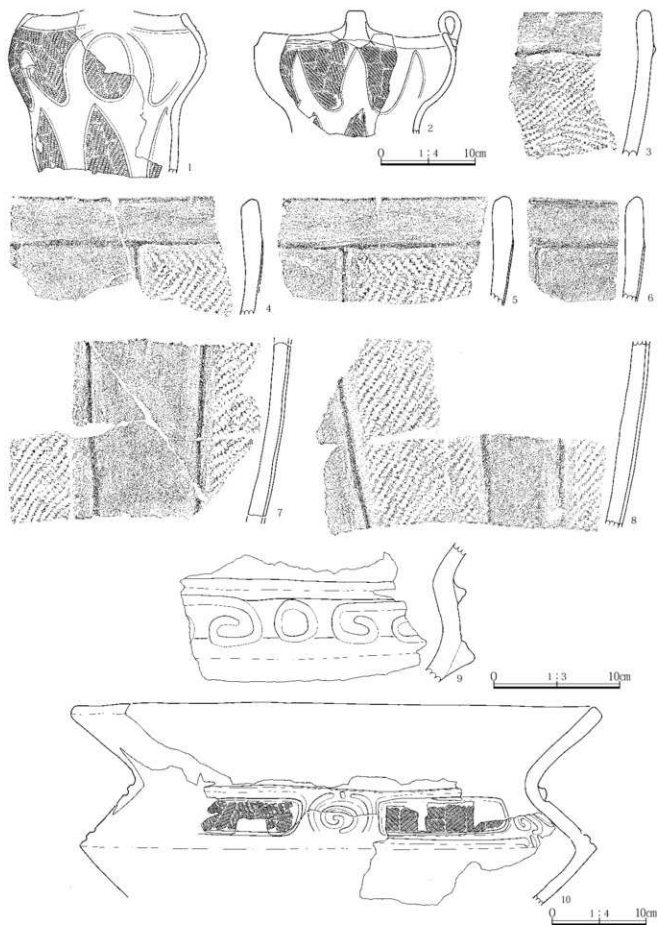
1. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土・明黄褐色土塊入。
2. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。若干の明黄褐色土塊入。



第30図 2区6号住居



第31図 2区6号住居周辺の遺物分布



第32図 2区6号住居出土遺物

P13 (0.47×0.34×0.52m)

104号土坑(0.710×0.60×0.35m)、111号土坑(0.90×0.55×0.21m)、113号土坑(0.89×0.58×0.30m)

炉 住居中央部で石囲炉1基を検出した。長軸0.75m、短軸0.60m、深さ0.53mの掘り込みの中に、9個の河床礫で馬蹄形に囲って炉床としている。が使用内の内径は長軸0.6m、短軸0.35mである。現状では南西側面は礫が割れて外側にずれており、調査時には掘り込み短軸も0.75mほどになったが、本来は整った馬蹄形であったと推定される。

炉中央には厚さ7～8cmの焼土が形成されており、礫内面も焼けて赤化していた。炉内からは加曽利E4式深鉢破片(第32図2・4～6)が出土した。

周溝 検出されなかった。

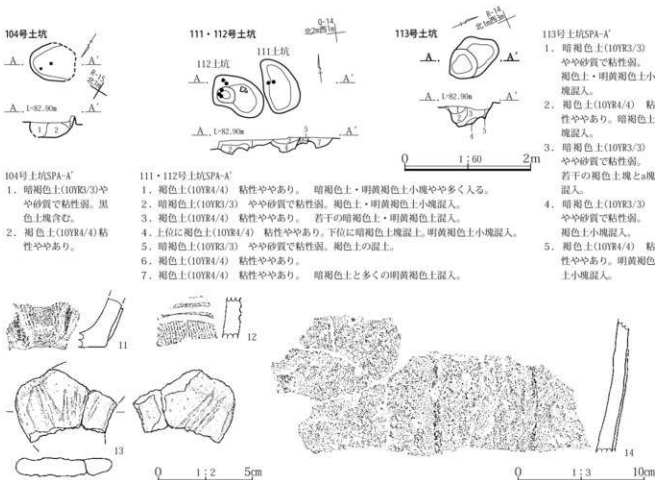
床面 硬化した床面は検出できなかった。

遺物出土状態 土器は全体で36点が出土した。内訳は諸磯c式1点、加曽利E2式8点、加曽利E3式4点、加曽利E4式8点、加曽利E5式14点で、このうち、11点を

図化・掲載した。炉の南東脇には加曽利E4式の埋設土器(第32図1)が正位で埋設されていた。また、加曽利E4式深鉢破片(第32図3)が床面直上で、8が床面上6cmで出土した。深鉢破片(7)は、住居北半の離れた3地点の破片が接合した。

住居確認時には、第31図のように住居中央からやや南側にかけは加曽利E4式土器破片が、やや北側にかけは加曽利E2式土器破片が散布する傾向があった。加曽利E2式土器破片は住居床面上10cmほどのところでも出土しているが、住居と想定した部分より北側で出土した複数の破片と接合した(第32図10)。加曽利E2式土器が散布している地点に加曽利E4式期の住居が掘り込まれ、埋没する過程で加曽利E2式の浅鉢が混入したものと考えられる。石器類は出土しなかった。

所見 炉からの出土土器や埋設の時期から加曽利E4式期の遺構と推定される。周辺には加曽利E2式期の土器と加曽利E4式期の土器が出土したが、より遺構に属する出土状態を示した加曽利E4式期とした。



(3)土坑

今回の中西原遺跡の調査では、107基の土坑が検出された。埋没土の特徴や出土遺物から縄文時代の遺構と判断した土坑は13基である。

このうち、形態や出土遺物、埋没土の特徴から確実に縄文時代の遺構と考えられるのは第34図に示した7基である。28号土坑が縄文時代前期の可能性が考えられる他は、中期加曽利E式期の土坑と推定される。

一方、第35図に示した6基の土坑は2区6号住居の周辺あるいは重複して検出された土坑で、遺構確認状況や出土土器から縄文時代の遺構と判断した。しかし、形状は小型で不定型であることから、縄文時代の可能性がある土坑として、本節で報告したい。6基のうち、3基から縄文土器が出土しているが、いずれも加曽利E式土器である。出土土器は加曽利E2式土器が多いことから、加曽利E4式期の6号住居に先行して掘られた土坑群とも考えられるが、調査では明確な重複関係を記録できなかった。

28号土坑(第34図 PL.32)

位置 1区I-4G

形状 不正円形。断面形はややフラスコ形。

規模 長軸1.50m 短軸1.45m 残存壁高0.62m

底面 底面はほぼ平坦である。

長軸方位 N-10°-W

重複 諸磯c式期の4号住居東壁に重複。土層観察から4号住居より古いと判断した。

埋没土 締まりのある明黄褐色土で埋まっており、自然埋没と推定される。

遺物出土状態 埋没土中から加曽利E式土器破片1点が出土した。

所見 土坑の時期は埋没土の観察から諸磯c式期以前と推定される。埋没土中から出土した加曽利E式土器破片は混入であろう。

29号土坑(第34図 PL.32)

位置 1区I-8G。1号住居・3号住居の南側数mの位置で検出された。

形状 不正楕円形。断面形は皿状。

規模 長軸1.10m 短軸0.95m 残存壁高0.26m

底面 やや凹凸がある。 **長軸方位** N-23°-E

重複 中世以降と考えられる90号土坑に南端が壊されていた。

埋没土 暗褐色土や褐色土の塊状混土で下層には明黄褐色土塊を含む。自然埋没と推定される。

遺物出土状態 埋没土中から諸磯c式土器、加曽利E2式土器小破片が1点ずつ出土した。

所見 土坑の時期は不明であるといわざるを得ない。

37号土坑(第34図 PL.33 遺物観察表P.93)

位置 1区J-10G。1号住居の北西部、3号住居の西部2mほどの位置に近接して検出された。

形状 楕円形。断面形は箱形。

規模 長軸1.13m 短軸0.88m 残存壁高0.22m

底面 底面はほぼ平坦である。

長軸方位 N-51°-W **重複** なし。

埋没土 下層にはぶい暗褐色土、上層はローム小塊を含む暗褐色土で埋まっていた。自然埋没と推定される。

遺物出土状態 埋没土中から唐草文系土器綾杉文の土器破片1点(第34図3)が出土した。

所見 土坑の時期は、埋没土の特徴や出土土器から、中期加曽利E式期と考えられる。

64号土坑(第34図 PL.33・58 遺物観察表P.93)

位置 1区J-9G

形状 不整形の土坑で、断面形は皿状。

規模 長軸1.60m 短軸1.36m 残存壁高0.21m

底面 底面はやや凹凸があった。

長軸方位 N-23°-E

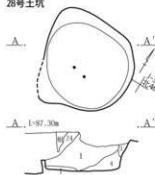
重複 3号住居の南東部に重複して検出された。

埋没土 締まり・粘性があるにぶい黄褐色土で埋まっていた。自然埋没と推定される。

遺物出土状態 埋没土中から加曽利E2式土器破片3点、加曽利E3式3点、加曽利E式7点が出土した。このうち2点を図示した(第34図1・2)。

所見 遺構確認の時から形状は確認できたことや、後述するように出土遺物が新しいことから、3号住居より新しい土坑である。出土遺物から加曽利E式期の土坑と考えられるが、細別時期は特定できない。

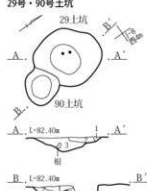
28号土坑



28号土坑SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱黒色土に近いものを含み、褐色土と若干の明黄褐色土混入。
2. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土・明黄褐色土混入。
3. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土入る小塊の混入。
4. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土混入。

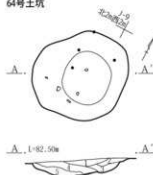
29号・90号土坑



29号土坑SPA-A' (根か)

1. 暗褐色土・褐色土(10YR4/4)塊混入 粘性ややあり。黒色土小塊混入。(29号土坑)
2. 暗褐色土・褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。若干の明黄褐色土混入。
3. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊の混入。根に伴い黒色土小塊若干混入。

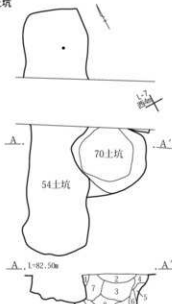
64号土坑



64号土坑SPA-A'

1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム小塊3%。ローム粒を含む。遺物の出土あり。しまり・粘質あり。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム小塊5%。しまり・粘質あり。
3. 褐色土(10YR4/3) ローム大塊10%。黒褐色土を多く含む。しまり・粘質あり。
4. にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム大塊10%。しまり弱い。粘質あり。
5. にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまり弱い。粘質あり。

70号土坑



54・70号土坑SPA-A'

1. 明黄褐色土(10YR5/4) 地山のローム。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム小塊。暗褐色土を含む。しまりあり。
3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム大塊5%。ローム粒を含む。炭化物を含む。しまりあり。
4. 褐色土(10YR4/6) ローム粒多量。ややしまる。粘質あり。
5. 黄褐色土(10YR5/6) ローム小塊・粒多量。硬化。
6. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒多量。しまりやや弱い。
7. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム小塊。暗褐色土を含む。しまる。
8. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒は9層より少ない。
9. 暗褐色土(10YR3/3) ローム小塊。ローム粒を含む。硬化。
10. 黄褐色土(2.5Y5/4) ローム小塊。ローム粒5%。しまる。
11. 黄褐色土(2.5Y5/3) 暗褐色土。黄褐色土ローム粒多量。しまる。

0 1:60 2m

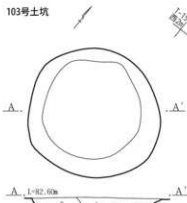
37号土坑



37号土坑SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム小塊・粒を含む。遺物の出土あり。しまり・粘質あり。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム大塊を多く含む。しまり・粘質あり。
3. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 黒褐色土を含む。しまり・粘質あり。

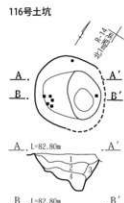
103号土坑



103号土坑SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。塊上。
2. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。塊上。

116号土坑



116号土坑SPA-A'

1. 黒褐色土 褐色塊を少量含む。
2. 暗褐色土 褐色塊を多量に含む。
3. 暗褐色土 明黄褐色塊を多量に含む。
4. 褐色塊土主体。

0 1:3 5cm

第34図 2区縄文時代の土坑と出土遺物(1)

70号土坑(第34図 PL.33)

位置 1区K・L-7・8G。中近世の細長い土坑の集中する2区中央部で検出された。

形状 不正円形の土坑で、断面形は箱形。

規模 長軸1.19m 短軸1.03m 残存壁高0.70m

底面 底面は平坦であった。

長軸方位 N-62°-W

重複 54号土坑と重複して検出された。土層観察から54号土坑より古いことがわかる。

埋没土 締まりのあるローム層由来の黄褐色土や暗褐色土である。塊状の堆積状況を示しており、人為的な埋め戻しがあった可能性がある。

遺物出土状態 埋没土中から加曽利E式土器小破片2点が出土した。

所見 出土遺物から加曽利E式期の土坑と考えられるが、細別時期は不明である。

103号土坑(第34図 PL.33・58 遺物観察表P.93)

位置 2区S-15G。2区の北向き斜面、6号住居の北側で検出された。

形状 円形の大形土坑で、断面形は皿状。

規模 長軸2.07m 短軸2.06m 残存壁高0.30m

底面 ほぼ平坦であった。

長軸方位 N-46°-E

重複 なし

埋没土 暗褐色土・褐色土塊で埋まっていた。塊状の堆積であったことから、人為的埋没の可能性がある。

遺物出土状態 埋没土中から燃糸文土器1点、加曽利E式土器破片3点、唐草文系土器破片1点が出土した。このうち2点を図示した(第34図4・5)。

所見 土坑の時期は出土遺物から加曽利E式期と推定されるが、細別時期は特定できない。

116号土坑(第34図 PL.34)

位置 2区Q・R-14G。2区6号住居の床面精査後の旧石器トレンチ調査時に検出された。

形状 円形の土坑で、断面形はU字形、北東半はビット状に深くなっていた。

規模 長軸1.12m 短軸1.11m 残存壁高0.90m

底面 凹凸が著しかった。

長軸方位 N-60°-E

重複 6号住居と重複しているが、住居より古い。

埋没土 黒褐色土・暗褐色土で下層には褐色土塊が堆積していた。自然埋没と推定される。

遺物出土状態 埋没土中から加曽利E式土器小破片4点が出土した。

所見 土坑の時期は出土遺物から加曽利E式期と考えられるが、細別型式は不明である。

102号土坑(第35図 PL.34)

位置 2区U-15G。2区の最北端の北斜面、6号住居の北側15mの地点で検出された。

形状 小型の楕円形。断面形はU字形。

規模 長軸0.70m 短軸0.56m 残存壁高0.39m

底面 中央は細く、浅いビット状。

長軸方位 N-59°-E

重複 なし

埋没土 褐色土・明黄褐色土塊であるが、中央最上層には黒色土塊を含む褐色土が堆積していた。人為的な埋没状況とも考えられる。

遺物出土状態 加曽利E2式土器小破片3点が出土した。

所見 土坑の時期は出土遺物から加曽利E2式期の土坑である可能性がある。

105号土坑(第35図 PL.34)

位置 2区R-13G。2区の東部、6号住居の東3mほどの地点で検出された。

形状 小型の楕円形土坑で、断面形はU字形。

規模 長軸0.96m 短軸0.72m 残存壁高0.40m

底面 底面中央は細く、浅いビット状。

長軸方位 N-47°-W

重複 なし

埋没土 102号土坑と共通しており、褐色土・明黄褐色土塊で、中央最上層には黒色土塊を含む褐色土が堆積していた。人為的な埋没の可能性がある。

遺物出土状態 遺物は出土しなかった。

所見 土坑の時期は埋没土の状況から縄文時代と推定されるが、細別時期は不明である。

107号土坑(第35図 PL.34・58 遺物観察表P.93)

位置 2区Q-12G。2区の南東部、6号住居の南東3mほどの地点で検出された。

形状 小型の円形土坑で、断面形は浅いU字形。

規模 長軸1.18m 短軸0.08m 残存壁高0.31m

底面 凹凸が著しかった。

長軸方位 N-13°-W

重複 なし

埋没土 102号、105号土坑と共通しており、褐色土・明黄褐色土塊で、中央最上層さらに最下層には黒色土塊を含む明黄褐色土が堆積していた。人為的な埋没の可能性はある。

遺物出土状態 埋没土中から、加曽利E2式土器破片1点(第35図6)が出土した。

所見 土坑の時期は埋没土の状況から縄文時代と推定さ

れ、出土土器から加曽利E2期の土坑である可能性があるが、細別型式は不明である。

109号土坑(第35図 PL.35・58 遺物観察表P.93)

位置 2区Q-14G。2区の中央部、6号住居の石囲いが²の南縁で検出された。

形状 小型の楕円形。断面形はU字形。

規模 長軸0.70m 短軸0.53m 残存壁高0.38m

底面 中央はビット状。

長軸方位 N-31°-W

重複 6号住居と重複するが、新旧関係は不明である。

埋没土 102号、105号、107号土坑とほぼ共通しており、褐色土・明黄褐色土塊であるが、中央最上層には黒色土塊を含む褐色土が堆積していた。人為的な埋没状況とも考えられる。

102号土坑



102号土坑SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。黒色土塊含む。
2. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。
3. 明黄褐色土(10YR6/6) ソフトローム。粘性弱。

114号土坑



114号土坑SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。
2. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土が塊状に含まれる。※2区6号住居の南縁に接している。和との位置関係や覆土などから住居を掘りぬいている(住居より新しい)土坑であると考えられる。

105号土坑



105号土坑SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。黒色土塊含む。
2. 明黄褐色土(10YR6/6) ソフトローム。粘性弱。
3. 明黄褐色土(10YR6/6) ソフトローム。粘性弱。塊の粒の径が2~3cmと小粒。黒色土が塊状に含まれる。

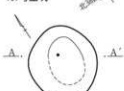
115号土坑



115号土坑SPA-A'

1. 明黄褐色土(10YR6/6) 粘性弱。明黄褐色土と黒色土と褐色土と中塊混入。
2. 明黄褐色土(10YR6/6) ~IX層土の混入 粘性弱。黒色土(2.5Y2/1, 砂質、As-BP含む)塊混入。

107号土坑



107号土坑SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。黒色土塊含む。
2. 明黄褐色土(10YR6/6) ソフトローム。粘性弱。明黄褐色土の塊上。
3. 明黄褐色土(10YR6/6) ソフトローム。粘性弱。
4. 明黄褐色土(10YR6/6) ソフトローム。粘性弱。塊の粒の径が2~3cmと小粒。黒色土が塊状に含まれる。

109号土坑



109号土坑SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。黒色土含む。
2. 明黄褐色土(10YR6/6) 主体の塊上 粘性弱。
3. 明黄褐色土(10YR6/6) 粘性弱。塊の粒の径が2~3cmと小粒。黒色土が塊状に含まれる。

0 1:60 2m



0 1:3 10cm

第35図 2区縄文時代の土坑と出土遺物(2)

遺物出土状態 加曽利 E 2 式土器破片 1 点(第35図7)、加曽利 E 式土器小破片 1 点が出土した。

所見 土坑の時期は出土遺物から加曽利 E 2 式期の可能性はある。

114号土坑(第35図)

位置 2区Q-14G 2区の中央部、6号住居の石囲い坪の南東縁で検出された。

形状 小型の楕円形土坑で、断面形は皿状。

規模 長軸0.86m 短軸0.39m 残存壁高0.30m

底面 北東部の底面はビット状。

長軸方位 N-39°-E

重複 6号住居と重複するが、新旧関係は不明である。

埋没土 やや砂質の暗褐色土で埋まっていた。

遺物出土状態 遺物は出土しなかった。

所見 土坑の時期は埋没土の状況から縄文時代と推定されるが、確定はできなかった。

115号土坑(第35図)

位置 2区S-14G。2区の北半部、6号住居の北5mほどの地点で検出された。

形状 小型の隅丸方形土坑で、断面形は浅い箱形。

規模 長軸0.46m 短軸0.42m 残存壁高0.16m

底面 底面はほぼ平坦である。

長軸方位 N-33°-E

重複 なし

埋没土 102号、105号、107号、109号土坑と共通しており、明黄褐色土塊で埋まっていたが、上層の暗褐色土は失われていた。

遺物出土状態 遺物は出土しなかった。

所見 土坑の時期は埋没土の状況から縄文時代と推定されるが、確定はできなかった。

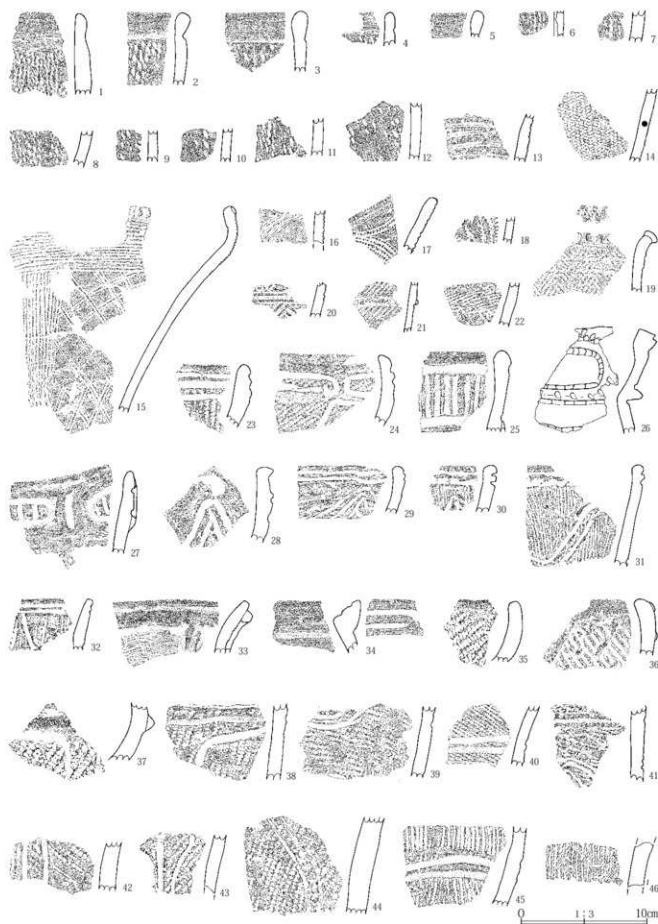
(4) 遺構外の出土遺物

(第36～38図 PL.59・60 遺物観察表P.93～95)

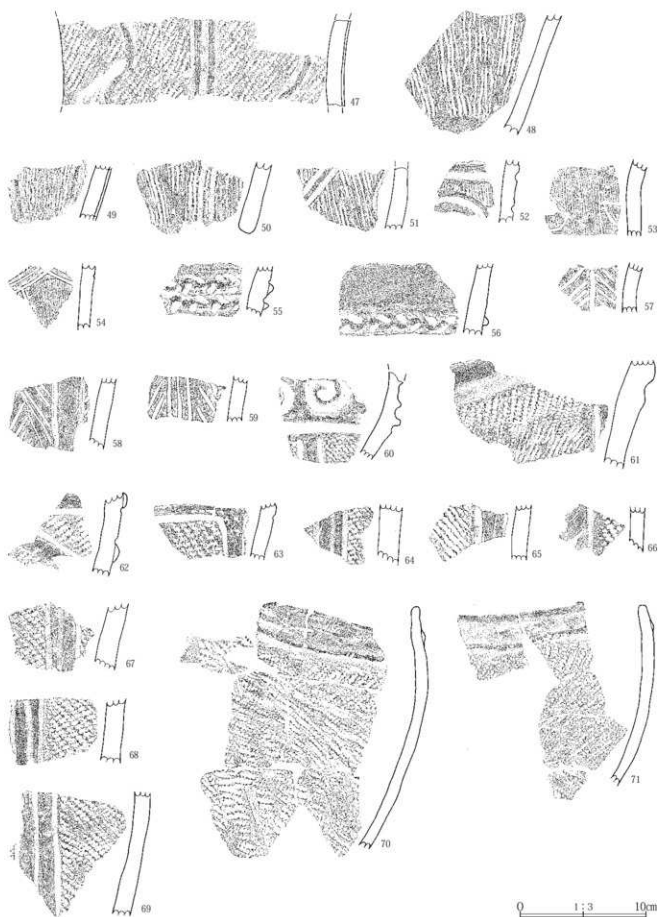
遺構外で出土した縄文時代の遺物は、縄文土器が1区で272点、2区で222点、3区で28点、縄文時代石器・剥片類が1区で29点、2区で73点であった。これらのうち出土地点を記録した遺物の分布傾向は第59図に示した。発掘区周辺は①耕作や農業試験場関連の施設として土地利用がされてきたことから上層が削平されていたこと、②VI層上面では遺構確認が困難で遺物と遺構との関係が把握しきれなかったことから、十分な包含層調査を実施できなかったことは否めないが、遺物分布は概ね縄文時代の遺構周辺に偏在する傾向を示していた。ここでは遺物の概要を示し、特徴については第5章でまとめた。

1区では、VI層上面での遺構確認時にほぼ全域で縄文土器が散在していたが、特に1号住居と3号住居が重複する地点で多くの縄文土器破片が出土した。遺構の埋没土の窪みに入り込んだ遺物群と観察された。1区の遺構確認の際に出土した土器は、撫糸文系土器1点、諸磯c式土器7点、興津式土器1点、加曽利 E 2 式土器81点、加曽利 E 3 式土器14点、加曽利 E 4 式土器1点、細分困難な加曽利 E 式土器80点、唐草文系土器4点、土製円盤1点で合計192点であった。そのうち33点を第36～38図に図化・掲載した。また、中世以降とみられる遺構埋没土からも多くの縄文土器が出土した。内訳は撫糸文土器3点、諸磯c式土器5点、前期後半5点、加曽利 E 2 式土器26点、加曽利 E 4 式土器5点、細分困難な加曽利 E 式土器33点、唐草文系土器3点、土製円盤1点で合計80点であった。いずれも検出された住居の時期と同じ諸磯c式、加曽利 E 2 式の土器が多く、遺構と関連する土器群が出土している状況であった。

2区では整穴住居の壁が削平されており、床面近くの坪が検出されたことで住居の存在を確認した。周辺には縄文土器がある程度集中して散在していた。特に2区北半部に加曽利 E 2 式、南部に加曽利 E 4 式が偏在する傾向があった(第31図)。2区南半で確認された6号住居は埋没土や周辺の土器から加曽利 E 4 式と推定される。2区の遺構確認時に出土した土器は、撫糸文系土器2点、関山Ⅱ式1点、諸磯c式土器1点、下島式土器1点、前期後半の土器3点、前期末の土器1点、加曽利 E 2 式土器101点、加曽利 E 3 式11点、加曽利 E 4 式土器19点、細分



第36図 遺構外の出土遺物 縄文時代(1)



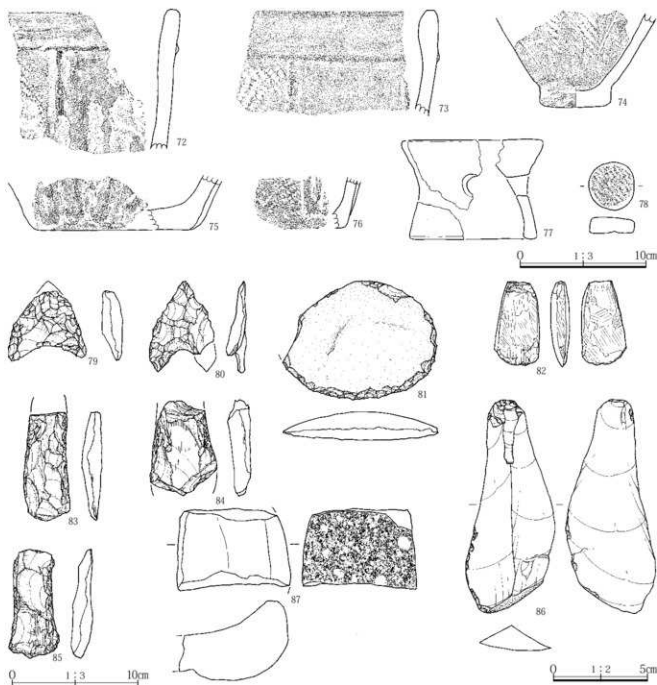
第37図 遺構外の出土遺物 縄文時代(2)

困難な加曽利E式土器77点、唐草文系土器4点で合計221点であった。

3区では縄文時代の遺構は検出されなかったが、縄文土器が北側に偏して出土した。加曽利E2式土器12点、加曽利E3式2点、加曽利E4式土器1点、細分困難な加曽利E式土器12点、唐草文系土器1点で合計28点であった。台地北縁辺にあたる3区周辺に、縄文時代中期の遺構が存在するのであろう。

1区の遺構外出土の縄文時代の石器は、石鏃1点、楔

形石器1点、磨製石斧1点、打製石斧6点、削器1点、石核2点、加工痕ある剥片5点、敲石1点、磨石1点、石皿1点、砥石1点である。このうち第38図に9点の石器を図化・掲載した。この他に剥片が出土している。石材の内訳は、黒色頁岩84点、珪質頁岩1点、砂岩1点、黒色安山岩7点、黒曜石14点、チャート8点、ホルンフェルス4点、細粒輝石安山岩2点、灰色安山岩1点が確認された。



第38図 遺構外の出土遺物 縄文時代(3)

4. 平安時代の遺構と遺物

(1) 概要

2区の北部で竪穴住居1棟を検出した。周囲には土坑や溝が検出されているが、出土遺物がほとんど無いことから、同時期と確定できる遺構は発掘区内では検出されなかった。

(2) 竪穴住居

2号住居(第39・40図 PL.35～37・60 遺物観察表P.95)

位置 1区L-12・13、M-12G

形状 隅丸正方形と推定されるが、西半分は発掘調査区域外のため、全形は記録できなかった。

規模 南北3.65m以上 東西3.81m 残存壁高0.40m

方位 竈方位 N-77°-E

重複 遺構の重複はないが、南壁の一部が攪乱によって壊されている。

埋没土 下層には褐色土や明黄褐色土塊を含む褐色土が多く堆積しており、上層には暗褐色土・黒褐色土・黒色土が堆積していた。塊状の堆積土が多いことから、掘削土が投げ入れられたような人為的埋没を想定させる。

あるいは、22・23・24層は褐色土・明黄褐色土が直接床面を覆うことから土葺き屋根の落ち込んだ堆積という想定もされたが、調査では確定することはできなかった。

柱穴 床面で1本のピットを検出したが、主柱穴と推定される。床面では全体を確認することができなかったが、掘り方面で全形を記録できた。掘り方面で検出されたP1の規模は長軸0.58m×短軸0.48m×床面から深さ0.19mである。この他に主柱穴とみられるピットは検出されなかった。

竈 東壁中央やや南で、竈を1基検出した。確認長1.60m、燃焼部幅0.57mで、袖の残存長は向かって左側は0.39m、右側は攪乱で壊されていた。燃焼部からは須恵器環(第40図1・3)や甕大型破片(7)、土師器甕口縁部破片(4・5)が出土した。また燃焼部中央には厚さ8cmほどの粗粒輝石安山岩の分割された棒状礫が支脚として立てられていた。

周溝 検出されなかった。

床面 床面は平坦で、中央部を中心に硬化していた。南壁はほぼ中央部壁際に長径0.8m以上、短径0.6m、深さ0.2

mの楕円形の土坑が検出された。北端には扁平な大型礫(溶結凝塊岩か)が出土したが、使用痕跡は確認されなかった。

貯蔵穴 南東隅で長径0.75m、短径0.48m、深さ0.16mの掘り込みと、その西半部が一边0.45m、深さ0.5mの隅丸方形に掘られた貯蔵穴を検出した。遺物は出土しなかった。

遺物出土状態 前述のように、竈を中心に土器が出土したほか、竈前の床面上12cmで土師器甕(第40図6)が出土した。埋没土中から甕(5)破片が出土した。この他に埋没土中から須恵器甕破片6点、環破片9点、土師器甕破片193点、環破片14点が出土した。

所見 出土土器から、平安時代前半9世紀中葉の住居と考えられる。

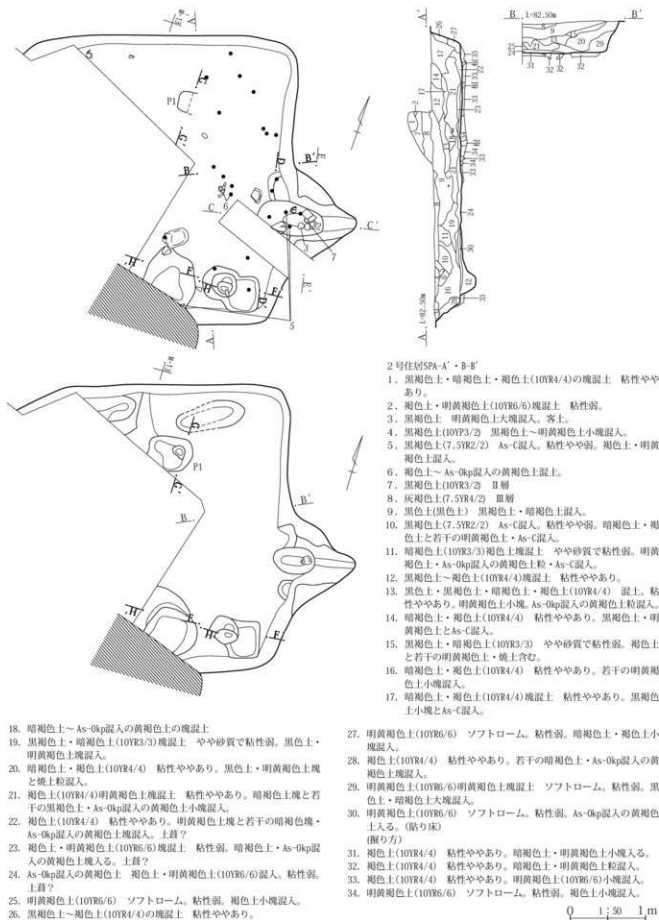
5. 中世以降の遺構と遺物

(1) 概要

中西原遺跡では、中世以降と推定される遺構群が1区を中心として検出された。遺構の内訳は、井戸1基、溝6条、土坑93基、ピット5基である。本節では、それぞれ遺構種ごとに番号順に報告記載したが、土坑については①細長い土坑、②隅丸長方形の土坑、③溝の接点に集中する土坑、④その他の不定型な土坑の4形態に分けて全体像と特徴のある土坑について記載した。

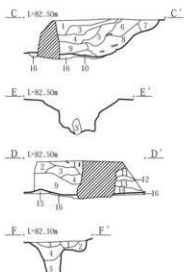
これらの遺構のうち、1区を方形に区画する4号溝・5号溝と、それに平行または直交する長軸をもつ①細長い土坑14基、②隅丸長方形の土坑13基と、③溝の接点部に集中する一連の土坑22基は、遺構の形態や分布状況から中世から近世のいずれかの時期の遺構群と考えられる。1号井戸も、埋没土中から14～15世紀の土器が出土していることから、それに付随するか、近い時期の遺構と推定される。これらの溝や土坑からの出土遺物がほとんどないことから、時期を特定することは困難であるが、地割の一区画あるいは継続して踏襲された地割に伴った遺構の集積である可能性が高いであろう。

一方、その他の3条の溝は前述した遺構群とは、方向や形態が異なる。出土遺物や時期を決定する調査所見がなかったことから、時期不明とせざるを得ない。また、④のその他の土坑44基、ピット5基も、時期を決定する



第39図 1区2号住居

第3章 検出された遺構と遺物



2号住居貯蔵穴SPF-F'

1. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土・明黄褐色土粒入る。
2. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土・明黄褐色土粒混入。
3. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土混入。
4. 褐色土(10YR4/4)暗褐色土塊混入 粘性ややあり。明黄褐色土・As-0kp混入の黄褐色土塊混入。
5. 黒色土(10YR1.7/1) やや砂質で粘性弱。焼土塊・明黄褐色土小塊・にべい黄色土粒入る。

2号住居カマドSPC-G'・D-D'

1. 黒褐色土・暗褐色土(10YR3/3)褐色土塊混入 やや砂質で粘性弱。
2. 黒褐色土・暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。若干のAs-C・褐色土塊混入。
3. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土小塊と焼土混入。
4. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。黒褐色土塊・黒色土・焼土粒混入。
5. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土塊・黒褐色土・明黄褐色土小塊・僅かな焼土粒混入。
6. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。黒褐色土塊。灰が目立ち。炭化物粒と若干のAs-0kp混入の黄褐色土塊混入。
7. 暗褐色土・褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。黒褐色土・明黄褐色土・As-0kp混入の黄褐色土小塊混入。
8. 黒褐色土・暗褐色土・褐色土(10YR4/4)塊混入 粘性ややあり。明黄褐色土・Vb・焼土小塊混入。
9. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。若干の暗褐色土塊・As-0kp混入の黄褐色土粒混入。
10. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。炭化物・褐色土小塊・明黄褐色土・As-0kp混入の黄褐色土粒混入。
11. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。若干の明黄褐色土小塊混入。
12. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土小塊・粒・僅かな暗褐色土粒混入。
13. 褐色土(10YR4/4)暗褐色土塊混入 粘性ややあり。明黄褐色土小塊混入。
14. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土小塊・明黄褐色土粒混入。
15. 明黄褐色土(10YR6/6) ソフトローム。粘性弱。若干の褐色土・明黄褐色土小塊混入。
16. 褐色土・明黄褐色土小塊の混入。



2号住居貯蔵穴SPF-F'

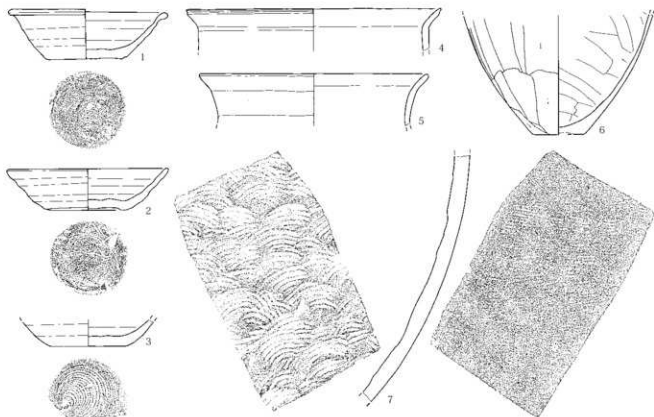
1. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土粒若干混入。
2. 明黄褐色土(10YR6/6) ソフトローム。粘性弱。
3. 暗褐色土・褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。
4. 明黄褐色土(10YR6/6) ソフトローム。粘性弱。As-0kp混入の黄褐色土若干混入。
5. にべい黄褐色土(10YR5/3) 粘性やや弱い。



2号住居内土坑SPH-H'

1. 褐色土・明黄褐色土(10YR6/6)塊混入 粘性弱。暗褐色土塊混入。
2. 暗褐色土・褐色土(10YR4/4)塊混入 粘性ややあり。若干の明黄褐色土小塊混入。しまり欠く。
3. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土塊若干混入。しまり欠く。

0 1:50 1m



第40図 1区2号住居・柱土層断面と出土遺物

0 1:3 10cm

調査所見がなく、時期不明とせざるを得なかった。

(2) 井戸

1号井戸(第41図 PL.40 遺物観察表P.95)

位置 1区M-9 G。4号溝の東6mの地点で検出された。

形状 大型円形で、断面形は上部が開く漏斗状。

規模 長軸1.74m 短軸1.56m 残存壁高2.82m

底面 底面はやや碗形である。

長軸方位 N-62° -W

重複 なし

埋没土 下半部はやや砂質の黒色土で埋まっており、自然埋没と推定される。7層以上には明黄褐色土塊や褐色土・黒色土小塊が混入した褐色土で埋まっており、人為的埋没を示唆する状況であった。

遺物出土状態 遺物は埋没土中から14～15世紀のものとみられる在地系土器の鉢体部破片が1点出土した。

所見 形状と出土遺物から本井戸の時期は中世と推定される。

(3) 溝

4号溝(第42図 PL.39)

位置 1区C-4～E-7 G。等高線に平行して掘られていた。

形状 ほぼ直線の区画溝。断面形は浅いU字形。

規模 調査長 13.7m 最大幅 0.66m

最小幅0.35m、残存深 0.23m

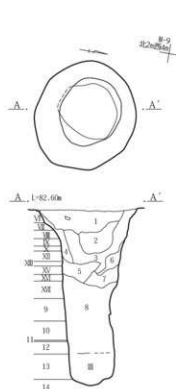
走向 N-66° -W **底面比高** 北西端が0.09m高い。

重複 67号・83号～85号・94号土坑と重複する。いずれの土坑より4号溝が新しい。

埋没土 下層は明黄褐色土塊を含む褐色土、上層はやや砂質の黒褐色土で埋まっていた。自然埋没と判断される。砂やシルト等の流水を示唆する堆積はなかった。

遺物出土状態 北西端で土師器破片1点が出土したが、時期を特定するには困難な破片であった。混入であろう。

所見 概要で述べたとおり、区画の溝と推定される。4号溝を境として、北東側に①の細長い土坑が分布する。また南側には4号溝に平行して掘られた不定型な細長い土坑(概要で③としたもの)が連続してある。何らかの関連のある土坑と考えられる。



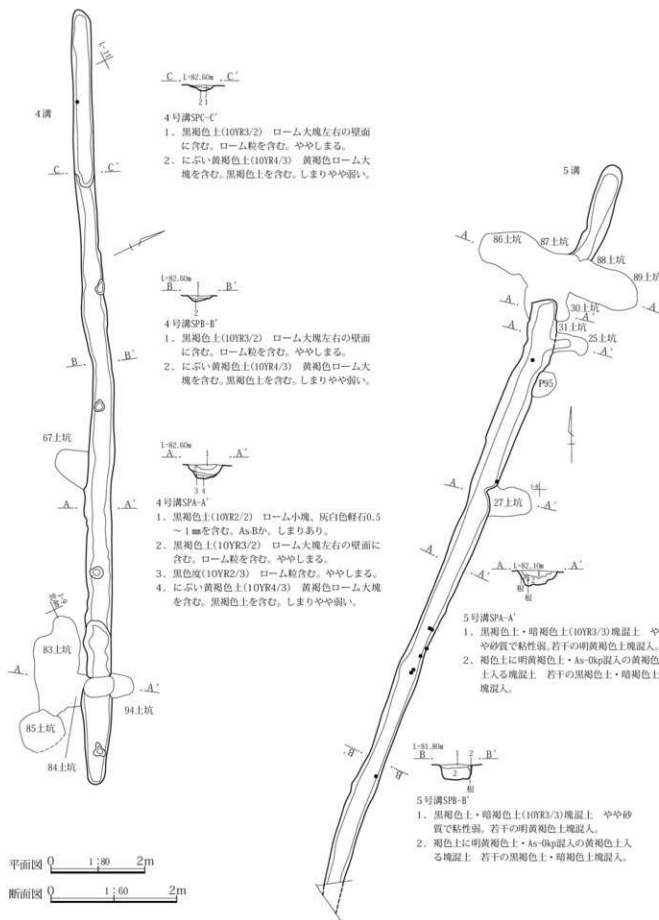
0 1:3 10cm

1号井戸SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。黒褐色土層上の混土。褐色土・As-0kp混入の黄褐色土粒・As-C混入。
2. 暗褐色土・黒色土・褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。塊の混土 As-C入る。
3. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土・明黄褐色土塊・小塊混入。
4. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土・As-0kp混入の黄褐色土粒混入。
5. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土・黒色土・明黄褐色土・As-0kp混入の黄褐色土小塊混入。しまりあり。
6. 黒色土・褐色土・明黄褐色土(10YR6/6) 小塊の混土。粘性弱。As-0kp混入の黄褐色土小塊混入。
7. 明黄褐色土(10YR6/6) ソフトローム。粘性弱。褐色土塊の混土。黒色土・As-0kp混入の黄褐色土小塊混入。
8. 黒色土(10YR1.7/1) やや砂質で粘性弱。褐色土塊の混土 明黄褐色土・As-0kp混入の黄褐色土粒混入。Ⅲ・Ⅵ～ⅩⅦ層 標準上層。
9. 浅黄色土(2.5Y7/4) 粘性強い。
10. にぶい黄褐色土(10YR6/4) 粘性あり。八崎軽石を含む。
11. 八崎軽石
12. 黄褐色土(10YR7/6) 粘性あり。
13. にぶい黄色土(2.5Y6/4) 粘性弱い。
14. 灰白色土(7Y7/2) 粘性あり。細砂・礫を含む。

0 1:60 2m

第41図 1区1号井戸と出土遺物



第42図 1区4号溝・5号溝

5号溝(第42図 PL.39・40)

位置 1区F-9～J-7 G.等高線に直交する方向で掘られていた。

形状 ほぼ直線の区画溝。断面形は浅いU字形。

規模 調査長 13.7m 最大幅 0.66m

最小幅0.35m、残存深 0.23m

走向 N-66°-W **底面比高** 北端が1.04m高い。

重複 25号・27号・30号・31号・86号～89号・95号土坑と重複する。いずれの土坑より5号溝が新しい。

埋没土 下層は明黄褐色土塊を含む褐色土、上層はやや砂質の黒褐色土で埋まっていた。自然埋没と判断される。砂やシルト等の流水を示唆する堆積はなかった。

遺物出土状態 中央やや西寄りで大形破片を含む土師器裏破片が7点、北寄りで1点、南寄りで1点が出土したが、埋没土中から出土遺物に植木鉢破片も混在していることから、上記土師器破片は混入と考えられる。

所見 概要で述べたとおり、区画の溝と推定される。4号溝と南東隅でほぼ直角の位置にあたる。5号溝を境にして東側には5号溝と長軸が直交あるいは平行する②の隅丸長方形の土坑が集中して分布する。

1号・2号溝(第43図 PL.38)

位置 1区C-4～E-7 G. 1区南東隅で等高線に平行する方向に掘られていた。

形状 1号溝はほぼ直線の溝で、断面形は皿状。2号溝はやや不定型で凹凸がある外形を呈する。断面形は皿状。南東端で両溝は1条に合わる。

規模 1号溝：調査長15.9m 最大幅 0.68m

最小幅0.29m、残存深0.09m

2号溝：調査長14.5m 最大幅 0.99m

最小幅0.40m、残存深0.07m

走向 1号溝：N-54°-W 2号溝：N-50°-W

底面比高 1号溝：南東端が0.03m高い。

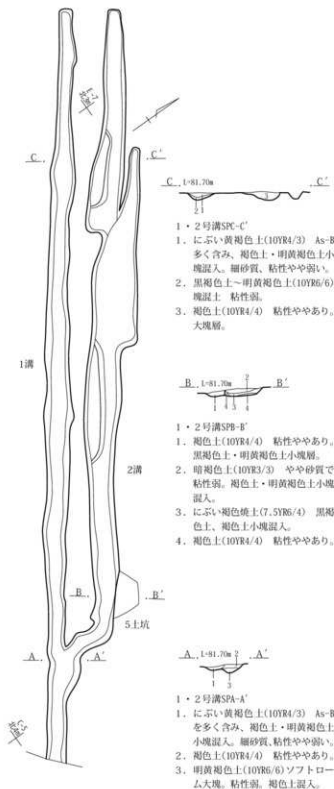
2号溝：南東端が0.02m高い。

重複 無し。

埋没土 下層は明黄褐色土塊を含む褐色土、上層はAs-Bを多く含む褐色土で埋まっていた。自然埋没と判断される。砂やシルト等の流水を示唆する堆積はなかった。

遺物出土状態 遺物は出土しなかった。

所見 埋没土には砂やシルト等の流水を示唆する堆積は



第43図 1区1号・2号溝

なかったことや、直線の形であることから、本溝も区画の溝と推定される。しかし、前述した4号・5号溝とは走向が異なり、一連の区画とは言い難い。また、埋没土にAs-Bを多く含むことから、12世紀以降は確実であることは判明したが、遺構の時期は判然としなかった。

3号溝(第44図 PL.38)

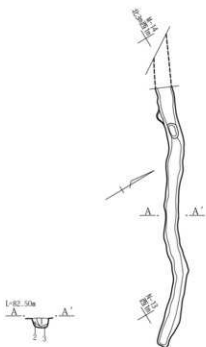
位置 1区F-3~J-4 G。等高線に平行する方向で掘られていた。

形状 やや南端が湾曲する。断面形は浅いU字形。

規模 調査長 5.2m 最大幅 0.41m 最小幅0.26m、
残存深 0.12m

走向 N-61° -W **底面比高** 南東端が0.01m高い。

重複 2号住居と重複するが、新旧関係は不明である。



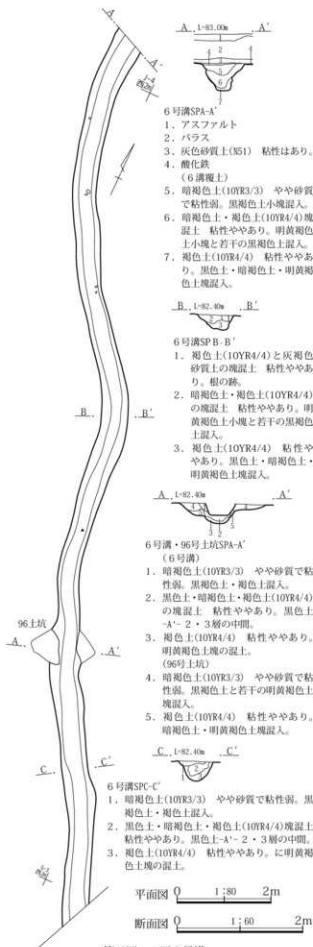
3号溝SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム大塊中位層に多く含む。ローム粒を含む。
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム小塊多く含む。しまりややあり。粘質あり。
3. にい黄褐色土(10YR5/3) しまりやや弱い。粘質あり。

平面図 0 1:80 2m

断面図 0 1:60 2m

第44図 1区3号溝



6号溝SPA-A'

1. アスファルト
2. バラス
3. 灰色砂質土(N51) 粘性はあり。
4. 酸化鉄
(6溝覆土)
5. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。黒褐色土小塊混入。
6. 暗褐色土・褐色土(10YR4/4)塊混入 粘性ややあり。明黄褐色土小塊と若干の黒褐色土混入。
7. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。黒色土・暗褐色土・明黄褐色土塊混入。

6号溝SP B-B'

1. 褐色土(10YR4/4)と灰褐色砂質土の塊混入 粘性ややあり。根の跡。
2. 暗褐色土・褐色土(10YR4/4)の塊混入 粘性ややあり。明黄褐色土小塊と若干の黒褐色土混入。
3. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。黒色土・暗褐色土・明黄褐色土塊混入。

6号溝・96号土坑SPA-A'

(6号溝)

1. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。黒褐色土・褐色土混入。
2. 黒色土・暗褐色土・褐色土(10YR4/4)の塊混入 粘性ややあり。黒色土-A'-2・3層の中間。
3. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊の混入。(96号土坑)
4. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。黒褐色土と若干の明黄褐色土塊混入。
5. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土・明黄褐色土塊混入。

6号溝SPC-C'

1. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。黒褐色土・褐色土混入。
2. 黒色土・暗褐色土・褐色土(10YR4/4)塊混入 粘性ややあり。黒色土-A'-2・3層の中間。
3. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。に明黄褐色土塊の混入。

平面図 0 1:80 2m

断面図 0 1:60 2m

第45図 1区6号溝

埋没土 ローム層の大塊を含む黒褐色土で埋まっていた。自然埋没と判断される。砂やシルト等の流水を示唆する堆積はなかった。

遺物出土状態 遺物は出土しなかった。

所見 本溝は他の溝と異なり、やや湾曲した走向を示す。埋没土中に砂やシルト等の流水を示唆する堆積はなかったことから用水路の可能性は否定されるが、溝の性格を明確にすることはできなかった。

6号溝(第45図 PL.40)

位置 1区L・M-13G。1区東端で等高線に斜行する方向で掘られていた。

形状 ほぼ直線の走向をとるが、中央部が緩やかに蛇行する。断面形はU字形。

規模 調査長 15.8m 最大幅 0.66m
最小幅 0.32m 残存深 0.32m

走向 N-22°-W **底面比高** 北端が0.10m高い。

重複 4号住居・96号土坑と重複するが、いずれの遺構より6号溝が新しい。

埋没土 下層は粘性のある褐色土で、上層は砂質の暗褐色土で埋まっていた。自然埋没と判断される。砂やシルト等の流水を示唆する堆積はなかった。

遺物出土状態 遺物は出土しなかった。

所見 本溝も他の溝と異なり、緩やかに蛇行し、台地頂部をやや湾曲した走向を示す。埋没土の特徴や形状から異なる性格をもった溝と推定されるが、明確にすることはできなかった。

(4)土坑

中世以降と考えられる土坑は、概要で述べたように形態や分布状況の共通性から4つの形態に分けて記載する。それぞれの土坑の位置・規模・長軸方位は遺構一覧表にまとめた。土坑の時期はそれぞれの形態の特徴から推定したが、これらの土坑からの出土遺物は出土遺物一覧表(P.86)のように混入した土師器細片のみであり、時期を決定する情報がほとんどなかったものについては、時期不明とした。各土坑の位置や規模は一覧表(P.84)にまとめている。

①細長い土坑(第46・47図 PL.41・42)

34号、42号、54号、55号、56号、59号、60号、61号、72号、79号、80号、81号、82号、91号土坑の14基の土坑がこれにあたる。このうち55号、56号、59号、72号、79号、91号土坑は発掘区域の端部で検出されたため、全形を把握することはできなかったが、埋没土の特徴や断面形、幅の規模からして本類の土坑と判断した。

これらの土坑の平面形は細長い長方形で、箱形の断面形をした定型的な土坑である。規模は幅0.75～1.1m、長さ2.3～3.25m、最大残存深度0.60mの範囲におさまっている。埋没土はローム塊やローム粒を多く含む黒褐色土や暗褐色土で埋まっており、自然埋没ではなく、人為的にしかも穏やかに埋められたような堆積状況であることが特徴である。遺物は出土しなかった。

これらの土坑は、すべて4号溝の北東側に、長軸を溝に直交させる方向で掘られていることから、4号溝による地割を意識して掘られたものと考えられる。今回の調査で土坑の性格は明らかにできなかった。

②隅丸長方形の土坑(第48・49図 PL.42・43)

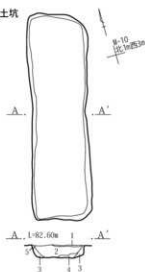
1号、2号、3号、4号、13号、14号、15号、16号、20号、21号、22号、47号、41号、49号、53号の15基の土坑がこれにあたる。このうち1号、2号土坑は発掘区域の端部で検出されたため、全形を把握することはできなかったが、埋没土の特徴や断面形、平面形の共通性からして本類の土坑と判断した。

これらの土坑の平面形は隅が丸い長方形で、浅い箱形の断面形をした定型的な土坑である。規模は幅1.0～1.6m、長さ1.5～2.8m、最大残存深度0.35mで、大きさにややばらつきがある。埋没土はローム粒やローム小塊を含む褐色土や黒褐色土で埋まっている。本類の土坑も自然埋没ではなく、人為的に埋められた可能性がある。出土遺物は、2号土坑から土師器環小破片1点、4号土坑から土師器環小破片1点、13号土坑から土師器破片1点、須恵器環小破片1点、41号土坑から土師器環小破片2点、53号土坑から土師器環小破片1点が出土しているが、いずれも混入である。

これらの土坑は、5号溝の東側に長軸方向、短軸方向のどちらかを合わせて集中する傾向があり、わずかに41号土坑がやや西側に、49号土坑が東側に離れて分布する。

第3章 検出された遺構と遺物

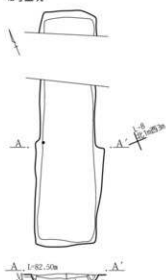
34号土坑



34号土坑SPA-A'

1. 黒色土(10YR2/1) 硬化。しまりあり。
2. 暗褐色土(10YR3/3) にふい黄褐色土を含む。灰白色軽石0.5~1mm多量。左側。しまりあり。
3. にふい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒多量。黒褐色土を含む。しまりあり。
4. にふい黄褐色土(10YR4/3) ローム大塊多量。2層の暗褐色土少量。しまりあり。
5. 黄褐色土(10YR6/4) 地山。

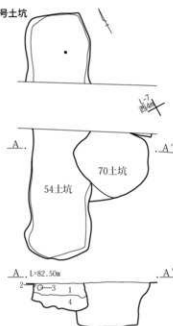
42号土坑



42号土坑SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3) 褐色土塊混入 やや砂質で粘性弱。灰褐色砂質土・黒褐色土・明黄褐色土小塊・黒色土粒・As-施設入。
2. 明黄褐色土(10YR6/6) ソフトローム。粘性弱。
3. 褐色土・明黄褐色土(10YR6/6) の塊混入 粘性弱。粗み。
4. 黒褐色土・暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。明黄褐色土塊多量入り。若干の黒色土粒混入。

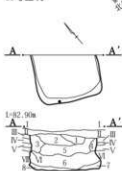
54号土坑



54・70号土坑SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR2/2) ローム大・小塊3%。炭化物小粒を含む。しまりあり。
2. 明黄褐色土(10YR5/4) 地山のローム。
3. 明黄褐色土(10YR6/2) ローム大塊。
4. にふい黄褐色土(10YR5/4) ローム大塊。小塊30%。1層の黒褐色土小塊を含む。人為的埋設土。しまり強い。粘性あり。
5. 明黄褐色土(10YR6/8) ローム大塊。しまりあり。硬化。

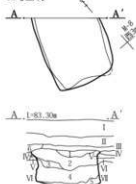
55号土坑



55号土坑SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR3/1) 褐色土層の暗褐色土を含む。硬化している。粘性ややあり。
2. にふい黄褐色土(10YR5/3) ローム小塊5%。ローム粒多量。硬化している。粘性ややあり。
3. にふい黄褐色土(10YR5/3) ローム大塊を含む。ローム小塊3%。しまりやや弱く、根攪乱あり。粘性強い。
4. にふい黄褐色土(10YR5/4) 暗褐色土少量含む。しまり・粘性ややあり。
5. にふい黄褐色土(10YR5/4) 1層の黒褐色土を均一に含む。しまり・粘性ややあり。
6. にふい黄褐色土(10YR5/4) ローム小塊20%多量。黒褐色土小塊を含む。しまり・粘性ややあり。
7. にふい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒多量。しまり・粘性ややあり。
8. 暗褐色土(10YR3/3) 黒褐色土小塊を含む。ローム粒多量。しまり・粘性ややあり。

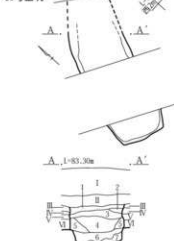
56号土坑



56号土坑SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を含む。砂質土。III層の土を含む。As-B少量含む。しまりあり。粘性弱い。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 砂質土。褐色土を含む。硬化。粘性弱い。
3. 黒褐色土(10YR2/1) しまりあり。粘性弱い。砂質土。
4. 黒褐色土(10YR2/2) ローム小塊を含む。しまり・粘性ややあり。
5. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒多い。壁面のローム塊の崩落あり。しまりややあり。粘性あり。
6. 暗褐色土(10YR3/4) 褐色土層に近い。ローム小塊を含む。褐色土層からの掘り込み。攪乱。

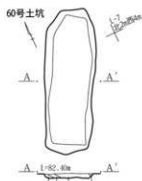
59号土坑



59号土坑SPA-A'

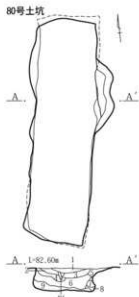
1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を含む。砂質土。III層の土を含む。As-B少量含む。しまりあり。粘性弱い。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 砂質土。褐色土を含む。硬化。粘性弱い。
3. 黒褐色土(10YR2/1) しまりあり。粘性弱い。砂質土。
4. 黒褐色土(10YR2/2) ローム小塊を含む。しまり・粘性ややあり。
5. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒多い。壁面のローム塊の崩落あり。しまりややあり。粘性あり。
6. 黄褐色土(10YR5/6) 主体 ローム塊多量。5層の黒褐色土小塊を含む。しまり弱い。粘性強い。

第46図 1区中近世の土坑(1)



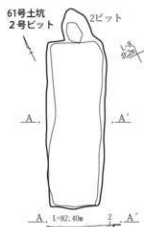
60号土坑SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を含む。しまりあり。粘質弱い。
2. ぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム小塊多量。しまりあり。粘質弱い。
3. ぶい黄褐色土(10YR5/4) や汚れた色。ローム小塊少量。しまりあり。粘質弱い。
4. 黄褐色土・ローム塊地山。しまりあり。粘質弱い。



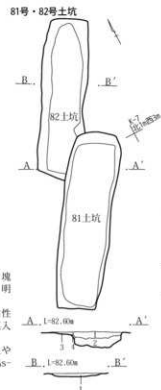
80号土坑SPA-A'

1. 灰褐色砂質土～暗褐色土(10YR3/3)塊混入。やや砂質で粘性弱。褐色土・明黄褐色土粒混入。
2. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。黒褐色土・褐色土～As-0kp混入の黄褐色土小塊混入。
3. 暗褐色土・褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。黒褐色土・明黄褐色土・As-0kp混入の黄褐色土小塊混入。
4. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土・明黄褐色土小塊混入。
5. 黒褐色土・暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土塊。明黄褐色土・As-0kp混入の黄褐色土粒混入。
6. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土・As-0kp混入の黄褐色土小塊。黒褐色土・暗褐色土塊混入。
7. 褐色土～As-0kp混入の黄褐色土塊混入。暗褐色土塊混入。
8. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土粒入る。
9. 暗褐色土～As-0kp混入の黄褐色土塊混入。



61号土坑SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒多く含む。ローム小塊少量。黒褐色土を含む。しまりあり。粘質弱い。
2. ぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒多量。しまりやや弱い。粘質あり。
3. ぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム大塊すじ状に含まれる。黒褐色土を含む。しまりやや弱い。



81・82号土坑SPA-A'

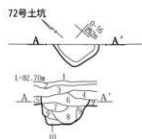
(81号土坑)

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム小塊3%。ローム粒を含む。炭化物を含む。しまりあり。粘質ややあり。粘質弱い。
2. ぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム大塊多量。黒褐色土3%。しまりやや弱い。粘質あり。人為的埋設土。(82号土坑)
3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒多量。しまりあり。粘質弱い。
4. 明黄褐色土(10YR6/6) しまりあり。粘質強い。

81・82号土坑SPA-B'

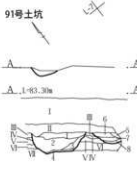
(82号土坑)

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム小塊。粒を多く含む。しまりややあり。粘質あり。

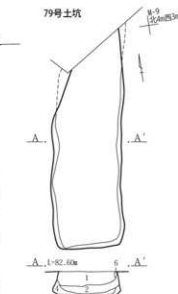


72号土坑SPA-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3) 表土。しまり弱く軟弱。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 明黄褐色土・ローム小塊多量。表土。しまり弱い。
3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を含む。ローム小塊少量。灰白色軽石0.15～1mm多く含む。しまりあり。
4. 黒褐色土(10YR3/1) 3層より粒・径やや大きい軽石を含む。ローム粒を含む。
5. ぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム漸移層。
6. 褐色土(10YR4/4) ローム小塊。粒5%。黒褐色土少量含む。しまり・粘質あり。
7. 褐色土(10YR4/4) ローム小塊10%。黒褐色土小塊多い。6層よりしまり弱い。粘質あり。
8. 黒褐色土(10YR2/1) ローム粒を含む。しまり弱い。粘質あり。
9. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・小塊少量。しまり弱い。粘質あり。
10. 黒褐色土(10YR3/2) 明黄褐色土・ローム大塊多量。しまり弱い。粘質あり。



91号土坑



79号土坑SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR3/2) 黒色土塊(2/1)を含む。ローム小塊少量。しまり・粘質あり。
2. ぶい黄褐色土(10YR5/3) ロームが縦状に互層となっている。ローム小塊少量。しまり弱い。粘質あり。
3. ぶい黄褐色土(10YR5/3) 黒色土を含む。ローム小塊を含む。しまり弱い。粘質あり。
4. ぶい黄褐色土(10YR5/2) 黒褐色土。ローム大塊5%。しまりやや弱い。粘質あり。
5. ぶい黄褐色土(10YR5/2) ローム粒多量。黒褐色土少量。ローム大塊10%。しまりやや弱い。粘質あり。
6. 明黄褐色土 ローム大塊。

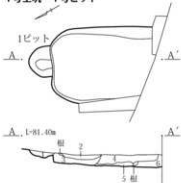
91号土坑・5号溝SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR3/2) As-Bを含む。炭化物少量。褐色土塊を含む。砂質土。硬化。粘質弱い。
2. 黒褐色土(10YR2/2) ローム小塊3%。As-Bを含む。ローム粒を含む。砂質土。粘質弱い。
3. 暗褐色土(10YR3/3) 2層の黒褐色土塊を含む。砂質土。しまり・粘質弱い。
4. ぶい黄褐色土(10YR4/3) 2層の黒褐色土を含む。しまり・粘質あり。(5号溝)
5. 黒褐色土(10YR2/2) As-Bを含む。褐色土を含む。砂質土。硬化。粘質弱い。
6. 黒褐色土(10YR3/2) As-Bを含む。砂質土。粘質弱い。硬化。
7. 暗褐色土(10YR3/3) As-B少量含む。しまり・粘質あり。
8. ぶい黄褐色土(10YR4/3) しまり・粘質あり。

0 1:60 2m

第47図 1区中近世の土坑(2)

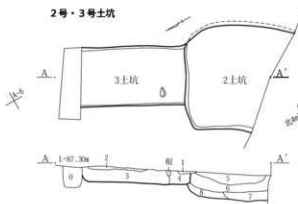
1号土坑・1号ピット



1号土坑SPA-A'

1. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土・明黄褐色土小塊混入。
2. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。明黄褐色土粘若干混入。
3. 黒色土(10YR1.7/1) やや砂質で粘性弱。暗褐色土〜明黄褐色土小塊混入。
4. 暗褐色土(10YR3/3) 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊若干混入。
5. 黒褐色土(7.5YR2/2) 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。小塊の混入。褐色土・明黄褐色土小塊混入。
6. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土〜明黄褐色土小塊やや多く混入。

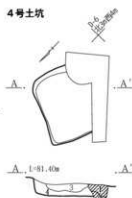
2号・3号土坑



2号・3号土坑SPA-A' (攪乱)

0. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。黒色土・明黄褐色土塊混入。(上位層)
1. 灰褐色砂質土 (2号土坑)
2. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。
3. 黒色土・褐色土(10YR4/4)塊混入。粘性ややあり。褐色土・明黄褐色土塊混入し、僅かに炭化物含む。
4. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。若干の黒色土・明黄褐色土小塊混入。(3号土坑)
5. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土塊、明黄褐色土小塊、若干の黒色土塊混入。
6. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。黒色土・明黄褐色土・As-0kp混入の黄褐色土塊混入。
7. 暗褐色土・褐色土(10YR4/4)塊混入。粘性ややあり。若干の黒色土・明黄褐色土粘混入。
8. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。黒色土・褐色土・明黄褐色土・As-0kp混入の黄褐色土塊混入。

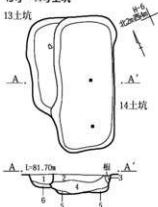
4号土坑



4号土坑SPA-A'

1. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土・As-0kp混入の黄褐色土上中・小塊混入。
2. 黒褐色土(7.5YR2/2) As-C混入。粘性やや弱。暗褐色土〜明黄褐色土・黒色土小塊若干混入。
3. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土・黒色土中塊混入。(地山)
4. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。黒色土・褐色土・明黄褐色土中塊混入。

13号・14号土坑



13・14号土坑SPA-A' (13号土坑)

1. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。黒色土・暗褐色土混入。(14号土坑)
2. 黒色土・暗褐色土・褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。小塊の混入。
3. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土・As-0kp混入の黄褐色土小塊多く混入。
4. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土塊、黒色土・明黄褐色土・As-0kp混入の黄褐色土小塊混入。
5. 黒色土・明黄褐色土(10YR6/6)塊混入。粘性弱。暗褐色土・褐色土混入。

15号・16号土坑



15・16号土坑SPA-A' (15号土坑)

1. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土塊・若干の黒色土小塊混入。
2. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。黒色土・暗褐色土・明黄褐色土小塊混入。
3. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。下位中心に褐色土・明黄褐色土小塊と若干の黒色土小塊混入。
4. 暗褐色土・褐色土・明黄褐色土(10YR6/6)塊混入粘性弱。
5. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。下位に明黄褐色土入る。地山か。
6. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土・明黄褐色土(10YR6/6)小塊若干混入。
7. 褐色土・明黄褐色土(10YR6/6)塊混入。粘性弱暗褐色土塊と若干の黒色土小塊混入。

20号・21号土坑



20・21号土坑SPA-A'

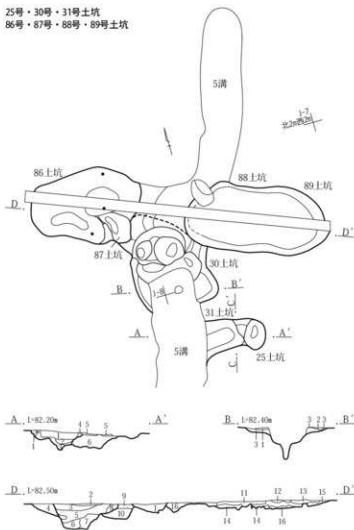
1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム小塊少量。ローム粒を含む。
2. にぶい黄褐色土 ローム大塊。ローム粒多量。黄褐色土を含む。
- 1・2層ともにしりり弱い。粘質あり。底面には根痕が多く見られる。
3. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム小塊。ローム粒多量。黒色土塊を含む。しりりあり。
4. オリーブ褐色土(2.5Y4/3) 黄褐色土塊大塊を含む。しりりややあり。粘質あり。
5. 黄褐色土(2.5Y5/4) 4層のオリーブ褐色土を含む。

0 1:60 2m

第48図 1区中近世の土坑(3)

また1号～4号土坑は1区南端に偏在するが、長軸方向を揃えていることは同様である。したがって本類の土坑も4号溝・5号溝による地割に規制されて掘られた土坑と推定されるが、今回の調査で土坑の性格は明らかにできなかった。

25号・30号・31号土坑
86号・87号・88号・89号土坑



5号溝・30号土坑・25号土坑・31号土坑SPA-A'
(5号溝)

1. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。黒色土・褐色土・明黄褐色土小塊混入。
(30号土坑)
2. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。黒色土・褐色土小塊混入。
3. 明黄褐色土(10YR6/6) ソフトローム。粘性弱。黒色土・褐色土塊混入。しまり欠。
(31号土坑)
4. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土・明黄褐色土若干入る。
5. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土・明黄褐色土若干入る。
6. 明黄褐色土(10YR6/6) ソフトローム。粘性弱。褐色土塊・若干の暗褐色土小塊混入。

③溝の接点に集中する土坑(第49・50図 PL.43・44)

1区の方形区画溝4号溝の南西側に平行し、南東側で5号溝に直行する位置で、不定型な細長い土坑が連続して検出された。これらは区画溝と関連する方向・位置にあることから、地割に即した何らかの構造物の痕跡と推定される。

30号土坑SPB-B'

1. 灰褐色砂質土 明黄褐色土小塊混入。
2. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。僅かな明黄褐色土小塊混入。
3. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土(10YR3/3)・明黄褐色土・As-0kp混入の黄褐色土塊僅かに混入。

86・87・88・89号土坑SPD-B'

(88号土坑)

1. 褐色土(10YR4/4)暗褐色土塊混入 粘性ややあり。褐色土と若干の黒色土粒混入。
(86号土坑)
2. 褐色土・明黄褐色土・層土 黒褐色土・暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。混入。
3. 黒褐色土・暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土・明黄褐色土と若干の明黄褐色土・黒色土小塊混入。
4. 黒色土(10YR1.7/1) やや砂質で粘性弱。暗褐色土・褐色土入る。
5. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土・As-0kp混入の黄褐色土入る塊の混入 若干の黒色土小塊入る。
6. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。に明黄褐色土・As-0kp混入の黄褐色土大塊混入。
7. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土・明黄褐色土入る。
(87号土坑)
8. As-0kp混入の黄褐色土 暗褐色土・明黄褐色土(10YR6/6)小塊混入。粘性弱。
9. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土(10YR3/3)塊と明黄褐色土・As-0kp混入の黄褐色土小塊混入。
10. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質で粘性弱。黒色土・褐色土・As-0kp混入の黄褐色土塊混入。
(地山)

①明黄褐色土(10YR6/6) ソフトローム。粘性弱。暗褐色土・褐色土と若干の黒色土小塊混入。

(89号土坑)

11. 暗褐色土・褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。黒褐色土と若干の明黄褐色土粒混入。
12. 黒褐色土(7.5YR2/2) As-C混入。粘性やや弱。暗褐色土・褐色土塊と明黄褐色土小塊混入。
13. 黒褐色土・褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。若干の黒色土混入し、As-C多く入る。
14. 明黄褐色土(10YR6/6)に若干の暗褐色土・褐色土混入。粘性弱。
15. 暗褐色土・褐色土(10YR4/4) 粘性ややあり。若干の明黄褐色土小塊混入。
(地山?)
16. 褐色土(10YR4/4)明黄褐色土塊混入 粘性ややあり。黒色土・暗褐色土小塊混入。

0 1:60 2m

第50図 1区中近世の土坑(5)

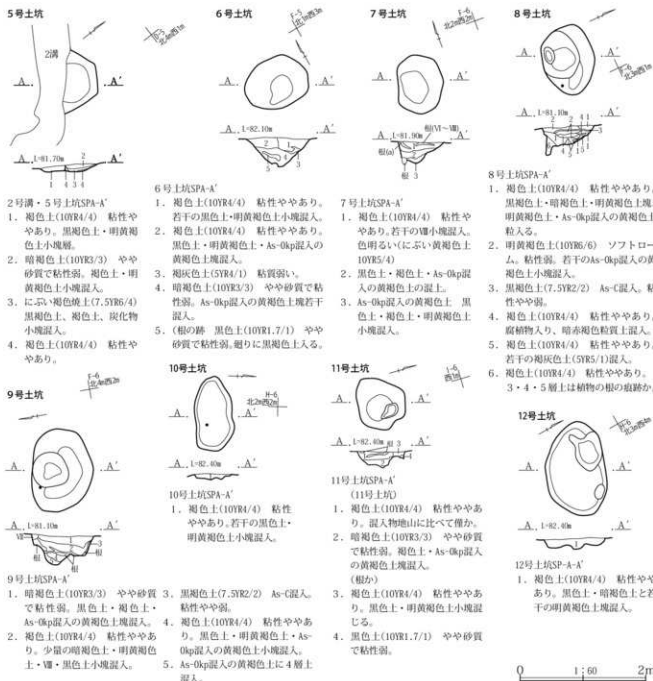
4号溝に平行するのは、63号、68号、83号～85号土坑で、直交する94号土坑も重複して検出された(第49図)。5号溝に交差する一群は25号、30号、31号、86号～89号土坑である(第50図)。これらの土坑群には細長い楕円形の土坑と、ピット状の土坑が混在して全体として一連の線状に並ぶような分布を示している。後述する74号・75号土坑もやや北西に離れるが、一連の掘り込みの可能性もある。

いずれの土坑の埋没土ローム塊やローム粒を含む暗褐色土

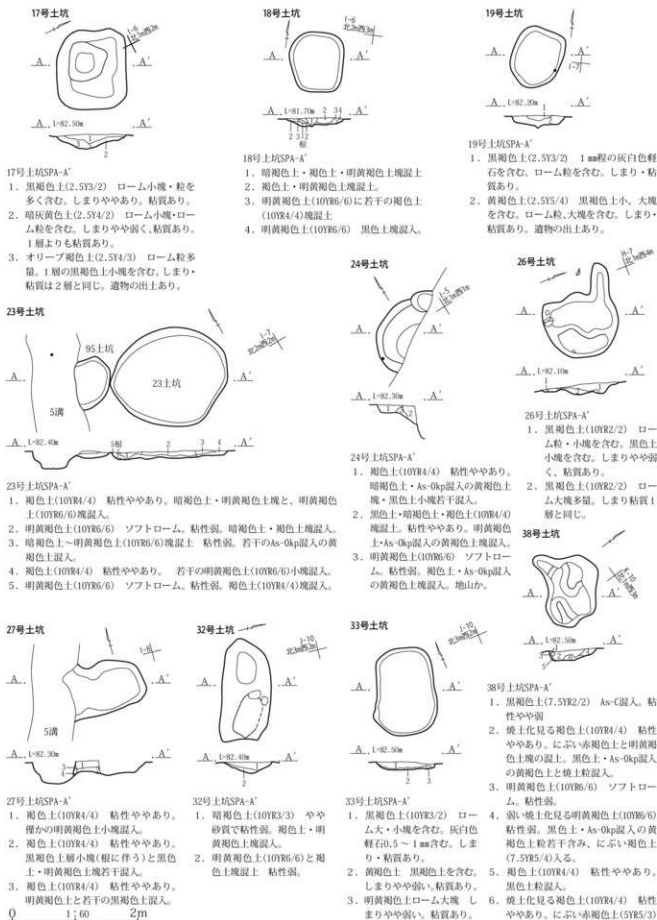
色土や黒色土塊を含む褐色土で埋まっており、溝との重複関係は5号溝の方が新しい。4号溝との関係は明らかに不明である。したがって、4号溝・5号溝の地割にやや先行する土坑群の可能性があろう。

④その他の不定型土坑(第51～54図 PL.46～50)

その他の44基の土坑は、埋没土の特徴は中世以降と推定されるものの、出土遺物、形状などから時期や性格を判断する情報が乏しいことから、時期不明として報告する。

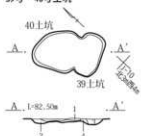


第51図 1区時期不明の土坑(1)



第52図 1区時期不明の土坑(2)

39号・40号土坑



40・39号土坑SPA-A'

1. 褐色土(10YR4/4) 黒褐色土に
ぶい黄褐色土を含む。ローム塊・
粒を含む。しまり・粘質あり。
2. 黄褐色土 ローム多量。しまり・
粘質あり。(39号土坑)
3. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 黒褐
色土少量含む。しまり・粘質あり。
4. 黄褐色土(10YR5/6) 黒褐色土少
量。ややしまりあり。粘質あり。

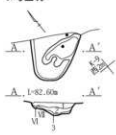
57号土坑



57号土坑SPA-A'

1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 灰
白色軽石径1mmを含む。明黄
褐色土小塊10%含む。黒褐色
土小塊を含む。
2. にぶい黄褐色土・明黄褐色土
大塊を含む。主体。1・2層
ともしまり・粘質あり。

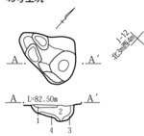
67号土坑



67号土坑SPA-A'

1. 褐色土(10YR4/4) 粘性やや
あり。黒褐色土・暗褐色土・
明黄褐色土の小塊混入。
2. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂
質で粘性弱。褐色土・明黄
褐色土・黒色土小塊混入。
3. 明黄褐色土(10YR6/6) ソフト
ローム。粘性弱。褐色土と
若干の黒色土粒混入。

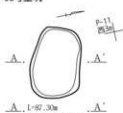
43号土坑



43号土坑SPA-A'

1. 褐色土(10YR4/4) 粘性や
やあり。黒色土・明黄褐色
土粒混入。
2. 褐色土(10YR4/4) 粘性や
やあり。黒色土・暗褐色土
塊混入。
3. 褐色土(10YR4/4) 明黄褐色
土塊混入 粘性ややあり。
4. 明黄褐色土(10YR6/6) ソフ
トローム。粘性弱。黒色
土混入。

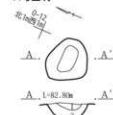
58号土坑



58号土坑SPA-A'

1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 黄
褐色ローム小塊を含む。しま
り2層より弱い。粘質上。
2. 明黄褐色土(10YR6/3) にぶ
い黄褐色土(10YR5/3)を含む。
しまり・粘質あり。

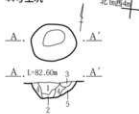
71号土坑



71号土坑SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色
軽石径1mm少量含む。ローム
小塊・粒を少量含む。しまり・
粘質あり。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム
小塊・大塊5%含む。ローム
粒多い。1層よりしまり弱い。
粘質あり。

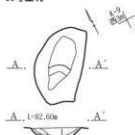
44号土坑



44号土坑SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム小塊。
粒を多く含む。しまり・粘質あり。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム
粒多量。小塊は3%。しまり・
粘質多量。
3. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム
粒を含む。しまり・粘質あり。
4. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 黒褐
色土を含む。しまり・粘質あり。
5. 黄褐色土(10YR5/6) ローム大塊
を含む。にぶい黄褐色土を含む。
しまり・粘質あり。

66号土坑



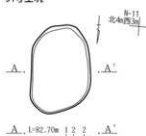
66号土坑SPA-A'

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・
小塊多量。灰白色軽石。As-B多
量。硬化。粘質あり。
2. 黒褐色土(10YR3/2) にぶい黄
褐色土を含むAs-B少量。ややし
まる。粘質あり。
3. 2層とほぼ同じ黒褐色土。ローム
大塊を含む。ややしまる。粘
質あり。
4. 明黄褐色土(10YR6/6) 黒褐色
土少量。ロームを含む。ややし
まる。粘質あり。

75号土坑SPA-A'

1. 黒褐色土・暗褐色土(10YR3/3)
塊混入 やや砂質で粘性弱。
褐色土と若干の明黄褐色土小塊
混入。
2. 黒色土・褐色土・明黄褐色土小
塊混入 As-0kp混入の黄褐色土
若干混入。
3. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質
で粘性弱。黒褐色土・褐色土・
明黄褐色土・黒色土混入。
4. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあ
り。黒色土・明黄褐色土混入。
5. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあ
り。明黄褐色土・黒・黒色土
混入。

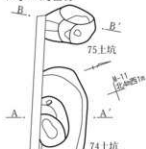
51号土坑



51号土坑SPA-A'

1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) し
まりあり。硬化する。0.5~
1mmの灰白色軽石を少量含
む。粘質ややあり。明黄褐色
土(10YR6/6)小塊を含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム
粒を含む。しまりややあり。
根腐混入を含む。

74号・75号土坑



74号土坑SPA-A'

1. 黒褐色土・明黄褐色土・黒色
土(10YR1.7/1) やや砂質で
粘性弱。塊の混入。
2. 黒色土・褐色土(10YR4/4)
粘性ややあり。明黄褐色土
塊と若干のAs-0kp混入の黄褐
色土混入。
3. 黒褐色土・褐色土(10YR4/4)
塊混入 粘性ややあり。明
黄褐色土小塊混入。
4. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあ
り。黒色土・明黄褐色土・
As-0kp混入の黄褐色土塊
混入。
5. 明黄褐色土(10YR6/6) ソフト
ローム。粘性弱。黒色土・
褐色土小塊混入。

74号土坑SPA-A'

1. 黒褐色土・明黄褐色土・黒色
土(10YR1.7/1) やや砂質で
粘性弱。塊の混入。
2. 黒色土・褐色土(10YR4/4)
粘性ややあり。明黄褐色土
塊と若干のAs-0kp混入の黄褐
色土混入。
3. 黒褐色土・褐色土(10YR4/4)
塊混入 粘性ややあり。明
黄褐色土小塊混入。
4. 褐色土(10YR4/4) 粘性ややあ
り。黒色土・明黄褐色土・
As-0kp混入の黄褐色土塊
混入。
5. 明黄褐色土(10YR6/6) ソフト
ローム。粘性弱。黒色土・
褐色土小塊混入。

0 1:60 2m

第53図 1区時期不明の土坑(3)

第3章 検出された遺構と遺物

73号土坑



73号土坑SPA-A'

1. ぶい黄褐色土 (10YR5/3) 黄褐色ローム小塊を含む。しまり2層より弱い。粘質土。
2. 明黄褐色土 (10YR6/6) ぶい黄褐色土 (10YR5/3) を含む。しまり・粘質あり。

76号・77号土坑



76号・77号土坑SPA-A'

1. 暗褐色土・褐色土 (10YR4/4) 中塊混土 粘性ややあり。明黄褐色土下位に混入。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土・明黄褐色土と塊と若干のAs-Okp混入の黄褐色土混入。
3. 明黄褐色土 (10YR6/6) ソフトローム。粘性弱。褐色土塊混入。
4. 暗褐色土・明黄褐色土 (10YR6/6) 塊混土 粘性弱。
5. 褐色土 (10YR4/4) 暗褐色土・明黄褐色土塊混土 粘性ややあり。
6. 褐色土 (10YR4/4) 粘性ややあり。黒色土・暗褐色土・明黄褐色土塊混入。
7. 暗褐色土・褐色土 (10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土 (10YR6/6) 混入。

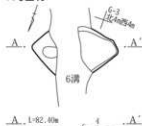
78号土坑



78号土坑SPA-A'

1. ぶい黄褐色土 (10YR5/4) 黒褐色土塊を含む。
2. 黄褐色土 (10YR5/6) 黒褐色土少量。ローム粒多量。

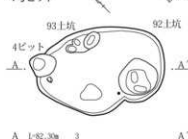
96号土坑



96号土坑SPA-A'

1. 暗褐色土 (10YR3/3) やや砂質で粘性弱。黒褐色土・褐色土混入。
2. 黒色土・暗褐色土・褐色土 (10YR4/4) の塊混土 粘性ややあり。黒色土・A'-2・3層の中間。
3. 褐色土 (10YR4/4) 粘性ややあり。明黄褐色土塊の混入 (96号土坑)。
4. 暗褐色土 (10YR3/3) やや砂質で粘性弱。黒褐色土と若干の明黄褐色土塊混入。
5. 褐色土 (10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土・明黄褐色土塊混入。

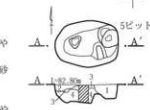
92号・93号土坑 4号ビット



92・93号土坑・4 P SPA-A'

1. 暗褐色土・褐色土 (10YR4/4) 粘性ややあり。若干の黒褐色土塊混入。
2. 黒褐色土・暗褐色土 (10YR3/3) やや砂質で粘性弱。若干の黒褐色土混入 (95号土坑)。
3. 暗褐色土 (10YR3/3) 褐色土塊混土 やや砂質で粘性弱。
4. 暗褐色土・褐色土 (10YR4/4) 粘性ややあり。黒褐色土・明黄褐色土小塊混入。
5. 暗褐色土・褐色土 (10YR4/4) 塊混土 粘性ややあり。少量の黒褐色土粒入る。
6. 褐色土・明黄褐色土 (10YR6/6) 塊混土 粘性弱。
7. 暗褐色土・褐色土 (10YR4/4) 塊混土 粘性ややあり。黒褐色土・褐色土塊の混入。As-C入る。
8. 褐色土・明黄褐色土 (10YR6/6) 塊混土 粘性弱。若干の黒褐色土・暗褐色土入る。

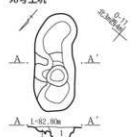
101号土坑・5号ビット



101号土坑・P5SPA-A'

1. 暗褐色土・褐色土 (10YR4/4) 塊の混土 粘性ややあり。明黄褐色土・As-Okp混入の黄褐色土塊混入。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土と若干の褐色土小塊混入。
3. 褐色土 (10YR4/4) 粘性ややあり。黒色土・暗褐色土小塊混入。
4. 明黄褐色土 (10YR6/6) ソフトローム。粘性弱。褐色土塊と若干の暗褐色土小塊混入。

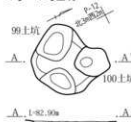
98号土坑



98号土坑SPA-A'

1. 黒褐色土・暗褐色土 (10YR3/3) やや砂質で粘性弱。塊の混土 若干のAs-Cと黒色土・褐色土・明黄褐色土小塊混入。
2. 暗褐色土・褐色土 (10YR4/4) 粘性ややあり。小塊の混土 明黄褐色土小塊混入。

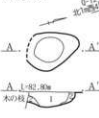
99号・100号土坑



99・100号土坑SPA-A'

1. 褐色土 (10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土小塊混入。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) やや砂質で粘性弱。褐色土小塊、下層に明黄褐色土小塊若干混入。
3. 暗褐色土 (10YR3/3) やや砂質で粘性弱。若干の褐色土・明黄褐色土粒入る。
4. 暗褐色土・明黄褐色土 (10YR6/6) の小塊の混土。粘性弱。
5. 褐色土 (10YR4/4) 粘性ややあり。暗褐色土・明黄褐色土小塊混入。
6. 暗褐色土 (10YR3/3) やや砂質で粘性弱。黒色土・褐色土・明黄褐色土小塊混入。

106号土坑



106号土坑SPA-A'

1. 暗褐色土 (10YR3/3) やや砂質で粘性弱。黒色土塊を含む。
2. 明黄褐色土 (10YR6/6) ソフトローム。粘性弱。塊の粒子径が2・3cmと小径。黒色土が塊状に含まれる。

108号土坑



108号土坑SPA-A'

1. 暗褐色土 (10YR3/3) やや砂質で粘性弱。黒色土塊を含む。
2. 明黄褐色土 (10YR6/6) ソフトローム。粘性弱。塊の粒子径が2・3cmと小径。黒色土が塊状に含まれる。

0 1:60 2m

第54図 1区時期不明の土坑(4)

これらの土坑のなかには、断面がすり鉢状で黒色土と褐色土の互層で埋まっている土坑や、隅丸方形で断面皿状の土坑、底面に凹凸が多い不整形な土坑などがある。いずれも不定形である。出土遺物は、6号土坑から土師器裏小破片1点と古代から中世と考えられる在来系土器皿小破片1点、9号土坑から土師器裏小破片3点、17号土坑から須恵器蓋小破片1点が出土した9号土坑の皿破片以外は混入であろう。9号土坑の皿破片も土坑の時期を確定できるような出土状態ではなかった。

(5) ビット

中西原遺跡では1区で5基のビットが検出されたが、いずれも埋没土の特徴から中世以降の時期と考えられる。他の遺構と重複して単独で検出されていることから、建物の柱穴ではないと考えられる。各ビットの平面図は重複遺構の平面図に併載した。また、各ビットの位置や規模は遺構一覧表(P.82)にまとめた。

1号ビットは1号土坑と重複して検出された(第48図)。埋没土の観察から1号土坑より新しい。遺物は出土しなかった。

2号ビットは61号土坑と重複して検出された(第47図)。新旧関係は不明である。遺物は出土しなかった。

3号ビットは63号土坑と重複して検出された(第49図)。埋没土の観察から63号土坑より古い。遺物は出土しなかった。

4号ビットは92号土坑と重複して検出された(第54図)。埋没土の観察から92号土坑より新しい。遺物は出土しなかった。

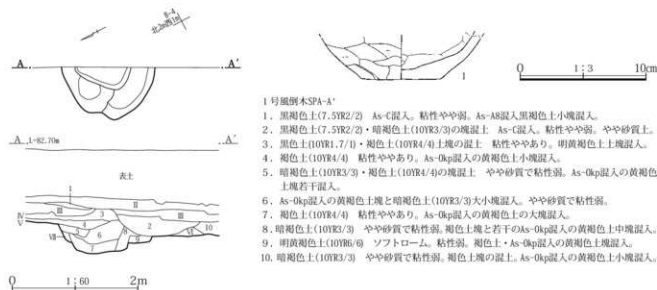
5号ビットは101号土坑と重複して検出された(第54図)。埋没土の観察から101号土坑より新しい。遺物は出土しなかった。

(6) 倒木痕(第55図)

1区南端B-5Gで、倒木痕1基を検出した。長軸0.84m以上、短軸1.47m、深さ0.41mである。遺物は出土しなかった。縄文時代以降の倒木痕跡と推定されるが、その時期を確定することはできなかった。

(7) 遺構外の出土遺物(第55図 PL.60 遺物観察表P.95)

中西原遺跡では、遺物出土数一覧表(P.84)に示したように遺構に伴わない形で平安時代以降の遺物が出土した。前述したように中世以降と考えられる土坑や溝・井戸からの土師器・須恵器等が出土しているが、いずれも図化が困難な小破片であった。ここでは、1区の遺構確認時に出土した土師器裏(第55図1)を掲載した。古墳時代の遺物とみられる。発掘区内では古墳時代の遺構は見つからなかったが、周辺に古墳時代の遺構の存在が想定される。



第55図 1区倒木痕と遺構外の出土遺物

第4章 自然科学的分析報告

1. 分析の目的と成果

中西原遺跡1区3号住居の床面直上埋没土(14層)には比較的多くの炭化材の破片と推定される塊状の炭化物が混在していた。竪穴住居の上屋構造を復元できるような残存状況でなかったが、焼失住居と推定された。住居床面近くには住居部材や炭化種実等が残されており、材の樹種や種実の種類を同定する情報が残されている可能性が高いと思われた。

一方、3号住居南東隅の床面直上で、本住居内で使われた可能性が高い諸磯c式の完形の深鉢が出土した。編年上良好な資料となることが期待できる土器であったことから、土器表面の炭化物の放射性炭素年代測定が期待されたが、試料採取には至らなかった。そこで、床面直上層から出土した炭化材と土砂について、洗浄、炭化種実・炭化材の抽出、種実・炭化材の種同定、炭化材の放射性炭素年代測定を株式会社バレーラボに委託して実施することとした。

今回の調査の結果、試料土砂から抽出された炭化種実はごく微量であったが、クリと同定できた破片があった。炭化材は抽出できた試料すべてがクリであった。そのうち1点の放射性炭素年代(校正暦年代範囲)は、3757-3743calBC(2.0%)および3714-3644calBC(93.4%)であった。これは小林(2008)による縄文土器編年と暦年代との対応関係を参照すると、諸磯c式土器の範疇に含まれ、3号住居から出土した土器と整合した。

2. 中西原遺跡1区3号住居から出土した炭化種実

(1)はじめに

中西原遺跡は群馬県伊勢崎市西小保方町に所在する、旧石器時代と縄文時代、古墳時代、中・近世の複合遺跡である。縄文時代では竪穴住居跡5棟などが検出された。ここでは、住居跡から得られた炭化種実の同定を行ない、当時の利用種実について検討した。なお、同試料を用いて炭化材の樹種同定も行なわれている(炭化材樹種同定の項参照)。

(2)試料と方法

試料は、1区3号住居の床面直上に堆積した14層から採取された、炭化物サンプル17試料である。炭化物サンプルは、土壌ごと塊で取り上げられた。住居跡の時期は、出土土器型式から判断して、縄文時代前期後葉の諸磯c式期に相当すると考えられている。

土壌の水洗は、最小0.5mm目の篩を用いて行った。水洗量は第2表を参照されたい。炭化種実の抽出および同定は、実体顕微鏡下で行った。試料および残渣は群馬県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

(3)結果

同定の結果、木本植物で広葉樹のクリ?炭化子葉の1分類群が見いだされた。この他に科以下の同定ができなかった

第2表 中西原遺跡から出土した炭化種実(括弧は破片を示す)

	試料No.	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8
分類群	水洗量(g)	80	45	320	65	75	40	325	955
クリ?	炭化子葉					(1)			
不明A	炭化種実	1						(1)	1
同定不能	炭化種実		(1)	(1)	(1)	(10)			
子食所	炭化子食							2	
出えい						1		1 (2)	

	試料No.	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13	No.14	No.15	No.16	No.17
分類群	水洗量(g)	555	470	95	820	830	290	285	265	270
不明B	炭化種実						1			
同定不能	炭化種実			(12)	(1)	(6)			(1)	
子食所	炭化子食				1	2				
出えい					1 (2)	(1)		(1)	(3)	

ものを不明として、AとBにタイプ分けを行った。また、科以下の識別点を欠く一群を同定不能炭化種実とした。種実以外では炭化材、炭化した子囊菌と虫えいが得られた。炭化材以外の産出数を第2表に示す。飼料の中には、炭化材以外のものが含まれない資料が17試料中4資料あった。

検討した17試料からは、クリ?炭化子葉の破片が1点と、不明A炭化種実の完形が2点と破片が1点、不明B炭化種実の完形が1点、同定不能炭化種実の破片が33点、子囊菌の完形が5点、虫えいの完形が3点と破片が9点得られた。

以下に、炭化種実などの記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。

1) クリ? *Castanea crenata* Sieb. et Zucc.? 炭化子葉 ブナ科

破片であるが、完形ならば側面は広卵形。本来、表面全体に縦方向のしわ状の溝があるが、表面部分は残存しておらず、不明である。やや柔らかい。不整形に割れ、空隙やゆるやかな窪みがあり、割れ方からクリの可能性があると判断した。残存長5.0mm、残存幅4.9mm。

2) 不明A Unknown A 炭化種実

上面観は楕円形、側面観は円形〜楕円形。硬質で、表面全体に鈍稜のちりめん状の皺がある。着点の可能性のある円形の痕跡がある。長さ1.9mm、幅1.6mm。

3) 不明B Unknown B 炭化種実

上面観・側面観ともに楕円形。一部欠損しているが、腹面全体は平坦。腹面の下端部に全長の2/3以上を占める、大きな胚とみられるものがある。背面には縦方向の鈍い稜線がある。イネ科の可能性はある。長さ1.6mm、幅1.8mm。

4) 子囊菌 *Ascomycotetes* 炭化子囊

球形で、表面は平滑。径0.8mm。

5) 虫えい Gall

上面観は円形で、側面観は中央部が窪む楕円形。表面は粗い。直径0.7mm、厚さ1.9mm。

(4) 考察

縄文時代前期後葉の住居の床面から炭化物を多く含む塊として取り上げられた17試料を検討したところ、同定可能な種実はクリ?炭化子葉のみであった。産出したのはごく小さな破片であり、表面部分の残存が悪く確実な同定には至らなかったが、割れ方などの形状から考えると、クリの可能性はある。クリ?炭化子葉は住居焼失時に炭化したか、出土位置が炉の周辺であるため、調理時などに偶発的に炭化したと推定される。同層から出土した炭化材の樹種はクリのみであり(炭化材樹種同定の項参照)、中西原遺跡では縄文時代前期後葉にクリを選択的に利用していたと考えられる。なお、子囊菌や虫えいは炭化材に伴って住居に持ち込まれた可能性がある。

炭化種実の残存状況は悪く、同定された種実は少なかったが、同定不能の炭化種実まで含めると水洗した土壌量の割には種実の含有量は高かった。今後、炭化物を多く含む遺構内覆土でより多くの土壌を水洗すれば、当時の利用種実がより明らかになると期待される。

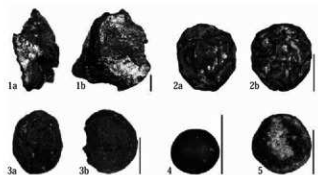


写真1 中西原遺跡から出土した炭化種実

スケール 1-5:1mm

1. クリ?炭化子葉(No.5)、2. 不明A炭化種実(No.1)、3. 不明B炭化種実(No.14)、
4. 子囊菌炭化子囊(No.7)、5. 虫えい(No.12)

3. 中西原遺跡 1区 3号住居出土炭化材の樹種同定

(1)はじめに

中西原遺跡は伊勢崎市西小保町に所在する、旧石器時代と縄文時代、古墳時代、中近世の複合遺跡である。1区では縄文時代前期後葉の3号住居が検出され、床面付近では面的に広がった微細な炭化材が出土した。ここでは、これらの微細な炭化材の樹種同定を行った。また試料の一部を用いて、放射性炭素年代測定も行なわれている(放射性炭素年代測定の項参照)。

(2)試料と方法

試料は、諸磯c式期(縄文時代前期後葉)の竪穴住居跡である3号住居の床面付近に広がっていた、炭化物を含む土壌から得られた炭化材17試料である。炭化材は、炭化種実の抽出の際に、肉眼観察により採取された(炭化種実同定の項参照)。各試料には多数の炭化材が含まれ、得られた試料の中から1mm角以上の大きさの試料を実体顕微鏡で観察して分類し、重量を計測後、走査型電子顕微鏡での観察を行なった。なお今回の試料は、最大でも1mm角程度の破片であった。

炭化材の樹種同定は、試料をまず乾燥させ、材の横断面(木口)、接線断面(板目)、放射断面(柃目)についてカミソリと手で割断面を作製し、カーボンテープで試料台に固定した。その後イオンスパッタにて金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡(KEYENCE社製 VE-9800)にて検鏡および写真撮影を行った。なお、同定試料の残りは群馬県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

(3)結果

同定の結果、いずれの試料からも広葉樹のクリのみが産出した。試料No. 1～12, 16の13試料は、得られた炭化材の半数以上の重量について同定が行えたが、試料No. 13～15, 17の4試料は1mm角の大きさの試料が少なく、同定が行えた試料は、得られた炭化材の半数以下であった。同定結果を第3表に示す。

次に、同定された材の特徴を記載し、図版に走査型電子顕微鏡写真と、年代測定試料の実体顕微鏡写真を示す。

第3表 中西原遺跡出土炭化材の樹種同定結果一覧表

試料No.	出土遺構	層位	遺物No.	樹種	同定試料の重量(g)	未同定試料の重量(g)
1	3号住居	14層	1	クリ	3.39	1.50
2			2	クリ	0.56	-
3			3	クリ	10.73	9.39
4			4	クリ	0.38	-
5			5	クリ	0.05	-
6			6	クリ	0.01	-
7			7	クリ	6.07	3.46
8			8	クリ	0.25	-
9			9	クリ	7.02	6.19
10			10	クリ	7.63	3.87
11			11	クリ	1.42	0.35
12			12	クリ	0.06	-
13			13	クリ	1.39	3.18
14			14	クリ	0.65	0.86
15			15	クリ	15.02	17.73
16			16	クリ	3.40	2.76
17			17	クリ	1.46	1.61

1) クリ *Castanea crenata* Siebold, et Zucc. ブナ科 写真2 1a-1c(No.1)、2a-2c(No.3)、3a(No.7)、4a(No.11)

年輪のはじめに大型の道管が1～3列並び、晩材部では径を徐々に減じた道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔孔を有する。放射組織は同性で単列となる。

クリは北海道の石狩、日高以南の温帯から暖帯にかけての山林に分布する落葉中高木の広葉樹である。材は重硬で耐朽性が高い。

(4) 考察

縄文時代前期後葉の1区3号住居から産出した炭化材のうち、確認できた試料はいずれもクリであった。これらの材は、建築材や燃料材であった可能性が考えられるが、いずれも微細な炭化材であり、材の用途は確認できなかった。床面付近における分布が広範囲であったという産出状況を考慮すると、材の用途は建築材であった可能性がある。樹種はいずれもクリであり、この住居跡の建築材には、クリ材が多く利用されていた可能性がある。

クリは重硬で水湿などに強く耐朽性があり、放射方向に割り易いという材質を持ち、丸木状ではもちろん、割材状に加工して利用しやすい種である。今回の試料からは加工痕や材の木取りなどは確認できなかったが、1区3号住居では、材質を考慮してクリを建築材に選択していた可能性がある。

関東地方では、縄文時代の前期から後期を通して、クリが住居跡の建築材に多く利用されている(千野, 1991)。山田(1993)によると、群馬県内の縄文時代前期の遺跡の例では、長野原町の暮坪遺跡で縄文時代前期前半の住居跡S101からクリとケヤキが各1点産出している。一方、渋川市の行幸田山遺跡で縄文時代中期の住居跡内出土炭化材からクリが13点、ケンボナシが1点産出している(山田, 1993)。

また距離は離れるが、長野原町の長野原一本松遺跡の縄文時代後期の住居跡5区60号住居跡では61点中60点がクリで、1点がタケ亜科であった(植田, 2008)。このように、群馬県内でも縄文時代の中期や後期には建築材にクリを多く利用する傾向がみられる。今回の試料では、中西原遺跡の1区3号住居の材が周辺植生から得られたかどうか判断が出来なかった。しかし埼玉県の大宮台地や青森県の青森平野では、縄文時代前期から後期の集落において人為的な植生改変が行われて、クリ林が管理されていたことが示唆されており(鈴木, 2002, Noshiro, and Suzuki, 2006)、中西原遺跡の周辺でもクリが多く生育していた可能性が考えられる。

引用文献

- 千野裕道(1991)縄文時代に二次林はあったか-遺跡出土の植物性遺物からの検討-, 東京都埋蔵文化財センター研究論集, X, 215-249.
- Noshiro, S., Suzuki, M. (2006) Utilization of forest resources in the early Jomon period at and around the Sannai-maruyama site in Aomori Prefecture, northern Japan. 辻 誠一郎・能城修一編「植生史研究 特別第2号」: 83-100, 日本植生史学会.
- 鈴木三男(2002)日本人と木の文化. 255p, 八坂書房.
- 植田弥生(2008)長野原一本松遺跡住居跡出土炭化材の樹種同定. 群馬県埋蔵文化財調査事業団編「長野原一本松遺跡 (4)」: 269-275. 群馬県埋蔵文化財調査事業団.
- 山田昌久(1993)日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成-用材から見た人間・植物関係史. 242p, 植生史研究 特別第1号.

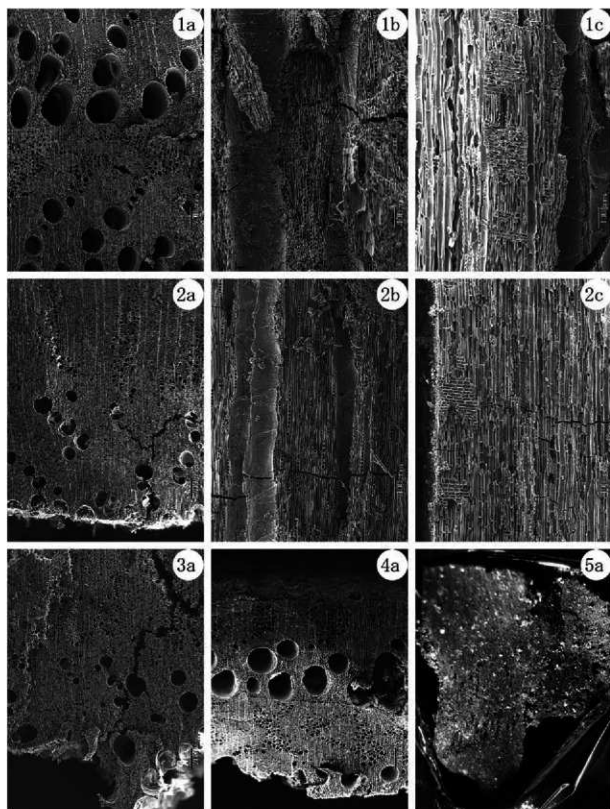


写真2 中西原遺跡1区3号住居炭化材の走査型電子顕微鏡写真・年代測定試料の实体顕微鏡写真

1a-1c, ㊦(No.1)、2a-2c, ㊦(No.3)、3a, ㊦(No.7)、4a, ㊦(No.11)、5a, 年代測定試料(㊦)の实体顕微鏡写真(No.15)

a:横断面、b:接線断面、c:放射断面

4. 中西原遺跡1区3号住居出土炭化材の放射性炭素年代測定

(1)はじめに

群馬県伊勢崎市西小保方町に位置する中西原遺跡より検出された炭化材試料について、加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定を行った。なお、測定試料と同一試料を用いて炭化材樹種同定も行われている(炭化材樹種同定の項参照)。

(2)試料と方法

試料は1区3号住居の床面直上の¹⁴C層から取り上げられた炭化材1点(遺物No.15; PLD-19795)である。試料は小片(クリ; 2年輪)で、部位は不明であった。時期は出土土器型式から判断して縄文時代前期後葉の諸磯c式期と考えられている。測定試料の情報、調製データは表1のとおりである。

試料は調製後、加速器質量分析計(パレオ・ラボ、コンパクトAMS: NEC製 1.5SDH)を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

第4表 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	考古学的な想定年代	前処理
PLD-19795	調査区: 1区 遺跡名: 3号住居 層: 14層 遺物No.15	試料の種類: 炭化材(クリ; 2年輪) 試料の性状: 部位不明 状態: dry	諸磯c式期	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N)

(3)結果

第5表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した¹⁴C年代を、第56図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

¹⁴C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代(yrBP)の算出には、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差($\pm 1\sigma$)は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C年代がその¹⁴C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、および半減期の違い(¹⁴Cの半減期5730 \pm 40年)を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

¹⁴C年代の暦年較正には0xCal4.1(較正曲線データ: IntCal09)を使用した。なお、1 σ 暦年代範囲は、0xCalの確率法を使用して算出された¹⁴C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2 σ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は¹⁴C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

(4)考察

試料について、同位体分別効果の補正および暦年較正を行った。以下では2 σ (95.4%の確率)の暦年代範囲に基づいて考察を行う。

3号住居出土の炭化材1点(遺物No.15; PLD-19795)の暦年代範囲は、3757-3743 cal BC(2.0%)および3714-3644 cal BC(93.4%)であった。小林(2008)による縄文土器編年と暦年代との対応関係を参照すると、この年代は縄文時代前期後

葉の諸磯c式期(3800～3650 cal BCころ)から末葉の十三菩提式期(3650～3520 cal BCころ)に相当し、得られた年代範囲の大部分は諸磯c式期の範疇に含まれる。今回の遺物No.15 (PLD-19759)の暦年代は、出土遺物の時期とも整合的であった。

第5表 放射性炭素年代測定および暦年校正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年校正用年 代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に校正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-19795 遺物No.15	-26.97 ± 0.14	4912 ± 23	4910 ± 25	3699BC(68.2%)3659BC	3757BC(2.0%)3743BC 3714BC(93.4%)3644BC

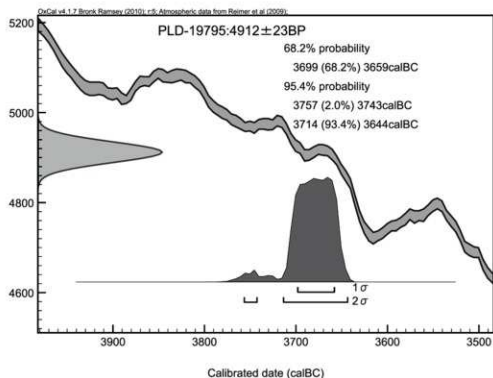
引用・参考文献

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

小林謙一(2008)縄文時代の暦年代. 小杉 康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編「縄文時代の考古学2 歴史のものさし」: 257-269, 同成社.

中村俊夫(2000)放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編「日本先史時代の ^{14}C 年代」: 3-20, 日本第四紀学会.

Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E. (2009) IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 51, 1111-1150.



第56図 暦年校正結果

第5章 中西原遺跡発掘調査の総括

1. 中西原遺跡発掘調査の成果

中西原遺跡では、平成22年度・23年度の発掘調査で旧石器、縄文時代の竪穴住居5棟、土坑、平安時代の竪穴住居1棟、中世以降の溝・土坑・ピット等が検出された。それぞれの内容については第3章で報告したが、限られた発掘区であったことから、中西原遺跡の全体像については本調査のみでは明らかにすることは困難である。ここでは、これまでの中西原遺跡の発掘調査の経過を概括し本遺跡の理解を深めるとともに、今回の中西原遺跡の発掘調査の成果をまとめておきたい。また、本章2～4節では出土遺物から見た調査成果をまとめた。

(1) 中西原遺跡のこれまでの発掘調査

中西原遺跡は、伊勢崎市(旧佐波郡東村)西小保方町中西原から下磯にかけての台地にある。昭和63年発行の遺跡詳細分布調査報告書(文獻7)では、縄文時代(早期・前期・中期・後期)、古墳時代(後期)、奈良・平安時代の遺跡として記載され、面積7700㎡の範囲が図示されている。第58図にはその南西部分を示した。

昭和54年発行の『東村誌』(文獻4)によれば、遺跡の大半は、古くから縄文時代の遺跡として知られていたが、昭和21年に県立農業試験場の委託場となり、その後営農改善試験地に改められたが、昭和44年に営農改善試験地は廃止されて、新たに県立園芸試験場として本館や付属建物の建設が行われることになった。

そこで東村教育委員会による学術発掘調査が実施された。県立園芸試験場本館建設予定地から始められた発掘であったが、縄文時代や古墳時代の住居が多数発見され保存のために本館建設予定地の計画変更も重ねて行われた。最終的には3号住居の位置に本館が建設されることになって、中西原遺跡の県立園芸試験場部分の発掘は、6棟の縄文時代中期の住居と1棟の古墳時代の住居を調査して終了した。

県立園芸試験場部分を発掘中に、その南側で県立佐波農業高等学校第二農場をつくる計画が浮上し、併行して昭和45年の3月まで発掘調査をおこない、縄文時代中期

の竪穴住居10棟を発掘し、縄文時代中期の住居3棟と古墳時代末の住居3棟の位置を確認した。

この2か所の発掘地点は『東村誌』P.113に図示されている(第57図)。この図を現在の地形図に合成することは困難であったが、中西原遺跡のこれまでの発掘調査地点(第58図)と照合すると次のように推定されよう。当初の「南側にくいこむ低湿地と台地との境から50m北で、東西60m、南北15m」の本館建築予定地から「10m南に移した」3号住居の地点に、最終的に本館が建設された。とすれば、今回の調査区のすぐ北東側に県立園芸試験場部分が広がると推定される。また、「県立園芸試験場敷地の南側に続く」「園芸試験場敷地内の台地からわかれた小さな舌状の台地が湿田につきだしている」ところにあるのが県立佐波農業高等学校第2農場であるから、今回調査区の南西部の台地上に県立佐波農業高等学校第2農場部分があると推定される。この2か所の発掘調査区域は、いわば同じ中西原遺跡内にある「園芸試験場地点」と「県立佐波農業高等学校第2農場地点」ともいべき位置づけとなろう。

昭和49年には、国道17号上武バイパス建設に伴う発掘調査の嚆矢として、県立園芸試験場第2遺跡が群馬県教育委員会によって発掘調査された。本遺跡は県立園芸試験場西園場内にあり、第3図に示したように、あまが池を谷頭とする帯状沖積地から伸びる支谷谷頭の北西150mの西側台地内に立地する。したがって県立園芸試験場第2遺跡は同じ施設名を冠するが、中西原遺跡「園芸試験場地点」とは異なる遺跡である。県立園芸試験場第2遺跡では、奈良時代(8世紀後半)の住居3棟、平安時代(9世紀中葉前後)の住居4棟、掘立柱建物10棟が検出されている(文獻1)。

さらに、中西原遺跡北東部で昭和54年に園場整備事業に伴って発掘調査が行われ、平安時代の住居跡1棟が検出されている(文獻7)。

平成7年・8年には群馬県園芸試験場高度バイオテクノロジー研究棟建設に伴って、今回の調査区の西側の台地上の2か所が旧佐波郡東村教育委員会によって発掘調査された。両地区とも西側にやや突出した台地の北

側縁辺を主として発掘しており、中西原遺跡の北西部の状況が明らかになった。平成7年度調査区では縄文時代中期の住居跡16棟、土坑3基、近世の用水1条が、平成8年度調査区では縄文時代中期の住居跡5棟、近世の用水堀1条が調査されている。特に平成7年度調査区では遺構の重複が著しく、西に突出する台地縁辺に縄文時代中期の遺構が広がっていることが判明した(文献8・9)。

平成10年には群馬県花の総合センター移転整備に伴って平成7年度の調査区の南側が旧佐波郡東村教育委員会によって発掘調査された。ここでは縄文時代の竪穴住居5棟と、古墳時代の住居7棟、中世以降の堀1条が調査されている。台地南端が確認され、縄文時代と古墳時代の遺構の偏在性も明らかになった(文献10・11)。

以上のような調査が実施されてきた中西原遺跡のほぼ中央部を、今回平成22・23年度に発掘したのである。

(2) 今回の発掘調査の成果

中西原遺跡では、本書で報告した平成22年度・23年度の発掘調査で旧石器、縄文時代の竪穴住居、土坑、平安時代の竪穴住居、中世以降の溝・土坑・ピット等が検出された。今回の発掘調査で得られた成果として下記の4点をあげておきたい。

第一に中西原遺跡で初めて旧石器と礫群が検出されたことである。遺跡の西側の帯状沖積地の谷頭にあるあまが池湧水池の周辺には大上遺跡(文献65・66)等旧石器時代の遺跡が集中している(第7図)が、その谷筋の台地縁辺にも遺跡が検出されたことになる。遺物の評価については本章第2節で記載した。

第二に縄文時代中期の住居とともに前期の住居が検出されたことである。1区3号・4号住居はいずれも前期諸磯c式期の隅丸方形住居で、3号住居は焼失住居であった。床面直上で出土した炭化材と周囲の土砂の水洗選別調査を行い、クリの材と種実破片を検出した。またクリ材1点の放射性炭素年代を測定した結果、校正暦年代範囲は、3757-3743calBC (2.0%)および3714-3644calBC (93.4%)であった。これは小林(文献79)による縄文土器編年と暦年代との対応関係を参照すると、諸磯c式土器の範囲に含まれ、3号住居から出土した土器と整合した。また3号住居からは完形の諸磯c式深鉢が出土した。縄文土器の詳細は本章第3節で記載



第57図 中西原遺跡の昭和44年度調査区(東村誌より)

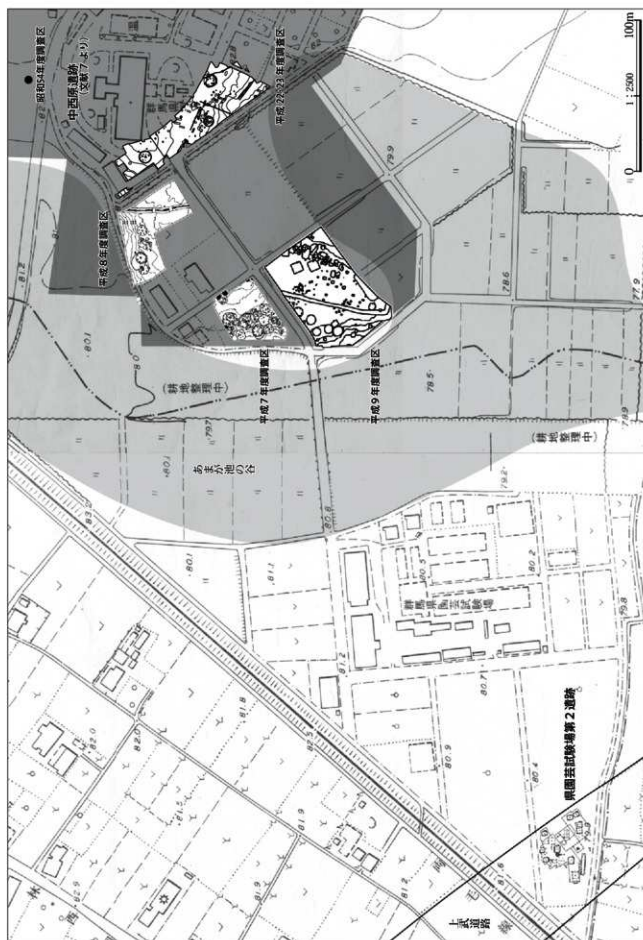
した。また出土数は少なかったが、縄文時代の石器も出土した。石器の特徴については本章第4節で記載した。

第三に縄文時代中期の遺構群の広がりを確認できたことである。これまで西側に突出した台地の北西縁辺の遺構分布は判明していたが、昭和44年調査の「園芸試験場地点」と「県立佐波農業高等学校第2農場地点」の中間地点にも縄文時代前期・中期の遺構が存在することが確認できた。

第四に中西原遺跡の平安時代の遺構分布に新たな資料を加えることができたことである。これまで昭和54年に平安時代の住居1棟の調査例はあった(文献7)が、遺跡内における平安時代の遺構については詳細は不明であり、平安時代の集落研究に資する資料が加えられた。

なお、平成7・8年調査で検出されていた近世に掘られたと推定されている用水堀や、平成10年度に調査された方形区画の堀に延長する遺構は、今回の発掘区のなかでは検出されなかった。

以上が今回の調査の成果である。これまでの調査成果を積み上げつつ、遺跡の理解を深めることができた調査となったといえよう。



第58図 中西原道跡周辺で調査された縄文時代遺構

2. 中西原遺跡の旧石器時代石器群について

本遺跡は、湧水「あまが池」から南に延びた開析谷を臨む台地上にある。この開析谷の谷頭は現在の湧水点より上流側に100mほど追跡することができ、三和工業団地Ⅱ遺跡(文献32)が谷頭に最も近い旧石器遺跡になる。現状で、旧石器時代の湧水位置については特定することはできないが、北関東自動車道の発掘で天ヶ堤遺跡(文献63・67)や大上遺跡(文献65・66)などから当該期石器群が多数確認されており、旧石器遺跡が現在の湧水点周辺に密に分布することは明らかである。河川単位に見た遺跡の分布状況については、東京都小平市に湧水点を持つ石神井川流域(武蔵野台地)のそれが良く知られており、河川単位に移動していく生活スタイルがモデル化されている。これは上流域ほど文化層が重なり、下流域ほど文化層が重ならないということを解釈・説明したもので、湧水点が移動時の折り返し点となり、隣接流域に移動する際の結節点となるだろうとするものだが、大間々扇状地の旧石器遺跡においても、この解釈が妥当か以前から注目されていた。

台地縁辺の微地形は気候変動に伴う侵食作用に影響されたものだろうが、これにより生じた微地形が結果的に居住スペースを規定したものと見られ、その具体例が近接する前道下遺跡にある。同遺跡では、旧石器時代の浅い埋没谷が複数の地点で確認されており、こうした微地形と石器分布が連動することが判明した。明治期の絵図には前道下遺跡の台地縁辺に無名湧水2か所があり、前道下遺跡の台地縁辺の微地形は湧水変動によるとするべきであるが、早田勉氏は同遺跡報文中(文献64)で気候変動と地形発達に関連するだろうことを示唆している。これについては県内各地の丘陵性台地で暗色帯上層のローム層が傾斜・堆積していることや、赤城白川扇状地その他の再堆積地形が暗色帯の形成後、広域に生じていることから理解できる。これにより湧水点の移動等も生じたことになる。こうした点を確認するうえで、本遺跡の旧石器調査は期待されるものであったが、調査対象地が台地上の一部に限られたことから、微地形と遺跡の関係等について課題を残すことになった。以下に調査成果をまとめておこう。

礫群の検出は、本遺跡旧石器調査の唯一最大の成果と

なった。その出土層位はAs-BP直下にあり、礫群に近接してナイフ形石器1点が出土した。形態的には刃部が開き気味で有肩形のナイフ形石器(文献66)とされたものに似る。時期は群馬Ⅱ期とされるものであり、大上遺跡においては暗色帯から多出し、第3文化層に帰属するものとされた。大上遺跡は本遺跡と同じ水系にあり、下層(暗色帯)から遊離したという想定も成り立つ余地がある。本遺跡では、下層ロームの調査がおこなわれていないため、それが下層から遊離したものか判断は難しいが、ここでは素直に礫群に伴う石器として理解しておきたい。

石刃製ナイフと礫群に伴う同時期の周辺遺跡として、伊勢崎市前道下遺跡E地点の石器群がある。事業団年報21(文献58)において礫群はAs-BP層中から出土したとされていたが、出土状況の写真を見る限り、As-BP層下に出土しているように見えた。E地点の礫群は台地縁辺に大規模礫群(20～24号礫群)があり、その北側に小規模礫群が散在するもので、これに石刃製ナイフや削・掻器が伴った。規模から見て、礫群の盛行期が想定されたものの石刃石器群が伴う点で気掛かりであった。E地点のローム層については路線北の断面図しかなく、層位的な検討が難しく、位置づけ等あいまいな記述に始終せざるを得なかった。しかし、中西原遺跡で礫群がAs-BP直下で出土したことから、前道下E地点の礫群の再評価が可能になるだろう。ここに中西原遺跡礫群発見の意義がある。

前道下遺跡E地点出土の石器群については石刃製ナイフの形態的特徴や器種組成からVI層段階のそれとする指摘があり、石器群と礫群が同じ文化層とするのが妥当か再検討すべき必要が示されている(文献77)。文脈から、礫群については年報の記載を踏まえAs-BP層中にあり、器種レベルの検討により石器群は群馬Ⅱ期と判断されたようである。実際には、礫群間それぞれに接合関係があり、石器群も同レベルに出土していることから、両者の同時性は明らかである。現状では、本遺跡および前道下遺跡の石器群はVI層段階ということになろうが、前道下遺跡E地点の石器群はAs-BP層下の出土とはいえ、礫群の西側にはAs-BP以下のローム層を欠いた浅い谷が入り込んでおり、また、台地縁辺部分ではAs-BPと暗色帯が密着、その間層(IV層、報告書第3図を参照)を欠いていることから、E地点の礫群分布域のローム層は部分的に

流出していることも危惧されてよう。

赤城山麓の旧石器遺跡では、堀下八幡遺跡(文獻48)に見られるように、VI層段階の石器群は暗色帯の上半部に出土量のピークがあり、それは大上遺跡第3文化層においても同様である。これに対して本遺跡の礫群はAs-BP・暗色帯間のローム層が安定堆積しているにもかかわらず、As-BP層下に出土している点に注意しておきたい。現在の石器変遷観に従えば、上記二遺跡の礫群は同時期とされるだろうが、出土状況から見れば段階差とすることができない時期差があるということになるだろう。本遺跡と同じ台地上にある大上遺跡ではAs-BP・暗色帯間の間層上半部にAs-MP、下半部にATの降灰層序が想定されており、これに従えば、本遺跡の礫群はAs-MP降下前後に帰属時期が想定されることになる。

ところで、澁川市中郷遺跡(文獻71)の発掘では、As-BP降灰途中に前橋泥流の堆積が確認され、澁川市上白井西伊熊遺跡(文獻72)の前橋泥流上層から国府系石器群が発見され注目を集めた。西伊熊遺跡では前橋泥流上位のテフラはAs-Srとされているが、周辺遺跡の出土例からみて、国府系石器群は前橋泥流層とAs-BPグループ間(これまで赤城山麓で確認されているAs-BP 3層の内の2層目と3層目)にある可能性が高い。通常、赤城山麓旧石器遺跡のAs-BPはブロック状に堆積している程度であり、これがどのAs-BPに相当するのか、対比が難しいとされている。これについては、より精密な対比が可能となる分析法(文獻78)もあるようである。赤城山麓の旧石器遺跡ではテフラ分析が多く蓄積されており、近年分析が省略されつつあるのが現状だが、中郷・西伊熊遺跡の発掘以後、As-BPの同定精度を高めることが要請されつつあることや、前道下遺跡のようにロームが流出するような堆積環境を考えれば、旧石器遺跡におけるテフラの同定作業は不可欠というべきだろう。

加えて、上白井西伊熊遺跡では国府系石器群に伴って角錐状石器や横長剥片製の小形ナイフ、有樋尖頭器が出土している。このうち、有樋尖頭器についてはその伴出関係に疑義もあるようであるが、吹屋犬子塚遺跡(文獻54)第2文化層に同型の尖頭器(先端部破片、黒色安山岩製)があり、共存関係にあることは確実である。西伊熊・犬子塚両遺跡とも、有樋尖頭器は周辺加工によるものであり、これが男女倉型尖頭器に繋がる可能性についても考

えておく必要がある。層位的にはAs-SPの降下前、組成的には砂川タイプのナイフ形石器と共存・組成することが期待されよう。いずれにしても本遺跡を含む赤城山麓旧石器遺跡のAs-BPは圧縮堆積していることが確実であり、異なる段階の石器群が似た層位から出土しているということだろう。

3. 中西原遺跡出土の縄文土器について

中西原遺跡出土の縄文土器について概観する。

1区3号住居は前期諸磯c式期で、南東隅壁際から出土した完形土器(第21図1)は口縁下に刻み列をめぐらすこと、口縁部のみ4単位で貼付文を付すことから古段階に比定できよう。また炉の東側、床面直上で出土した2も1とはほぼ同様の文様構成を施した上半部の個体で、1と一括ととらえられる。本住居の2個体一括の良好な出土状況は、諸磯c式古段階の基準となり得る資料といえよう。

1区4号住居も諸磯c式期で、炉体土器(第32図1)から3号住居と同時期と判断されるが、埋没土中からは炉体土器より若干新しいと考えられる土器(第26図4, 5, 10, 11)が出土している。本住居は床面壁際近くに段が認められることから建て替え・拡張がなされ、2時期にわたって存続したと考えられるだろう。住居構築時の炉体土器を2期も継続して使用したことから、2時期にまたがる土器が出土したものと推察される。

1区1号住居は炉体土器(第16図1)から中期加曾利E2式期と判断した。1は条線地文、2は縄文地文に沈線による懸垂文を施す構成で、まだ磨り消し手法は持たない。他の破片資料も同様で、縄文地文に沈線を施す加曾利E2式が主体的に出土している。4の連弧文土器も縄文地文に沈線によるモチーフを描くこと、区画文に交互刺突をめぐらすことから、加曾利E2式に伴うものとしてよいだろう。床面に伏せて置かれた3は頸部無文帯をもつことから加曾利E2式でも他より古い可能性があるが、居住者によって継続して使用され、住居を廃棄する際にあえてこの土器を置いていったととらえておきたい。

土坑出土土器は特筆すべきものはなく、住居に伴う土坑が当然あるべきだが、調査された数も少なく、形状も

積極的に土坑と認定できるものは少なかった。

遺構外出土土器は集落が展開した時期を除いては、ごくわずかしかな出土しなかった。最も古いのは燃系文期の土器で、ほとんどは稲荷原式に比定される。本遺跡の立地する大間々扇状地棚原面では湧水池周辺、あるいは湧水によって開析された谷筋に面した遺跡で燃系文土器が散見され、燃系文期に本遺跡近隣で活発に活動していた様子が看取される。そのほか田戸下層式、関山Ⅱ式、前期末葉、阿玉台式がわずかに出土した程度で全体的な出土量は少なく、集落が営まれた時期を除いては本遺跡の地はほとんど利用されなかったと推定されよう。

4. 中西原遺跡の縄文時代の石器について

縄文時代石器として、住居出土石器61点・包含層出土石器26点があるほか、縄文時代の住居や土坑から剥片類478点、包含層から剥片類122点(古代、中近世の遺構出土の剥片を含む)が出土している。赤城山麓の縄文時代遺跡の遺物包含層には遺構出土物の数倍が見込まれるというのが通例であるが、本遺跡では包含層出土の遺物量が少ないのはこれが充分回収されていないものと思われる。

包含層出土石器として打製石斧などの剥片系石器8種・磨石その他の礫石器類4種があり、黒色頁岩が打製石斧をはじめとする剥片系石器全般に、チャート・黒曜石・黒色安山岩が石鏃等の小形石器に多用されていた。こうした傾向は、利根川流域に立地する縄文時代遺跡と同様であり、大きな相違点はない。

包含層出土の土器片類には少量の燃系文土器(稲荷原式期)や早期中葉の沈線文系土器(田戸下層式)、前期末～中期前半期が含まれていたが、前期後半(諸磯式期)と中期後半(加曽利E式期)の土器が大半を占めている。包含層出土石器には各期を特徴づけるような特徴的の石器は見られず、その大部分は前期後半や中期後半期のものとすることができよう。本遺跡の場合、時期別の器種・石材構成や個別石器を理解するには住居単位でみるのが有効である。本遺跡では縄文時代住居5棟が確認されたとされているが、2区6号住居は炉と柱穴からそのプランが推定されたもので、住居に伴う石器は得られていないため、前期後半期(諸磯c式期、1区3・4号住居)と、

中期後半期(加曽利E式期、1区1号住居)の器種・石材構成や形態的特徴が大枠で示されることになる。

個別石器について特筆すべきことはないが、①石斧重量と使用石材および②1区3号住居から出土した黒曜石製石鏃など被熱石器類が注目されよう。

まず、利根川流域にある縄文時代遺跡から出土する打製石斧には、前期において薄く細身であるものが中期には厚く大型化する傾向にあること、中期以降の石斧に細粒輝石安山岩が使われるようになることが傾向として指摘できそうである。前期石斧の典型例は前橋市新田塚遺跡(文献74)にあり、重さ75g前後のものが主体を占め、これに重さ150g前後のものが少量組成した。前者は両側縁が並行するもの、後者は側縁が弱く開いたものであり、この形態差は機能的要請に基づくというよりも素材剥片の大小によるものと考えている。形態的に見ると、本遺跡の前期石斧は後者のタイプだが、完形で100～110g程度と石斧重量は軽い。中期住居から出土した石斧も薄手で、大型化するというより前期石斧と変わらないというべきである。中期石斧に細粒輝石安山岩を用いる傾向は、伊勢崎市五日牛清水水田遺跡(文献51)で抽出されている。新田塚遺跡では前期石斧に細粒輝石安山岩が多用されており、その選択性に疑問が生じているが、本遺跡の中期石斧を見る限り、粕川流域の縄文時代遺跡(標高100m前後の低台地に立地)に見られるローカルな石材の選択性として捉えることができるかもしれない。本遺跡出土の石斧はサンプルとして出土量が少なく、上述した傾向の妥当性については検討の余地がある。

被熱石器類(石鏃・石製品・石皿・砥石)は、1区3号住居から出土している。同住居には炭化物が多量にあり、焼失住居とされているが、掲載資料以外に埋没土中から出土した剥片類に黒曜石製の被熱剥片多数が含まれていることが判明、石器としてもそのことが裏付けられたことになる。1区3号住居では上層構造が復元できるような炭化材が確認されていないが、被熱石鏃および被熱剥片類の出土状況が火災の状況の一端を示唆している可能性があらう。

参考文献

1. 群馬県教育委員会1974『上武国道地域阿像文化財発掘調査概報 県園芸試験場第二遺跡・下江田前遺跡』
2. 群馬県企業局1982『伊勢崎・東流通団地遺跡』
3. 群馬県史編さん委員会1986『群馬県史資料編2 原始時代2』
4. 東村誌編纂委員会1979『東村誌』
5. 佐波郡東村教育委員会1980『かき塚塚下遺跡』
6. 佐波郡東村教育委員会1980『佐波郡東村上慶本遺跡』
7. 佐波郡東村教育委員会1987『佐波郡東村の遺跡 村内遺跡詳細分布調査報告書』
8. 佐波郡東村教育委員会1996『中西原遺跡Ⅰ 平成7年度群馬県園芸試験場バイオテクノロジー研究棟建設に伴う発掘調査報告書1-遺構編』
9. 佐波郡東村教育委員会1997『中西原遺跡Ⅱ 平成7年度群馬県園芸試験場バイオテクノロジー研究棟建設に伴う発掘調査報告書2-遺構編』
10. 佐波郡東村教育委員会1999『中西原遺跡Ⅲ～挿図編 群馬県花の総合センター移転整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
11. 佐波郡東村教育委員会1999『中西原遺跡Ⅲ～写真編 群馬県花の総合センター移転整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
12. 佐波郡東村教育委員会1999『中西原遺跡Ⅳ』
13. 赤堀村教育委員会1982『八幡林古墳群及び縄文住居跡発掘調査概報』
14. 赤堀村教育委員会1983『洞山古墳群及び北道、鷹巣遺跡発掘調査概報』
15. 赤堀村教育委員会1980『五目牛洞山遺跡発掘調査概報』
16. 赤堀村教育委員会1980『五目牛東遺跡及び赤堀村8号墳発掘調査概報』
17. 赤堀村教育委員会1980『下触向井遺跡発掘調査概報』
18. 赤堀村教育委員会1981『今井南原遺跡発掘調査概報』
19. 赤堀村教育委員会1982『洞山古墳群及び北通、鷹巣遺跡発掘調査概報』
20. 赤堀村教育委員会1982『洞山古墳群及び北通、鷹巣遺跡発掘調査概報』
21. 赤堀村教育委員会1990『今井赤坂南遺跡発掘調査概報』
22. 伊勢崎市教育委員会1977『鯉沼東遺跡・舞台遺跡』
23. 伊勢崎市教育委員会1977『高山遺跡・天ヶ堤遺跡・天野沼遺跡・下書上遺跡』
24. 伊勢崎市教育委員会1979『恵下遺跡』
25. 伊勢崎市教育委員会1980『下吉祥寺遺跡』
26. 伊勢崎市教育委員会1981『原之城遺跡』
27. 伊勢崎市教育委員会1983『原之城遺跡発掘調査報告書』
28. 伊勢崎市教育委員会1987『伊勢崎市史通史編Ⅰ』
29. 伊勢崎市教育委員会1988『豊城町遺跡』
30. 伊勢崎市教育委員会1995『老町田遺跡』
31. 伊勢崎市教育委員会2002『上植木庵寺・上植木庵寺瓦窯』
32. 伊勢崎市教育委員会2004『三和工業団地Ⅱ遺跡』
33. 伊勢崎市教育委員会2004『三和工業団地Ⅲ遺跡』
34. 伊勢崎市教育委員会2004『三和工業団地Ⅳ遺跡』
35. 伊勢崎市教育委員会2005『五目牛新田・五目牛南組Ⅱ・五目牛清水田Ⅱ・柳田Ⅱ遺跡』
36. 伊勢崎市教育委員会2006『寺回遺跡Ⅷ』
37. 伊勢崎市教育委員会2007『三棟屋遺跡Ⅰ』
38. 伊勢崎市教育委員会2010『三棟屋遺跡Ⅱ』
39. 伊勢崎市教育委員会2007『釜ノ口遺跡Ⅳ』
40. 伊勢崎市教育委員会1985『上西根遺跡』
41. 伊勢崎市教育委員会2004『上西根遺跡Ⅱ』
42. 伊勢崎市1986『伊勢崎市史研究第4号』
43. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1984『女堀』
44. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1988『上植木光仙坊遺跡』
45. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1988『書上下吉祥寺・書上原之城・上植木老町田遺跡』

46. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1989『八寸大道上遺跡』
47. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1989『三室坊主林遺跡』
48. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1990『堀下八幡遺跡』
49. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1992『五日牛牛組遺跡』
50. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1992『書上本山・波志江六反田・波志江天神山遺跡』
51. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1993『五日牛清水田遺跡』
52. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1995『飯土井上組遺跡・波志江中峰岸遺跡』
53. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1998『年報17』
54. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1998『白井北中道Ⅱ遺跡 吹屋犬子塚遺跡 吹屋中原遺跡(旧石器・縄文時代編)』
55. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1999『下植木志町田遺跡』
56. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1999『三和工業団地Ⅰ遺跡(2)』
57. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『田部井大根谷戸遺跡』
58. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『年報21』
59. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2003『光仙坊遺跡』
60. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『大井戸遺跡』
61. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2001『舞台遺跡(1)(奈良・平安時代他編)』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2004『舞台遺跡(2)(古墳時代編)』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『舞台遺跡(3)(縄文時代・旧石器時代編)』
62. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2006『塚下(1)遺跡Ⅱ』
63. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『天ヶ堤遺跡(1)』
64. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『前道下遺跡(1)縄文時代以降編』
65. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『大上遺跡Ⅰ旧石器時代編』
66. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『大上遺跡Ⅱ縄文時代～近世編』
67. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『天ヶ堤遺跡(2)』
68. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『本関町古墳群』
69. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『前道下遺跡(2)旧石器時代編』
70. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『南久保遺跡』
71. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2010『中郷遺跡』
72. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2010『上白井西伊熊遺跡』
73. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2011『大道西遺跡』
74. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2011『上泉唐ノ堀・上泉新田塚遺跡群』
75. 東国古文化研究所1970『1. 佐波農業高等学校第二農場遺跡』『まえあし』第7号
76. 東国古文化研究所1971『発表要旨 東村の縄文遺跡について 依田治男』『まえあし』第8号
77. 関口博幸2008『後期旧石器時代における前橋泥流をめぐる遺跡形成史』『岩宿フォーラム2008/シンポジウム更新世の地形発達史と遺跡群の形成』岩宿博物館・岩宿フォーラム実行委員会
78. 関口博幸・早田勉・下岡順直2011『群馬の旧石器編年のための基礎的研究ー関東地方北西部における石器群の出土層位、テフラ層序、数値年代の整理と検討』『財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』29号
79. 小林謙一2008『縄文土器の年代(東日本)』『総覧縄文土器』小林達雄編 アムプロモーション
80. 山川出版社1994『前方後円墳集成』
81. ニューサイエンス社1999『月刊考古学ジャーナル447号 特集縄文時代の火災住居』
82. ニューサイエンス社2003『月刊考古学ジャーナル509号 特集列島各地の焼失住居』

遺構一覧表

凡例

1. 遺構一覧表は、遺構ごとに作成し、発掘区の遺構番号順に並べた。
2. 遺構の計測値は、重複等で計測できないものは計測不能とした。
3. 本文は掲載頁、挿図は掲載図番号、写真図版は遺構写真および遺物写真の掲載P L 番号を記載した。

遺物観察表

凡例

1. 遺物観察表は、本文第3章の遺物掲載順に並べた。
2. 法量欄の()は復元値である。
3. 出土位置欄は、遺構出土の遺物については遺構内の遺物の平面的位置と、床面あるいは底面との比高を併記した。遺構外の遺物については判明する限りの平面的な位置と層位を記載した。
4. 外観の特徴のうち、土器の胎土は特徴的な挟雜物について記載した。土器の焼成は酸化焰焼成か還元焰焼成か、あるいは軟調かどうかを記載した。各観察者によって記載方法が異なるが、そのままとした。
5. 外観の特徴のうち、色調は『標準土色帖』を用い、最も大きな面積を占める器面の色名を記載した。なお焼成に伴う黒斑は別途記載した。

目次

1. 中西原遺跡遺構一覧表	84
2. 中西原遺跡 遺物出土数一覧表	86
3. 遺物観察表	88

遺構一覧表・遺物観察表

1. 中西原遺跡 遺構一覧表

区	遺構名称	時 期	グリッド	平面形状	規模			長軸方位	本文	押出	写真 掲載
					長軸	短軸	残存壁高				
1	1 住居	縄文時代中期 加曽利E 2式	I-9・10G	円形と推定	推定5.70m	推定5.70m	0.26m	仰: N-52° - E	17	13~19	7-13 52-54
1	2 住居	平安時代	L-12・13・M-12	方形	3.65m以上	3.81m	0.40m	横: N-77° - E	48	39・40	35-37 40
1	3 住居	縄文時代前期 諸議E 2式	I・J-9・10G	楕円形	5.10m	4.88m	0.71m	N-78° - E	25	20~22	13-19 25
1	4 住居	縄文時代前期 諸議E 2式	H・I・J-4・5G	楕円形	8.32m	7.94m	0.75m	N-32° - W	29	24~27	20-25 26-32
1	5 住居	縄文時代中期 加曽利E 2式	I・J-3・4G	楕円長方形	2.45m以上	2.54m	0.10m	N-0° - E	34	28	26・57
2	6 住居	縄文時代中期 加曽利E 4式	Q・R-14・15G	円形と推定	推定6.90m	推定6.90m	計測不能	仰: N-33° - W	35	29~33	27-32 33・34
1	1 土坑	中世以降 中近世か?	B-5G	不整形	1.95m以上	1.15m	0.24m	N-29° - E	55	48	
1	2 土坑	中世以降 中近世か?	B・C-6G	不整形	1.40m以上	1.66m	0.34m	N-32° - E	55	48	42
1	3 土坑	中世以降 中近世か?	C-6G	長方形	1.65m以上	0.94m	0.25m	N-28° - E	55	48	42
1	4 土坑	中世以降 中近世か?	C-6G	不整形	1.18m	0.76m以上	0.31m	N-61° - W	55	48	42
1	5 土坑	中世以降 時期不明	D-5G	不整形	0.30m以上	0.97m	0.30m	N-37° - E	61	51	46
1	6 土坑	中世以降 時期不明	E・F-5G	楕円形	1.05m	0.80m	0.52m	N-67° - W	61	51	46
1	7 土坑	中世以降 時期不明	F-6G	楕円形	0.91m	0.70m	0.29m	N-33° - E	61	51	46
1	8 土坑	中世以降 時期不明	F-6G	楕円形	1.08m	0.95m	0.37m	N-58° - W	61	51	46
1	9 土坑	中世以降 時期不明	F・C-6G	楕円形	1.33m	0.97m	0.48m	N-69° - W	61	51	46
1	10 土坑	中世以降 時期不明	H-6G	不整形	1.20m	0.58m	0.09m	N-84° - E	61	51	46
1	11 土坑	中世以降 時期不明	H-6G	不整形	0.90m	0.40m	0.41m	N-66° - E	61	51	46
1	12 土坑	中世以降 時期不明	H-6G	楕円形	1.50m	0.96m	1044m	N-62° - W	61	51	46
1	13 土坑	中世以降 中近世か?	H-7G	?	1.53m	0.39m	0.20m	N-22° - E	55	48	42
1	14 土坑	中世以降 中近世か?	H-6・7G	長方形	2.12m	0.91m	0.39m	N-20° - E	55	48	42
1	15 土坑	中世以降 中近世か?	H-6G	長方形	2.01m	1.08m	0.21m	N-65° - W	55	48	42
1	16 土坑	中世以降 中近世か?	H-6G	長方形	2.01m	1.08m	0.21m	N-65° - W	55	48	42
1	17 土坑	中世以降 時期不明	H・I-6G	方形	1.26m	1.10m	0.19m	N-63° - W	62	52	47
1	18 土坑	中世以降 時期不明	I-6G	楕円形	0.95m	0.87m	0.13m	N-5° - W	62	52	47
1	19 土坑	中世以降 時期不明	H・I-7G	楕円形	0.97m	0.80m	0.14m	N-17° - E	62	52	47
1	20 土坑	中世以降 中近世か?	H-7G	長方形	2.00m	1.17m	0.35m	N-75° - W	55	48	42
1	21 土坑	中世以降 中近世か?	H-7G	長方形	1.25m以上	1.26m	0.13m	N-23° - E	55	48	42
1	22 土坑	中世以降 中近世か?	H・I-7G	長方形	2.08m	1.10m	0.35m	N-73° - W	55	49	43
1	23 土坑	中世以降 時期不明	I-7G	楕円形	1.88m	1.58m	0.13m	N-47° - W	62	52	47
1	24 土坑	中世以降 時期不明	J-5G	計測不能	1.08m	0.57m以上	0.31m	N-44° - E	62	52	47
1	25 土坑	中世以降 中近世か?	I-7G	楕円形	0.48m	0.36m	0.09m	N-22° - E	60	50	44
1	26 土坑	中世以降 時期不明	G・H-7G	不整形	1.47m	1.17m	0.14m	N-55° - W	62	52	47
1	27 土坑	中世以降 時期不明	H-8G	不整形	1.16m以上	0.77m	0.23m	N-71° - W	62	52	47
1	28 土坑	縄文前期 4住より古い	I-4G	楕円形	1.50m	1.46m	0.62m	N-10° - W	40	34	32
1	29 土坑	縄文か?	I-8G	楕円形	1.10m	0.95m	0.26m	N-33° - E	40	34	32
1	30 土坑	中世以降 時期不明	I・J-7・8G	不整形	1.23m	1.06m以上	0.54m	N-80° - E	60	50	44
1	31 土坑	中世以降 中近世か?	I-7G	不整形	0.55m以上	0.51m	0.11m	N-82° - E	60	50	44
1	32 土坑	中世以降 時期不明	J-10G	楕円形	1.59m	0.79m	0.39m	N-77° - W	62	52	47・48
1	33 土坑	中世以降 時期不明	J-10G	楕円形	1.40m	0.91m	0.12m	N-30° - E	62	52	48
1	34 土坑	中世以降 中近世か?	L・M-10G	長方形	3.25m	0.83m	0.15m	N-16° - E	55	46	41
欠番	35 土坑										
欠番	36 土坑										
1	37 土坑	縄文	J-10G	楕円形	1.13m	0.88m	0.22m	N-51° - W	40	34	33
1	38 土坑	中世以降 時期不明	J-10G	不整形	1.18m	0.75m	0.29m	N-41° - W	62	52	48
1	39 土坑	中世以降 時期不明	J-10G	楕円形	0.70m	0.40m	0.08m	N-62° - E	62	53	48
1	40 土坑	中世以降 時期不明	J-10G	不整形	0.71m以上	0.67m	0.09m	N-42° - W	62	53	48
1	41 土坑	中世以降 中近世か?	J-11G	不整形	2.18m	1.21m	0.45m	N-17° - E	55	49	43
1	42 土坑	中世以降 中近世か?	L-8・9G	長方形	3.73m	0.90m	0.19m	N-30° - E	55	46	41
1	43 土坑	中世以降 時期不明	K-11・12G	不整形	1.02m	0.49m	0.20m	N-79° - E	62	53	48
1	44 土坑	中世以降 時期不明	L-11・12G	円形	0.64m	0.56m	0.28m	N-66° - E	62	53	48
欠番	45 土坑										
欠番	46 土坑										
1	47 土坑	中世以降 中近世か?	I-7G	不整形	1.30m	0.72m以上	0.19m	N-63° - W	55	49	43
欠番	48 土坑										
1	49 土坑	中世以降 中近世か?	G-3・4G	長方形	2.82m	1.35m	0.31m	N-91° - W	55	49	43
50	土坑										
1	51 土坑	中世以降 時期不明	N-11G	楕円形	1.40m	0.95m	0.06m	N-13° - W	62	53	48
欠番	52 土坑										
1	53 土坑	中世以降 中近世か?	G・H-7G	不整形	2.50m	1.11m	0.23m	N-11° - E	55	49	43
1	54 土坑	中世以降 中近世か?	K・L-7・8G	長方形	3.91m	0.91m	0.38m	N-30° - E	55	46	41
1	55 土坑	中世以降 中近世か?	L-8G	長方形	1.08m以上	1.02m	0.18m	N-59° - E	55	46	41
1	56 土坑	中世以降 中近世か?	L・M-8G	長方形	1.38m以上	1.03m	0.03m	N-30° - E	55	46	41
1	57 土坑	中世以降 時期不明	O-10G	円形	0.49m	0.49m	0.09m	N-74° - W	62	53	48
1	58 土坑	中世以降 時期不明	O・P-11G	楕円形	1.12m	0.80m	0.14m	N-73° - W	62	53	49
1	59 土坑	中世以降 中近世か?	K・L-7G	長方形	1.86m	0.88m	0.44m	N-26° - E	55	46	41
1	60 土坑	中世以降 中近世か?	K-7・8G	長方形	2.29m	0.73m	0.06m	N-27° - E	55	47	41・42
1	61 土坑	中世以降 中近世か?	K-8G	長方形	2.63m以上	0.92m	0.16m	N-29° - E	55	47	42

1. 中西原道跡 道構一覧表

区	遺構名称	時 期	グリッド	平面形状	屋根			長軸方位	本文	押側	写真 図版
					長軸	短軸	残存壁高				
欠番 62	土坑										
1 63	土坑	中世以降 中近世か?	J-8・9・G	不整形	1.93m	0.41m以上	0.006m	N-68°-W	60	49	44
1 64	土坑	縄文時代中期	J-9・G	楕円形	1.60m	1.36m	0.21m	N-31°-E	40	34	33・48
欠番 65	土坑										
1 66	土坑	中世以降 時期不明	J・K-9・G	楕円形	1.27m	0.75m	0.20m	N-43°-E	62	53	49
1 67	土坑	中世以降 時期不明	K-9・G	計測不能	計測不能	0.82m	0.18m	N-45°-E	62	53	49
1 68	土坑	中世以降 中近世か?	J・K-9・G	不整形	2.01m	0.78m	0.13m	N-68°-W	60	49	49
欠番 69	土坑										
1 70	土坑	縄文時代前期	K・L-7・8・G	不整形	1.19m	1.03m	0.70m	N-62°-W	42	34	33
1 71	土坑	中世以降 時期不明	O-12・G	不整形	0.68m	0.64m	0.35m	N-48°-W	62	53	49
1 72	土坑	中世以降 中近世か?	N・O-10・G	計測不能	0.48m以上	0.58m	0.29m	N-13°-E	55	47	-
1 73	土坑	中世以降 時期不明	O-10・11・G	楕円形	0.71m	0.60m	0.09m	N-66°-W	62	54	49
1 74	土坑	中世以降 時期不明	K-11・G	楕円形	1.80m	0.72m以上	0.36m	N-66°-W	62	53	49
1 75	土坑	中世以降 時期不明	K-11・G	不整形	0.90m以上	0.60m	0.36m	N-23°-E	62	53	49・50
1 76	土坑	中世以降 時期不明	I-9・G	不整形	0.80m以上	0.80m	0.31m	N-55°-E	62	54	50
1 77	土坑	中世以降 時期不明	I-9・G	楕円形	0.97m	0.80m	0.20m	N-38°-E	62	54	50
1 78	土坑	中世以降 時期不明	K-10・G	楕円方形	1.37m	1.23m	0.09m	N-31°-E	62	54	50
1 79	土坑	中世以降 中近世か?	M-9・G	長方形	3.41m以上	1.04m	0.28m	N-13°-E	55	47	42
1 80	土坑	中世以降 中近世か?	M-10・G	長方形	3.60m	0.95m	0.38m	N-18°-E	55	47	42
1 81	土坑	中世以降 中近世か?	J・K-7・J-8・G	長方形	2.83m	0.75m	0.21m	N-37°-E	55	47	42
1 82	土坑	中世以降 中近世か?	K-7・G	長方形	2.58m	0.51m	0.30m	N-34°-E	55	47	42
1 83	土坑	中世以降 中近世か?	J-8・G	楕円形	2.10m	0.93m	0.19m	N-54°-W	60	49	43
1 84	土坑	中世以降 中近世か?	J-8・G	楕円形	1.00m	0.87m	0.35m	N-89°-E	60	49	43・44
1 85	土坑	中世以降 中近世か?	J-8・G	楕円形	0.49m	0.41m	0.84m	N-64°-W	60	49	43・44
1 86	土坑	中世以降 中近世か?	J-7・8・G	不整形	1.74m	1.23m	0.27m	N-68°-W	60	50	44
1 87	土坑	中世以降 中近世か?	J-7・G	不整形	1.2m以上	1.14m	0.14m	N-52°-W	60	50	44
1 88	土坑	中世以降 中近世か?	J-7・G	不明					60	50	44
1 89	土坑	中世以降 中近世か?	J-7・G	楕円形	1.08m	2.15m	0.14m	N-68°-W	60	50	44
1 90	土坑	中世以降 時期不明	I-8・G	楕円形	0.49m以上	0.51m	0.13m	N-28°-W	41	34	32
1 91	土坑	中世以降 中近世か?	K-7・G	計測不能	0.11m以上	0.48m以上	0.04m以上	計測不能	55	47	-
1 92	土坑	中世以降 時期不明	I・J-8・9・G	楕円形	2.08m	1.15m	0.13m	N-50°-W	62	54	50
1 93	土坑	中世以降 時期不明	I・J-8・9・G	楕円形	2.08m	1.15m	0.13m	N-51°-W	62	54	50
1 94	土坑	中世以降 中近世か?	J-8・G	不整形	1.26m	0.44m	0.24m	N-36°-E	60	49	44
1 95	土坑	中世以降 時期不明	I-7・8・G	不整形	0.60m以上	0.72m	0.08m	N-72°-W	61	52	47
1 96	土坑	中世以降 時期不明	G-3・G	不整形	1.38m	0.78m	0.10m	N-71°-E	62	54	50
1 97	土坑	1号住居の跡と判明									
1 98	土坑	中世以降 時期不明	P-11・G	不整形	1.54m	0.59m	0.32m	N-54°-E	62	54	50
1 99	土坑	中世以降 時期不明	P-12・G	不整形	1.18m	0.92m	0.14m	N-78°-W	62	54	50
1 100	土坑	中世以降 時期不明	P-12・G	不整形	0.53m	0.46m	0.21m	N-13°-E	62	54	50
1 101	土坑	中世以降 時期不明	O-12・G	楕円形	1.01m	0.74m	0.30m	N-83°-E	62	54	50
2 102	土坑	縄文時代中期か	U-15・G	楕円形	0.70m	0.56m	0.39m	N-59°-E	42	35	34
2 103	土坑	縄文時代中期か	S-15・G	円形	2.07m	2.06m	0.30m	N-46°-E	42	34	33
2 104	土坑	縄文時代6号住居の柱穴の可能性	Q・R-14・15・G	不整形	0.71m	0.60m	0.35m	N-58°-E	35	33	32
2 105	土坑	縄文時代中期か	R-13・G	楕円形	0.96m	0.72m	0.40m	N-47°-W	42	35	34
2 106	土坑	中世以降 時期不明	P・Q-12・G	楕円形	0.88m	0.50m	0.28m	N-5°-W	62	54	-
2 107	土坑	縄文時代中期か	Q-12・G	円形	1.18m	1.08m	0.31m	N-13°-W	43	35	58
2 108	土坑	中世以降 時期不明	R-12・13・G	長方形	0.90m	0.43m	0.14m	N-38°-E	62	54	-
2 109	土坑	縄文時代中期か	Q-14・G	楕円形	0.70m	0.53m	0.38m	N-31°-W	43	35	34・91
2 110	土坑	6号住居の跡と判明									
2 111	土坑	縄文時代6号住居の柱穴の可能性	Q-14・G	不整形	0.90m	0.55m	0.21m	N-40°-W	35	33	-
2 112	土坑	縄文時代中期か	Q-14・G	楕円形	0.85m	0.51m	0.32m	N-33°-W	35	33	-
2 113	土坑	縄文時代6号住居の柱穴の可能性	Q・R-14・G	楕円形	0.89m	0.58m	0.30m	N-6°-W	35	33	32
2 114	土坑	縄文時代中期か	Q-14・G	楕円形	0.86m	0.39m	0.30m	N-39°-E	44	35	-
2 115	土坑	縄文時代中期か	S-14・G	方形	0.46m	0.42m	0.16m	N-33°-E	44	35	-
2 116	土坑	縄文時代中期か	Q・R-14・G	楕円形	1.12m	1.11m	0.90m	N-60°-E	42	34	34
1 1	溝	中世以降 時期不明	C-4・E-7・G	皿状	0.68m	0.29m	0.09m	N-54°-W	53	43	38
1 2	溝	中世以降 時期不明	C-4・E-7・G	皿状	0.99m	0.40m	0.07m	N-50°-W	53	43	38・46
1 3	溝	中世以降 時期不明	L-13~M-13・G	浅い溝形	0.41m	0.26m	0.12m	N-61°-W	54	44	38
1 4	溝	中世以降 中近世か?	J-8~L-11・G	U字形	0.66m	0.35m	0.07m	N-66°-W	51	42	39
1 5	溝	中世以降 中近世か?	F-9~J-7・G	箱形	0.83m	0.50m	0.15m	N-22°-E	53	42	39・40
1 6	溝	中世以降 時期不明	F-3~J-4・G	U字形	0.66m	0.43m	0.32m	N-23°-W	55	45	40
1 1	井戸	中世	M-9・G	円形	1.74m	1.56m	2.82m	N-62°-W	51	41	40
1 1	ピット	中世以降 時期不明	B-5・G	楕円形か	0.38m以上	0.48m	0.21m	N-35°-E	65	48	-
1 2	ピット	中世以降 時期不明	K-8・G	楕円形	0.50m以上	0.43m	0.14m	N-20°-E	65	47	41
1 3	ピット	中世以降 時期不明	J-9・G	楕円形	0.26m	0.25m	0.48m	N-75°-W	65	49	44
1 4	ピット	中世以降 時期不明	J-9・G	楕円形	0.41m	0.36m	0.50m	N-23°-W	65	54	50
1 5	ピット	中世以降 時期不明	O-12・G	楕円形	0.39m	0.32m	0.36m	N-40°-W	65	54	50
1 1	風筒木	縄文以降	B-5・G	不整形	0.84m以上	1.47m	0.41m	計測不明	65	55	-

遺構一覧表・遺物観察表

2. 中西原遺跡 遺物出土一覧表

区	遺構名称	時 期	縄文	田	諸	諸	興	前	前	阿	E	E	E	唐	内	小	実	重	中	実
			文	戸	b	c	津	期	期	玉	2	3	4	原	壺	計	測	査	世	測
1	1 住居	縄文時代中期 加曾利E 2式	2	1		1		1	1	1	373			208	50	1	629	54		
欠番	35 土坑		1								31		22				54	1	1	
欠番	36 土坑							1	1		35		34				71			
1	2 住居	平安時代															0			
1	3 住居	縄文時代前期 諸磯式	1			6		2	1	47			40	10			107	8		
1	4 住居	縄文時代前期 諸磯式	1		1	37		3	22	2	7			2			75	23		
1	5 住居	縄文時代中期 加曾利E 2式						1			8						9	5		
2	6 住居	縄文時代中期 加曾利E 4式				1					8	4	8	14	1		36	11		
1	1 土坑	中世以降 中近世か?															0			
1	2 土坑	中世以降 中近世か?									1						1	1		
1	3 土坑	中世以降 中近世か?											2				2			
1	4 土坑	中世以降 中近世か?															0			
1	5 土坑	中世以降 時期不明															0			
1	6 土坑	中世以降 時期不明												1			0			
1	7 土坑	中世以降 時期不明															1	1		
1	8 土坑	中世以降 時期不明												1			0			
1	9 土坑	中世以降 時期不明				1								1			2	3		
1	10 土坑	中世以降 時期不明															1			
1	11 土坑	中世以降 時期不明				1											0			
1	12 土坑	中世以降 時期不明									2						2	1		
1	13 土坑	中世以降 中近世か?												1			1	1		
1	14 土坑	中世以降 中近世か?															0			
1	15 土坑	中世以降 中近世か?															0			
1	16 土坑	中世以降 中近世か?															0			
1	17 土坑	中世以降 時期不明						1			1			1			3		1	
1	18 土坑	中世以降 時期不明															0			
1	19 土坑	中世以降 時期不明									1						1			
1	20 土坑	中世以降 中近世か?												1			1			
1	21 土坑	中世以降 中近世か?						2						1			1	3		
1	22 土坑	中世以降 中近世か?												1			1			
1	23 土坑	中世以降 時期不明												1			1			
1	24 土坑	中世以降 時期不明									1						1	1		
1	25 土坑	中世以降 中近世か?															0			
1	26 土坑	中世以降 時期不明															0			
1	27 土坑	中世以降 時期不明															0			
1	28 土坑	縄文前期 4住より古い												1			1			
1	29 土坑	縄文か?				1					1						2			
1	30 土坑	中世以降 時期不明												3			3			
1	31 土坑	中世以降 中近世か?															0			
1	32 土坑	中世以降 時期不明									1						1			
1	33 土坑	中世以降 時期不明															0			
1	34 土坑	中世以降 中近世か?	1								1			1			3			
欠番	35 土坑																			
欠番	36 土坑																			
1	37 土坑	縄文												1			1	1		
1	38 土坑	中世以降 時期不明															0			
1	39 土坑	中世以降 時期不明									1						1			
1	40 土坑	中世以降 時期不明															0			
1	41 土坑	中世以降 中近世か?				1					2		2				5	1		
1	42 土坑	中世以降 中近世か?									1						1			
1	43 土坑	中世以降 時期不明															0			
1	44 土坑	中世以降 時期不明															0			
欠番	45 土坑																0			
欠番	46 土坑																0			
1	47 土坑	中世以降 中近世か?															0			
欠番	48 土坑																0			
1	49 土坑	中世以降 中近世か?												2			2			
1	50 土坑																0			
1	51 土坑	中世以降 時期不明															0			
欠番	52 土坑																0			
1	53 土坑	中世以降 中近世か?											2	1			3	1		
1	54 土坑	中世以降 中近世か?									1						1	1		
1	55 土坑	中世以降 中近世か?												1			1			
1	56 土坑	中世以降 中近世か?															0			
1	57 土坑	中世以降 時期不明															0			
1	58 土坑	中世以降 時期不明															0			
1	59 土坑	中世以降 中近世か?															0			
1	60 土坑	中世以降 中近世か?				1											1			
1	61 土坑	中世以降 中近世か?															0			
欠番	62 土坑																1			
1	63 土坑	中世以降 中近世か?									1						1			

2. 中西原遺跡 遺物出土一覧表

区	遺構名称	時 期	標高 文	田 戸 下	開 山 口	諸 c	下 島	興 津	前 期 後	前 期 末	勝 坂	阿 玉 台	E 2	E 3	E 4	E 5	唐 草 文	浅 鉢	円 盤	小 計	実 測 数	土 師 器	重 宝 器	中 世 土 器	実 測 数
1	64 土坑	縄文時代中期											3	1		7				11	2				
欠番	65 土坑																			0					
1	66 土坑	中世以降 時期不明															3			4					
1	67 土坑	中世以降 時期不明																1		2					
1	68 土坑	中世以降 中近世か?							1											3					
欠番	69 土坑																			0					
1	70 土坑	縄文時代前期																		2					
1	71 土坑	中世以降 時期不明																		0					
1	72 土坑	中世以降 中近世か?																		0					
1	73 土坑	中世以降 時期不明																		1					
1	74 土坑	中世以降 時期不明																		0					
1	75 土坑	中世以降 時期不明																		0					
1	76 土坑	中世以降 時期不明																		1					
1	77 土坑	中世以降 時期不明																		1					
1	78 土坑	中世以降 時期不明																		2	1				
1	79 土坑	中世以降 中近世か?																		0					
1	80 土坑	中世以降 中近世か?																		3	4	2			
1	81 土坑	中世以降 中近世か?																		9					
1	82 土坑	中世以降 中近世か?																		1					
1	83 土坑	中世以降 中近世か?	1										1							2					
1	84 土坑	中世以降 中近世か?																		0					
1	85 土坑	中世以降 中近世か?																		0					
1	86 土坑	中世以降 中近世か?																		4	2				
1	87 土坑	中世以降 中近世か?																		0					
1	88 土坑	中世以降 中近世か?																		0					
1	89 土坑	中世以降 中近世か?																		0					
1	90 土坑	中世以降 時期不明																		0					
1	91 土坑	中世以降 中近世か?																		0					
1	92 土坑	中世以降 時期不明																		1					
1	93 土坑	中世以降 時期不明							1											3					
1	94 土坑	中世以降 中近世か?																		0					
1	95 土坑	中世以降 時期不明																		0					
1	96 土坑	中世以降 時期不明																		0					
1	97 土坑	1号住居の幸と判明																		4					
1	98 土坑	中世以降 時期不明																		0					
1	99 土坑	中世以降 時期不明																		0					
1	100 土坑	中世以降 時期不明																		0					
1	101 土坑	中世以降 時期不明																		0					
2	102 土坑	縄文時代中層か																		3					
2	103 土坑	縄文時代中層か	1																	3	1				
2	104 土坑	縄文時代6号住居の柱穴の可能性																		1					
2	105 土坑	縄文時代中層か																		0					
2	106 土坑	中世以降 時期不明																		1	1				
2	107 土坑	縄文時代中層か																		1	1				
2	108 土坑	中世以降 時期不明																		0					
2	109 土坑	縄文時代中層か																		2	1				
2	110 土坑	6号住居の幸と判明																		0					
2	111 土坑	縄文時代6号住居の柱穴の可能性																		4					
2	112 土坑	縄文時代中層か																		8	3				
2	113 土坑	縄文時代6号住居の柱穴の可能性																		0					
2	114 土坑	縄文時代中層か																		0					
2	115 土坑	縄文時代中層か																		0					
2	116 土坑	縄文時代中層か																		4					
1	1 溝	中世以降 時期不明																		0					
1	2 溝	中世以降 時期不明																		0					
1	3 溝	中世以降 時期不明																		0					
1	4 溝	中世以降 中近世か?																		0					
1	5 溝	中世以降 中近世か?																		0					
1	6 溝	中世以降 時期不明																		0					
1	1 井戸	中世																						1	
1	1 ビット	中世以降 時期不明																		0					
1	2 ビット	中世以降 時期不明																		1					
1	3 ビット	中世以降 時期不明																		0					
1	4 ビット	中世以降 時期不明																		0					
1	5 ビット	中世以降 時期不明																		0					
1	1 風機木	縄文以降																		0					
1区遺構外			3				7	1					81	14	1	80	4		1	192	33	6			1
2区遺構外			2	1		1	1		3	1			101	11	19	77	4			221	34				
3区遺構外													12	2	1	12	1			28	4				
			14	1	1	1	59	1	6	35	2	1	2	745	33	35	546	15	63	2	1563	190			

3. 遺物観察表

石器観察表

種別	番号	写真	出土地点	器種	備考	石材	長さ (cm)	幅(cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作状況・使用状況
第108回	1	PL-52	2区TP1 No.2	剥片		チャート	2.7	2.8	0.6	5.3	剥片端部には右様底面を構成した広い剥離面が部分的に残る。右辺側表面の小剥離面は意図的な加工と不明。
第108回	2	PL-52	1区TP4 No.1	剥片		黒色頁岩	1.2	2.7	0.5	1.1	裏面側が被熱剥離面で見られる。小片で詳細不明。
第108回	3	PL-52	1区TP4 No.2	剥片		ホルンフェルス	4.9	2.1	1.2	14.3	打点位置が不明瞭で詳細は不明。本来的にはローム材中になく石材であり、敲石破片あるいは敲石形成破片としての可能性が想定される。
第128回	1	PL-52	1区TP3 No.2	ナイフ形石器		黒色頁岩	4.5	2.0	0.7	6.04	角縁部は右様で内蔵したもので、敲石破片等の痕跡は見られない。本来的にはローム材中になく石材であり、敲石破片あるいは敲石形成破片としての可能性が想定される。
第128回	2	PL-52	1区TP3 No.13c	剥片		黒色頁岩	2.0	2.3	0.3	1.3	打点を左右に振り剥離。打点は背面を構成する剥離面の左上から外れる。剥片端部はヘンジ状を呈し、不要剥片の部類に属す。
第128回	3	PL-52	1区TP3 No.1	敲石		粗粒輝石安山岩	10.3	6.6	3.9	348.4	小片部上端・側縁に敲石面がある。被熱してひび割れる。
			1区TP3 No.3	剥片	1号遺部	粗粒輝石安山岩	2.1	1.7	0.3	1.6	太い糸で剥離した小片。
			1区TP3 No.4	剥片	1号遺部	ホルンフェルス	11.3	6.8	5.3	449.5	角縁部は右様で内蔵したもので、敲石破片等の痕跡は見られない。
			1区TP3 No.5	剥片	1号遺部	(11.2) (7.8)	4.8	4.7	0.2	470.2	大型板状破片の破片で内蔵したもので、被熱剥離なし。
			1区TP3 No.6	剥片	1号遺部		8.0	6.9	4.4	392.2	角状破片の破片で内蔵したもので、被熱剥離なし。
			1区TP3 No.7	剥片	1号遺部		9.2	7.1	5.5	441.7	扁平な角状破片で、角縁部の破片が残る。被熱剥離なし。
			1区TP3 No.8	剥片	1号遺部	ホルンフェルス	12.3	8.5	6.9	962.8	角状破片。部分的にヒビ割れを以外、被熱剥離なし。
			1区TP3 No.9	剥片	1号遺部	粗粒輝石安山岩	8.6	8.9	5.7	490.3	裏面側が平削られ、全体として内蔵したもので、被熱剥離なし。
			1区TP3 No.10	剥片	1号遺部		8.5	7.6	6.4	511.0	角縁部が平削られたもの。被熱剥離なし。
			1区TP3 No.11	剥片	1号遺部	粗粒輝石安山岩	9.6	9.3	6.9	818.5	角縁部が平削られたもの。被熱剥離なし。
			1区TP3 No.12	剥片	1号遺部		8.4	8.4	4.4	452.8	大型板状破片の破片で内蔵したもので、被熱剥離なし。
			1区TP3 No.13a	剥片	1号遺部	粗粒輝石安山岩	10.4	8.3	5.4	569.4	角縁部が平削られたもので、被熱剥離なし。
			1区TP3 No.13b	剥片	1号遺部	粗粒輝石安山岩	4.3	2.3	0.9	9.3	太い糸で剥離した小片。
			1区TP3 No.14	剥片	1号遺部	粗粒輝石安山岩	11.9	8.3	7.2	800.7	角縁部が平削られたもので、被熱剥離なし。

1区1号住居出土土器観察表 出土位置の層位は、上層：床面比高10cm以上 中層：床面比高3～10cm 床下：床面比高0～2cm

種別	番号	写真	出土位置	器種	残存	胎土	色調	焼成	文様の特徴	備考
第108回	1	PL-52	中層土層	深鉢	上層	粗砂、チャート、黒曜、白色粒	良好	良好	1区TP27.3cm、横位降帯をめぐらして1区TP27.3cmを区画し、降帯による横位降帯を充填文とする。横位降帯に横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。	加賀利E2式
第108回	2	PL-52	中層土層	深鉢	上層	粗砂、チャート、黒曜、白色粒	良好	良好	横位降帯をめぐらして1区TP27.3cmを区画し、降帯による横位降帯を充填文とする。横位降帯に横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。	加賀利E2式
第108回	3	PL-52	中層土層	深鉢	上層	粗砂、チャート、黒曜、白色粒	良好	良好	横位降帯をめぐらして1区TP27.3cmを区画し、降帯による横位降帯を充填文とする。横位降帯に横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。	加賀利E2式
第108回	4	PL-52	中層土層	深鉢	上層	粗砂、チャート、黒曜、白色粒	良好	良好	横位降帯をめぐらして1区TP27.3cmを区画し、降帯による横位降帯を充填文とする。横位降帯に横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。	加賀利E2式
第108回	5	PL-52	中層土層	深鉢	上層	粗砂、チャート、黒曜、白色粒	良好	良好	横位降帯をめぐらして1区TP27.3cmを区画し、降帯による横位降帯を充填文とする。横位降帯に横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。	加賀利E2式
第108回	6	PL-52	中層土層	深鉢	上層	粗砂、チャート、黒曜、白色粒	良好	良好	横位降帯をめぐらして1区TP27.3cmを区画し、降帯による横位降帯を充填文とする。横位降帯に横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。	加賀利E2式
第108回	7	PL-53	中層土層	深鉢	上層	粗砂、チャート、黒曜、白色粒	良好	良好	横位降帯をめぐらして1区TP27.3cmを区画し、降帯による横位降帯を充填文とする。横位降帯に横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。	加賀利E2式
第108回	8	PL-53	中層土層	深鉢	上層	粗砂、チャート、黒曜、白色粒	良好	良好	横位降帯をめぐらして1区TP27.3cmを区画し、降帯による横位降帯を充填文とする。横位降帯に横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。	加賀利E2式
第108回	9	PL-53	中層土層	深鉢	上層	粗砂、チャート、黒曜、白色粒	良好	良好	横位降帯をめぐらして1区TP27.3cmを区画し、降帯による横位降帯を充填文とする。横位降帯に横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。	加賀利E2式
第108回	10	PL-53	中層土層	深鉢	上層	粗砂、チャート、黒曜、白色粒	良好	良好	横位降帯をめぐらして1区TP27.3cmを区画し、降帯による横位降帯を充填文とする。横位降帯に横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。	加賀利E2式
第108回	11	PL-53	中層土層	深鉢	上層	粗砂、チャート、黒曜、白色粒	良好	良好	横位降帯をめぐらして1区TP27.3cmを区画し、降帯による横位降帯を充填文とする。横位降帯に横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。	加賀利E2式
第108回	12	PL-53	中層土層	深鉢	上層	粗砂、チャート、黒曜、白色粒	良好	良好	横位降帯をめぐらして1区TP27.3cmを区画し、降帯による横位降帯を充填文とする。横位降帯に横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。	加賀利E2式
第108回	13	PL-53	中層土層	深鉢	上層	粗砂、チャート、黒曜、白色粒	良好	良好	横位降帯をめぐらして1区TP27.3cmを区画し、降帯による横位降帯を充填文とする。横位降帯に横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。	加賀利E2式
第108回	14	PL-53	中層土層	深鉢	上層	粗砂、チャート、黒曜、白色粒	良好	良好	横位降帯をめぐらして1区TP27.3cmを区画し、降帯による横位降帯を充填文とする。横位降帯に横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。	加賀利E2式
第108回	15	PL-53	中層土層	深鉢	上層	粗砂、チャート、黒曜、白色粒	良好	良好	横位降帯をめぐらして1区TP27.3cmを区画し、降帯による横位降帯を充填文とする。横位降帯に横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。	加賀利E2式
第108回	16	PL-53	中層土層	深鉢	上層	粗砂、チャート、黒曜、白色粒	良好	良好	横位降帯をめぐらして1区TP27.3cmを区画し、降帯による横位降帯を充填文とする。横位降帯に横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。	加賀利E2式
第108回	17	PL-53	中層土層	深鉢	上層	粗砂、チャート、黒曜、白色粒	良好	良好	横位降帯をめぐらして1区TP27.3cmを区画し、降帯による横位降帯を充填文とする。横位降帯に横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。	加賀利E2式
第108回	18	PL-53	中層土層	深鉢	上層	粗砂、チャート、黒曜、白色粒	良好	良好	横位降帯をめぐらして1区TP27.3cmを区画し、降帯による横位降帯を充填文とする。横位降帯に横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。横位降帯を充填文とする。	加賀利E2式

3. 遺物観察表

第177回	19	PL-53	埋設土上層	深鉢	口縁部破片	細砂、黒色粒	にぶい黄褐色	ふつう	蛇行する縦位線を施す。	加曽利E 2式
第177回	20	PL-53	北部中層	深鉢	口縁部破片	細砂、白色粒	にぶい黄褐色	ふつう	無文。外面赤彩。	加曽利E 2式
第178回	21	PL-53	北東部上層	深鉢	口縁部破片	粗砂、細礫、黒色粒	明赤褐色	良好	無文。口縁外端が肥厚する。内外面研磨。	加曽利E 2式
第178回	22	PL-53	南東部東縁床直	向耳か	口縁部破片	粗砂、白色粒、黒色粒	褐色	良好	口縁の無文部。	加曽利E 2式
第178回	23	PL-53	伊予内西縁床直	深鉢	口縁部破片	粗砂、チャート細礫、黒色粒	にぶい黄褐色	ふつう	無文。口縁外端が肥厚する。	加曽利E 2式
第178回	24	PL-53	北部上層	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、黒色粒	にぶい黄褐色	良好	標準文Lを縦位線とし、斜行する沈線を施す。	加曽利E 2式
第178回	25	PL-53	北部上層	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫、白色粒、黒色粒	褐色	良好	屈曲部に2条沈線めがらして区画、沈線下にR Lを縦位線とする。	加曽利E 2式
第178回	26	PL-53	中央部やや中層・上層の土器が接合	深鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒	にぶい赤褐色	良好	L Rを縦位線とし、屈曲部に降帯めがらす。	加曽利E 2式
第180回	27	PL-53	東部中層	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫、白色粒、黒色粒	褐色	ふつう	R L縦位線文を地文とし、2条沈線による弧状モチーフ、単沈線による対向する逆弧状文を描く。	加曽利E 2式
第180回	28	PL-53	東部上層	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫、白色粒、黒色粒	褐色	ふつう	27と同一個体。区画内にワラビ文を充填する。	加曽利E 2式
第180回	29	PL-53	中央部やや中層・上層	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫、白色粒、黒色粒	褐色	ふつう	27と同一個体。	加曽利E 2式
第180回	30	PL-53	伊予内南部床直	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫、白色粒、黒色粒	褐色	ふつう	27と同一個体。	加曽利E 2式
第180回	31	PL-53	北部埋設直・南東部埋設直の中層出土土器・北東部上層の土器が接合	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、黒色粒	にぶい黄褐色	ふつう	R L縦位線文を地文とし、3条沈線による懸垂文を施す。	加曽利E 2式
第180回	32	PL-53	東部埋設直・中層・北部出土土器が接合	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、黒色粒	にぶい黄褐色	ふつう	31と同一個体。	加曽利E 2式
第180回	33	PL-53	北東部埋設直	深鉢	胴部破片	粗砂、チャート細礫	赤褐色	良好	R L斜位線文を地文とし、複数条の沈線により円状モチーフを描く。	加曽利E 2式
第180回	34	PL-53	北部中層	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、黒色粒、石炭	にぶい赤褐色	良好	R Lを縦位線とし、沈線による蛇行懸垂文を施す。	加曽利E 2式
第180回	35	PL-53	南東部埋設直	深鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒	にぶい黄褐色	良好	複座R L R縦位線文を地文とし、弧状、弧状の沈線を施す。	加曽利E 2式
第180回	36	PL-53	北部上層	深鉢	胴部破片	細砂	明黄褐色	ふつう	縦位線を地文とし、縦位、弧状の沈線を施す。	加曽利E 2式
第180回	37	PL-54	中央部やや中層・上層の土器が接合	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫	褐色	良好	縦位、斜位線を地文とし、沈線による逆弧状モチーフを描く。	加曽利E 2式
第180回	38	PL-54	北部中層・上層の土器が接合	深鉢	胴部破片	粗砂、チャート細礫	黄褐色	良好	縦位線を施し、2条沈線で弧状モチーフを描く。	加曽利E 2式
第180回	39	PL-54	中央やや西上層	深鉢	胴部破片	粗砂、チャート中礫	褐色	ふつう	縦位線を施し、4条沈線による弧状モチーフを描く。	加曽利E 2式
第180回	40	PL-54	中央部中層	深鉢	胴部破片	細砂、黒色粒、石炭	明赤褐色	良好	縦位線を施す。	加曽利E 2式
第180回	41	PL-54	中央やや西上層	深鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒	黄褐色	良好	蛇行する縦位線を施す。	加曽利E 2式
第180回	42	PL-54	伊予内西縁床直	深鉢	胴部破片	細砂、黒色粒	にぶい黄褐色	ふつう	縦位線を施し、降帯めがらす。	加曽利E 2式
第180回	43	PL-54	伊予内北部床直	深鉢	胴部破片	粗砂、細礫、黒色粒	明赤褐色	良好	R Lを縦位線とし、降帯による蛇行懸垂文を施す。	加曽利E 2式
第180回	44	PL-54	北東部埋設直、伊予内北部出土土器と接合	深鉢	胴部破片	細砂、細礫	褐色	良好	底部隙の部位。R Lを縦位線とし、3条沈線による懸垂文を施す。	加曽利E 2式
第180回	45	PL-54	東部埋設直・南東部埋設直	深鉢	底部破片	粗砂、チャート細礫	褐色	ふつう	R L縦位線文を地文とし、3条沈線による懸垂文を施す。	加曽利E 2式
第180回	46	PL-54	伊予内西部床直に数枚の破片が接合	深鉢	底部破片	粗砂、チャート細礫	褐色	ふつう	R L縦位線文を地文とし、3条沈線による懸垂文を施す。	加曽利E 2式
第190回	47	PL-54	伊予内西縁床直	深鉢	底部破片	粗砂	明赤褐色	良好	底径10.0cm。R L縦位線文を地文とし、斜位の短沈線を底径に準ずる沈線を垂下させる。	加曽利E 2式
第190回	48	PL-54	北東部埋設中層	深鉢	底部破片	粗砂、細礫、白色粒、黒色粒	赤褐色	良好	標準文L縦位線文を地文とし、沈線による懸垂文を施す。	加曽利E 2式
第190回	49	PL-54	中央やや西上層の遺物と北部の縁床直遺物が接合	ミニチュア	口縁部破片	細砂	褐色	良好	推定口径7.0cm。口縁下に1条の沈線をめがらす。口内面、外面より研磨される。	加曽利E 2式
第190回	50	PL-54	北東部上層	ミニチュア	胴部破片	細砂	褐色	良好	めと同一個体。肥手状の破片が見られる。赤彩。	加曽利E 2式
第190回	51	PL-54	南東部、中層	土製丸	完形	細砂、白色粒、黒色粒	褐色	良好	長径2.4cm、短径2.2cmのほぼ正円形。厚さ1.2cm。外縁がよく磨かれている。	加曽利E 2式

1区1号住居出土土器観察表

種別	番号	写真	出土地点	器種	備考	石材	長さ (cm)	幅(cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作状況・使用状況
第190回	52	PL-54	1区遺構縁面直上	楔形石器		黒色安山岩	2.7	2.5	0.8	6.6	表面と底面とも対向する刃縁面がある。右刃縁縁線に平坦面を残しているが、腹面は鋭利形状を呈する。
第190回	53	PL-54	北部床直面上	石蔵	凹基無蓋蓋	黒色安山岩	1.6	(1.6)	0.3	0.6	完成状態?先端部右辺が変形。再生加工している可能性が否定できない。左辺部の刃部を欠損。
第190回	54	PL-54	中央やや西上層	打製石片	短棒型	細粒輝石安山岩	(4.6)	4.7	1.5	4.2	完成状態。磨く?刀部摩耗している。刃部破片。
第190回	55	PL-54	中央やや西中層	打製石片	短棒型	黒色頁岩	(7.0)	4.1	1.2	37.4	本製品?表面は新鮮。裏面磨・細粒加工の段階で破損した可能性が高い。割部破片。
第190回	56	PL-54	中央やや西上層	打製石片	短棒型	細粒輝石安山岩	(7.1)	5.0	1.1	39.4	完成状態?右縁は磨かれ、摩耗しているように見えるが、加工量は少なく、詳細は不明。割部破片。
第190回	57	PL-54	東部埋設中層	石核	角柱状変形 備	黒色頁岩	5.3	8.5	高さ 5.6	290.2	大割した平坦面。平坦な面を打面として、小型破片、破片を剥離する。
第190回	58	PL-54	北部上層	打製石片	短棒型	灰色安山岩	10.6	5.0	2.3	119.1	完成状態。刃部再生を試みており、大きく変形。縁線は磨く?磨く?やや開き気味。刃部に最大幅を有する。
			中央やや西中層	加工痕あり破片	幅広、剥片	黒色頁岩	4.6	4.9		50.5	加工痕あり：断部

遺構一覽表・遺物觀察表

		中央や中・南層	加工面ある崩片	石核	チャート	3.7	4.2	18.4	加工痕跡：割器？	
		埋没土中	加工面ある崩片	幅広割片	チャート	1.9	3.8	6.5	加工痕跡：割器？	
		埋没土中	加工面ある崩片	幅広割片	細粒輝石安山岩	3.5	8.7	90.8	加工痕跡：不明	
第19図	59	PL.54	砂土位上層	凹石	偏平楕円薄	細粒輝石安山岩	10.3	8.8	4.5	567.8
									表面面とも著しく摩耗するほか、背面側に浅いU-ロット状を刻する1枚の凹石状にする孔の痕跡あり。側面打痕。	
第19図	60	PL.54	東側埋没層直	凹石	偏平楕円薄	細粒輝石安山岩	(6.9)	(6.3)	3.5	194.3
									表面面とも浅いU-ロット状にする孔の痕跡あり。摩耗は他の内面より、左側面には数行・摩耗による平坦面が形成されている。	
第19図	61	PL.54	北西中層	磨石	偏平楕円薄	細粒輝石安山岩	(9.8)	8.3	3.8	376.4
第19図	62	PL.54	砂土位中層	磨石	棒状薄	石英閃岩岩	15.6	6.6	4.6	876.9
									両側面とも、摩耗痕が著しい。上端小凹部に打痕がある。表面面に数行・摩耗痕が数行ある。激しく使用した結果、鋭縁部に似た縁が形成されたものとすることができる。	
		PL.54	中央やや東中層	磨石？	楕円薄	細粒輝石安山岩	(5.9)	(3.6)		134.7
									部分的に摩耗面がある。突強して面が脱落する。	
第19図	63	PL.54	中央やや東中層	磨石	棒状薄	雲母石英片岩	19.3	5.1	5.1	700.2
第19図	64	PL.54		磨石	棒状薄	雲母石英片岩	15.7	3.7	4.6	235.2
									小凹内面に数行打。下側面破片は35土層から出土。小凹内面破片に付する衝刺摩滅面があるほか、側面に面・面がある。	
第19図	65	PL.54	中央やや北東層	多孔石	棒状薄	細粒輝石安山岩	(23.4)	(15.6)	10.3	4900
									背面面とも著しく摩耗する。背面側側縁部・後面面にも著しく、孔内面は所々に転角したようにはみえない。	

1区3号住居出土土器觀察表

時期	番号	写真	出土位置	器種	残存	胎土	色調	状態	文様の特徴等	備考
第21期	1	PL-55	南東隅埋没面直上	深鉢	ほぼ完成形 粗砂、微塵	にぶい・黄緑	ぶつう		L径26.5cm、底径9.0cm、高35.0cm。胴下位が膨らみ、L縁に向かつて外反しながらL縁が鋭く内湾する器形。 縦紋集合沈線をめぐらしながらL縁部と文様帯との区画。 縦紋集合沈線を施す。L縁部はL縁部に鋭角とヤスリ状の細かな文様帯を区画。 L縁部には縦刻みの集合沈線。胴部に縦むき面や横ムシ、内部名刺の集合沈線を施す。L縁部は4単位に1個1組の附付文。さらに胴部に一列り低い1個の附付文を付す。2個1組、1個の附付文の両脇に2個ずつ、2個1組の附付文を配す。2個1組と1個の附付文に1個のボタンス見附文を付す。底文に刻みにめくらを打つ。	諸儀c式
第21期	2	PL-55	中央やや南東部深面直上	深鉢	L縁へ斜中位/3	粗砂、黒色粒	にぶい・黄緑	ぶつう	L径28.3cm、L縁に向かつて外反しながら、L縁部が鋭く内湾する器形。縦紋集合沈線をめぐらし文様帯を区画。 L縁部はL縁部に鋭角の集合沈線。胴部に縦むき面や横ムシ、内部名刺の集合沈線を施す。L縁部は4単位に1個1組の附付文。さらに胴部に一列り小形の附付文を1個付す。2個1組の附付文の両脇に2個ずつ、1個の附付文の両端、下に凹を食ったボタンス見附文を付す。L縁部が刻みにめくらを打つ。底文に丸を模範を打つ。	諸儀c式
第21期	3	PL-55	I号住居埋没土中	深鉢	L縁部破片 粗砂、微塵	にぶい・青	ぶつう		L縁部と波面筋が強く内湾する。L縁部に沿って沈線をもぐらし、集合沈線帯を作出。文様帯内は気吹沈線を備え、余白に集合沈線を施す。L口唇部にも斜位の集合沈線を施す。	諸儀c式
第21期	4	PL-55	埋没土中	深鉢	胴部破片		にぶい・青	良好	3と同一体。	諸儀c式
第21期	5	PL-55	埋没土中	深鉢	胴部破片	粗砂	にぶい・青	良好	縦目、縦目、斜位の集合沈線を施す。	諸儀c式
第21期	6	PL-55	埋没土中	浅鉢	胴部破片	粗砂、黒色粒	にぶい・赤	良好	内外面研削。	前期後葉
第21期	7	PL-55	伊予内蔵末直上	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒、石英	明赤褐	良好	無彫しrを模範文とする。	前期後葉
第21期	8	PL-55	南東部末直上~I27cm	深鉢	胴部破片	粗砂、白粉	良好	良好	rを模範文とする。	前期後葉

1区3号住居出土石器观察表

神居	番号	写真	出土地点	部種	備考	石材	長さ (cm)	幅(cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	製作状況・使用状況
第22回	9	PL.55	北野聖徳寺直上	石蔵	門基無茅藏	黒曜石	2.4	1.8	0.4	1	完成状態。基部を深くU字に決る。焼酎で磨る。
第22回	10	PL.55	P5南縁床面下1cm	石蔵	門基無茅藏	黒曜石	2.2	1.5	0.3	0.7	完成状態。基部を深くU字に決る。基部隅の返し部を欠損。被焼で表面が溶け出ている。
第22回	11	PL.55	西野聖徳寺直上3cm	石蔵	門基無茅藏	黒曜石	2.3	(1.4)	0.3	0.6	未割型？加工状態が不明。完成状態に近い。左辺隅の返し部を欠損。
		PL.55	伊予南縁床面下10cm	石蔵	門基無茅藏	黒曜石	(1.8)	(1.2)	0.3	0.4	完成状態。左辺隅返し部を欠損。
第22回	12	PL.55	南上野聖徳寺直上3cm、 深緑の下位。	石蔵	不明	黒曜石	2.6	2.9	1.0	6.8	未割型。加工が粗く、裏面側には素材割面を大きく残す。全体的に平手で、加工途中に製作を放棄。
第22回	13	PL.55	埋没土中	石蔵(ドリル)		チャート	(2.5)	(0.6)	0.4	0.7	黒曜石から打り欠き、断面変形状の機能部を作出。先端は摩耗。組み部を欠損する。
第22回	14	PL.55	南野聖徳寺直上10cm	打製石斧	短鋤型	黒色頁岩	11.4	4.6	1.6	100.5	完成状態。両側摩耗が著しいほか、器体中央付近の摩耗も著しく、磨しく使っている。
第22回	15	PL.55	伊上野聖徳寺直上54cm	打製石斧	短鋤型	黒色頁岩	12.6	5.1	1.4	108.3	完成状態。両側摩耗、擦磨跡は明らか。裏面側縁は摩耗が強く、器体リブタタキは明らか。
第22回	16	PL.55	埋没土中	打製石斧	短鋤型	黒色頁岩	(6.1)	4.6	1.1	40.6	完成状態？割面側は新鮮で、使用状態にないことは確実だが、頭部表面より詳細は明らかでない。
		PL.55	南東奥聖徳寺直上12cm	石核	鋤型	黒曜石	1.7	2.6		5	小型割片割面
		PL.55	南東奥聖徳寺直上1cm	加工面ある 割片	縦長割片	黒色頁岩	5.3	9.7		77.1	加工原因：削器
		PL.55	南西面	加工面ある 割片	幅広割片	黒色安山岩	4.7	3.9		26.6	加工原因：削器？
第22回	17	PL.55	北東奥聖徳寺直上25cm	石割片	扁平磨	新乾舞石安山岩	12.7	11.2	1.9	263.2	右辺中央が磨き上げられるほか、先端側エッジが研磨され、鋭く、縁が形成。背面側は焼酎で黒く変色する。
第22回	18	PL.55	北東奥聖徳寺直上3cm	石割片	扁平磨	牛伏砂岩	10.6	9.2	2.7	253.6	裏面側面と左端位に深い溝状の窪み数箇所があるほか、背面中央付近の鋭く窪む。背面中央付近の窪みは比較的平滑だが、溝状の窪みは荒れており、両端によるものか判断が難しい。部分的に被焼している。
第22回	19	PL.55	南東奥聖徳寺直上3cm、 深緑の下位。	石皿	定型	新乾舞石安山岩	24.6	16.2	7.5	3900	使用部は深く、底部の磨石とセットで使用されたものと見られる。両側面とも直線的で、磨き磨かれたものであろう。裏面側に偏平状の孔を穿つ。磨面から裏面側は被焼で黒く変色。
第22回	20	PL.55	南東部P7上位床面	台石	横門磨	新乾舞石安山岩	27.9	24.0	14.7	12800	裏面側とも著しい摩耗痕。裏面側中央付近に最打痕。

1区4号住居出土土器観察表

持因	遺物番号	写真	出土位置	器形	残存	胎土	色調	焼成	文様の特徴等	備考
第26回	1	PL-56	全体土器断面直上	深鉢	割部	細砂	にぶい黄褐色	良好	縦位区画、レンズ状、内部充填の集合沈線を描く。	諸磯c式
第26回	2	PL-56	全体土器胎の破片と91cm底直上15cmの破片が接合	浅鉢	口縁部破片	細砂、黒色粒	赤褐色	良好	推定口径25.5cm。口縁が内湾する器形。口縁部に円孔をめぐらす。内外面施文。	諸磯c式をめぐらす。内外面施文。
第26回	3	PL-56	中央部底面上23cm	深鉢	口縁部破片	粗砂、黒色粒	にぶい黄褐色	良好	底径11.5cmで口縁が短く外反するが、底部部のみ内湾する。集合沈線による横帯構成で、横帯間に羽状の集合沈線を充填施文する。底部部下に貼付文を付し、口縁部とともに半縦管内反による刺突を施す。	諸磯b～c式
第26回	4	PL-56	中央部底面上30cm	深鉢	口縁部破片	細砂	明赤褐色	良好	口縁内面肥厚。肩位、縦位集合沈線を描き、横帯、耳たをえ、斜紋状貼付文を付す。	諸磯c式
第26回	5	PL-56	北部住居内土坑2底面上18cm	深鉢	口縁部破片	粗砂、細砂	赤褐色	良好	横位集合沈線を描き、貼付文を付す。口縁内面を肥厚させ、斜位の集合沈線を描く。	諸磯c式
第26回	6	PL-56	南西部4西直上91cm	深鉢	割部破片	粗砂、片岩、チャート細砂	赤褐色	良好	集合沈線により縦位区画、区画内に縦位展開するモチーフを描く。	諸磯c式
第26回	7	PL-56	南部住居内土坑1底面上7cm	深鉢	割部破片	細砂	にぶい黄褐色	ふつう	8と同一個体。	諸磯c式
第26回	8	PL-56	南部喫煙器底面上6cm	深鉢	割部破片	細砂	にぶい黄褐色	ふつう	縦位区画、レンズ状文、内部充填の集合沈線を描く。	諸磯c式
第26回	9	PL-56	北部底面上25cm	深鉢	割部破片	細砂、黒色粒	黄褐色	良好	10と同一個体。	諸磯c式
第26回	10	PL-56	南部喫煙器底面上13cm	深鉢	割部破片	細砂、黒色粒	黄褐色	良好	縦位区画、レンズ状文、内部充填の集合沈線を描き、貼付文を付す。	諸磯c式
第26回	11	PL-56	全体土器下位	深鉢	割部破片	細砂、黒色粒	にぶい黄褐色	ふつう	縦位区画、レンズ状文、内部充填の集合沈線を描く。	諸磯c式
第26回	12	PL-56	東部喫煙器底面上3cm	深鉢	割部破片	細砂	にぶい黄褐色	ふつう	割下位の底部に向かつてすぼまる部位が、横位集合沈線を描くようにして区画、縦位展開するモチーフを描く。区画文にも施文される。	諸磯c式
第26回	13	PL-56	北壁際底面上7cm	深鉢	底部破片	粗砂、チャート細砂	黄褐色	良好	底径18.0cm。底部部下に縦位集合沈線を描くようにして割部文様帯をえ、縦位展開するモチーフを描く。	諸磯c式
第26回	14	PL-56	南部喫煙器底面上8cm	深鉢	底部破片	細砂、黒色粒	淡黄褐色	ふつう	底径17.8cm。残存部は無し。	諸磯c式
第26回	15	PL-56	南東部底面上13cm	深鉢	口縁部破片	粗砂、石英	黄褐色	良好	16と同一個体。底部部下に縦位の貼付文を付す。	諸磯c式
第26回	16	PL-56	中央部底面上28cm	深鉢	口縁部破片	粗砂、石英	黄褐色	良好	底径11.5cm。肥厚口縁で、肥厚部下に4条の縦位直線をめぐらす。肥厚部下はR1横位施文。	諸磯c式
第26回	17	PL-56	埋没土中	深鉢	割部破片	細砂	黄褐色	良好	縦位の貝殻縁文を密にめぐらす。	諸磯c式
第26回	18	PL-56	埋没土中	深鉢	割部破片	細砂	にぶい黄褐色	良好	粘土をめぐり上げるように施す円形刺突を縦位多段にめぐらす。	諸磯c式
第26回	19	PL-56	埋没土中	深鉢	割部破片	細砂、白色粒	にぶい黄褐色	ふつう	横位平行沈線を描く。	諸磯b式
第26回	20	PL-56	北部住居内土坑2底面上30cm	深鉢	割部破片	粗砂、チャート	黄褐色	良好	R1を横位施文する。	前期後葉
第26回	21	PL-56	南部喫煙器底面上直上	深鉢	割部破片	細砂	黒褐色	ふつう	R1を横位施文する。	前期後葉
第26回	22	PL-56	中央部・北部・西部の破片が接合。底面上120～30cm	深鉢	割部破片	粗砂、チャート、黒色粒、石英	明赤褐色	良好	R1を横位施文する。下位は無し。	前期後葉
第26回	23	PL-56	南東部底面上19cm	深鉢	割部破片	粗砂、黒色粒、石英	明赤褐色	良好	無し。	前期後葉

1区4号住居出土土器観察表

持因	番号	写真	出土地点	器種	備考	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	高さ(cm)	製作状況・使用状況
第26回	24	PL-56	南東部喫煙器底面上9cm	石蔵	凹基無牙蓋	黒曜石	2.3	1.6	0.4	0.7	完成状態。石蔵基部をU字状に大きく缺く。
第26回	25	PL-56	南東部底面上2cm	石蔵	凹基無牙蓋	黒曜石	2.1	(1.6)	0.2	0.6	未製品。器体は薄く、押圧割傷が器体を覆う。形状修正的な小割傷が傷ついていないことから、最終段階直前に返し部を欠損したものと考えられる。
第26回	26	PL-56	南部壁際底面上6cm	石蔵(下リル)	?	黒曜石	2.6	1.2	0.6	1.8	裏面側を平坦に、背面側内縁側を厚く加工して先端部を削り出す。裏面側先端部には内縁側面を削る。内縁側は見えない。
第26回	27	PL-56	埋没土中	石蔵(下リル)	?	チャート	4.4	1.7	1.1	8.2	内縁側を削り打ち欠き、厚い内側を削る。先端部には使用に伴う摩耗等は確認できない。
第26回	28	PL-56	南西部12西側底面上50cm	楔形石蔵	短辺削片	黒曜石	2.6	1.2	0.7	5	削片端部を削り加工して弧状内側を削る。右辺側の加工は直線的で、部分的に摩耗、欠損を帯びる。
第27回	29	PL-56	北東部7南直上47cm	加工直ある削片	短辺削片	黒曜石	3.9	2.3	1.0	8.2	加工意図は不明だが、最終的に裏面側面を加工する。それ以前の断面は裏面側で小型短辺削片を削る。石蔵として機能、背面側の内縁側面を重視するものと考えられる。
第27回	30	PL-56	南東部喫煙器底面上直上	削器	短辺削片	黒色頁岩	3.9	2.3	0.7	156.2	削片端部から左辺側に削り内側を削る。削片端部の内側は直線的で、部分的に摩耗、欠損を帯びる。
第27回	31	PL-56	埋没土中	石蔵	削片	黒曜石	2.3	2.6	1.1	6.5	裏面側で小型削片を削る。
第27回	32	PL-56	南東部喫煙器底面上19cm	石蔵	板状?	黒曜石	9.1	8.4	1.5	15.5	小型削片を削る。左辺側を加工。左辺側加工は裏面側の断面に近づく。
第27回	33	PL-56	南西部4東直上44cm	打製石片	短型型	ホルンフェルス	9.8	4.7	2.0	115.6	完成状態。刃部摩耗・擦傷等については不明瞭だが、左辺側・刃部のクダクダは明らかにある。
第27回	34	PL-56	中央部やや西直上160cm	磨製石片	乳房状	変玄武岩	(10.3)	(4.6)	2.8	176.3	全面を下側に研ぎ出して作出。断面には縦位による磨製断面がある。器体中央付近で破損。
			南東部26南東側底面上2cm	石蔵	削片	黒曜石	2.6	3.1	6.1	6.1	小型削片剥離
			埋没土中	加工直ある削片	削片	黒曜石	2.5	1.5	4.4	加工意図：不明	
			南西部8東直上10cm	加工直ある削片	短辺削片	黒色頁岩	7.8	5.9	83	加工意図：削器	
			南西部喫煙器底面上35cm	加工直ある削片	短辺削片	黒色頁岩	6.3	6.3	40.8	加工意図：削器	

遺構一覧表・遺物観察表

			北東部壁跡7cm	加工面ある 割片	幅広割片	黒色頁岩	4.5	5.7		38.4	加工意図：飾器
			埋没土中	加工面ある 割片	幅広割片	黒色頁岩	4.2	3.8		17.7	加工意図：不明
			北東部住居内土坑 2南縁底面上13cm	加工面ある 割片	小型割片	チャート	2.2	3.3		6.6	加工意図：石籠？
			南東部床面上10cm	加工面ある 割片	小型割片	黒曜石	1.6	2		2	加工意図：石籠？
第27回	35	PL-56	南西部P12底面上	最石	楕円礫	粗粒輝石安山岩	10.7	10.0	9.7	944.7	小10部、溝壁部に散打痕。焼熟して黒く変色。裏面側を大きく破損。
第27回	36	PL-56	北東部住居内土坑 2南縁底面上30cm	最石	扁平礫	粗粒輝石安山岩	11.3	8.0	4.1	436.1	表裏面とも磨耗。2ヶ所の集合打痕がある。右辺側のエッジは微く鋭利。これに伴う衝刺磨痕がある。
第27回	37	PL-57	北東部住居内土坑 2南縁底面上13cm	合石	楕円礫	粗粒輝石安山岩	(12.8)	22.6	6.4	2450	表裏面とも鋭く磨耗するほか、礫中央付近に打痕。
第27回	38	PL-57	南部床面上12cm	石籠？	有縁？	粗粒輝石安山岩	(10.3)	(6.7)	(4.9)	319.1	背面側に散打がみられる。小破片であるため断言できないが、礫面は微妙に窪み。右面として捉えた。
第27回	39	PL-57	北西部P11底面上 2cm	多孔石	楕円礫		28.1	15.0	8.9	6050	背面側縁上に孔3・上縁側縁側に小孔1を穿つ。
第27回	40	PL-57	南東部壁跡床面上	多孔石	楕円礫		15.8	19		2029.2	背面側中央に磨耗した狭い凹部があり、礫形状を利用して砥石としたものと捉えた。
			南西部P11底面上	礫	楕円礫	粗粒輝石安山岩	(31.2)	29.2	9.9	12300	表裏面の孔多数を穿つ。下縁側の破損理由は不明。
			南西部P11底面上	礫	楕円礫	粗粒輝石安山岩	25.6	17.8		6750	背面側平坦面に磨耗。平坦面には散打痕があるほか、多孔石に似た孔がある。裏面側は大きく破損。

1区5号住居出土石器観察表

検出	番号	写真	出土位置	器形	残存	胎土	色調	焼成	文様の特徴等	備考
第28回	1	PL-57	西壁跡床面上10cm	深鉢	口縁部破片	粗砂、黒色粒	橙	良好	口縁下に3条の浅線をめぐらし、弧状のモチーフを描く。地文にL.Rを施す。	連雲文系
第28回	2	PL-57	西壁跡床面上10cm	深鉢	口縁部破片	粗砂	橙	良好	口縁下に横線、斜状の浅線を施す。地文にL.Rを施す。	加賀利E2式
第28回	3	PL-57	中央部床面直上	深鉢	胴部破片	粗砂、白色粒	橙	ふつう	R.Lを縦位置施し、2条の隆帯による懸垂文を施す。	加賀利E2式
第28回	4	PL-57	中央部床面直上	深鉢	底部破片	粗砂、白色粒	橙	ふつう	底径13.2cm。R.Lを縦位置施し、2条の隆帯による懸垂文を施す。	加賀利E2式
第28回	5	PL-57	中央部床面上7cm	深鉢	口縁部破片	粗砂、白色粒、黒色粒、石英	赤褐	ふつう	口縁の無文部。	青利系

1区5号住居出土石器観察表

検出	番号	写真	出土位置	器種	備考	石材	長さ (cm)	幅(cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作状況・使用状況
第28回	6	PL-57	南西隅床面上6cm	石籠	凹底無縁籠	チャート	(1.6)	(1.5)	0.3	0.5	未製品？側縁加工は粗く、形状修正面前で破損か。

2区6号住居出土石器観察表

検出	番号	写真	出土位置	器形	残存	胎土	色調	焼成	文様の特徴等	備考
第32回	1	PL-57	南東部、埋没土中	深鉢	口縁～胴下位	粗砂、白色粒、黒色粒	にぶい黄褐	ふつう	推定口径16.6cm。屈曲部上に玉粒状、J字状、下位にレンズ状モチーフを描き、R.Lを充填施す。	加賀利E4式
第32回	2	PL-57	中内、焼土直上	深鉢	口縁～胴中位	粗砂、黒色粒、石英	にぶい黄褐	ふつう	底径11.6cmで環状突起を付した痕跡が見られる。隆帯をめぐらして口縁部無文部を区画、屈曲部上位にU字状、下位にレンズ状モチーフを描き、L.Rを充填施す。	加賀利E4式
第32回	3	PL-57	伊南東部、床面推定直上	深鉢	口縁部破片	粗砂、黒色粒	にぶい黄褐	ふつう	横位隆帯をめぐらして口縁部無文部を区画、隆帯下にL.Rを充填施す。	加賀利E4式
第32回	4	PL-57	伊南西部、焼土直上	深鉢	口縁部破片	粗砂、チャート礫	橙	良好	横位隆帯をめぐらして口縁部無文部を区画。以下、隆帯による懸垂文を施し、R.Lを充填施す。	加賀利E4式
第32回	5	PL-57	伊北東部、床面推定直上	深鉢	口縁部破片	粗砂、チャート礫	橙	良好	4と同一個体。	加賀利E4式
第32回	6	PL-57	伊北東部、床面推定直上	深鉢	口縁部破片	粗砂、細礫	明赤褐	良好	横位隆帯をめぐらして口縁部無文部を区画。以下、隆帯による懸垂文を施す。	加賀利E4式
第32回	7	PL-57	北部・中央部・西部の床面推定直上遺物が混合。	深鉢	胴部破片	粗砂、チャート礫	橙	良好	4と同一個体。	加賀利E4式
第32回	8	PL-57	中央部と南東部の床面推定直上遺物が混合。	深鉢	胴部破片	粗砂、チャート礫	橙	良好	4と同一個体。	加賀利E4式
第32回	9	PL-57	中央部床面推定直上	浅鉢	胴部破片	粗砂、細礫、白色粒、黒色粒	橙	良好	算盤玉状の器形。隆帯をめぐらして屈曲部上位に文様部を区画、凹文や対称ワビ手状の浅線を施す。	加賀利E2式
第32回	10	PL-58	北部床面推定直上6～8cm上の遺物7点と伊北東部の遺物確認面出土遺物が混合。	浅鉢	口縁～胴下位	粗砂、チャート	明赤褐	良好	推定口径54.6cm。算盤玉状で口縁がくの字状に外反する器形を呈す。隆帯による溝登文。長方形区画を施し、無断L.R.Lを充填施す。	加賀利E2式

2区6号住居出土石器観察表

検出	番号	写真	出土位置	器種	備考	石材	長さ (cm)	幅(cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作状況・使用状況
				打製石片	短冊型	黒色頁岩	(3.4)	(4.5)	1.3	23	完成状態。胴部破片。
				加工面ある 割片	扁平礫	珪質頁岩	5.1	5.4		49.1	加工意図：不明
第33回	13	PL-58	土柱穴の可能性のある104号土坑埋没土中	砥石	板状	半灰砂岩	(4.3)	(5.0)	1.0	18.5	表裏面ともU字状を呈する浅い溝状研磨痕が残る。

土坑出土石器観察表

検出	番号	写真	出土位置	器形	残存	胎土	色調	焼成	文様の特徴等	備考
第33回	11	PL-58	6号住居柱穴の可能性のある11号土坑の底面直上	深鉢	底部破片	粗砂、黒色粒	にぶい黄褐	ふつう	標本文.Lを縦位置施し、隆帯による懸垂文を施す。	加賀利E2式

3. 遺物観察表

第33段	12	PL-58	6号住居跡の西壁面にある12号土坑底面12cm	深緑	銅部破片	細砂、細礫、黒色粒、石英	楕	良好	標文Lを縦位施文し、3条沈線による弧状モチーフを施す。	加賀利E 2式
第33段	14	PL-58	6号住居跡の西壁面にある12号土坑底面12cm	深緑	銅部破片	細砂、細礫、黒色粒、石英	明赤褐	良好	弧状モチーフ、隆帯による標文を施す。	加賀利E 4式
第34段	1	PL-58	1区64号土坑底面18cm	深緑	銅部破片	細砂多、黒色粒	楕	ふつう	屈曲部に2条の隆帯をめぐらして、L線部文様部に縦位沈線を充填施文。	加賀利E 2式
第34段	2	PL-58	1区64号土坑底面18cm	深緑	銅部破片	細砂、チャート	楕	ふつう	地盤L Rを縦位施文し、3条沈線を垂下、沈線間を垂下す。	加賀利E 3式
第34段	3	PL-58	1区67号土坑埋没土中	深緑	銅部破片	細砂	黄楕	ふつう	横状沈線をめぐらし、沈線下に斜紋文を充填施文する。	唐草文系
第34段	4	PL-58	2区103号土坑埋没土中	深緑	銅部破片	細砂、黒色粒、石英	楕	良好	無印Lを縦位施文する。	加賀利E 5式
第34段	5	PL-58	2区103号土坑埋没土中	深緑	銅部破片	細砂、チャート細礫	明赤褐	良好	隆帯による標文を施し、斜紋文を充填施文する。	唐草文系
第35段	6	PL-58	2区107号土坑底面17cm	深緑	銅部破片	細砂、チャート、黒色粒	明赤褐	良好	L線下に横位、逆U字状の沈線をめぐらし、地文にL Rを縦位施す。	加賀利E 2式
第35段	7	PL-58	2区109号土坑底面125cm	深緑	銅部破片	細砂、チャート、黒色粒、石英	楕	ふつう	標文Rを縦位施文し、隆帯による標文を施す。	加賀利E 2式

遺構外出土土器観察表

種類	番号	写真	出土位置	器形	残存	胎土	色調	焼成	文様の特徴等	備考
第36段	1	PL-58	1区遺構確認面	深緑	銅部破片	細砂、チャート細礫、黒色粒、石英	赤褐	良好	L線下に横位の沈線をめぐらして無文帯を区画、以下、標文Rを縦位施文する。	船岡原式
第36段	2	PL-58	2区遺構確認面	深緑	銅部破片	細砂、黒色粒、石英	にぶい黄楕	良好	屈曲部に横位の無文帯を区画、以下、節の大きな太く条間の空く標文Rを縦位施文する。	船岡原式
第36段	3	PL-58	1区遺構確認面	深緑	銅部破片	細砂、石英、雲母、チャート細礫多	にぶい黄楕	良好	L線下に沈線をめぐらして無文帯を区画、以下、節が大きく条間の空く標文Rを縦位施文する。	船岡原式
第36段	4	PL-58	2区包含層	深緑	銅部破片	細砂、黒色粒、石英	赤褐	良好	L線下に沈線をめぐらして無文帯を区画、以下、標文Rを縦位施文する。	船岡原式
第36段	5	PL-58	1区1号住居埋没土中	深緑	銅部破片	細砂、黒色粒	楕	良好	口縁の無文帯。	船岡原式
第36段	6	PL-58	1区遺構確認面	深緑	銅部破片	細砂、白色粒、黒色粒	にぶい黄楕	良好	標文Rを縦位施文する。	標文文系
第36段	7	PL-58	1区4号住居埋没土中	深緑	銅部破片	細砂、石英	赤褐	ふつう	標文Rを縦位施文する。	標文文系
第36段	8	PL-58	2区103号土坑埋没土中	深緑	銅部破片	細砂、チャート細礫、黒色粒	明赤褐	良好	標文Rを縦位施文する。	船岡原式
第36段	9	PL-58	1区35号土坑埋没土中	深緑	銅部破片	細砂、チャート	灰黄褐	良好	節が大きく条間の空く標文Rを縦位施文する。	船岡原式
第36段	10	PL-58	1区1号住居埋没土中	深緑	銅部破片	細砂、黒色粒	赤褐	良好	節が大きく条間の空く標文Rを縦位施文する。	船岡原式
第36段	11	PL-58	1区60号土坑埋没土中	深緑	銅部破片	細砂、チャート細礫、黒色粒	明赤褐	良好	節が大きく条間の空く標文Rを縦位施文する。	船岡原式
第36段	12	PL-58	2区包含層	深緑	銅部破片	細砂、チャート細礫、黒色粒、石英	明赤褐	良好	節が大きく条間の空く標文Rを縦位施文する。	船岡原式
第36段	13	PL-58	1区1号住居埋没土中	深緑	銅部破片	細砂、チャート細礫	明赤褐	良好	同位、横位の沈線を施す。	田ノ下層式
第36段	14	PL-58	2区包含層	深緑	銅部破片	細砂、細礫	明赤褐	ふつう	屈曲部を縦位施文する。	船山Ⅱ式
第36段	15	PL-58	1区遺構確認面	深緑	銅部破片	細砂、細礫	楕	良好	L線が短く内凹、L線部に横位集合沈線を作出し、集合沈線の下に縦位の区画、区画内に斜格子目字状の沈線を施す。L線下に包みめぐらさる。	諸磯c式
第36段	16	PL-59	1区遺構確認面	深緑	銅部破片	細砂	にぶい黄楕	良好	縦位区画、逆V字状の集合沈線を施す。	諸磯c式
第36段	17	PL-59	2区包含層	深緑	銅部破片	細砂、チャート細礫	楕	良好	波状L線、結節沈線による弧状モチーフを描く。	下島式
第36段	18	PL-59	1区1号住居埋没土中	深緑	銅部破片	細砂、黒色粒	にぶい黄楕	良好	ロッキングを施す。	興津式
第36段	19	PL-59	1区遺構確認面	深緑	銅部破片	細砂、チャート細礫	にぶい黄楕	良好	L線が横の外に、Rを縦位、横位に横位に横位施文し、L線下に横位逆V字状の沈線を施す。口縁部は両区隆帯を貼付、R Lを施す。	興津式
第36段	20	PL-59	2区包含層	深緑	銅部破片	細砂、チャート細礫	黄楕	良好	横位、縦位の集合沈線を施す、余白に印刷を施す。	十三菩提式
第36段	21	PL-59	1区1号住居埋没土中	深緑	銅部破片	細砂	赤褐	良好	結節Lを横位施文し、結節沈線を1条めぐらす。	前期末葉
第36段	22	PL-59	2区包含層	深緑	銅部破片	細砂、チャート細礫、黒色粒、石英	にぶい黄楕	良好	地盤L Rを横位施文する。	前期末葉～中期初期
第36段	23	PL-59	1区2号住居	深緑	銅部破片	細砂、黒色粒	にぶい黄楕	ふつう	R Lを斜位施文し、L線下に3条の沈線をめぐらす。	加賀利E 2式
第36段	24	PL-59	1区遺構確認面	深緑	銅部破片	細砂、チャート細礫、黒色粒、石英	楕	良好	L線部にL線による横間区画を配し、逆U字状沈線を施す。地文にL Rを縦位施す。	加賀利E 2式
第36段	25	PL-59	2区包含層	深緑	銅部破片	細砂、細礫、黒色粒、石英	赤褐	良好	隆帯をめぐらしてL線部文様部を区画、横位沈線による区画を施し、縦位沈線を充填施文する。	加賀利E 2式
第36段	26	PL-59	1区4号住居	深緑	銅部破片	細砂、チャート細礫	赤褐	良好	L線が短く内凹、L線部に包み付き付した隆帯による横位の区画を施し、1条の横位文を施す。	阿玉台Ⅰb式
第36段	27	PL-59	1区遺構確認面	深緑	銅部破片	細砂、黒色粒	にぶい黄楕	ふつう	隆帯にめぐらしてL線部文様部を区画、隆帯、沈線による横間区画を施し、縦位沈線を充填施文する。	加賀利E 2式
第36段	28	PL-59	1区遺構確認面	深緑	銅部破片	細砂、チャート	ふつう	ふつう	波状L線、波状部下にL線部から繋がるワラビ文、逆V字状沈線を施す。L線部にも沈線を施す。	加賀利E 2式
第36段	29	PL-59	2区包含層	深緑	銅部破片	細砂、チャート細礫	赤褐	良好	2条沈線によるL線部文様を描く。	加賀利E 2式
第36段	30	PL-59	2区遺構確認面	深緑	銅部破片	細砂、黒色粒、石英	楕	良好	31と同一個体。	唐草文系
第36段	31	PL-59	2区包含層	深緑	銅部破片	細砂、黒色粒、石英	楕	良好	L線下に逆V字状の沈線をめぐらし、2条沈線による波状文を施す。地文にL Rを縦位施す。	唐草文系
第36段	32	PL-59	1区78号土坑埋没土中	深緑	銅部破片	細砂、黒色粒	浅黄	ふつう	L線下に横位の沈線をめぐらし、U字状沈線を施す。地文にL Rを縦位施す。	加賀利E 2式
第36段	33	PL-59	2区包含層	深緑	銅部破片	細砂、黒色粒、石英	黄楕	良好	L線下に隆帯をめぐらし、さらに2条の隆帯を垂下、条線を施す。	加賀利E 2式
第36段	34	PL-59	1区遺構確認面	深緑	銅部破片	細砂、黒色粒、石英	楕	ふつう	L線が短く内凹、L線部内に2条の沈線をめぐらす。赤色の地盤あり。	加賀利E 2式

遺構一覧表・遺物観察表

第369号	35	PL-59	1区60号土坑埋没土中	深緑	口縁部破片	粗砂、チャート礫	赤褐	良好	L Rを縦位施文する。	加判利E 2式
第369号	36	PL-59	1区3号住居埋没土中	深緑	口縁部破片	粗砂、チャート、黒色粒	橙	良好	口縁下に斜位の沈線を充填施文し、斜格子目状になるように隆線を彫付する。	加判利E 2式
第369号	37	PL-59	1区12号土坑埋没土中	深緑	胴部破片	粗砂、チャート	明赤褐	良好	隆線をめぐらして口縁部無文帯を区画、隆線下にR Lを縦位施文し、沈線による懸垂文を施す。	加判利E 2式
第369号	38	PL-59	2区包含層	深緑	胴部破片	粗砂、黒色粒	灰黄褐	ふつう	R Lを縦位施文を地文とし、横位、弧状の沈線を施す。	加判利E 2式
第369号	39	PL-59	1区道橋跡面	深緑	胴部破片	粗砂、チャート、黒色粒	橙	良好	複線L R Lを縦位施文し、2条沈線による弧状モチーフを施す。	加判利E 2式
第369号	40	PL-59	2区包含層	深緑	胴部破片	粗砂、チャート礫、黒色粒、石英	明赤褐	良好	L Rを縦位施文を地文とし、3条の沈線を縦位にめぐらす。	加判利E 2式
第369号	41	PL-59	1区54号土坑埋没土中	深緑	胴部破片	粗砂、チャート、黒色粒、石英	にぶい黄褐	ふつう	横位、弧状の沈線を施す。地文にR Lを施文。	加判利E 2式
第369号	42	PL-59	2区道橋跡面	深緑	胴部破片	粗砂、黒色粒、石英	赤褐	良好	R L横位施文を地文とし、3条沈線による懸垂文を施す。	加判利E 2式
第369号	43	PL-59	1区2号土坑埋没土中	深緑	胴部破片	粗砂、黒色粒、石英	橙	ふつう	R Lを縦位施文し、沈線による直線、蛇行懸垂文を施す。	加判利E 2式
第369号	44	PL-59	1区道橋跡面	深緑	胴部破片	粗砂、白色粒、チャート礫	橙	良好	R Lを縦位施文し、2条沈線による蛇行懸垂文を施す。	加判利E 2式
第369号	45	PL-59	2区道橋跡面	深緑	胴部破片	粗砂、黒色粒	にぶい黄褐	良好	標赤文L R縦位施文を地文とし、2条沈線を横位にめぐらす。	加判利E 2式
第369号	46	PL-59	1区道橋跡面	深緑	胴部破片	粗砂、チャート、黒色粒	にぶい黄褐	ふつう	標赤文L Rを縦位施文し、隆線による蛇行懸垂文を施す。	加判利E 2式
第370号	47	PL-59	2区包含層	深緑	胴部破片	粗砂、チャート礫、黒色粒	明赤褐	良好	R Lを縦位施文を地文とし、隆線による直線、蛇行懸垂文を施す。	加判利E 2式
第370号	48	PL-59	2区包含層	深緑	胴部破片	粗砂、白色粒、黒色粒、石英	橙	良好	標赤文L Rを縦位施文する。	加判利E 2式
第370号	49	PL-59	2区道橋跡面	深緑	胴部破片	粗砂、チャート、黒色粒	明赤褐	良好	標赤文L R縦位施文を地文とし、隆線による懸垂文を施す。	加判利E 2式
第370号	50	PL-59	2区包含層	深緑	胴部破片	粗砂、チャート、黒色粒	黄褐	良好	標赤文L R縦位施文を地文とし、2条沈線による懸垂文を施す。下端の欠け口を磨蝕して整えている。再利用か。	加判利E 2式
第370号	51	PL-59	2区道橋跡面	深緑	胴部破片	粗砂、チャート礫、黒色粒	にぶい赤褐	良好	縦位条線を地文とし、横位、弧状の沈線を施す。	加判利E 2式
第370号	52	PL-59	2区道橋跡面	深緑	胴部破片	粗砂、チャート、白色粒、黒色粒	橙	良好	縦位条線を地文とし、2条沈線による斜位、弧状のモチーフを描く。	加判利E 2式
第370号	53	PL-59	3区道橋跡面	深緑	胴部破片	粗砂、チャート	明赤褐	良好	縦位条線を地文とし、弧状の沈線を施す。	加判利E 2式
第370号	54	PL-59	1区24号土坑埋没土中	深緑	胴部破片	粗砂、片岩、黒色粒	にぶい黄褐	ふつう	縦位条線、斜行する沈線を施す。	加判利E 2式
第370号	55	PL-59	2区包含層	深緑	胴部破片	粗砂、チャート、黒色粒	にぶい黄褐	良好	2条の横位隆線をめぐらすが、交互刺突を施すことによって蛇行の効果を出現している。	加判利E 2式
第370号	56	PL-59	2区包含層	深緑	胴部破片	粗砂、チャート礫、黒色粒	橙	良好	横位隆線をめぐらすが、交互刺突を施すことによって蛇行の効果を出現している。	加判利E 2式
第370号	57	PL-59	3区道橋跡面	深緑	胴部破片	粗砂、黒色粒	にぶい黄褐	良好	沈線による懸垂文を施し、縞刺文を充填施文する。	加判利E 2式
第370号	58	PL-59	1区道橋跡面	深緑	胴部破片	粗砂、黒色粒、石英	赤褐	良好	沈線による懸垂文を施し、縞刺文を充填施文する。	加判利E 2式
第370号	59	PL-59	1区60号土坑埋没土中	深緑	胴部破片	粗砂、黒色粒	橙	良好	3条沈線による懸垂文を施し、縞刺文を充填施文する。	加判利E 2式
第370号	60	PL-59	2区包含層	深緑	胴部破片	粗砂、チャート、黒色粒	赤褐	良好	縦位沈線をめぐらして口縁部無文帯を区画、隆線による斜格子目状になるように隆線を描く。	加判利E 3式
第370号	61	PL-59	2区包含層	深緑	胴部破片	粗砂、チャート礫、白色粒、黒色粒、石英	明赤褐	良好	隆線、沈線による口縁部無文帯を区画、隆線下にR Lを縦位施文する。	加判利E 3式
第370号	62	PL-59	2区道橋跡面	深緑	胴部破片	粗砂、チャート礫、黒色粒	橙	良好	横位、斜位の隆線を施し、R Lを縦位充填施文する。	加判利E 2式
第370号	63	PL-59	1区道橋跡面	深緑	胴部破片	粗砂、白色粒、黒色粒、石英	橙	ふつう	複線L R Lを縦位施文し、沈線によってT字に区画、沈線間を磨り消す。	加判利E 3式
第370号	64	PL-59	2区道橋跡面	深緑	胴部破片	粗砂、チャート	橙	良好	複線L R Lを縦位施文し、3条沈線を垂下、沈線間を磨り消す。	加判利E 3式
第370号	65	PL-59	2区包含層	深緑	胴部破片	粗砂、白色粒、黒色粒	にぶい黄褐	ふつう	沈線による懸垂文を施し、L Rを縦位充填施文する。	加判利E 3式
第370号	66	PL-59	3区道橋跡面	深緑	胴部破片	粗砂	橙	ふつう	沈線による懸垂文を施し、L Rを縦位充填施文する。	加判利E 3式
第370号	67	PL-60	1区道橋跡面	深緑	胴部破片	粗砂、チャート、黒色粒	ふつう	ふつう	複線L R Lを縦位施文し、3条沈線を垂下、沈線間を磨り消す。	加判利E 3式
第370号	68	PL-60	1区道橋跡面	深緑	胴部破片	粗砂、チャート、黒色粒	橙	ふつう	沈線による懸垂文を施し、複線L R Lを縦位充填施文する。	加判利E 3式
第370号	69	PL-60	1区TP 4	深緑	胴部破片	粗砂、白色粒、黒色粒	黒褐	ふつう	L Rを縦位施文し、3条沈線を垂下、沈線間を磨り消す。	加判利E 3式
第370号	70	PL-60	2区包含層	深緑	口縁部破片	粗砂、黒色粒、石英	にぶい黄褐	良好	波状L R L、横位隆線をめぐらして口縁部無文帯を区画、隆線下にL Rを充填施文する。	加判利E 4式
第370号	71	PL-60	2区包含層	深緑	口縁部破片	粗砂、黒色粒、石英	にぶい黄褐	良好	70と同一個体。	加判利E 4式
第380号	72	PL-60	2区道橋跡面	深緑	口縁部破片	粗砂、チャート、黒色粒、石英	明赤褐	良好	横位隆線をめぐらして口縁部無文帯を区画。以下、隆線による懸垂文を施し、L Rを充填施文する。	加判利E 4式
第380号	73	PL-60	2区包含層	深緑	口縁部破片	粗砂、チャート	明赤褐	良好	横位隆線をめぐらして口縁部無文帯を区画。以下、隆線による懸垂文を施し、L Rを充填施文する。	加判利E 4式
第380号	74	PL-60	2区包含層	深緑	底部破片	粗砂、礫、黒色粒、石英	橙	良好	底径16.5cm。沈線による懸垂文を施し、L Rを縦位充填施文する。	加判利E 4式
第380号	75	PL-60	1区2号住居	深緑	底部破片	粗砂、チャート礫、黒色粒	赤褐	良好	推定底径12.0cm。隆線による懸垂文を施す。	加判利E 2式
第380号	76	PL-60	1区6号溝埋没土中	深緑	底部破片	粗砂、黒色粒	赤褐	良好	R Lを縦位施文し、隆線による懸垂文を施す。	加判利E 2式
第380号	77	PL-60	2区包含層	黄白	破片	粗砂、チャート礫、白色粒、黒色粒、石英	にぶい黄褐	ふつう	推定上面径15.0cm、推定底径13.4cm、推定器高10.0cm。中央付近に円を穿つ。	中興後葉
第380号	78	PL-60	1区道橋跡面	土製円形	破片	粗砂、黒色粒	黄褐	ふつう	長径3.8cm、短径3.5cmのほぼ正円形。厚さ1.2cm。加判利E式の胴部を転用、外縁がよく磨られている。	加判利E 2式

3. 遺物観察表

遺構外出土土器観察表

図号	番号	写真	出土地点	器種	備考	石材	長さ (cm)	幅(cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作状況・使用状況
第38図	79	PL-60	1区遺構確認面	石甕	凹基無手蓋	チャート	1.6	2.0	0.6	1.9	未製品?裏面側先端に凹部面が残る。この凹部面を切り、先端加工が施されている。
第38図	80	PL-60	1区10号土坑	石甕	凹基無手蓋	チャート	2.4	1.7	0.4	1	未製品。加工が粗く、器縁は大きく振れる。
第38図	81	PL-60	1区74号土坑	煎器	幅広割片	黒色頁岩	6.3	8.2	1.5	91.3	割片端部に透けるやや高い表面を施し、弧状の刃部を作出している。裏面側割端部が鋭く摩耗。
第38図	82	PL-60	4区遺構確認面	磨製石斧	小型定角式	蛇紋岩	4.4	2.4	1.0	15.5	全面に磨製面を伴う研磨面が残る。刃部には対こぼれあり、荒れて光沢を欠く。
第38図	83	PL-60	2区遺構確認面	打製石斧	短冊型	細粒輝石安山岩	(9.5)	3.7	1.5	47	完成状態。左刃部刃部に摩耗痕、両側側の割端部は新鮮で、リタクションの規模は大きい。
第38図	84	PL-60	1区63号土坑	打製石斧	短冊型	細粒輝石安山岩	(7.5)	5.3	1.7	66.2	完成状態。両側縁は鋭く、表面部としての要素を示している。縁縁は聞き気味。上下内端を破損した割端破片。
第38図	85	PL-60	3区遺構確認面	打製石斧	短冊型	黒色頁岩	8.5	4.0	1.5	55.2	完成状態。摩耗痕が刃部から器体中央付近まで及んでいる。刃面再生は明らかであり、器体中央付近の摩耗は初期の段階というところだろう。
第38図	86	PL-60	1区26号土坑	煎器	縦長割片	黒色頁岩	11.2	4.7	1.3	57.1	左刃側端部に割端側の厚い形状修正的な加工を施し、これに浅い割端が鋭く。右側縁表面にも形状を整える程度の粗い割端がある。打面調整を伴う打面管理が行き届いた縦長割片を用いたもので、風化状況も旧石器的で、縄文新土坑に投入した可能性も否定できない。
第38図	87	PL-60	8区遺構確認面	石甕	有縁	細粒輝石安山岩	(6.4)	(9.1)	6.2	433.2	右刃側面破片。激しく使い込みであり、右石甕外縁が形成されている。裏面側にロート状の孔2がある。
			3区遺構確認面	打製石斧	分銅型?	黒色頁岩	(6.2)	4.9	0.9	33.5	完成状態。刃部摩耗。
			1区遺構確認面	打製石斧	大型割片	黒色頁岩	7.8	10.1		290	幅広割片割端。
			1区6号溝	石核	板状割片	黒色頁岩	2.5	3.6		10.1	小型割片割端。
			1区61号土坑	加工痕ある割片	幅広割片	黒色頁岩	5.3	4		32.5	加工意図：磨製
			1区6号溝	加工痕ある割片	幅広割片	黒色頁岩	2.3	4.8		12.4	加工意図：不明
			1区表面採集	加工痕ある割片	幅広割片?	黒色安山岩	2.6	1.9		5.5	加工意図：不明
			5区遺構確認面	加工痕ある割片	幅広割片	黒色頁岩	6.2	6.5		64.3	加工意図：磨製
			2区遺構確認面	加工痕ある割片	幅広割片	黒色頁岩	5.1	5.5		41.9	加工意図：磨製
			1区26号土坑	使用痕ある割片	幅広割片	黒色頁岩	5.2	4.1		16.6	使用部位：割片端部
			6区遺構確認面	磨石?	扁平楕円磨	細粒輝石安山岩	(7.9)	(5.2)	4.1	16.8	部分的に摩耗痕が残る以外、詳細不明。
			1区表面採集	磨石	楕円磨	細粒輝石安山岩	(4.9)	(3.7)		61.3	上端側に鋭行に伴う割端がある。
			7区遺構確認面	磨石	楕円磨	細粒輝石安山岩	11.5	7.4	4.7	629.1	小1部内端部に最打痕。

1区2号住居土器観察表

図号	番号	写真	出土位置	器種	残存	胎土/地色/色調	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	成形・形状の特徴
第40図	1	PL-60	出土位置不明	須恵器 杯	1/2	細砂粒/黄褐色/灰	12.5	6	3.3	ロコク型。回転右回り。底部は回転系切り無調整。
第40図	2	PL-60	遺構底部支脚南東部	須恵器 杯	ほぼ完形	細砂粒・粗砂粒・角閃石/黄褐色/灰	11.9	5.8	4	ロコク型。回転右回り。底部は回転系切り無調整。
第40図	3	PL-60	遺構底部使用面上4cm	須恵器 杯	底部～体部下位片	細砂粒/黄褐色/灰	6			ロコク型。回転右回り。底部は回転系切り無調整。
第40図	4	PL-60	埋没土中	土師器 甕	口縁部小片	細砂粒/良好/粉	17.8			口縁部から断面は内外面とも横ナド。9世紀第24年頃。
第40図	5	PL-60	遺構底部使用面上土の破片と住居内土坑南縁底面上20cmの破片が接合	土師器 甕	口縁部小片	細砂粒/良好/粉	19.9			口縁部から断面は内外面とも横ナド。9世紀第24年頃。
第40図	6	PL-60	遺構床面下12cmの破片と遺構底部埋没土中の破片が接合	土師器 甕	底部～胴部下位	細砂粒/良好/黄粉	4			底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナド。
第40図	7	PL-60	遺構底部支脚面上	須恵器 杯	胴部片	細砂粒/黄褐色/灰				胴部は外面に平行凸痕。内面に同心円状アテ痕が残る。

1区1号住居土器観察表

図号	番号	写真	出土位置	器種	残存	胎土/地色/色調	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	成形・形状の特徴
第41図	1		埋没土中	在地土器 片13片	体部片	黄褐色/灰白				内面下位は使用により平滑となる。14世紀～15世紀。

1区遺構外土器観察表

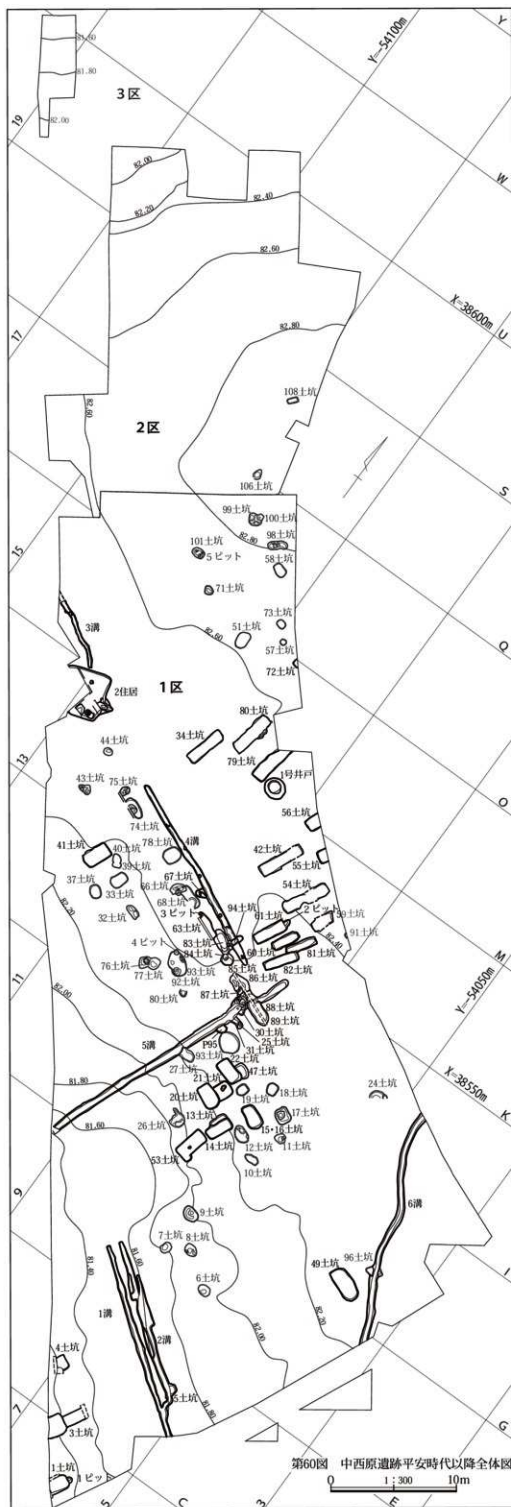
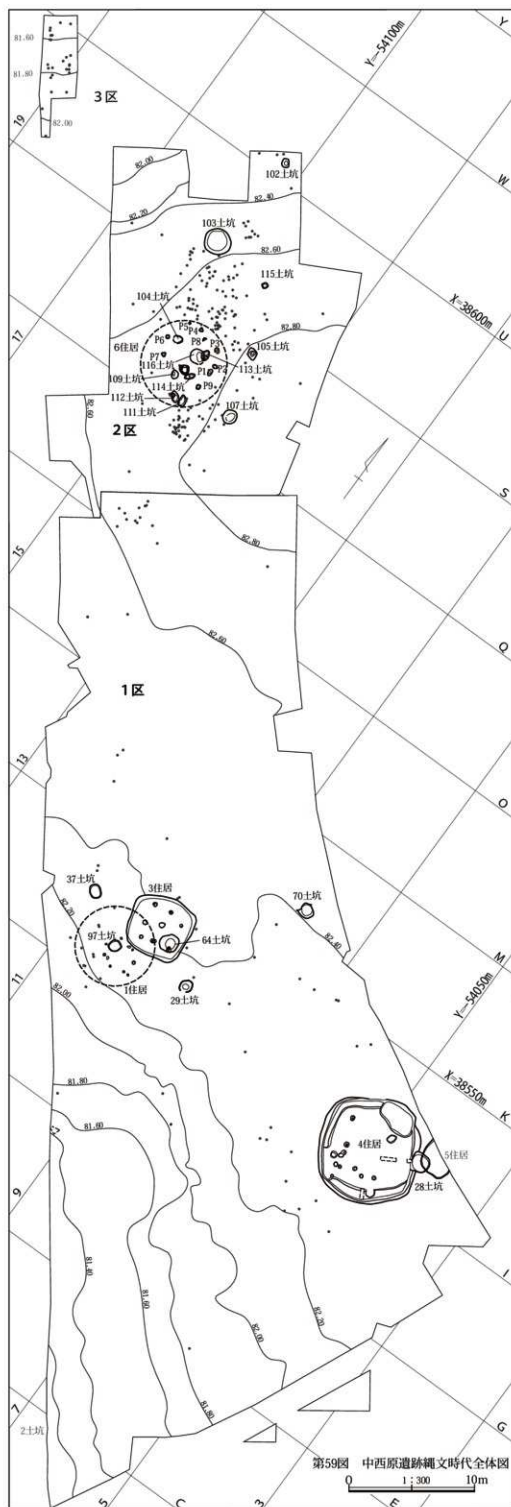
図号	番号	写真	出土位置	器種	残存	胎土/地色/色調	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	成形・形状の特徴
第55図	1	PL-60	1区遺構確認面	土師器 甕	底部～胴部下位片	細砂粒/良好/粉	6.2			底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナド。

1区2号住居出土土器観察表

図号	番号	写真	出土地点	器種	備考	石材	長さ (cm)	幅(cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製作状況・使用状況
			住居内土坑縁	磨石	扁平磨	溶結凝灰岩?	22.5				顕著な使用痕跡は見られなかった。
			遺構底部	支脚	棒状磨	細粒輝石安山岩	12				厚さ8、棒状磨分割

報告書抄録

書名ふりがな	なかにしほらいせき
書 名	中西原遺跡
副書名	農業技術センター施設整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	539
編著者名	大西雅広 小島敦子 岩崎泰一 橋本淳
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20120316
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住 所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	なかにしほらいせき
遺 跡 名	中西原遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんいせきにしおぼかたまち
遺跡所在地	群馬県伊勢崎市西小保方町
市町村コード	102041
遺跡番号	A2038
北緯(世界測地系)	360001
東経(世界測地系)	1394957
調査期間	20110201-20110331/20110401-20110430
調査面積	2340
調査原因	建物建設・施設整備
種 別	集落
主な時代	旧石器／縄文／平安／中世／近世／近現代
遺跡概要	包蔵地－旧石器－礫群－旧石器／集落－縄文－竪穴住居5＋土坑13－縄文土器＋縄文石器／その他－縄文－遺構外－縄文土器＋石器／集落－平安－竪穴住居1－土師器＋須恵器／その他－中近世以降－溝6＋土坑93＋井戸1－土器
特記事項	縄文時代前期諸磯c式の完形土器が出土した。
要 約	大間々扇状地1面のあまが池湧水を谷頭とする帯状沖積地の東側台地縁辺に立地する縄文時代集落を中心とする遺跡。以前から一部で発掘調査が行われてきたが、今回の調査で縄文時代前期の竪穴住居2棟と中期の竪穴住居3棟に加えて、平安時代の住居1棟が調査された。縄文時代の集落は台地全体に展開すると推定される。



写真図版



1. 中西原道跡1区空中写真(南東から)



2. 中西原道跡1区全景(南西から)



1. 中西原遺跡2・3区空中写真(南東から)



2. 中西原遺跡2区全景(南東から)



1. 1区旧石器TP 1 完掘状態(南西から)



2. 1区旧石器TP 1 土層断面(南西から)



3. 1区旧石器TP 2 完掘状態(南西から)



4. 1区旧石器TP 2 土層断面(南西から)



5. 1区旧石器TP 2 暗色帯礫出土状態(南から)



6. 1区旧石器TP 3 完掘状態(南東から)



7. 1区旧石器TP 4 完掘状態(南西から)



8. 1区旧石器TP 4 土層断面(南西から)



1. 2区旧石器調査区全景(東から)



2. 2区旧石器TP 1 完掘状態(南東から)



3. 2区旧石器TP 1 土層断面(東から)



4. 2区旧石器TP 1 剥片出土状態(南東から)



5. 2区旧石器TP 2 完掘状態(南東から)



1. 2区旧石器TP 3完掘状態(南東から)



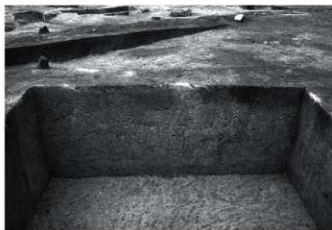
2. 2区旧石器TP 4完掘状態(南東から)



3. 2区旧石器TP 5完掘状態(南東から)



4. 2区旧石器TP 6完掘状態(南東から)



5. 2区旧石器TP 7完掘状態(南東から)



6. 2区旧石器TP 8完掘状態(南東から)



7. 2区旧石器TP 9完掘状態(南東から)



8. 2区旧石器TP10完掘状態(南東から)



1. 1区旧石器TP3土層断面(南西から)



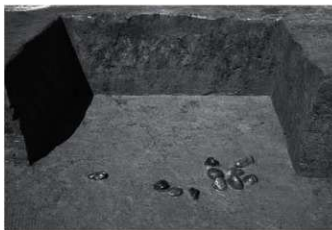
2. 1区旧石器TP3ナイフ形石器出土状態(南東から)



3. 1区旧石器TP3敲石出土状態(南東から)



4. 1区旧石器TP3礫群出土状態(南東から)



5. 1区旧石器TP3礫群全景(南東から)



6. 1区旧石器TP3礫群全景(南から)



7. 1区旧石器TP3礫群調査風景(北から)



1. 1区1号住居土層断面A-A' (南東から)



2. 1区1号住居土層断面B-B' (南西から)



3. 1区1号住居土層断面南半(南東から)



4. 1区1号住居土層断面北半(南東から)



5. 1区1号住居土層断面西半(南西から)



6. 1区1号住居土層断面東半(南西から)



7. 1区1号住居土層遺物出土状態全景(南東から)



8. 1区1号住居土層遺物出土状態全景(南西から)



1. 1区1号住居上層南東隅遺物出土状態(南東から)



2. 1区1号住居上層南東隅遺物出土状態(南西から)



3. 1区1号住居中層遺物出土状態全景(南東から)



4. 1区1号住居中層遺物出土状態全景(南西から)



5. 1区1号住居中層遺物出土状態北西部(南西から)



6. 1区1号住居中層遺物出土状態北東部(南西から)



7. 1区1号住居深鉢(第18図45)出土状態(東から)



8. 1区1号住居深鉢(第16図3)出土状態(北から)



1. 1区1号住居床面遺物出土状態全景(南東から)



2. 1区1号住居床面遺物出土状態南西部(南東から)



3. 1区1号住居床面遺物出土状態北西部(南東から)



4. 1区1号住居床面全景(南東から)



5. 1区1号住居床面全景(南西から)



1. 1区1号住居炉土層断面(南東から)



2. 1区1号住居炉全景(北西から)



3. 1区1号住居炉全景(北東から)



4. 1区1号住居炉埋設土器内土層断面(南東から)



5. 1区1号住居炉埋設土器全景(南東から)



6. 1区1号住居炉埋設土器(第16図2)近景(南東から)



7. 1区1号住居炉掘り方土層断面(南東から)



8. 1区1号住居炉掘り方全景(南東から)



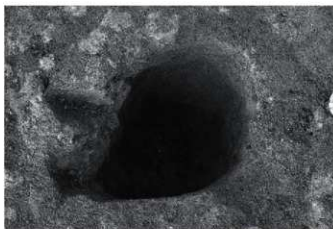
1. 1区1号住居P1土層断面(南東から)



2. 1区1号住居P1全景(南東から)



3. 1区1号住居P2土層断面(南東から)



4. 1区1号住居P2全景(南東から)



5. 1区1号住居P3土層断面(南東から)



6. 1区1号住居P3全景(南東から)



7. 1区1号住居P4土層断面(南東から)



8. 1区1号住居P4全景(南東から)



1. 1区1号住居P5土層断面(南東から)



2. 1区1号住居P5全景(南東から)



3. 1区1号住居P6土層断面(南東から)



4. 1区1号住居P6全景(南東から)



5. 1区1号住居P7土層断面(南東から)



6. 1区1号住居P7全景(南東から)



7. 1区1号住居P8土層断面(南東から)



8. 1区1号住居P8全景(南東から)



1. 1区1号住居P9土層断面(南東から)



2. 1区1号住居P9全景(南東から)



3. 1区1号住居P10土層断面(南東から)



4. 1区1号住居P10全景(南東から)



5. 1区1号住居最終面調査(南東から)



6. 1区1号住居最終面調査(南西から)



7. 1区1号住居調査風景(北西から)



8. 1区3号住居床面検出作業風景(南西から)



1. 1区3号住居土層断面(北西から)



2. 1区3号住居最終土層断面(北西から)



3. 1区3号住居東半部床面炭化物出土状態(東から)



4. 1区3号住居西半部床面炭化物出土状態(南西から)



5. 1区3号住居炭化物出土状態(東から)



6. 1区3号住居炭化物出土状態(北東から)



7. 1区3号住居炭化物No. 3出土状態(東から)



8. 1区3号住居炭化物出土状態(東から)



1. 1区3号住居全景(北から)



2. 1区3号住居南壁付近出土状態(北から)



3. 1区3号住居南東隅深鉢(第21図1)出土状態(西から)



4. 1区3号住居出土遺物(第21図2)(南から)



5. 1区3号住居出土遺物(第21図2)(東から)



1. 1区3号住居出土遺物(第21図1・19) (北から)



2. 1区3号住居出土遺物(第21図1・19) (東から)



3. 1区3号住居出土遺物(第22図17) (西から)



4. 1区3号住居出土遺物(第22図15) (北西から)



5. 1区3号住居床面全景(東から)



1. 1区3号住居床面全景(北から)



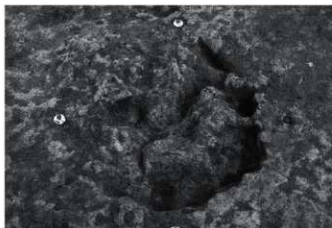
2. 1区3号住居最終面調査(東から)



3. 1区3号住居土層断面C-C' (南東から)



4. 1区3号住居土層断面B-B' (南西から)



5. 1区3号住居全景(南東から)



6. 1区3号住居全景(南西から)



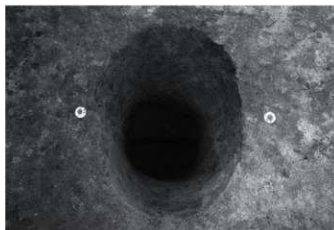
7. 1区3号住居掘り方土層断面C-C' (南東から)



8. 1区3号住居掘り方土層断面B-B' (南西から)



1. 1区3号住居P1土層断面(北東から)



2. 1区3号住居P1全景(北東から)



3. 1区3号住居P2土層断面(東から)



4. 1区3号住居P2全景(東から)



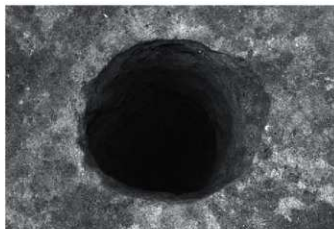
5. 1区3号住居P3土層断面(南東から)



6. 1区3号住居P3全景(南東から)



7. 1区3号住居P4土層断面(東から)



8. 1区3号住居P4全景(東から)



1. 1区3号住居P5土層断面(東から)



2. 1区3号住居P6土層断面(東から)



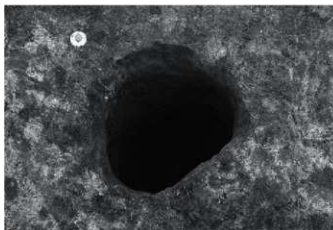
3. 1区3号住居P7土層断面(東から)



4. 1区3号住居石皿(第22図19)出土状態(西から)



5. 1区3号住居P8土層断面(北から)



6. 1区3号住居P8全景(南から)



7. 1区3号住居床面検出調査風景(東から)



8. 1区3号住居全景写真撮影準備作業風景(北から)



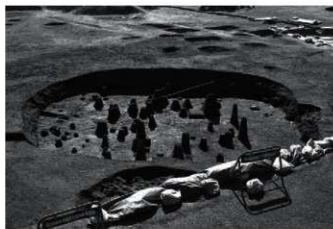
1. 1区4号住居土層断面B-B' (南東から)



2. 1区4号住居土層断面A-A' (北東から)



3. 1区4号住居遺物出土状態全景(南西から)



4. 1区4号住居遺物出土状態全景(北東から)



5. 1区4号住居遺物出土状態(南東から)



6. 1区4号住居遺物出土状態(北西から)



7. 1区4号住居周囲遺物出土状態(南東から)



8. 1区4号住居遺物(第27図33)出土状態(南東から)



1. 1区4号住居西隅遺物出土状態(北西から)



2. 1区4号住居遺物出土状態(南東から)



3. 1区4号住居床面遺物出土状態全景(南から)



4. 1区4号住居床面遺物出土状態(北西から)



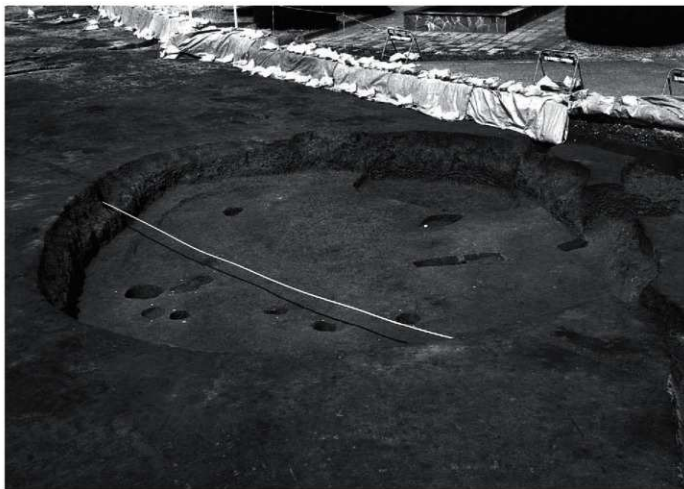
5. 1区4号住居床面遺物出土状態(北から)



1. 1区4号住居床面遺物出土状態(西から)



2. 1区4号住居床面遺物(第27図39)出土状態(北西から)



3. 1区4号住居床面全景(南東から)



4. 1区4号住居炉土層断面(南西から)



5. 1区4号住居炉埋設土器(第26図1)全景(北から)



1. 1区4号住居が埋設土器(第26図1)近景(南から)



2. 1区4号住居が掘り方全景(南から)



3. 1区4号住居住居内土坑土層断面(西から)



4. 1区4号住居住居内土坑炭化物出土状態(西から)



5. 1区4号住居住居内土坑炭化物出土状態(南から)



6. 1区4号住居住居内土坑全景(東から)



7. 1区4号住居住居内土坑全景(南西から)



8. 1区4号住居P1土層断面(南東から)



1. 1区4号住居P 2土層断面(北東から)



2. 1区4号住居P 3土層断面(北東から)



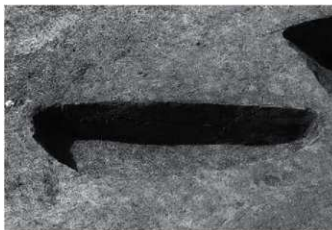
3. 1区4号住居P 4土層断面(北東から)



4. 1区4号住居P 5土層断面(北東から)



5. 1区4号住居P 6土層断面(北東から)



6. 1区4号住居P 7土層断面(南東から)



7. 1区4号住居P 7全景(南東から)



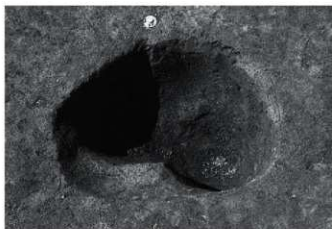
8. 1区4号住居P 8土層断面(北東から)



1. 1区4号住居P8全景(北東から)



2. 1区4号住居P9土層断面(南から)



3. 1区4号住居P9全景(東から)



4. 1区4号住居P10土層断面(東から)



5. 1区4号住居P11・P12土層断面(東から)



6. 1区4号住居P13土層断面(東から)



7. 1区4号住居最終面調査(東から)



8. 1区4号住居調査風景(北西から)



1. 1区5号住居土層断面(南東から)



2. 1区5号住居土層断面(南西から)



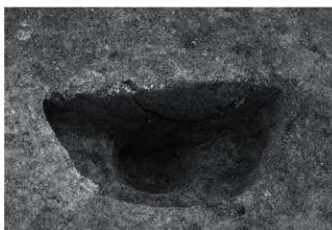
3. 1区5号住居遺物出土状態(南から)



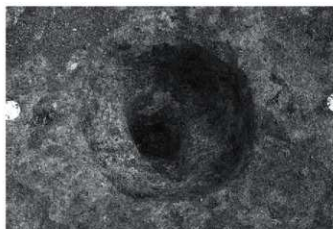
4. 1区5号住居出土遺物(南から)



5. 1区5号住居ピット確認面全景(南から)



6. 1区5号住居P1土層断面(南から)



7. 1区5号住居P1全景(南から)



8. 1区5号住居P2全景(南から)



1. 2区6号住居遺物出土状態(北西から)



2. 2区6号住居遺物出土状態全景(北西から)



3. 2区6号住居遺物出土状態(南東から)



4. 2区6号住居遺物出土状態全景(南東から)



5. 2区6号住居周辺土層断面(南東から)



6. 2区6号住居周辺土層断面(東から)



7. 2区6号住居遺物出土状態(南から)



8. 2区6号住居炉周辺遺物出土状態(南東から)



1. 2区6号住居全景(北西から)



2. 2区6号住居埋設土器土層断面(南から)



3. 2区6号住居埋設土器出土状態(東から)



4. 2区6号住居土器埋設土坑全景(北から)



5. 2区P1全景(南東から)



1. 2区6号住居炉周辺土層断面(西から)



2. 2区6号住居炉土層断面(南西から)



3. 2区6号住居炉土層断面(北西から)



4. 2区6号住居炉遺物出土状態全景(北西から)



5. 2区6号住居炉遺物出土状態全景(南西から)



6. 2区6号住居炉全景(北西から)



7. 2区6号住居炉掘り方全景(北西から)



8. 2区6号住居炉焼土土層断面(南西から)



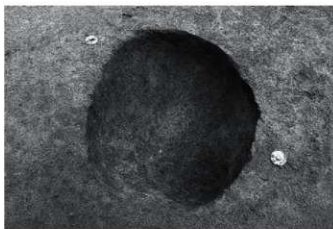
1. 2区6号住居P1土層断面(南東から)



2. 2区6号住居P1全景(北西から)



3. 2区6号住居P2土層断面(南東から)



4. 2区6号住居P2全景(西から)



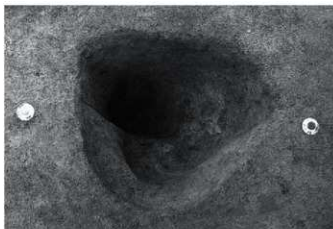
5. 2区6号住居P3土層断面(東から)



6. 2区6号住居P3全景(北西から)



7. 2区6号住居P4土層断面(北東から)



8. 2区6号住居P4全景(南から)



1. 2区6号住居P5土層断面(南から)



2. 2区6号住居P5全景(南から)



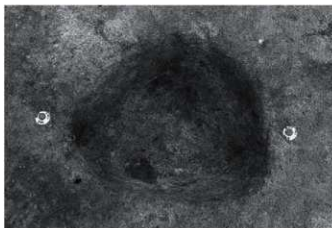
3. 2区6号住居P6土層断面(南東から)



4. 2区6号住居P6全景(南東から)



5. 2区6号住居P7土層断面(南から)



6. 2区6号住居P7全景(南から)



7. 2区6号住居P8土層断面(北西から)



8. 2区6号住居P8の土坑(北東から)



1. 2区6号住居P9土層断面(南東から)



2. 2区6号住居P9全景(南東から)



3. 2区6号住居104号土坑全景(南から)



4. 2区6号住居113号土坑土層断面(南東から)



5. 1区28号土坑土層断面(南東から)



6. 1区28号土坑全景(東から)



7. 1区29号土坑土層断面(南東から)



8. 1区90号・29号土坑全景(東から)



1. 1区37号土坑土層断面(南東から)



2. 1区37号土坑全景(東から)



3. 1区64号土坑土層断面(南東から)



4. 1区64号土坑全景(南東から)



5. 1区70号土坑土層断面(南西から)



6. 1区70号土坑坑土確認面(南から)



7. 2区103号土坑土層断面(南東から)



8. 2区103号土坑全景(南東から)



1. 2区116号土坑土層断面(南東から)



2. 2区116号土坑全景(北から)



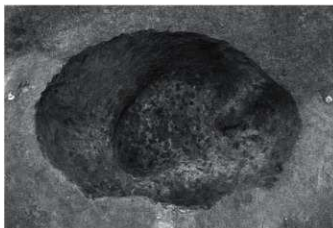
3. 2区102号土坑土層断面(南東から)



4. 2区102号土坑全景(北から)



5. 2区105号土坑土層断面(南西から)



6. 2区105号土坑全景(南西から)



7. 2区107号土坑土層断面(南西から)



8. 2区107号土坑全景(南から)



1. 2区109号土坑土層断面(南西から)



2. 2区109号土坑全景(南西から)



3. 1区2号住居土層断面A-A' (北東から)



4. 1区2号住居土層断面B-B' (南東から)



5. 1区2号住居全景(北から)



1. 1区2号住居北東隅遺物出土状態(西から)



2. 1区2号住居南東隅遺物出土状態(南から)



3. 1区2号住居竈土層断面C-C' (南から)



4. 1区2号住居竈土層断面D-D' (西から)



5. 1区2号住居竈全景(西から)



6. 1区2号住居竈遺物出土状態(北東から)



7. 1区2号住居竈須恵器坏出土状態(西から)



8. 1区2号住居竈支脚出土状態(西から)



1. 1区2号住居貯蔵穴土層断面(南から)



2. 1区2号住居貯蔵穴全景(北から)



3. 1区2号住居住居内土坑土層断面(北から)



4. 1区2号住居住居内土坑全景(北から)



5. 1区2号住居貯蔵穴と住居内土坑全景(北から)



6. 1区2号住居調査風景(南東から)



7. 1区2号住居P1土層断面(西から)



8. 1区2号住居P1全景(西から)



1. 1区1号・2号溝全景(南東から)



2. 1区1号・2号溝全景(北西から)



3. 1区1号・2号溝土層断面A-A' (南東から)



4. 1区1号・2号溝土層断面C-C' (南東から)



5. 1区2号溝・5号土坑土層断面B-B' (南東から)



6. 1区3号溝全景(南東から)



7. 1区3号溝全景(北西から)



8. 1区3号溝土層断面(南東から)



1. 1区4号溝全景(南東から)



2. 1区4号溝全景(北西から)



3. 1区4号溝土層断面A-A' (南東から)



4. 1区4号溝土層断面B-B' (南東から)



5. 1区4号溝土層断面C-C' (南東から)



6. 1区5号溝全景(北から)



7. 1区5号溝全景(南から)



8. 1区5号溝土層断面A-A' (南西から)



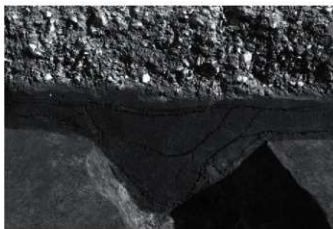
1. 1区5号溝土層断面B-B' (北東から)



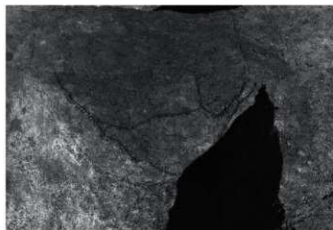
2. 1区6号溝全景(南東から)



3. 1区6号溝全景(北西から)



4. 1区6号溝土層断面A-A' (南から)



5. 1区7号溝土層断面B-B' (南から)



6. 1区8号溝土層断面C-C' (南から)



7. 1区1号井戸土層断面(東から)



8. 1区1号井戸全景(南西から)



1. 1区土坑掘り下げ調査風景(南から)



2. 1区土坑測量調査風景(南から)



3. 1区34号土坑土層断面(南から)



4. 1区34号土坑全景(南から)



5. 1区42号土坑土層断面(南西から)



6. 1区42号土坑全景(南西から)



7. 1区54号土坑土層断面(南西から)



8. 1区54号土坑全景(南西から)



9. 1区55号土坑土層断面(南西から)



10. 1区55号土坑全景(南西から)



11. 1区56号土坑土層断面(南西から)



12. 1区56号土坑全景(南から)



13. 1区59号土坑土層断面(南西から)



14. 1区59号土坑全景(南から)



15. 1区60号土坑土層断面(南西から)



1. 1区60号土坑全景(南西から)



2. 1区61号土坑土層断面(南西から)



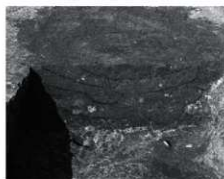
3. 1区61号土坑・2号ピット全景(南西から)



4. 1区79号土坑土層断面(南から)



5. 1区79号土坑全景(南から)



6. 1区80号土坑土層断面(南から)



7. 1区80号土坑全景(南から)



8. 1区81号・82号土坑土層断面(南西から)



9. 1区81号・82号土坑全景(南西から)



10. 1区2号・3号土坑土層断面(北西から)



11. 1区2号・3号土坑全景(北西から)



12. 1区4号土坑土層断面(北西から)



13. 1区4号土坑全景(北西から)



14. 1区13号・14号土坑土層断面(南西から)



15. 1区13号・14号土坑全景(南西から)



1. 1区15号・16号土坑土層断面(南西から)



2. 1区15号・16号土坑全景(南西から)



3. 1区20号・21号土坑土層断面(東から)



4. 1区20号・21号土坑全景(東から)



5. 1区22号土坑土層断面(東から)



6. 1区47号土坑土層断面(東から)



7. 1区22号・47号土坑全景(東から)



8. 1区41号土坑土層断面(南から)



9. 1区41号土坑全景(南から)



10. 1区49号土坑土層断面(東から)



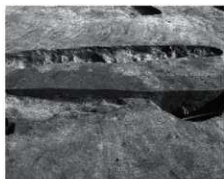
11. 1区49号土坑全景(東から)



12. 1区53号土坑土層断面(南から)



13. 1区53号土坑全景(南から)



14. 1区83号～85号土坑土層断面(南西から)



15. 1区84号・85号土坑全景(南西から)



1. 1区63号土坑土層断面(南から)



2. 1区63号・85号土坑土層断面(南西から)



3. 1区84号・85号土坑土層断面(南西から)



4. 1区63号・83号～85号・94号土坑・3号ピット全景(南西から)



5. 1区94号土坑土層断面(南西から)



6. 1区94号土坑全景(南西から)



7. 1区30号土坑土層断面(南から)



8. 1区30号土坑全景(南から)



9. 1区25号・30号・31号土坑土層断面(南から)



10. 1区25号・31号土坑全景(南から)



11. 1区86号・87号土坑土層断面(南西から)



12. 1区86号土坑全景(南西から)



13. 1区86号～89号土坑土層断面(南西から)



14. 1区86号～89号土坑全景(南西から)



15. 1区54号土坑掘り下し調査風景(南西から)



1. 1区溝・土坑群調査風景(北西から)



2. 1区北西部全景(北から)



1. 1区5号土坑土層断面(南東から)



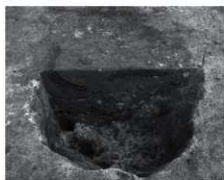
2. 1区5号土坑全景(南東から)



3. 1区6号土坑土層断面(南西から)



4. 1区6号土坑全景(南西から)



5. 1区7号土坑土層断面(南から)



6. 1区7号土坑全景(南から)



7. 1区8号土坑土層断面(東から)



8. 1区8号土坑全景(東から)



9. 1区9号土坑土層断面全景(西から)



10. 1区9号土坑全景(西から)



11. 1区10号土坑土層断面(東から)



12. 1区10号土坑全景(東から)



13. 1区11号土坑土層断面(東から)



14. 1区11号土坑全景(東から)



15. 1区12号土坑土層断面(南東から)



1. 1区12号土坑全景(南東から)



2. 1区17号土坑土層断面(南東から)



3. 1区17号土坑全景(南東から)



4. 1区18号土坑土層断面(南から)



5. 1区18号土坑全景(南から)



6. 1区19号土坑土層断面(南から)



7. 1区19号土坑全景(南東から)



8. 1区23号・95号土坑土層断面(南西から)



9. 1区24号土坑土層断面(南西から)



10. 1区24号土坑全景(南西から)



11. 1区26号土坑土層断面(東から)



12. 1区26号土坑全景(東から)



13. 1区27号土坑土層断面(南から)



14. 1区27号土坑全景(南から)



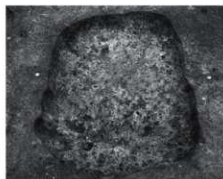
15. 1区32号土坑土層断面(東から)



1. 1区32号土坑全景(東から)



2. 1区33号土坑土層断面(南西から)



3. 1区33号土坑全景(南西から)



4. 1区38号土坑土層断面(南東から)



5. 1区38号土坑全景(南東から)



6. 1区39号・40号土坑土層断面(南西から)



7. 1区39号・40号土坑全景(南西から)



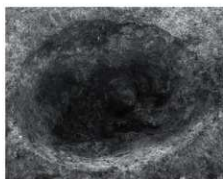
8. 1区43号土坑土層断面(南東から)



9. 1区43号土坑全景(東から)



10. 1区44号土坑土層断面(南から)



11. 1区44号土坑全景(南から)



12. 1区51号土坑土層断面(北から)



13. 1区51号土坑全景(南から)



14. 1区57号土坑土層断面(南から)



15. 1区57号土坑全景(南から)



1. 1区58号土坑土層断面(東から)



2. 1区58号土坑全景(南東から)



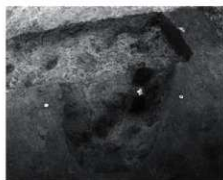
3. 1区66号土坑土層断面(南西から)



4. 1区66号土坑全景(南西から)



5. 1区67号土坑土層断面(南から)



6. 1区67号土坑全景(南西から)



7. 1区68号土坑土層断面(東から)



8. 1区68号土坑全景(東から)



9. 1区71号土坑土層断面(南西から)



10. 1区71号土坑全景(南西から)



11. 1区73号土坑土層断面(東から)



12. 1区73号土坑全景(東から)



13. 1区74号土坑土層断面(東から)



14. 1区74号土坑全景(南から)



15. 1区75号土坑土層断面(南東から)



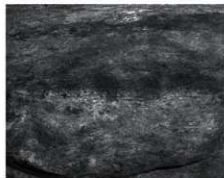
1. 1区75号土坑全景(南から)



2. 1区76号・77号土坑土層断面(南東から)



3. 1区76号・77号土坑全景(南東から)



4. 1区78号土坑土層断面(南西から)



5. 1区78号土坑全景(南西から)



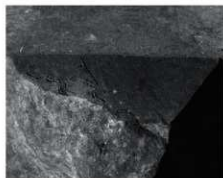
6. 1区92号・93号土坑土層断面(南西から)



7. 1区92号・93号土坑全景(南から)



8. 1区96号土坑全景(北から)



9. 1区98号土坑土層断面(北西から)



10. 1区98号土坑全景(北西から)



11. 1区99号・100号土坑土層断面(南東から)



12. 1区99号・100号土坑全景(南東から)



13. 1区101号土坑・5号ピット土層断面(南から)



14. 1区101号土坑・5号ピット全景(南から)



15. 1区土坑検出作業風景(南から)



1. 1区南東部6号溝全景(北西から)



2. 1区南東部南側全景(北西から)



3. 3区全景(南から)



4. 3区遺物出土状態(南西から)



5. 3区東壁土層断面(南西から)

旧石器



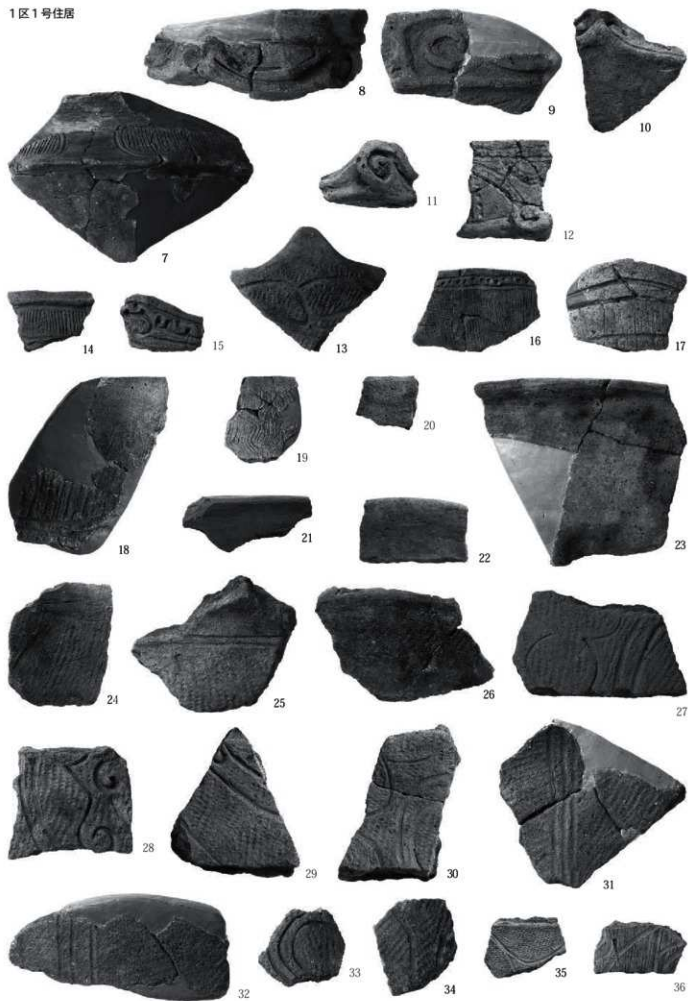
1区TP3 礫群



1区1号住居

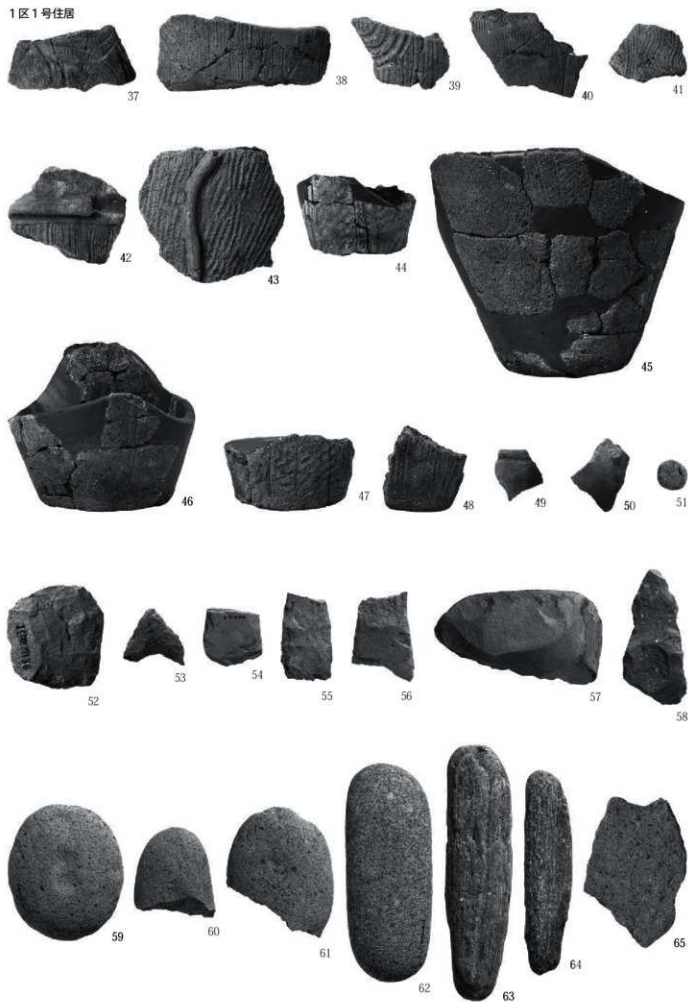


1区1号住居



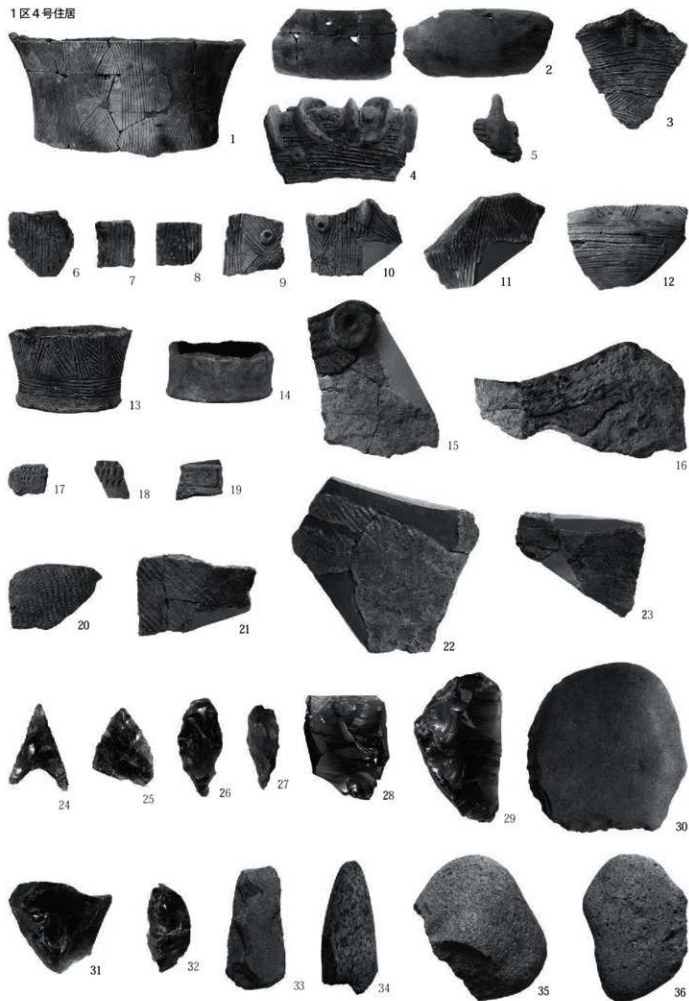
PL.54

1区1号住居



1区3号住居

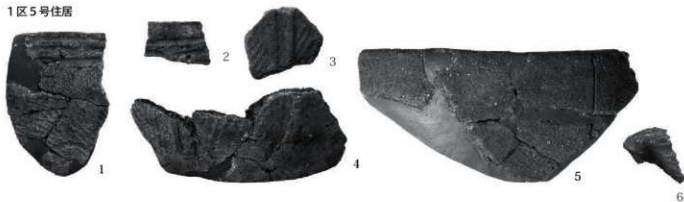




1区4号住居



1区5号住居



2区6号住居

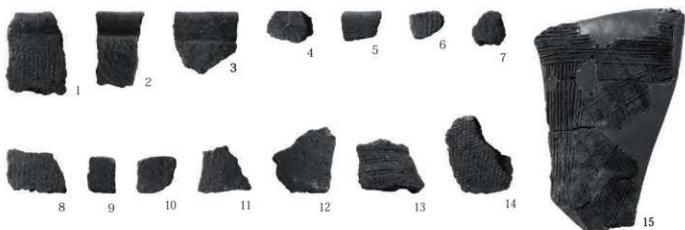




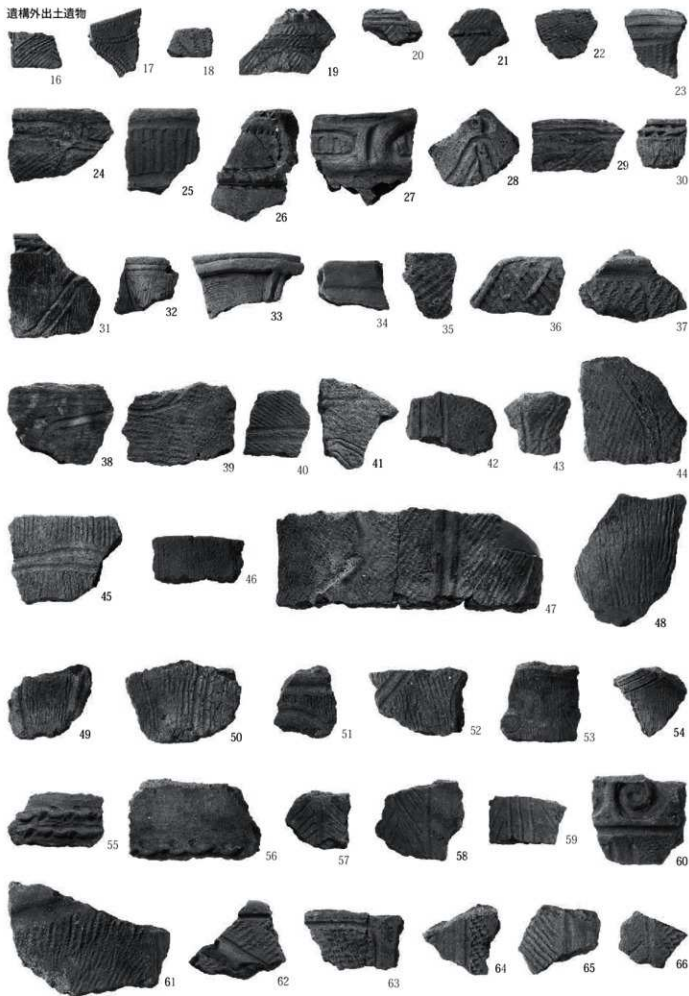
土坑



遺構外出土遺物



遠構外出土遺物



PL.60

遺構外出土遺物



1区2号住居



1区遺構外



財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第539集

中西原遺跡

農業技術センター施設整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成24(2012)年3月9日 印刷
平成24(2012)年3月16日 発行

編集・発行／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下碓田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／ジャーナル印刷株式会社